

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
福田博志、小倉秀雄			
ナンバリング：G14C20	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) PCを用いた文書作成スキルはあらゆる職業で必要されるといっても過言ではないだろう。また学生生活においてレポート課題など文書作成を求められる場面も非常に多い。本授業ではMicrosoft Office Specialist (MOS) 検定の「Microsoft Office Word 365&2019」の出題範囲にそって文書作成のためのアプリケーションであるWordの機能を学習する。また、試験に合格するコツや、テクニックなどについても学習する。 (授業目標) ◎E：文書の作成と管理について、MOS Word 合格相当のPCの操作ができる。 ◎E：文書内に書式やページレイアウトを設定し、表、グラフィックや参考資料を挿入し管理する方法について、MOS Word 合格相当のPCの操作ができる。 ◎E：文書の作成・管理に関する共同作業について、MOS Word 合格相当のPCの操作ができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業目標および授業内容の説明 成績評価方法の説明 MOSの概要説明 演習環境に関する説明</p> <p>2 文書の管理（1）：（実習：PCによる演習） 文書内を移動する 文書の書式を設定する</p> <p>3 文書の管理（2）：（実習：PCによる演習） 文書を保存する、共有する 文書を検査する</p> <p>4 文字、段落、セクションの挿入と書式設定：（実習：PCによる演習） 文書の管理：確認問題 文字列や段落を挿入する 文字列や段落の書式を設定する 文書にセクションを作成する、設定する</p> <p>5 表やリストの管理（1）：（実習：PCによる演習） 文字、段落、セクションの挿入と書式設定：確認問題 表を作成する 表を変更する</p> <p>6 表やリストの管理（2）&参考資料の作成と管理（1）：（実習：PCによる演習） リストを作成する、変更する 表やリストの管理：確認問題 参照のための要素を作成する、管理する（1）</p> <p>7 参考資料の作成と管理（2）&グラフィック要素の挿入と書式設定（1）：（実習：PCによる演習） 参照のための要素を作成する、管理する（2） 参照のための一覧を作成する、管理する 参考資料の作成と管理：確認問題 図やテキストボックスを挿入する（1）</p> <p>8 グラフィック要素の挿入と書式設定（2）：（実習：PCによる演習） 図やテキストボックスを挿入する（2） 図やテキストボックスを書式設定する（1）</p> <p>9 グラフィック要素の挿入と書式設定（2）：（実習：PCによる演習） 図やテキストボックスを書式設定する（2） グラフィック要素にテキストを追加する グラフィック要素を変更する グラフィック要素の挿入と書式設定：確認問題</p> <p>10 文書の共同作業の管理：（実習：PCによる演習） コメントを追加する、管理する 変更履歴を管理する 文書の共同作業の管理：確認問題</p> <p>11 第1回試験対策講座：（実習：PCによる演習） MOS 365&2019の試験形式、画面構成と試験環境の説明 MOS 365&2019攻略ポイントおよび模擬試験プログラムの使い方 第1回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う</p> <p>12 第2回試験対策講座：（実習：PCによる演習） 第2回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う</p> <p>13 第3回試験対策講座：（実習：PCによる演習） 第3回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う</p>

	14	第4回試験対策講座：(実習：PCによる演習) ランダム模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う
	15	第5回試験対策講座：(実習：PCによる演習) ランダム模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う
学習成果・到達目標・基準		◎E：基本的な文書の作成および管理ができる。 ◎E：文書内に書式やページレイアウトを設定し、表、グラフィックや参考資料を挿入するための基本的な操作ができる。 ◎E：文書の作成・管理に関し、共同作業ができる。
事前・事後学習		事前学習：MOSランダム模擬試験は、出題範囲が事前に明確になっているため、十分な事前学習による高得点の獲得を期待する。(200分) 事後学習：各講義内容で十分に理解できなかった操作については、事後学習で各自補完すること。また、各出題範囲の終了後に出题される課題を解答することで、操作方法を確実に習得すること。(120分)
指導方法		パソコンを操作する実習(講師が、まず、テキストに沿って操作内容を解説・実演し、受講者は関連する演習問題を各自のPCで演習を行う形式)が中心である。 各出題範囲の終了後に、知識の習得を確実にする目的で、課題を出題し、解答の提出をしてもらう。 また授業終盤ではMOSの模擬試験による実践演習を行い、試験結果の課題に対し、個別で取り組み、質疑応答を行う。 フィードバックの仕方：授業後、直接個別対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準		E：PCを利用したMOSの模擬試験で文書の作成および管理に関する操作の評価を行う。 E：PCを利用したMOSの模擬試験で書式、ページレイアウトの設定、表、グラフィック、参考資料の挿入に関する操作の評価を行う。 E：PCを利用したMOSの模擬試験で文書の作成・管理に関し共同作業に関する操作の評価を行う。 また、各課題への提出およびその採点結果を総合して成績評価を行う。 尚、採点の割合は、課題提出：30%、課題点：70%とする。 MOS Word 365&2019の合格認定により、成績評価を1ランクアップする。 (本来A評価の者をS評価に、B評価の者はA評価にアップ。元々S評価の者はそのままS評価の成績となる)
テキスト		よくわかるマスターMicrosoft Office Specialist Microsoft Word 365&2019 対策テキスト&問題集 FOM出版
参考書		
履修上の注意		対面授業とオンライン授業を併用するため、オンライン授業受講に際し、受講者は授業に使用する、次の条件を満たすPCを用意する必要がある。 1. PCのOSはWindows 10 日本語版 (Windows 10 Sモードでは動作しない) 2. 演習で使用する Microsoft Office Word と同一バージョンのアプリ (Microsoft Word 365または2019) が各自のPC上にインストールされている必要がある。 また、授業に際し、テキストは必携である。 「情報リテラシー」履修済みか、同等以上のコンピュータ操作技能があることが履修の前提となる。 他のMOS資格 (Excel、PowerPoint) の受験も視野に、計画的な学習をすること。
アクティブ・ラーニング		実習
ICT・オープンエデュケーションの活用		デジタル教材による模擬試験

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
井上香緒里、小倉秀雄			
ナンバリング：G14C21	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) プレゼンテーションソフトは事務職のみならず様々な職業で使用する機会がある。 本授業ではMicrosoft Office Specialist (MOS) 検定の「MOS PowerPoint 365&2019」の出題範囲にそってプレゼンテーションソフトPowerPointの機能を勉強する。 また、MOS試験に合格するコツや、テクニックなどについても学習する。 (授業目標) ◎E：スライドの作成・操作、グラフィックやマルチメディアの挿入、グラフや表の作成、アニメーション設定について、MOS PowerPoint 合格相当のPCの操作ができる。MOS試験に挑戦して合格する。
授業計画	<p>1 ガイダンス/プレゼンテーションの管理 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の目的と進め方の説明 ・ MOS試験制度とMOS PowerPoint 365&2019の出題範囲の説明 1-1-1 スライドのサイズを変更する 1-1-2 プレゼンテーションの表示を変更する 1-1-3 ファイルの基本的なプロパティを設定する 1-2-1 プレゼンテーションの全体または一部を印刷する 1-2-2 配布資料を印刷する 1-2-3 ノートを印刷する 1-2-4 カラー、グレースケール、白黒で印刷する <p>2 プレゼンテーションの管理 (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-3-1 目的別スライドショーを作成する 1-3-2 スライドショーのリハーサル機能を使用する 1-3-3 スライドショーのオプションを設定する 1-3-4 スライドショーの記録のオプションを設定する 1-3-5 発表者ツールを使用してスライドショーを発表する <p>3 プレゼンテーションの管理 (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-4-1 スライドのレイアウトを変更する 1-4-2 スライドマスターのテーマや背景を変更する 1-4-3 スライドのレイアウトを作成する 1-4-4 スライドマスターのコンテンツを変更する 1-4-5 配布資料マスターを変更する 1-4-6 ノートマスターを変更する <p>4 プレゼンテーションの管理 (4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-5-1 コメントを追加する、管理する 1-5-2 プレゼンテーションの内容を保持する 1-5-3 プレゼンテーションを検査する 1-5-4 編集を制限する 1-5-5 パスワードを使用してプレゼンテーションを保護する 1-5-6 プレゼンテーションを別の形にエクスポートする <p>5 スライドの管理 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2-1-1 スライドを挿入し、スライドのレイアウトを選択する 2-1-2 スライドを複製する 2-1-3 ほかのプレゼンテーションからスライドを挿入する 2-1-4 Wordのアウトラインをインポートする 2-1-5 サマリーズームのスライドを挿入する <p>6 スライドの管理 (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2-2-1 スライドを表示する、非表示にする 2-2-2 個々のスライドの背景を変更する 2-2-3 スライドのヘッダー、フッター、ページ番号を挿入する 2-3-1 スライドの順番を変更する 2-3-2 セクションを作成する 2-3-3 セクション名を変更する 2-3-4 セクションの順番を変更する <p>7 テキスト、図形、画像の挿入と書式設定 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 3-1-1 箇条書きや段落番号を作成する 3-1-2 テキストに段組みを設定する 3-1-3 テキストに組み込みスタイルを適用する 3-2-1 ハイパーリンクを挿入する 3-2-2 セクションズームやスライドズームのリンクを挿入する <p>8 テキスト、図形、画像の挿入と書式設定 (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 3-3-1 図を挿入する 3-3-2 図のサイズを変更する、図をトリミングする 3-3-3 図に組み込みスタイルや効果を適用する

	<p>3-3-4 スクリーンショットや画面の領域を挿入する</p> <p>3-4-1 図形を挿入する</p> <p>3-4-2 図形やテキストボックスにテキストを追加する</p> <p>3-4-3 図形やテキストボックスのサイズを変更する</p> <p>3-4-4 図形やテキストボックスに組み込みスタイルを適用する</p> <p>3-4-5 図形やテキストボックスの書式を設定する</p> <p>9 テキスト、図形、画像の挿入と書式設定 (3)</p> <p>3-4-6 デジタルインクを使用して描画する</p> <p>3-4-7 アクセシビリティ向上のため、グラフィックス要素に代替テキストを追加する</p> <p>3-5-1 図形、画像、テキストボックスを並べ替える</p> <p>3-5-2 図形、画像、テキストボックスを配置する</p> <p>3-5-3 図形や画像をグループ化する</p> <p>3-5-4 配置用のツールを表示する</p> <p>10 表、グラフ、SmartArt、3Dモデル、メディアの挿入 (1)</p> <p>4-1-1 表を作成する、挿入する</p> <p>4-1-2 表に行や列を挿入する、削除する</p> <p>4-1-3 表の組み込みスタイルを適用する</p> <p>4-2-1 グラフを作成する、挿入する</p> <p>4-2-2 グラフを変更する</p> <p>11 表、グラフ、SmartArt、3Dモデル、メディアの挿入 (2)</p> <p>4-3-1 SmartArtを作成する</p> <p>4-3-2 箇条書きをSmartArtに変換する</p> <p>4-3-3 SmartArtにコンテンツを追加する、変更する</p> <p>4-4-1 3Dモデルを挿入する</p> <p>4-4-2 3Dモデルを変更する</p> <p>4-5-1 サウンドやビデオを挿入する</p> <p>4-5-2 画面録画を作成する、挿入する</p> <p>4-5-3 メディアの再生オプションを設定する</p> <p>12 画面切り替えやアニメーションの適用</p> <p>5-1-1 基本的な3D画面切り替えを適用する</p> <p>5-1-2 画面切り替えの効果を設定する</p> <p>5-2-1 テキストやグラフィックス要素にアニメーションを適用する</p> <p>5-2-2 3D要素にアニメーションを適用する</p> <p>5-2-3 アニメーションの効果を設定する</p> <p>5-2-4 アニメーションの軌跡効果を設定する</p> <p>5-2-5 同じスライドにあるアニメーションの順序を並べ替える</p> <p>5-3-1 アニメーションと画面切り替えのタイミングを設定する</p> <p>5-3-2 アニメーションの開始と終了のオプションを設定する</p> <p>13 試験対策講座 (1) (デジタル教材による模擬試験)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬試験プログラムの使い方 ・ MOS PowerPoint 365&2019の試験形式や攻略ポイントの説明 <p>14 試験対策講座 (2) (デジタル教材による模擬試験)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬試験プログラムの実施とポイント解説 <p>15 試験対策講座 (3) (デジタル教材による模擬試験)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬試験プログラムの実施とポイント解説 ・ 最終課題の実施
学習成果・到達目標・基準	◎E : PowerPointを使用して、基本的なスライド作成・操作、グラフィックの挿入、表の作成をし、スライドショーを実行できる。
事前・事後学習	事前学習：試験対策講座で複数回にわたって最終課題を行う。最終課題の内容はMOSの模擬試験問題に準ずるものとなっている。出題範囲は事前に明確になっているため、試験対策講座の授業回を待たず、十分な事前学習による高得点の獲得を期待する。なお授業計画内の1-2-2などの表記はテキストの章番号である。事前学習の参考にすること。(15分) 事後学習：授業内で正答できなかった問題は事後学習で各自補完する。自己解決が困難な場合、メディアセンターを活用すると良い。(30分)
指導方法	パソコンを操作する実習が中心である。90分の授業の前半60分でテキストに沿って操作の解説と実習を行い、後半の30分でその日に学習した内容の理解度を測る練習問題の実習と提出を行う。授業の終盤では、デジタル教材によるMOSの模擬試験を用いた実践演習を行う。 フィードバックの方法：模擬試験は実施の都度授業内で採点し、アドバイスをを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：最終課題で評価を行う。またMOS合格者は最終課題の評価を原則1段階アップさせる。 (MOS合格者は本来A評価の者をS評価に、B評価の者はA評価にアップ。元々S評価の者はそのままS評価の成績となる) 受講態度30%、最終課題70%の割合で成績評価を行う。
テキスト	よくわかるマスターMicrosoft Office Specialist MOS PowerPoint 365&2019 対策テキスト& 問題集 (FOM出版)
参考書	
履修上の注意	「情報リテラシー」履修済みか、同等以上のコンピュータ操作技能があることが履修の前提条件となる。 MOS試験の受験は必須ではないが、積極的に受験することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	
ICT・オープンエデュケーションの活用	デジタル教材による模擬試験

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：G13C15	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業概要) 近年、小売業を取り巻く環境は厳しい状況にあり、小売業者による生活者ニーズに合った店づくり、商品の品揃えなど満足へのいく対応が求められている。本講義は、流通における小売業の基本的役割を理解し、流通経路の重要性や店舗形態別小売業の特徴を解明していく。さらに、中小小売業の現状と役割、商業集積の変遷や課題についても取り上げる。2月に実施される「リテールマーケティング（販売士）検定3級」受験に対応し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。</p> <p>(授業目標) 流通業界の第一線で活躍できる人材として「リテールマーケティング（販売士）検定3級」程度の知識を修得する。 ◎D：製造業、卸売業、小売業の基本的役割および流通のしくみを理解し、店舗形態別小売業の現状と課題を述べることができる。</p>
授業計画	<p>1 流通とは何か（ZOOM） 流通のしくみ、小売業および卸売業の機能と役割について</p> <p>2 日本における小売業の特徴（対面、Classroom） 小売業を取り巻く社会環境の変化、零細性、過多性、多段階性について</p> <p>3 日本における小売業の特徴（対面、Classroom） 小売業を取り巻く社会環境の変化、零細性、過多性、多段階性について</p> <p>4 衣料品の販売形態（対面、Classroom） 百貨店の歴史と売上高低迷の要因、自主マーチャンダイジングの取り組みについて</p> <p>5 衣装品の販売形態（対面、Classroom） 百貨店の歴史と売上高低迷の要因、自主マーチャンダイジングの取り組みについて</p> <p>6 食料品の販売形態（対面、Classroom） 総合品ぞろえスーパーとスーパーマーケットの店舗形態について</p> <p>7 食料品の販売形態（対面、Classroom） 総合品ぞろえスーパーとスーパーマーケットの店舗形態について</p> <p>8 医薬品、化粧品、日用品の販売形態（対面、Classroom） ドラッグストア、コンビニエンスストアの品ぞろえ特性について</p> <p>9 医薬品、化粧品、日用品の販売形態（対面、Classroom） ドラッグストア、コンビニエンスストアの品ぞろえ特性について</p> <p>10 無店舗販売の特徴（対面、Classroom） 訪問販売、移動販売、通信販売の特徴、O2O、オムニチャネル、OMOの変遷について</p> <p>11 無店舗販売の特徴（対面、Classroom） 訪問販売、移動販売、通信販売の特徴、O2O、オムニチャネル、OMOの変遷について</p> <p>12 チェーンストアの種類と特徴（対面、Classroom） レギュラーチェーン、フランチャイズチェーン、ボランタリーチェーンの違いについて</p> <p>13 チェーンストアの種類と特徴（対面、Classroom） レギュラーチェーン、フランチャイズチェーン、ボランタリーチェーンの違いについて</p> <p>14 商業集積の特徴（対面、Classroom） ショッピングセンターの種類、商店街の課題について</p> <p>15 商業集積の特徴（対面、Classroom） ショッピングセンターの種類、商店街の課題について</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：小売業に関する流通チャネルや業種・業態の特徴について説明できる。
事前・事後学習	事前学習：新聞記事や経済誌、テレビ等で新規出店やリニューアル、新業態に関するニュースを確認する（60分程度）。分からない専門用語を調べてまとめておく（60分程度）。 事後学習：興味のある記事・ニュースを1つ取り上げて、要約する（60分程度）。
指導方法	プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることを心がけることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、授業内で実施する小テスト課題20%、受講態度・貢献度20%
テキスト	「販売士養成講習会3級テキストⅠ」日本商工会議所・全国商工会連合会編

参考書	「流通論」 著者：村松幸廣・井上崇道・村松潤一 出版者：同文館 「流通の基本知識」 著者：宝子山嘉一・松原寿一 出版者：評言社
履修上の注意	服飾芸術科の学生で「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の資格取得を目指す場合は、本科目と「商品企画」「販売と経営」の3科目すべてを同学期に履修し、以下の条件を満たすことで、検定試験5科目のうち1科目が受験免除される。①第1回の授業に出席すること（本学で受験免除希望者名簿を作成するため）。②11月末に学内で実施する予備試験までの出席率が80%以上であること。③予備試験は70点以上であること。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
村木桂子			
ナンバリング：G13C09	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 国語力の四要素（話す・聞く・書く・読む）のトレーニングを総合的に積みあげるにより複眼的思考、論理的思考といった考えかたの基礎力を養う。ペア・ワーク等で課題に取り組むことによりコミュニケーション力を高め社会で活用できる日本語の力を身につける。 (授業目標) ○B：受信した情報について考え、意見をまとめ、根拠を提示しながら発信することができる。 ◎D：授業で学んだ日本語の知識について理解し、使用することができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス 言葉をめぐるワーク、授業内容、授業の進めかた、評価方法に関する説明 (ICT：Google classroom、Google form)</p> <p>2 美しく話す（ペア・ワーク） コミュニケーションの基礎、日本語の音声 (ICT：Google classroom、Google form)</p> <p>3 母語の大切さ（ペア・ワーク） 外国語から見た日本語の特徴 (ICT：Google classroom、Google form)</p> <p>4 辞書のいろいろ 似た言葉とその違いについて</p> <p>5 自分流の国語辞典を作る 辞典の特色を学ぶ</p> <p>6 描写のしかた（ペア・ワーク） 根拠ある意見の述べかた (ICT：Google classroom、Google form)</p> <p>7 絵の分析（ペア・ワーク） 論理的文章の書きかた（初級） (ICT：Google classroom、Google form)</p> <p>8 テキスト分析（1）（ペア・ワーク） 論理的文章の書きかた（中級） (ICT：Google classroom、Google form)</p> <p>9 テキスト分析（2）（ペア・ワーク） 論理的文章の書きかた（上級） (ICT：Google classroom、Google form)</p> <p>10 敬語 社会人基礎力を身につけるために（1） (ICT：Google classroom、Google form)</p> <p>11 話し言葉と書き言葉（ペア・ワーク、グループ・ワーク） 社会人基礎能力を身につけるために（2） (ICT：Google classroom、Google form)</p> <p>12 対義語（ペア・ワーク、グループ・ワーク） ことばのニュアンスを感じ取る、注意深く言葉を選ぶ (ICT：Google classroom、Google form)</p> <p>13 文章表現の工夫（ペア・ワーク、グループ・ワーク） 文章の工夫いろいろ (ICT：Google classroom、Google form)</p> <p>14 オノマトペ（ペア・ワーク、グループ・ワーク） 私たちの言語生活を豊かにするために (ICT：Google classroom、Google form)</p> <p>15 日本語の文字（ペア・ワーク、グループ・ワーク） 私たちが使用する文字の由来 (ICT：Google classroom、Google form)</p>
学習成果・到達目標・基準	○B：他者の言葉に耳を傾け、自分の意見を人に伝えることができる。 ◎D：授業で学んだ日本語の知識について理解することができる。
事前・事後学習	事前学習：日ごろからジャンルを問わずさまざまな本（活字）に触れ、多様な言葉の感覚を磨く。（60分程度） 事後学習：授業で学んだ日本語の知識について要点をおさえ、ノートや資料を整理し理解を深める。（60分程度） 授業中に紹介された本や資料を読み、日本語について興味・関心の幅を広げる。（60分程度）

指導方法	ペア・ワークを中心として、正解よりも考えることを重視した授業を行う。テーマごとに口頭演習した内容を文章で再確認することにより、日本語コミュニケーション力を「話す・聞く・書く・読む」の観点から総合的に養う。講義は主にパワーポイントで進め、視聴覚教材も適宜利用する。 フィードバックのしかた：提出物にはコメントを書いて個別指導する。 オンライン受講の学生には、教室の授業をZoomでライブ配信する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：ペア・ワークにおける聞く態度や、授業中の積極的な発言、提出物を評価する。 D：試験によって評価する。 定期試験：60%、授業中の課題提出30%、授業参加態度10%（総合的に評価する）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。
履修上の注意	ペア・ワークや個人で取り組む課題があるが、いずれも積極的な参加を期待する。授業中の演習参加と課題提出が重要である。演習に役に立つので、辞書（電子辞書も可）を準備して授業に臨むとよい。
アクティブ・ラーニング	ペア・ワーク、グループ・ワーク
I C T・オープンエデュケーションの活用	Google classroom、Google form、Zoom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：必修
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F12A02	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>ファッション造形（服飾造形）は、アート（芸術）、建築、デザイン、音楽、カルチャー（文化）などと、さまざまな関わりをもって創造される。ファッションデザイナー達は、アートをデザインソース（源泉）として、インスパイア（創作意欲を刺激）され、あるいはオマージュ（賛辞）を捧げるためにシーズンコレクションを発表することに力を注いでいる。本講義は、プロダクトデザイン（服飾製品）が生まれた源泉（芸術）を捉えつつ、デザイナーの個性はもちろんのこと、社会構造や時代背景との関わりについて解説をしていく。（授業目標）</p> <p>服飾造形が生まれた源泉について、芸術領域の観点から考察することができる。</p> <p>◎D：各時代における社会構造や時代背景をふまえ、服飾造形の特徴と芸術との関わりを正確に説明することができる。</p>
授業計画	<p>1 ファッションとアートの関連性（ZOOM） サンローランとモンドリアン、ルイヴィトンと村上隆などの作品にみるファッションとアートの関わりについて</p> <p>2 19世紀末の装飾芸術「アールヌーボー」（対面、Classroom） アーツ・アンド・クラフツ（芸術と工芸）運動とウィリアムモリスの思想について</p> <p>3 19世紀末の装飾芸術「アールヌーボー」（対面、Classroom） アーツ・アンド・クラフツ（芸術と工芸）運動とウィリアムモリスの思想について</p> <p>4 1920年代の世界恐慌と退廃美「シュルレアリスム」（対面、Classroom） ファッションデザイナーのスキヤパレリと芸術家ダリ、コクトーのコラボレーション作品について</p> <p>5 1920年代の世界恐慌と退廃美「シュルレアリスム」（対面、Classroom） ファッションデザイナーのスキヤパレリと芸術家ダリ、コクトーのコラボレーション作品について</p> <p>6 1930年代の低コストモダン「アールデコとミニマリズム」（対面、Classroom） シャネルとポールポワレにみるマーケティング戦略、バウハウスの合理主義・機能主義について</p> <p>7 1930年代の低コストモダン「アールデコとミニマリズム」（対面、Classroom） シャネルとポールポワレにみるマーケティング戦略、バウハウスの合理主義・機能主義について</p> <p>8 1960年代の大衆消費社会「ポップアート」/1970年代のカウンターカルチャー「サイケデリックムーブメント」（対面、Classroom）（対面とClassroom） アンディウォーホル、キースヘリングによるコミック表現、エミリオプッチの色彩柄について</p> <p>9 1960年代の大衆消費社会「ポップアート」/1970年代のカウンターカルチャー「サイケデリックムーブメント」（対面、Classroom）（対面とClassroom） アンディウォーホル、キースヘリングによるコミック表現、エミリオプッチの色彩柄について</p> <p>10 1980年代前半の反美学「ポストモダン」（対面、Classroom） 川久保玲、山本耀司の反骨精神、三宅一生の平面発想について</p> <p>11 1980年代前半の反美学「ポストモダン」（対面、Classroom） 川久保玲、山本耀司の反骨精神、三宅一生の平面発想について</p> <p>12 1980年代後半の造形美「ボディコンシャス」（対面、Classroom） アズティンアライアの美学と功績、その後の影響力について</p> <p>13 1980年代後半の造形美「ボディコンシャス」（対面、Classroom） アズティンアライアの美学と功績、その後の影響力について</p> <p>14 1990年代の最小限美学とカルチャー「ネオミニマリズムとグランジファッション」（対面、Classroom） ヘルムートラング、ジルサンダーにみるリアルクローズ、マルジェラのモードとエレガンスについて</p> <p>15 1990年代の最小限美学とカルチャー「ネオミニマリズムとグランジファッション」（対面、Classroom） ヘルムートラング、ジルサンダーにみるリアルクローズ、マルジェラのモードとエレガンスについて</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：各時代における服飾造形の特徴と芸術のテーマを説明できる。
事前・事後学習	事前学習：講義内容のテーマについて、図書館等で調べておくこと（90分）。 事後学習：講義の事例以外の内容について、各時代の特徴を図書館や美術館等で確認すること（90分）。
指導方法	プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で授業を行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答

アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、小テスト課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、授業内で実施する小テスト課題20%、受講態度・貢献度20%
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「ファッションの世紀 共振する20世紀のファッションとアート」 著者：深井晃子 出版社：平凡社
履修上の注意	受講生が本科目を理解するうえで大切な姿勢は、講義に関連する内容について、日頃から図書館で文献を調べたり、映画、舞台芸術、美術館で確認する習慣を身につけることである。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F14C27	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッション小売業において、良い商品、価値のある安さの提供は、どこの店でも当たり前であり、店の差別化の条件とはいえなくなっている。そのため、お客様に豊かな衣料サービスを提供できる販売スタッフが求められている。本講義では、ファッション販売に必要な接客技術や事務管理、商品知識、売場づくりの方法について解説する。また、ファッション小売業の現状と課題、進展についても取り上げて講義を行う。7月、12月に実施される「ファッション販売能力検定3級」の受験に対応し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) ファッション業界で活躍できる人材として「ファッション販売能力検定3級」程度の知識を修得する。 ◎D：日々のニュース、店舗調査などからファッション小売業の現状と課題をあげ、解決方法を述べるができる。
授業計画	1 ファッションビジネスの知識 (ZOOM) ファッション産業の分類、商品計画の流れについて 2 ファッション小売業の構造と特徴 (対面、Classroom) ファッション小売業の業態、リアルとネットの特徴について 3 ファッション小売業の構造と特徴 (対面、Classroom) ファッション小売業の業態、リアルとネットの特徴について 4 ファッション小売業のマーケティング戦略 (対面、Classroom) セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングの設定について 5 ファッション小売業のマーケティング戦略 (対面、Classroom) セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングの設定について 6 コンセプト、営業計画の策定 (対面、Classroom) トレンド情報の収集、シーズンコンセプト、営業期と品ぞろえ計画、販売促進計画について 7 コンセプト、営業計画の策定 (対面、Classroom) トレンド情報の収集、シーズンコンセプト、営業期と品ぞろえ計画、販売促進計画について 8 売場構成、商品陳列の基本知識 (対面、Classroom) VMDにおける3つの手法、空間構成の基本、商品陳列の基本技術について 9 売場構成、商品陳列の基本知識 (対面、Classroom) VMDにおける3つの手法、空間構成の基本、商品陳列の基本技術について 10 店舗調査の項目と方法 (対面、Classroom) 売場概略、商品特性、商品構成、価格帯、売場づくり、客層、接客サービスについて 11 店舗調査の項目と方法 (対面、Classroom) 売場概略、商品特性、商品構成、価格帯、売場づくり、客層、接客サービスについて 12 購買心理の7段階 (対面、Classroom) 販売の流れと販売員の基本動作、コンサルティングセールスについて 13 購買心理の7段階 (対面、Classroom) 販売の流れと販売員の基本動作、コンサルティングセールスについて 14 売場における計数管理 (対面、Classroom) 予算比と前年比、客単価と買上率、値入高と粗利益について 15 売場における計数管理 (対面、Classroom) 予算比と前年比、客単価と買上率、値入高と粗利益について
学習成果・到達目標・基準	◎D：ファッション販売員に必要な基礎知識である業務内容、商品知識、売場づくりの方法について説明できる。
事前・事後学習	事前学習：日々の新聞やニュース、店舗調査などからアパレル小売業の現状に触れる。分からない専門用語を調べてまとめておくこと (90分)。 事後学習：興味のある記事・ニュース、店舗調査内容をまとめる (90分)。
指導方法	プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で授業を行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることが心がかかることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト、課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、授業内で実施する小テスト課題20%、受講態度・貢献度20%
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。

参考書	「ファッション販売3 ファッション販売能力検定試験3級公式テキスト」著者:大沼 淳 出版社:一般財団法人日本ファッション教育振興協会 「ファッション販売能力検定3級試験問題集」著者:財団法人日本ファッション教育振興協会 出版社:日本ファッション教育振興協会
履修上の注意	「ファッション販売能力検定試験3級」の資格取得を目指す学生は、本科目と「服飾造形論」「ファッション素材論」を併せて受講することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F14C28	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	マーケティングの基本理念は、消費者の利益を第一に考えた経営活動を行うことにある。その消費者のニーズに対応した商品を仕入れたり、つくらせたりする計画と管理の機能をマーチャンダイジング（商品計画）とよぶ。本講義は、商品計画の業務内容である商品企画から在庫管理に至る一連の流れについて明らかにしながら、価格設定の考え方、利益の構造などについて解説していく。2月に実施される「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 （授業目標） 流通業界におけるバイヤーや店長となる人材として「リテールマーケティング（販売士）検定3級」程度の知識を修得する。 ◎D：小売業における商品企画のしくみを理解し、現状と課題を述べるができる。
授業計画	1 マーケティングとマーチャンダイジングの違い（ZOOM） メーカーと小売業における4Pの違いについて 2 マーチャンダイジングの構成要素（対面、Classroom） 商品計画の具体的な内容と策定方法、品ぞろえの幅と奥行について 3 マーチャンダイジングの構成要素（対面、Classroom） 商品計画の具体的な内容と策定方法、品ぞろえの幅と奥行について 4 戦略的な価格政策と心理的価格政策（対面、Classroom） 端数価格、段階価格、慣習価格、名声価格、均一価格について 5 戦略的な価格政策と心理的価格政策（対面、Classroom） 端数価格、段階価格、慣習価格、名声価格、均一価格について 6 マーケティング・ミックスの構築（対面、Classroom） 小売業における販売促進（プロモーション）の種類について 7 マーケティング・ミックスの構築（対面、Classroom） 小売業における販売促進（プロモーション）の種類について 8 小売業における売場陳列（対面、Classroom） スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストアにおける陳列方法について 9 小売業における売場陳列（対面、Classroom） スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストアにおける陳列方法について 10 VMDによる売場演出（対面、Classroom） ファッション小売業における売場演出の方法について 11 VMDによる売場演出（対面、Classroom） ファッション小売業における売場演出の方法について 12 売価決定と利益の構造（対面、Classroom） 売価と原価と利益の関係、値入高と粗利益高について 13 売価決定と利益の構造（対面、Classroom） 売価と原価と利益の関係、値入高と粗利益高について 14 在庫管理の意義（対面、Classroom） 過剰在庫と過少在庫の発生原因、商品回転率の算出方法について 15 在庫管理の意義（対面、Classroom） 過剰在庫と過少在庫の発生原因、商品回転率の算出方法について
学習成果・到達目標・基準	◎D：小売業における商品計画の流れを説明できる。
事前・事後学習	事前学習：新聞記事や経済誌、テレビ等で新製品やヒット商品、ロングセラー商品に関するニュースを確認し、分からない専門用語を調べてまとめておく（90分）。 事後学習：興味のある記事・ニュースを1つ取り上げて、要約する（90分）。
指導方法	プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることを心がけることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、授業内で実施する小テスト課題20%、受講態度・貢献度20%
テキスト	「販売士養成講習会3級テキストI」日本商工会議所・全国商工会連合会編

参考書	「商品戦略と診断」 著者:大江 宏・村松 幸広・首藤 禎史 出版社:同友館
履修上の注意	「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の資格取得を目指す学生は、本科目と「消費と流通」「販売と経営」の3科目すべてを同学期に履修し、以下の条件を満たすことで、検定試験5科目のうち1科目が受験免除される。①第1回の授業に出席すること（本学で受験免除希望者名簿を作成するため）。②11月末に学内で実施する予備試験までの出席率が80%以上であること。③予備試験は70点以上であること。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F14C29	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	小売業における販売管理とは、事務管理から店舗管理、顧客管理まで多岐にわたる。本講義は、販売管理の基礎知識を学修し、販売に関わる事務管理や店舗管理、小売業に関する法規について解説していく。2月に実施される「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) 流通業界における販売員や店長として活躍できる人材として「リテールマーケティング（販売士）検定3級」程度の知識を修得する。 ◎D：小売業経営に必要な販売管理の留意点、法規の理解を深め、現状と課題を述べることができる。
授業計画	<p>1 販売員の目的と役割 (ZOOM) 販売員と顧客の関係、販売員に必要な販売管理の知識とは何か</p> <p>2 販売員のマナー (対面、Classroom) 販売員に必要なマナー、敬語について</p> <p>3 販売員のマナー (対面、Classroom) 販売員に必要なマナー、敬語について</p> <p>4 経営・事業全般・販売活動に関する法規 (対面、Classroom) 事業の許認可、売買契約、金券類の扱いと代金支払い方法の種類について</p> <p>5 経営・事業全般・販売活動に関する法規 (対面、Classroom) 事業の許認可、売買契約、金券類の扱いと代金支払い方法の種類について</p> <p>6 販売促進に関する法規 (対面、Classroom) 景品表示法、特定商取引法について</p> <p>7 販売促進に関する法規 (対面、Classroom) 景品表示法、特定商取引法について</p> <p>8 顧客の購買心理過程 (対面、Classroom) 顧客心理段階と接客技術について</p> <p>9 顧客の購買心理過程 (対面、Classroom) 顧客心理段階と接客技術について</p> <p>10 顧客管理の基本的役割 (対面、Classroom) 顧客満足経営の基本知識、CRM (カスタマーリレーションシップマネジメント) について</p> <p>11 顧客管理の基本的役割 (対面、Classroom) 顧客満足経営の基本知識、CRM (カスタマーリレーションシップマネジメント) について</p> <p>12 POSシステムと物流システム (対面、Classroom) POSシステムとバーコードのしくみ、販売データの活用方法、物流システムについて</p> <p>13 POSシステムと物流システム (対面、Classroom) POSシステムとバーコードのしくみ、販売データの活用方法、物流システムについて</p> <p>14 慶弔進物と売場演出の知識 (対面、Classroom) 包装の種類、和式進物包装、店内照明の種類と役割、色彩の効果について</p> <p>15 慶弔進物と売場演出の知識 (対面、Classroom) 包装の種類、和式進物包装、店内照明の種類と役割、色彩の効果について</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：販売員に必要な店舗管理、小売業に関する法規について説明できる。
事前・事後学習	事前学習：新聞記事や経済誌、テレビ等で小売経営や販売に関するニュースを確認し、分からない専門用語を調べてまとめておく (90分)。 事後学習：興味のある記事・ニュースを1つ取り上げて、要約する (90分)。
指導方法	プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることを心がけることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト課題、受講態度および授業への貢献度によって評価する。 定期試験60%、授業内で実施する小テスト課題20%、受講態度・貢献度20%
テキスト	「販売士養成講習会3級テキストⅡ」日本商工会議所・全国商工会連合会編

参考書	「営業管理実務」 著者:営業管理研究会監修 出版社:産業能率大学出版部
履修上の注意	「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の資格取得を目指す学生は、本科目と「消費と流通」「商品企画」の3科目すべてを同学期に履修し、以下の条件を満たすことで、検定試験5科目のうち1科目が受験免除される。①第1回の授業に出席すること（本学で受験免除希望者名簿を作成するため）。②11月末に学内で実施する予備試験までの出席率が80%以上であること。③予備試験は70点以上であること。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F24C30	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	現代の企業経営では、“マーケティングなくして経営なし”と言われるように、マーケティングは不可欠な位置づけにある。企業のマネジメントを遂行するためには、マーケティング機能をいかに統合的に組み合わせて展開するかが課題である。本講義では、企業経営におけるマーケティングの役割やポイントについて理解を深める。 (授業目標) 企業経営や組織運営に不可欠なマーケティングの役割を理解し、自分の見解や主張をまとめることができる。 ◎D：理論にもとづいて、企業や組織が取り組むマーケティング戦略の事例について考察し、現状と課題を述べることができる。
授業計画	<p>1 マーケティングとは (ZOOM) マーケティングの歴史の変遷、現代企業におけるマーケティングの役割について</p> <p>2 顧客価値と顧客満足 (対面、Classroom) 顧客が得られるベネフィットとコストとの関係、コストパフォーマンスについて</p> <p>3 顧客価値と顧客満足 (対面、Classroom) 顧客が得られるベネフィットとコストとの関係、コストパフォーマンスについて</p> <p>4 マーケティング環境の分析 (対面、Classroom) SWOT分析とポーターの5つの競争要因について</p> <p>5 マーケティング環境の分析 (対面、Classroom) SWOT分析とポーターの5つの競争要因について</p> <p>6 ブランド戦略 (対面、Classroom) ブランドの構成要素、ブランド・エクイティ (資産価値) について</p> <p>7 ブランド戦略 (対面、Classroom) ブランドの構成要素、ブランド・エクイティ (資産価値) について</p> <p>8 価格戦略 (対面、Classroom) 内的参照価格、場所・顧客・時期に基づく価格差別について</p> <p>9 価格戦略 (対面、Classroom) 内的参照価格、場所・顧客・時期に基づく価格差別について</p> <p>10 販売促進戦略 (対面、Classroom) プッシュ戦略とプル戦略の違い、販売促進の逆効果について</p> <p>11 販売促進戦略 (対面、Classroom) プッシュ戦略とプル戦略の違い、販売促進の逆効果について</p> <p>12 サービス・マーケティング (対面、Classroom) サービスの特性、優れたサービスの定義 (SERVQUAL) について</p> <p>13 サービス・マーケティング (対面、Classroom) サービスの特性、優れたサービスの定義 (SERVQUAL) について</p> <p>14 ソーシャル・マーケティング (対面、Classroom) 企業の社会的責任 (CSR)、コズ・リレーテッド・マーケティングについて</p> <p>15 ソーシャル・マーケティング (対面、Classroom) 企業の社会的責任 (CSR)、コズ・リレーテッド・マーケティングについて</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：マーケティングの基礎理論および用語を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：日々のニュースから企業が取り組むマーケティング戦略について確認しておくこと (90分)。 事後学習：興味ある新聞記事やニュース内容をまとめておくこと (90分)。
指導方法	プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で授業を行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることが心がけることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認のため実施する授業内小テスト課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、授業内で実施する小テスト課題20%、受講態度・貢献度20%
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「基礎コース マーケティング」 著者：小原 博 出版社：新世社

履修上の注意	日頃からニュースなどで企業が取り組むマーケティング戦略を確認しておくことで、マーケティングの基本的な発想法を単なる知識としてではなく、感覚として身につけることを望む。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

講義科目名称： キャリアゼミ：ファッション セールスゼミ 授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F39A68	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	「ファッション セールスモデル」 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。 講義、個人ワーク、プレゼンテーション形式で行われ、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。ファッション業界の企業と職種を知り、店舗調査を通して販売に必要な知識を理解する。 (授業目標) ファッション業界における販売職に必要なスキルを理解し、自分の見解や主張を述べることができる。 ◎C：ファッション小売業における現状と課題をあげ、解決方法について論理的にプレゼンテーションすることができる。
授業計画	<p>1 ファッション業界の基礎 本ゼミナールの概要、ファッション業界の現状について</p> <p>2 キャリア講座（1）（キャリアセンター） 就職活動のスケジュールと現状、活動内容について</p> <p>3 職種研究（1）（個人ワーク） ファッション業界における店舗と本部の役割、職種について</p> <p>4 職種研究（2）（プレゼンテーション） 「職種研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り</p> <p>5 2年生内定者による就職活動体験談 2年生内定者の紹介、就職活動の注意点とアドバイス</p> <p>6 ファッション販売員の研究（1）（個人ワーク） 業態別におけるファッション販売員の役割、売れる販売員の条件とは</p> <p>7 キャリア講座（2）（対面）、グループディスカッション（ZOOM）（キャリアセンター） 対面：就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う ZOOM：就職活動におけるグループディスカッションの練習を行う</p> <p>8 キャリア講座（3）（対面）、グループディスカッション（ZOOM）（キャリアセンター） 対面：就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う ZOOM：就職活動におけるグループディスカッションの練習を行う</p> <p>9 ファッション販売員の研究（2）（個人ワーク） 業態別におけるファッション販売員の役割、売れる販売員の条件とは</p> <p>10 ファッション販売員の研究（3）（プレゼンテーション） 「ファッション販売員の研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り</p> <p>11 キャリア講座（4）（キャリアセンター） 2年生内定者による就職活動体験講話</p> <p>12 履歴書およびESの書き方、面接選考の注意点 履歴書およびエントリーシートの書き方、面接選考の注意点について</p> <p>13 店舗運営の研究（1）（個人ワーク） 販売員から見た店舗運営のあり方、客数および売上を上げる方策とは</p> <p>14 店舗運営の研究（2）（個人ワーク） 販売員から見た店舗運営のあり方、客数および売上を上げる方策とは</p> <p>15 店舗運営の研究（3）（プレゼンテーション） 「店舗運営の研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：自分の考えを論理的に説明できる。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、あるいはインターネットから最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。 事後学習：毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料にまとめておく（25分）。
指導方法	パワーポイントを使用した講義と個人ワーク形式で授業を展開する。特に、個人ワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。アパレル企業の店舗調査を行い、店舗運営の特徴やマーケティング戦略を学ぶ。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：プレゼンテーション、課題を評価する プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	適宜プリント資料を配布する。

参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	業態を問わず、日頃から4P（商品、価格、立地、販売促進）の視点で店舗調査を行い、問題点と改善策を考える習慣を身につけること。 また、映画、舞台芸術、美術館に行き感性を養い、図書館にある「日経MJ新聞」や「WWD」を一読することを望む。
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・個人ワーク ・プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F39C58	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッション業界における販売職の就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、講義、個人ワーク、プレゼンテーション形式等で行う。1年次キャリアゼミのプレゼンテーション内容「売れる販売員の条件」「売上を上げる方策」をふまえて、店長や売場責任者にとって必要な店舗運営や販売管理などの経営的視点を養い、「理想のアパレル店舗」を立案することを目的とする。 (授業目標) ファッション小売業の店舗運営に必要な知識を理解し、自分の見解や主張を述べることができる。 ◎E：自分の見解や主張を状況に相応しい手法を用いて、論理的にプレゼンテーションすることができる。
授業計画	1 ファッション業界の現状 本ゼミナールの概要、ファッション業界の現状について 2 店舗運営コスト（1）（個人ワーク） 個人ワークによる「アパレル小売業における店舗運営」の研究 3 店舗運営コスト（2）（個人ワーク） 個人ワークによる「アパレル小売業における店舗運営」の研究 4 店舗運営コスト（3）（個人ワーク） 個人ワークによる「アパレル小売業における店舗運営」の研究 5 店舗運営コスト（4）（プレゼンテーション） 「店舗運営コスト」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り 6 店舗出店コスト（1）（個人ワーク） 個人ワークによる「アパレル小売業における店舗出店」の研究 7 店舗出店コスト（2）（個人ワーク） 個人ワークによる「アパレル小売業における店舗出店」の研究 8 店舗出店コスト（3）（個人ワーク） 個人ワークによる「アパレル小売業における店舗出店」の研究 9 店舗出店コスト（4）（個人ワーク） 個人ワークによる「アパレル小売業における店舗出店」の研究 10 店舗出店コスト（5）（プレゼンテーション） 「店舗出店コスト」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り 11 理想の店舗（1）（個人ワーク） 個人ワークによる「理想の店舗」に必要な条件（人、モノ、カネ、ノウハウ）の抽出 12 理想の店舗（2）（個人ワーク） 個人ワークによる「理想の店舗」の研究 13 理想の店舗（3）（個人ワーク） 個人ワークによる「理想の店舗」の研究 14 理想の店舗（4）（個人ワーク） 個人ワークによる「理想の店舗」の研究 15 理想の店舗（5）プレゼンテーション 「理想の店舗」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り
学習成果・到達目標・基準	◎E：自分の見解を論理的に人前で説明できる。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、インターネット、店舗調査から最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。 事後学習：情報収集した内容をもとに「売るための戦略」についてまとめる（25分）。
指導方法	パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。特に、個人ワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。ファッション企業の店舗調査を行い、店舗運営の手法やマーケティング戦略を学ぶ。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：プレゼンテーションの取り組みおよび発表を評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	適宜プリント資料を配布する。

参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	業態を問わず、日頃から4P（商品、価格、立地、販売促進）の視点で店舗調査を行い、問題点と改善策を考える習慣を身につけること。
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・個人ワーク ・プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
ナンバリング：F12C06	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>色彩について物理科学的側面、生理・心理的側面、文化的側面から基本知識を修得する。日常生活のなかにある実例をあげながら、色が見えるしくみ、色名、色の心理効果、配色方法、ファッションの色彩、インテリアの色彩などについて順序立てて学ぶ。色彩検定受験者には検定対策の参考となるように、問題集も活用する。 (授業目標)</p> <p>色の3属性（色相・明度・彩度）のしくみについて確実に理解する。 ◎D：色のしくみを順序立てて理解し、色の3属性で説明することができる。 ○E：色の3属性に基づいて、色相環・トーン図を描くことができる。</p>
授業計画	<p>1 色のはたらき (zoom) 色と心地よさ、色とイメージ、色とアピール、色と区別、色と見やすさの調節、色と統一感、色と象徴</p> <p>2 色はなぜみえるか (対面)、眼のしくみ (Classroom) 対面：光の性質と色 Classroom：色を見る眼のしくみ、網膜における光の処理</p> <p>3 色はなぜみえるか (対面)、眼のしくみ (Classroom) 対面：光の性質と色 Classroom：色を見る眼のしくみ、網膜における光の処理</p> <p>4 混色とは何か (対面)、色の3属性 (Classroom) 対面：加法混色、減法混色 Classroom：色相、明度、彩度、トーン</p> <p>5 混色とは何か (対面)、色の3属性 (Classroom) 対面：加法混色、減法混色 Classroom：色相、明度、彩度、トーン</p> <p>6 PCCS (対面)、慣用色名 (Classroom) 対面：PCCSの色相、明度、彩度 Classroom：系統色名、JIS慣用色名</p> <p>7 PCCS (対面)、慣用色名 (Classroom) 対面：PCCSの色相、明度、彩度 Classroom：系統色名、JIS慣用色名、平安・江戸の色</p> <p>8 色の心理効果 (対面)、配色イメージ (Classroom) 対面：色の連想と象徴、残像、対比、同化、面積効果 Classroom：色の3属性と配色イメージ</p> <p>9 色の心理効果 (対面)、配色イメージ (Classroom) 対面：色の連想と象徴、残像、対比、同化、面積効果 Classroom：色の3属性と配色イメージ</p> <p>10 色彩調和① (対面)、色彩調和② (Classroom) 対面：色相を手がかりにした配色、トーンを手がかりにした配色 Classroom：アクセントカラー、セパレーション、グラデーション</p> <p>11 色彩調和① (対面)、色彩調和② (Classroom) 対面：色相を手がかりにした配色、トーンを手がかりにした配色 Classroom：アクセントカラー、セパレーション、グラデーション</p> <p>12 ファッションと色彩 (対面)、インテリアと色彩 (Classroom) 対面：ファッションにおける配色 Classroom：インテリアの配色形式</p> <p>13 ファッションと色彩 (対面)、インテリアと色彩 (Classroom) 対面：ファッションにおける配色 Classroom：インテリアの配色形式</p> <p>14 色と文化 (対面)、色と世界 (Classroom) 対面：歴史と色、平安・江戸の色 Classroom：世界の国の象徴色</p> <p>15 色と文化 (対面)、色と世界 (Classroom) 対面：歴史と色、平安・江戸の色 Classroom：世界の国の象徴色</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>色相、明度、彩度という色の3属性の意味を理解すること。色名を覚え、色彩心理を活かした配色調和を自由に行える基礎知識を身につける。 ◎D：色相、明度、彩度について説明ができる。 ○E：色の3属性に基づいて、色相環・トーン図の基本を描くことができる。</p>
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容に相当するテキストを読み、項目ごとにレポートとしてまとめる (90分)。

	事後学習：授業中に行った練習問題を見直し、相当するテキストと並行して理解を深める（90分）。
指導方法	色とはなにかという身近な疑問を明らかにするために、毎回配色カードを使用し視覚的な訓練を大切にする。順序立てて色のしくみが理解でき、色による心理作用を効果的に活用できる基盤を養うことをめざして指導する。 色彩検定受験者には検定対策に直結するように、問題集をテキストとして活用する。パワーポイントを使用し、生活の中での実例を紹介するなどわかりやすい工夫を行う。 Webclassで課題を配信し、提出を求める。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験を評価する。 E：小テストを評価する。 定期試験50%、小テスト20%、授業態度・貢献度30%
テキスト	「文部科学省後援 色彩検定 改訂版公式テキスト3級」（色彩検定協会） 「文部科学省後援 色彩検定2・3級問題集」A・F・T最新テキスト対応（新星出版） 「新配色カード199a」（日本色研事業株式会社） 「新配色カード199用演習台紙」（日本色研事業株式会社）
参考書	
履修上の注意	毎回、テキスト、新配色カード199a、はさみとりのりを各自持参する。 新配色カードを常に持ち歩き、カラーサンプルと色名を対応させる習慣をつける。 身の回りの色彩に興味を持ち、授業で学ぶ知識との関連を心掛ける。 1年後期「カラーコーディネート演習」、2年前期「トータルコーディネート演習」は、本科目を履修済みであることが履修の条件となるため注意すること。 は、本科目が履修済みであることが履修登録の条件とする。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C T・オープンエデュケーションの活用	Classroom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
ナンバリング：F22C07	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	「カラーコーディネート論」で学んだ色彩の基礎知識を生かし、身近なものを通して実践的に配色調和の方法を身につける。アーティフィシャルフラワーによるフラワーコーディネート製作を行い、めざすイメージやTPOをふまえた配色技法を体験する。さらに、アロマセラピー精油を用い、色と香りの関係を学び五感と色彩について理解を深める。 (授業目標) 色彩調和の原則を理解し、目的や場面に合う魅力的な配色ができるようになる。 ◎E：目的や場面に応じ、主な配色技法を用いてフラワーコーディネート制作ができる。
授業計画	<p>1 主な配色技法 (zoom) 色相差による配色 同系色、反対色 イメージによる配色</p> <p>2 同系色のブーケ花選び (対面)、同系色の配色ワーク (Classroom) 対面：バラを中心にした同系色の花を選ぶ Classroom：同系色について理解を深める</p> <p>3 同系色のブーケ花選び (対面)、同系色の配色ワーク (Classroom) 対面：バラを中心にした同系色の花を選ぶ Classroom：同系色について理解を深める</p> <p>4 同系色のブーケ制作 (対面)、同系色のブーケppt制作(Classroom) 対面：ワイヤリング、テーピング、成形 Classroom：配色イメージ、配色説明</p> <p>5 同系色のブーケ制作 (対面)、同系色のブーケppt制作(Classroom) 対面：ワイヤリング、テーピング、成形 Classroom：配色イメージ、配色説明</p> <p>6 同系色のブーケ仕上げ (対面)、同系色のブーケppt完成(Classroom) 対面：持ち手のステムの処理、リボン仕上げ、撮影、エッセンシャルオイル Classroom：配色イメージ、配色説明</p> <p>7 同系色のブーケ仕上げ (対面)、同系色のブーケppt完成(Classroom) 対面：持ち手のステムの処理、リボン仕上げ、撮影、エッセンシャルオイル Classroom：配色イメージ、配色説明、</p> <p>8 反対色のブーケ花選び (対面)、反対色の配色ワーク (Classroom) 対面：ワイヤリング、テーピング、成形 Classroom：配色イメージ、配色説明</p> <p>9 反対色のブーケ花選び (対面)、反対色の配色ワーク (Classroom) 対面：ワイヤリング、テーピング、成形 Classroom：配色イメージ、配色説明</p> <p>10 同系色のブーケ制作 (対面)、同系色のブーケppt制作(Classroom) ブーケB制作 配色説明パワーポイント作成</p> <p>11 同系色のブーケ制作 (対面)、同系色のブーケppt制作(Classroom) 色と関連するエッセンシャルオイルの選択 ブーケB提出</p> <p>12 同系色のブーケ仕上げ (対面)、同系色のブーケppt完成(Classroom) 対面：持ち手のステムの処理、リボン仕上げ、撮影、エッセンシャルオイル Classroom：配色イメージ、配色説明</p> <p>13 同系色のブーケ仕上げ (対面)、同系色のブーケppt完成(Classroom) 対面：持ち手のステムの処理、リボン仕上げ、撮影、エッセンシャルオイル Classroom：配色イメージ、配色説明</p> <p>14 ブーケ発表 (対面)、発表ppt制作・提出 (Classroom) 対面：1人3分pptによるプレゼンテーション Classroom：配色説明パワーポイント制作</p> <p>15 ブーケ発表 (対面)、発表ppt制作・提出 (Classroom) 対面：1人3分pptによるプレゼンテーション Classroom：配色説明パワーポイント制作</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：基本的な配色技法を用いてフラワーコーディネート制作ができる。
事前・事後学習	事前学習：テキストによる配色技法のトレーニング、課題の準備に取り組む (20分)。 事後学習：テキストの理解不足の部分を復習し、課題の不足を補う (25分)。

指導方法	講義は、パワーポイント、テキスト、配布プリントを適宜使用する。 フラワーコーディネート制作は、パワーポイント資料を配布する。 フィードバックの方法：提出された課題に対して教員から項目ごとの評価を伝える。 Classroomで課題を配信し、提出を求める。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎E：課題制作の完成度を評価する。 課題制作70%、授業態度・授業貢献度30%
テキスト	「新配色カード199a」（日本色研事業） *1年前期に購入したものを継続使用できる。
参考書	「はじめてのインテリアブーケ」渡辺俊治監修（株式会社KADOKAWA） 「アーティフィシャルフラワー基本テクニック2 イメージを伝える 花合わせ色合わせのコツ」渡辺俊治（六耀舎）
履修上の注意	前期「カラーコーディネート論」を履修済みであることが履修の条件である。 「新配色カード199a」「新配色カード199用演習台紙」を各自持参すること。
アクティブ・ラー ニング	実習
I C T・オープン エデュケーション の活用	Classroom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
ナンバリング：F26C48	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	「トータルコーディネート論」で学んだ理論を実践に結びつける授業である。特に自分らしい装いに必要な似合う色の選び方について、より実践的な力を身につけることにより、自分自身のアイデンティティ形成に活用できると同時に、他人へのコーディネート提案に自信をもてるようになる。後半はパーソナルカラーを生かしたビーズプレスレットを制作し、自分らしい色による自己表現を体験する。 (授業目標) ファッションが自分らしさの自己表現として機能することを実習を通して学び、目的に合ったトータルコーディネート提案ができる。 ◎A：パーソナルカラー診断をグループワークで行う時、接客力にも繋げてグループワークで診断ができる。 ○E：パーソナルカラーを生かしたプレスレットを制作し、プレゼンテーションすることができる。
授業計画	<p>1 パーソナルカラー 序章、1章、2章 (zoom) 配色技法とパーソナルカラーへの活用 色相配色・トーン配色 ドミナントカラー・ドミナントトーン・トーンオントーン・グラデーション</p> <p>2 パーソナルカラー 3章テキスト (対面)、3章問題集 (Classroom) クライアントを中心にしたアドバイス 色素をもとにしたコミュニケーション</p> <p>3 パーソナルカラー 3章テキスト (対面)、3章問題集 (Classroom) クライアントを中心にしたアドバイス 色素をもとにしたコミュニケーション</p> <p>4 パーソナルカラー 4・5章テキスト (対面)、4・5章問題集 (Classroom) 色素 (肌・髪・眼) のアドバイス 3属性に基づくドレーピングの方法</p> <p>5 パーソナルカラー 4・5章テキスト (対面)、4・5章問題集 (Classroom) 色素 (肌・髪・眼) のアドバイス 3属性に基づくドレーピングの方法</p> <p>6 パーソナルカラー 6章テキスト (対面)、6章問題集 (Classroom) 似合う色・形・柄・質感の様々なアイテムへの取り入れ方 ファッション・ヘアメイク・ネイル・ブライダル・ブーケ</p> <p>7 パーソナルカラー 6章テキスト (対面)、6章問題集 (Classroom) 似合う色・形・柄・質感の様々なアイテムへの取り入れ方 ファッション・ヘアメイク・ネイル・ブライダル・ブーケ</p> <p>8 パーソナルカラー 7章テキスト (対面)、7章問題集 (Classroom) アドバイステクニック 似合う色を生かした配色の応用 小テスト</p> <p>9 パーソナルカラー 7章テキスト (対面)、7章問題集 (Classroom) アドバイステクニック 似合う色を生かした配色の応用 小テスト</p> <p>10 プレスレット パーソナルカラーを生かしたビーズ選び (対面)、色の心理効果 (Classroom) 色の心理効果 パーソナルカラーを生かしたビーズ選び</p> <p>11 プレスレット パーソナルカラーを生かしたビーズ選び (対面)、色の心理効果 (Classroom) 色の心理効果 パーソナルカラーを生かしたビーズ選び</p> <p>12 プレスレット 成形 (対面)、配色説明パワーポイント (Classroom) プレスレット制作 配色説明パワーポイント制作</p> <p>13 プレスレット 成形 (対面)、配色説明パワーポイント (Classroom) プレスレット制作 配色説明パワーポイント制作</p> <p>14 プレスレット 提出 (対面)、配色説明パワーポイント提出 (Classroom) プレスレット提出 配色説明パワーポイント提出</p> <p>15 プレスレット 提出 (対面)、配色説明パワーポイント提出 (Classroom) プレスレット提出 配色説明パワーポイント提出</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：パーソナルカラー診断をグループワークで行うことができる。 ○E：色の特徴を生かしたビーズプレスレットを制作することができる。

事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容を確認し、テキストの予習、課題の準備を行う（20分）。 事後学習：授業終了後、学んだことを振り返り、課題に取り組む（25分）。
指導方法	トータルコーディネートに必要な技術の一つとして、パーソナルカラー診断のより実践的な技術を使いこなせるように指導する。 パーソナルカラーの考え方を生かしたファッションコーディネート、ビジュアルコラージュ作成やビーズブレスレット制作の実習を通して指導する。資格取得希望者には「色彩活用パーソナルカラー検定2級」にも対応し、色の実践的活用方法を具体的に学べるよう指導する。 パワーポイントを使用する。 Classroomで課題を配信し提出を求める。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：グループワークでの主体性・責任感を評価する。 E：作品制作の完成度を評価する。 作品30%、小テスト50%、授業態度・貢献度20%
テキスト	「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト2級」改訂版（産経新聞出版） *「色彩活用パーソナルカラー検定 3級・2級公式問題集」（一般社団法人 日本カラーコーディネーター協会） *「新配色カード199a」（日本色研事業株式会社） *は、1年次購入したものがあれば継続使用できる。
参考書	「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト3級」改訂版（産経新聞出版）
履修上の注意	①「カラーコーディネート論」「トータルコーディネート論」を履修済であることがこの科目を履修する条件である。 ②グループワークの際には、フェイスシールドを使用する予定である。
アクティブ・ラーニング	実習 グループワーク
ICT・オープンエデュケーションの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
小泉きよみ、楠香代子、高橋佐智子、平光くり子			
ナンバリング：F13C11	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	衣服製作の経験が少ない学生を対象に、基礎的な製作技術の修得を目的としている。 課題は「基礎縫い」と「服飾雑貨」製作とし、学習内容に沿った製作工程と使用器具の扱いなどを学修する。 基礎縫いでは手縫い、ミシン縫い、副資材(ボタン付け等)に関する基礎的な縫製技術を修得し、日常生活における衣服トラブルを自ら解決する技能を身に付ける。 服飾雑貨製作では、デザインに適した素材を選択し機能性を考えた実用的なバッグ製作を行うことで立体的な組み立て方を学修する。 (授業目標) ◎E：基礎的な製作技能を身に付け、課題を製作することができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス (ZOOM) 授業内容、授業の進め方、課題製作に必要な生地や道具について説明</p> <p>2 基礎縫い1 (対面)、素材について (Classroom) (実習) 対面：ミシン、ロックミシンの使用方法について、Classroom：購入した素材について</p> <p>3 基礎縫い1 (対面)、素材について (Classroom) (実習) 対面：ミシン、ロックミシンの使用方法について、Classroom：購入した素材について</p> <p>4 服飾雑貨製作基礎1 (対面)、基礎縫い2 (Classroom) (実習) 対面：作図、裁断、印をつける、Classroom：玉どめ、なみ縫の基礎技法</p> <p>5 服飾雑貨製作基礎1 (対面)、基礎縫い2 (Classroom) (実習) 対面：作図、裁断、印をつける、Classroom：玉どめ、なみ縫の基礎技法</p> <p>6 服飾雑貨製作基礎2 (対面)、基礎縫い3 (Classroom) (実習) 対面：胴、まち、底を縫う、Classroom：ぐし縫、置きじつけの基礎技法</p> <p>7 服飾雑貨製作基礎2 (対面)、基礎縫い3 (Classroom) (実習) 対面：胴、まち、底を縫う、Classroom：ぐし縫、置きじつけの基礎技法</p> <p>8 服飾雑貨製作基礎3 (対面)、基礎縫い4 (Classroom) (実習) 対面：持ち手を製作し胴に縫いつける、Classroom：半返し縫、本返し縫、星どめの基礎技法</p> <p>9 服飾雑貨製作基礎3 (対面)、基礎縫い4 (Classroom) (実習) 対面：持ち手を製作し胴に縫いつける、Classroom：半返し縫、本返し縫、星どめの基礎技法</p> <p>10 服飾雑貨製作応用1 (対面)、基礎縫い4 (Classroom) (実習) 対面：ファスナーをつける、Classroom：まつり縫の基礎技法</p> <p>11 服飾雑貨製作応用1 (対面)、基礎縫い4 (Classroom) (実習) 対面：ファスナーをつける、Classroom：まつり縫の基礎技法</p> <p>12 服飾雑貨製作応用2 (対面)、基礎縫い6 (Classroom) (実習) 対面：胴、まち、底を縫う、Classroom：千鳥がけの基礎技法</p> <p>13 服飾雑貨製作応用2 (対面)、基礎縫い6 (Classroom) (実習) 対面：胴、まち、底を縫う、Classroom：千鳥がけの基礎技法</p> <p>14 基礎縫い7 (対面)、基礎縫い8 (Classroom) (実習) 対面：スナップ等の使用方法を実習、Classroom：ボタン等の使用方法を実習</p> <p>15 基礎縫い7 (対面)、基礎縫い8 (Classroom) (実習) 対面：スナップ等の使用方法を実習、Classroom：ボタン等の使用方法を実習</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：基礎的な製作技能を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：基本的な縫い方(手縫い、ミシン等)を練習する(20分)。 事後学習：授業終了後には学習した作業工程を復習し、次週までに作業を完了させておく(25分)。
指導方法	パワーポイントや動画を使用して説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、課題完成までの工程が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①実習、②課題提出、③採点(評価)返却、④授業後による採点についての質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：課題の完成度を評価する。(ルーブリック評価) 課題80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布。

参考書	なし
履修上の注意	作業工程に遅れないように積極的に課題に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
小泉きよみ、楠香代子、高橋佐智子、平光くり子			
ナンバリング：F13C12	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	服飾造形1を履修し、さらなる技術の向上を目指す学生を対象としている。課題は「スカート」製作と「装飾技法」とする。 スカートを製作することで衣服の組み立て方と製作手順を学修し、装飾技法では生地と糸の関係性を理解し、装飾技術を学修する。製作技術の向上と着心地の良さを考慮した衣服製作に取り組み、基礎的な縫製技術を身に付けることを目的とする。 (授業目標) ◎E：服飾造形1で学修した技能も活かし、課題を製作することができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス (ZOOM) 授業内容、授業の進め方、課題製作に必要な生地や道具について説明</p> <p>2 採寸、作図 (対面)、装飾技法1 (Classroom) (実習) 対面：採寸、パターン作図、Classroom：デザイン、製作準備</p> <p>3 採寸、作図 (対面)、装飾技法1 (Classroom) (実習) 対面：採寸、パターン作図、Classroom：デザイン、製作準備</p> <p>4 裁断、印つけ (対面)、装飾技法2 (Classroom) (実習) 対面：布地を裁断、印をつける、Classroom：基礎ステッチの説明、実習</p> <p>5 裁断、印つけ (対面)、装飾技法2 (Classroom) (実習) 対面：布地を裁断、印をつける、Classroom：基礎ステッチの説明、実習</p> <p>6 本縫い1 (対面)、装飾技法3 (Classroom) (実習) 対面：芯の裁断と接着、組み立て、Classroom：基礎ステッチの実習、仕上げ方法について説明</p> <p>7 本縫い1 (対面)、装飾技法3 (Classroom) (実習) 対面：芯の裁断と接着、組み立て、Classroom：基礎ステッチの実習、仕上げ方法について説明</p> <p>8 本縫い2 (対面)、装飾技法4 (Classroom) (実習) 対面：試着、補正、布端の始末、Classroom：基礎ステッチの説明、実習</p> <p>9 本縫い2 (対面)、装飾技法4 (Classroom) (実習) 対面：試着、補正、布端の始末、Classroom：基礎ステッチの説明、実習</p> <p>10 本縫い3 (対面)、装飾技法5 (Classroom) (実習) 対面：脇縫い、ベルト付け準備、Classroom：基礎ステッチの実習、仕上げ方法について説明</p> <p>11 本縫い3 (対面)、装飾技法5 (Classroom) (実習) 対面：脇縫い、ベルト付け準備、Classroom：基礎ステッチの実習、仕上げ方法について説明</p> <p>12 本縫い4 (対面)、装飾技法6 (Classroom) (実習) 対面：ベルト付け、Classroom：基礎ステッチの説明、実習</p> <p>13 本縫い4 (対面)、装飾技法6 (Classroom) (実習) 対面：ベルト付け、Classroom：基礎ステッチの説明、実習</p> <p>14 本縫い5 (対面)、装飾技法7 (Classroom) (実習) 対面：裾の始末、仕上げ、Classroom：基礎ステッチの実習、仕上げ方法について説明</p> <p>15 本縫い5 (対面)、装飾技法7 (Classroom) (実習) 対面：裾の始末、仕上げ、Classroom：基礎ステッチの実習、仕上げ方法について説明</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：課題を製作するための正しい縫い方を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：服飾造形1で修得した縫い方の基礎や作業工程を、各回で使用できるように復習しておく (20分)。 事後学習：授業終了後には学習した作業工程を復習し、次回までに作業を完成させておく (25分)。
指導方法	パワーポイントや動画を使用して、説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、課題完成までの工程と基礎理論が理解できるように指導を行なう。 フィードバックの仕方：①実習、②課題提出、③採点 (評価) 返却、④授業後による採点についての質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：課題の完成度を評価する。 課題80%、授業への貢献度 20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布

参考書	なし
履修上の注意	「服飾造形1」を履修した学生を対象としている。
アクティブ・ラーニング	実習
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
楠香代子			
ナンバリング：F23C13	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>本授業は、服飾造形1・2を履修し、さらなる技術の向上を目指す学生を対象として課題の「パンツ」を製作する。パンツとは両脚を別々に包む形態の下半身の衣服ことであり、シルエットやデザイン、素材により様々な種類がある。製作を通じてウエストやヒップ、両脚、股上・股下との関連を考慮したパターンの作図、身体に適合する縫製技術を実習により学修する。また、パンツの縫製工程と共に、ポケット等の細かいディテールの縫製技術も身に付ける。</p> <p>G1クラス対象、技術的レベルに基づく習熟度別でクラス編成を行う。 (授業目標) ◎E：服飾造形1・2で学んだ技術を活かし、パンツと細部のディテールの縫製ができる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス (Zoom) 授業内容、授業の進め方、課題製作に必要な生地や道具について説明</p> <p>2 パターン作図、仮縫い組み立て (対面)、製作準備 (Classroom) (実習) 対面：採寸、パターン作図、シーチング裁断、Classroom：デザイン、製作準備</p> <p>3 パターン作図、仮縫い組み立て (対面)、製作準備 (Classroom) (実習) 対面：採寸、パターン作図、シーチング裁断、Classroom：仮縫い組立て</p> <p>4 試着、補正 (対面)、仮縫い組立て (Classroom) (実習) 対面：試着、補正、Classroom：仮縫い組立て</p> <p>5 試着、補正 (対面)、裁断準備 (Classroom) (実習) 対面：試着、補正、Classroom：裁断準備 (パターン仕上げ)</p> <p>6 裁断 (対面)、裁断準備 (Classroom) (実習) 対面：裁断、Classroom：裁断準備 (パターン仕上げ)</p> <p>7 裁断 (対面)、本縫い準備 (Classroom) (実習) 対面：裁断、Classroom：本縫い準備 (くせとり、芯貼り等)</p> <p>8 本縫い (対面：Classroom) (実習) 対面：布端のロック始末、Classroom：本縫い準備 (くせとり、芯貼り等)</p> <p>9 本縫い (対面：Classroom) (実習) 対面：布端のロック始末、Classroom：股上を縫う</p> <p>10 本縫い (対面：Classroom) (実習) 対面：ポケット、脇線を縫う、Classroom：股上を縫う</p> <p>11 本縫い (対面：Classroom) (実習) 対面：ポケット、脇線を縫う、Classroom：股下を縫う</p> <p>12 本縫い (対面：Classroom) (実習) 対面：裾の始末、Classroom：股下を縫う</p> <p>13 本縫い (対面：Classroom) (実習) 対面：裾の始末、Classroom：ベルト付け準備</p> <p>14 本縫い (対面：Classroom) (実習) 対面：Classroom、ベルト付け</p> <p>15 本縫い (対面：Classroom) (実習) 対面：Classroom、仕上げ</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：両脚を包む下半身衣服の構造と縫製工程が理解できる。
事前・事後学習	事前学習：基礎縫い、ミシンの練習。(20分)。 事後学習：授業で行った課題の作業工程を復習し、次回までに授業で目標とした作業を完成させておくこと(25分)。
指導方法	パワーポイント、テキストを使用して説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、作品完成までの工程が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①実習、②作品提出、③採点(評価)返却、④授業後に採点についての質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：作品の完成度を評価する。(ルーブリック評価) 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布。

参考書	なし
履修上の注意	この授業は上級者向け（G1クラス）のクラスとなるので、自身の技術を見極めて履修すること。レベルに合ったクラスで技術向上、修得をすることが望ましい。また、オンライン授業の際、マシンを使用するのでマシンが自宅で使える環境である事が望ましい。
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
楠香代子			
ナンバリング：F33C14	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	服飾造形1・2・3を履修し、さらなる技術の向上を目指す学生を対象としている。課題は「ビスチェ型ドレス」とし、配布プリントにより製作工程を学び、実習によりパターンの作図、縫製技術を身につける。デザインの決定から素材の選定、衣服製作の技術と幅を広げ、応用方法を学修する。 G1クラス対象、技術的レベルに基づく習熟度別でクラス編成を行う。 (授業目標) ◎E：デザインに適した素材の選定、素材に適した縫製ができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス (Zoom) 授業内容、授業の進め方、課題製作に必要な生地や道具について説明</p> <p>2 パターン作図、仮縫い組み立て(対面)、製作準備 (Classroom) (実習) 対面：採寸、パターン作図、シーチング裁断、仮縫い組み立て、Classroom:製作準備</p> <p>3 パターン作図、仮縫い組み立て(対面)、仮縫い組立て (Classroom) (実習) 対面：採寸、パターン作図、シーチング裁断、仮縫い組み立て、Classroom：仮縫い組立て</p> <p>4 試着・補正 (対面)、仮縫い組立て (Classroom) (実習) 対面：試着、補正、Classroom:仮縫い組立て</p> <p>5 試着・補正 (対面)、裁断準備 (Classroom) (実習) 対面：試着、補正、Classroom：裁断準備 (パターン仕上げ)</p> <p>6 裁断 (対面)、裁断準備 (Classroom) (実習) 対面：裁断、Classroom：裁断準備 (パターン仕上げ)</p> <p>7 裁断 (対面)、本縫い準備 (Classroom) (実習) 対面：Classroom、裁断、本縫い準備 (芯貼り等)</p> <p>8 本縫い(対面：Classroom) (実習) 対面：Classroom、身頃の切り替え線とスカートの脇線を縫う</p> <p>9 本縫い(対面：Classroom) (実習) 対面：Classroom、身頃の切り替え線とスカートの脇線を縫う</p> <p>10 本縫い(対面：Classroom) (実習) 対面：身頃及びスカートの装飾をする、Classroom：身頃及びスカートの本縫い</p> <p>11 本縫い(対面：Classroom) (実習) 対面：身頃及びスカートの装飾をする、Classroom：身頃及びスカートの本縫い</p> <p>12 本縫い (対面：Classroom) (実習) 対面：左脇にファスナー付け、Classroom：裾の始末準備</p> <p>13 本縫い(対面：Classroom) (実習) 対面：左脇にファスナー付け、Classroom：裾の始末準備</p> <p>14 本縫い(対面：Classroom) (実習) 対面：Classroom、スカートの裾始末、仕上げ</p> <p>15 本縫い(対面：Classroom) (実習) 対面：Classroom、スカートの裾始末、仕上げ</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：デザイン、素材に適した縫製工程が理解できる。
事前・事後学習	事前学習：基礎縫いと本縫い（薄くつれやすい布地をミシンで縫う）の練習（20分）。 事後学習：授業で行った課題の作業工程を復習し、次回までに作業を完成させておくこと（25分）。
指導方法	パワーポイント、テキストを使用して説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、作品完成までの工程が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①実習、②作品提出、③採点（評価）返却、④授業後による採点についての質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：作品の完成度を評価する。（ルーブリック評価） 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	プリントを配布 必要に応じてプリントを配布

参考書	なし
履修上の注意	この授業は上級者向け（G1クラス）のクラスとなるので、自身の技術を見極めて履修すること。レベルに合ったクラスで技術向上、修得をすることが望ましい。また、オンライン授業の際、マシンを使用するのでマシンが自宅で使える環境である事が望ましい。
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	特に無し

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
楠香代子			
ナンバリング：F23C23	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	刺繍とは専用の糸を使用し、布地あるいはその他の素材に装飾を施すハンドクラフト（手芸）である。実習では様々な刺し方で図案を表現するフランス刺繍から始め、数種類の刺繍ステッチで作品を製作する。刺繍の図案を考え、ステッチで作品の表現をするが、製作過程で糸の色遣いを考えながら作品を進め、表現していくことも刺繍の学びの一つである。 (授業目標) ◎E：基礎ステッチを正しく刺す事ができ、作品の表現ができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス (Zoom) 授業内容、授業の進め方、様々な刺繍の種類を学び、課題製作に必要な糸や道具について説明</p> <p>2 基礎ステッチ (1) 図案のトレース4種のステッチ (対面)、製作準備 (Classroom) (実習) 対面：フランス刺繍の技法でエコバッグに刺繍をする。図案のトレース、ランニング、バック、ストレート、アウトライン、4種類のステッチで課題製作 Classroom：ステッチのデザイン、製作準備</p> <p>3 基礎ステッチ (1) (実習) 図案のトレース4種のステッチ (対面)、4種のステッチ仕上げ (Classroom) (実習) 対面：フランス刺繍の技法でエコバッグに刺繍をする。図案のトレース、ランニング、バック、ストレート、アウトライン、4種類のステッチで課題製作 Classroom：ステッチのデザイン、製作準備</p> <p>4 基礎ステッチ (2) (実習) 3種のステッチ (対面)、4種のステッチ仕上げ (Classroom) 対面：チェーン、フレンチノット、レイジーデージーの3種類のステッチを実習 Classroom：4種類のステッチを仕上げる</p> <p>5 基礎ステッチ (2) (実習) 対面：チェーン、フレンチノット、レイジーデージーの3種類のステッチを実習 Classroom：3種類のステッチを仕上げる</p> <p>6 基礎ステッチ (3) (実習) 対面：サテン、バリオンローズ、2種類のステッチを実習 Classroom：3種のステッチを仕上げる</p> <p>7 基礎ステッチ (3) (実習) 対面：サテン、バリオンローズ、2種類のステッチを実習 Classroom：2種類のステッチを仕上げる</p> <p>8 クロスステッチ (実習) 対面：クロスステッチの刺し方を学び、飾りフレームを製作する Classroom：2種類のステッチを仕上げる</p> <p>9 クロスステッチ (実習) 対面：クロスステッチの刺し方を学び、飾りフレームを製作する Classroom：クロスステッチを実習する</p> <p>10 クロスステッチ (実習) 対面：クロスステッチ実習 Classroom：クロスステッチを実習する</p> <p>11 クロスステッチ (実習) 対面：クロスステッチ実習 Classroom：ステッチのデザイン、製作準備</p> <p>12 ビーズワーク (実習) 対面：ビーズワークで課題のブローチを製作する、Classroom:クロスステッチ仕上げ</p> <p>13 ビーズワーク (実習) 対面：ビーズワークで課題のブローチを製作する、Classroom:ビーズワーク実習</p> <p>14 ビーズワーク (実習) 対面：ビーズワークで課題のブローチを製作する、Classroom:ビーズワーク実習</p> <p>15 ビーズワーク (実習) 対面：Classroom、ビーズワーク仕上げ</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：基礎ステッチの名称と刺し方を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：多くの作品に触れ、刺繍を理解すること。基礎ステッチの練習をしておく (20分)。 事後学習：授業終了後には実習したステッチの刺し方を復習し、作品の完成に努めること (25分)。

指導方法	パワーポイント、サンプルを使用し、基礎ステッチそれぞれの刺し方、図案のトレースの方法を指導する。ステッチの刺し方は小グループに分かれ、実習指導をする。基礎ステッチを修得した後、それぞれのステッチを使用して作品を製作する。 フィードバックの仕方：①実習、②作品提出、③採点（評価）返却、④授業後に採点についての質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：作品の完成度を評価する。 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布
参考書	
履修上の注意	作品は授業時間内での完成を目指す、提出期日までに間に合わなかった場合は、各自で時間外に実習を進めること。
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：必修
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F22A05	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	自身のキャリアビジョンを描くには、企業での生き方や働き方が深く関わってくる。顧客への対応、上司と部下、同僚との関係構築、取引先との折衝など、全ての場面でビジネスにおけるコミュニケーションスキルの必要性は高まっており、企業から必要とされる人材になるには、独自の強みや成果を上げるための力を持たなければならない。本講義は、ビジネスで円滑な人間関係を構築するための手法を知り理解することを目的に、主にファッション業界で働くうえで必要とされるビジネスマナーやビジネス知識、仕事術を修得する。 (授業目標) ◎C：自分自身の現状を分析し、成果を出す方法を知る。
授業計画	1 ビジネスキャリアとは 本講義の概要、ステップアップをするキャリアビジョンについて 2 キャリアプラン・自己シナリオ作成 (対面)、志望会社研究 (Classroom) 対面：理想像・自分比較・到達手段・中間目標について Classroom：志望会社の研究 3 キャリアプラン・自己シナリオ作成 (対面)、自己シナリオ作成 (Classroom) 対面：理想像・自分比較・到達手段・中間目標について Classroom：キャリアや自己の武器を分析し未来に向けたシナリオを作成 4 企業研究・企業と組織 (対面)、自己シナリオ作成 (Classroom) 対面：IR資料の読み方、ファッション業界でのキャリアアップについて Classroom：キャリアや自己の武器を分析し未来に向けたシナリオを作成 5 企業研究・企業と組織 (対面)、キャリアアッププラン (Classroom) 対面：IR資料の読み方、ファッション業界でのキャリアアップについて Classroom：ファッション業界の入り口とキャリアアッププラン作成 6 職場でのコミュニケーション・プレゼンテーション (対面)、キャリアアッププラン (Classroom) 対面：挨拶の効果、依頼・断る・謝罪、好かれる力、反省力、巻き込み力、アイデアと企画・ターゲットについて Classroom：ファッション業界の入り口とキャリアアッププラン作成 7 職場でのコミュニケーション・プレゼンテーション (対面)、企画書作成 (Classroom) 対面：挨拶の効果、依頼・断る・謝罪、好かれる力、反省力、巻き込み力、アイデアと企画・ターゲットについて Classroom：企画書作成 8 ビジネス知識・ビジネスマナー・仕事術 (対面)、企画書作成 (Classroom) 対面：一般的なビジネスマナー、ファッション業界のワード、仕事の方法、手順と優先順位、PDCAサイクルについて Classroom：企画書作成 9 ビジネス知識・ビジネスマナー・仕事術 (対面)、PDCAサイクル (Classroom) 対面：一般的なビジネスマナー、ファッション業界のワード、仕事の方法、手順と優先順位、PDCAサイクルについて Classroom：優先順位・PDCAサイクル作成 10 販売職からのステップアップ、ワークライフバランス (対面)、PDCAサイクル (Classroom) 対面：NYのファッション業界トップの事例、ワークライフバランス、女性のキャリア開発、ブラック企業問題、ダイバーシティ経営 Classroom：優先順位・PDCAサイクル作成 11 販売職からのステップアップ、ワークライフバランス (対面)、ダイバーシティ経営 (Classroom) 対面：NYのファッション業界トップの事例、ワークライフバランス、女性のキャリア開発、ブラック企業問題、ダイバーシティ経営 Classroom：企業選びのポイント、ダイバーシティ経営のメリット 12 ターゲット分析・自己のSWOT分析 (対面)、ダイバーシティ経営 (Classroom) 対面：コーチングで使用するターゲット別攻略法、SWOT分析 Classroom：企業選びのポイント、ダイバーシティ経営のメリット 13 ターゲット分析・自己の自己のSWOT分析 (対面)、SWOT分析 (Classroom) 対面：コーチングで使用するターゲット別攻略法、SWOT分析 Classroom：自己のSWOT分析 14 ペルソナ像設定とプロファイリング、キャリアプラン修正 (対面)、SWOT分析 (Classroom) 対面：ペルソナ像設定、プロファイリングについて Classroom：自己のSWOT分析 15 ペルソナ像設定とプロファイリング、キャリアプラン修正 (対面)、志望会社研究 (Classroom) 対面：ペルソナ像設定、プロファイリングについて

Classroom：志望会社の研究	
学習成果・到達目標・基準	◎C：成果を出すために役立つ枠組みについてを説明できる。
事前・事後学習	事前学習：日経MJ、週刊東洋経済、週刊ダイヤモンド、アエラそしてビジネスサイトに目をとおり、最新のビジネス情報を得る。毎回の小レポート対策として、次回授業計画の内容を調べておくこと（60分）。 事後学習：授業で得た知識やスキルを深めるため図書館やインターネット等で調べる（120分）。
指導方法	パワーポイントや映像を使用し講義形式で行う。毎回授業内でのリアクションペーパーの提出、およびレポート提出がある。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：リアクションペーパー、定期試験を評価する。 定期試験60%、課題25%、授業態度・貢献度15%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示する。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネットなどで最新のビジネスに関する情報を得ておくこと。 映画、舞台芸術、美術館へ行き感性を養うこと。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F13C17	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッションデザインの中でも、主にアパレルデザインに重きを置き、ファッションブランドの商品企画の手法を修得する。 アパレルデザイナーや商品企画職を目指すためのコンセプトワーク、テーマに基づくファブリケーション、そして商品企画の流れを理解及び体験することにより、ポートフォリオ作成も並行して修得する。 (授業目標) ◎D：アパレル商品企画の手法を修得する。
授業計画	<p>1 ファッションデザインとは 本講義の概要説明、デザインの分類と、アパレルデザインについて</p> <p>2 ブランドコンセプト及びターゲット（対面）、コレクションブランドの分析（Classroom） 対面：ファッションブランドのコンセプト設定とそれに基づくターゲット設定について Classroom：コレクションブランドのスタイリング・素材イメージ・カラー柄展開・アイテム分析</p> <p>3 ブランドコンセプト及びターゲット（対面）、ブランドコンセプト・ターゲットイメージマップ（Classroom） 対面：ファッションブランドのコンセプト設定とそれに基づくターゲット設定について Classroom：コンセプトイメージマップ、ターゲットイメージマップの作成</p> <p>4 シーズンテーマ及びシーン設定（対面）、ブランドコンセプト・ターゲットイメージマップ（Classroom） 対面：シーズンテーマに基づくシーン設定について Classroom：コンセプトイメージマップ、ターゲットイメージマップの作成</p> <p>5 シーズンテーマ及びシーン設定（対面）、シーズンテーマ・シーンイメージマップ（Classroom） 対面：シーズンテーマに基づくシーン設定について Classroom：シーズンテーマに基づくシーンのイメージマップ作成</p> <p>6 シーンに基づくファブリケーション及びカラー展開（対面）、シーズンテーマ・シーンイメージマップ（Classroom） 対面：シーンの中のスタイリングを構成する素材ストーリーとそのカラー展開について Classroom：シーズンテーマに基づくシーンのイメージマップ作成</p> <p>7 シーンに基づくファブリケーション及びカラー展開（対面）、ファブリケーションとカラー展開（Classroom） 対面：シーンの中のスタイリングを構成する素材ストーリーとそのカラー展開について Classroom：ファブリケーションとそのカラー展開イメージマップ作成</p> <p>8 スタイリング画とアイテム画（対面）、ファブリケーションとカラー展開（Classroom） 対面：スタイル画とアイテム画（平絵）の役割と表現手法の解説 Classroom：ファブリケーションとそのカラー展開イメージマップ作成</p> <p>9 スタイリング画とアイテム画（対面）、スタイル画・アイテム画（Classroom） 対面：スタイル画とアイテム画（平絵）の役割と表現手法の解説 Classroom：スタイル画と平絵の作成</p> <p>10 同素材デザイン展開（対面）、スタイル画・アイテム画（Classroom） 対面：同一素材を使用したアパレルデザインの展開 Classroom：スタイル画と平絵の作成</p> <p>11 同素材デザイン展開（対面）、同素材デザイン展開アイテム画（Classroom） 対面：同一素材を使用したアパレルデザインの展開 Classroom：同素材デザイン展開平絵作成</p> <p>12 デザイナーのマーチャンダイジング（対面）、同素材デザイン展開アイテム画（Classroom） 対面：商品企画構成上のマーチャンダイジングの知識 Classroom：同素材デザイン展開平絵作成</p> <p>13 デザイナーのマーチャンダイジング（対面）、企画構成確認修正（Classroom） 対面：商品企画構成上のマーチャンダイジングの知識 Classroom：同素材デザイン展開企画の確認及び修正</p> <p>14 既存ブランドでの検証（対面）、企画構成確認修正（Classroom） 対面：実際の既存ブランドでの検証 Classroom：同素材デザイン展開企画の確認及び修正</p> <p>15 既存ブランドでの検証（対面）、コレクションブランドの分析（Classroom） 対面：実際の既存ブランドでの検証 Classroom：コレクションブランドのスタイリング・素材イメージ・カラー柄展開・アイテム分析</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：アパレル商品企画の手法概要を説明できる。

事前・事後学習	事前学習：本学図書館に於いて指定されている書籍でファッションデザインの知識を得ておくこと。(90分) 事後学習：作成した内容を更に授業時に得たヒントやアイデアを基に分析し要約しておくこと。(90分)
指導方法	講義内容に関連する画像やパワーポイント等を使用して、視覚媒体を多く取り入れながら講義形式で行う。毎回テーマごとに進めていき、ポートフォリオを作成していく。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験を評価する。 定期試験50%、課題30%、授業態度・貢献度20%
テキスト	「スタイリングブック」高村是州著、株式会社グラフィック社
参考書	なし
履修上の注意	本学図書館にて定期購読している書籍の中から、ファッション大辞典、PEN、マリークレールビジュアール、VOGUE、BAZAAR、View、Wearを必ず一読すること。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択必修
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F14B26	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッションビジネスの変遷に伴うアパレル業界の仕組みの変化を理解し、ファッショントレンドと商品のライフサイクルの関係をマーケティング面・マーチャンダイジング面にて理解する。またアパレル会社の利益構造も理解しながら今後のファッション産業の展開を予測する。 (授業目標) ◎D：ファッション業界の仕組みを知ること、ファッション業界のブランドビジネスを理解する。
授業計画	<p>1 ファッション業界研究 本講義の概要説明、ファッション業界の歴史および仕組み、現状について</p> <p>2 アパレルマーチャンダイジングのフロー（対面）、オンラインショップ研究（Classroom） 対面：ファッショントレンドと商品のライフサイクル、商品企画から生産管理の流れについて Classroom：オンラインショップの分析</p> <p>3 アパレルマーチャンダイジングのフロー（対面）、トレンド商品のピックアップと検証（Classroom） 対面：ファッショントレンドと商品のライフサイクル、商品企画から生産管理の流れについて Classroom：今シーズンのトレンド商品をピックアップし売れを検証する</p> <p>4 ファッションマーケティング（対面）、トレンド商品のピックアップと検証（Classroom） 対面：ファッションビジネスで多用するマーケティングについて Classroom：今シーズンのトレンド商品をピックアップし売れを検証する</p> <p>5 ファッションマーケティング（対面）、マーケティングプラン作成（Classroom） 対面：ファッションビジネスで多用するマーケティングについて Classroom：時代のニーズに合ったマーケティングプランを作成する</p> <p>6 マーチャンダイジングの知識（対面）、マーケティングプラン作成（Classroom） 対面：SPAアパレルの年間52週のMD戦略について Classroom：時代のニーズに合ったマーケティングプランを作成する</p> <p>7 マーチャンダイジングの知識（対面）、52週MDプラン作成（Classroom） 対面：SPAアパレルの年間52週のMD戦略について Classroom：年間52週のMD構成プラン作成</p> <p>8 マーチャンダイジングの知識（対面）、52週MDプラン作成（Classroom） 対面：月度のアイテム計画とVMDについて Classroom：年間52週のMD構成プラン作成</p> <p>9 マーチャンダイジングの知識（対面）、月度MD表（Classroom） 対面：月度のアイテム計画とVMDについて Classroom：月度アイテム計画とVMDについて</p> <p>10 アパレル会社の収益構造（対面）、月度MD表（Classroom） 対面：SPAアパレルの収支計画について Classroom：月度アイテム計画とVMDについて</p> <p>11 アパレル会社の収益構造（対面）、収支計画（Classroom） 対面：SPAアパレルの収支計画について Classroom：月度収支計画プラン作成</p> <p>12 ファッショントレンドとマーケットについて（対面）、収支計画（Classroom） 対面：ファッショントレンドとマーケットの関係について Classroom：月度収支計画プラン作成</p> <p>13 ファッショントレンドとマーケットについて（対面）、次シーズンのトレンド予測（Classroom） 対面：ファッショントレンドとマーケットの関係について Classroom：2022年 S/S のトレンド予測プラン作成</p> <p>14 今後のファッション業界の展望（対面）、次シーズンのトレンド予測（Classroom） 対面：今後のSPAビジネス、EC、セカンドハンドウェアビジネス、個人ブランド等について Classroom：2022年 S/S のトレンド予測プラン作成</p> <p>15 今後のファッション業界の展望（対面）、オンラインショップ研究（Classroom） 対面：今後のSPAビジネス、EC、セカンドハンドウェアビジネス、個人ブランド等について Classroom：オンラインショップの分析</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：日本のファッション業界の仕組みを説明できる。
事前・事後学習	事前学習；ファッション誌やファッションサイト等で最新のファッショントレンドの知識を深めておくこと。毎回の小レポート対策として、次回授業計画の内容を調べておく（60分）。 事後学習；実店舗やECサイトを企業と顧客、双方の視点から分析すること（120分）

指導方法	パワーポイントや画像を使用し講義形式で行う。毎回授業内でのリアクションペーパーの提出、およびレポート提出がある。 毎回テーマ毎に進めていき、今後のファッションビジネスプランを作成する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：リアクションペーパー・定期試験を評価する。 定期試験50%、課題35%、授業態度・貢献度15%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関しては、その都度指示する。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネット・SNSなどで最新のファッションやビジネスに関する情報を得ておくこと。 また、今後のファッションビジネスの可能性と変化に興味を持つこと。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F24C31	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッションの「表現」や「買い方」は、この10年間で大きく変容し多様化した。「服」は脇役となり、日本のファッションビジネスはいま大きな壁にぶつかっている。本講義は、ファッションビジネスで多面的視点からより豊かな衣生活を提案できるようになることを目的に、時代別・年代別のファッションコミュニケーション表現について、あらゆる視点から考察する。さらに、トレンド把握や今後のファッションコミュニケーション手法の変化を考察していくとともにそれを自己表現する。 (授業目標) ◎D：ファッション業界で必要となる様々なファッション表現を解説できる。
授業計画	1 ファッションコミュニケーションとは 本講義の概要、ファッションとコミュニケーションの関係、流行のファッションとその主張と表現の関係について 2 古代・中世ヨーロッパのファッションコミュニケーションの特徴（対面）、好きなブランドのファッション表現リサーチ（Classroom） 対面：古代・中世ヨーロッパの階級・宗教とファッション表現の関係 Classroom：好きなハイブランドのファッション表現リサーチ 3 古代・中世ヨーロッパのファッションコミュニケーションの特徴（対面）、古代・中世ファッションのイメージマップ（Classroom） 対面：古代・中世ヨーロッパの階級・宗教とファッション表現の関係 Classroom：古代・中世ヨーロッパファッションのキーワードとイメージマップ作成 4 50・60年代のファッションコミュニケーションの特徴（対面）、古代・中世ファッションのイメージマップ（Classroom） 対面：戦後の消費価値観の変化と10人1色の時代のファッション表現 Classroom：古代・中世ヨーロッパファッションのキーワードとイメージマップ作成 5 50・60年代のファッションコミュニケーションの特徴（対面）、50・60年代ファッションのイメージマップ（Classroom） 対面：戦後の消費価値観の変化と10人1色の時代のファッション表現 Classroom：50・60年代ファッションのキーワードとイメージマップ作成 6 70・80・90年代のファッションコミュニケーションの特徴（対面）、50・60年代ファッションのイメージマップ（Classroom） 対面：ライフスタイル啓蒙による10人10色から1人10色への変化とファッション表現 Classroom：50・60年代ファッションのキーワードとイメージマップ作成 7 70・80・90年代のファッションコミュニケーションの特徴（対面）、70・80・90年代ファッションのイメージマップ（Classroom） 対面：ライフスタイル啓蒙による10人10色から1人10色への変化とファッション表現 Classroom：70・80・90年代ファッションのキーワードとイメージマップ作成 8 マーケティングコミュニケーション（対面）、70・80・90年代ファッションのイメージマップ（Classroom） 対面：マーケティングコミュニケーションの手法、世代別コミュニケーション・ミレニアルとZ世代の比較 Classroom：70・80・90年代ファッションのキーワードとイメージマップ作成 9 マーケティングコミュニケーション（対面）、ミレニアル・Z世代の比較（Classroom） 対面：マーケティングコミュニケーションの手法、世代別コミュニケーション・ミレニアルとZ世代の比較 Classroom：ミレニアル・Z世代の比較 10 ファッションコミュニケーションにて自己表現（対面）、ミレニアル・Z世代の比較（Classroom） 対面：ライフスタイル的表現 衣食住遊休知美 Classroom：ミレニアル・Z世代の比較 11 ファッションコミュニケーションにて自己表現（対面）、ライフスタイルイメージマップ（Classroom） 対面：ライフスタイル的表現 衣食住遊休知美 Classroom：自己表現・ライフスタイルイメージマップ作成 12 トレンドから来るファッションコミュニケーション（対面）、ライフスタイルイメージマップ（Classroom） 対面：トレンド予測（WGSN）の元である社会現象のファッションコミュニケーション Classroom：自己表現・ライフスタイルイメージマップ作成 13 トレンドから来るファッションコミュニケーション（対面）、WGSNトレンド予測の検証（Classroom） 対面：トレンド予測（WGSN）の元である社会現象のファッションコミュニケーション Classroom：英国WGSN社のファッショントレンド予測シナリオの検証

	14 D to C の今後のビジネス展開（対面）、WGSNトレンド予測の検証（Classroom） 対面：B to B, B to C そしてD to C のビジネス形態・コミュニケーション手法および今後の展開と変貌 Classroom：英国WGSN社のファッショントレンド予測シナリオの検証
	15 D to C の今後のビジネス展開（対面）、好きなブランドのファッション表現リサーチ（Classroom） 対面：B to B, B to C そしてD to C のビジネス形態・コミュニケーション手法および今後の展開と変貌 Classroom：好きなハイブランドのファッション表現リサーチ
学習成果・到達目標・基準	◎D：ファッション業界に影響を及ぼした様々なファッション表現を理解する。
事前・事後学習	事前学習：日本経済新聞、日経MJ、WWD、アエラそしてビジネスサイトに目をとおり、最新のビジネス情報を得る。毎回の小レポート対策として、次回授業計画の内容を調べておくこと（90分）。 事後学習：授業で得た知識やスキルを深めるため図書館やインターネット等で調べる（90分）。
指導方法	パワーポイントや映像を使用し講義形式で行う。毎回授業内でのリアクションペーパーの提出、およびレポート提出がある。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：毎回のリアクションペーパー・定期試験を評価する。 定期試験60%、課題25%、授業態度・貢献度15%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示する。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネットなどでファッションビジネスに関する記事をチェックすること。 映画、舞台芸術、美術館へ行き感性を養うこと。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F39C57	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッション業界及びファッション関連業界での就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、講義、演習、プレゼンテーション形式等で行う。1年次キャリアゼミのプレゼンテーション内容「職種研究」「店舗調査」をふまえて、アパレル本部にとって必要なブランド運営や店舗運営などの経営的視点を養い「理想のアパレルブランド」を立案することを目的とする。 (授業目標) アパレル会社のブランドビジネスに必要な知識やスキルを理解する。 ◎A：ブランド経営に対して積極的に調査を行い、自分の考えをまとめる力を身につける。 ◎E：自分の考えを状況に相応しい手法を用いて、論理的にプレゼンテーションすることができる。
授業計画	<p>1 ファッション業界の現状 本ゼミナールの概要、ファッション業界の現状のしくみについて</p> <p>2 ファッションビジネスとは 様々なブランド運営の手法について</p> <p>3 ブランドコンセプト（ワーク） ファッションブランドの研究を基にブランドのコンセプト設定</p> <p>4 コンペチター研究（ワーク） ブランドのコンペチター研究</p> <p>5 ターゲット設定（ワーク） ブランドのペルソナ像を含むターゲット設定</p> <p>6 商品イメージ（ワーク、プレゼンテーション） ブランドの展開する商品イメージ設定、ブランドのプレゼンテーションおよび評価と振り返り</p> <p>7 店舗設定（路面店）（ワーク） ブランドの路面店舗物件選択、店舗内装プラン・VMDプラン作成</p> <p>8 広告宣伝プラン（ワーク） 路面店オープンと連動するプロモーションプランをリアルとバーチャルにて作成</p> <p>9 起業・事業計画（ワーク） ブランドの立ち上げに向けて起業準備と収支プラン作成</p> <p>10 3カ年計画（ワーク） チャネル戦略とプロモーションプラン、ブランドの3年間のシナリオプラン作成</p> <p>11 コンセプトワーク・事業計画プレゼンテーション（プレゼンテーション） ブランドビジネス系プレゼンテーションおよび評価と振り返り</p> <p>12 MD・商品企画 1（ワーク） ブランドの商品構成プラン作成</p> <p>13 MD・商品企画 2（ワーク） ブランドの商品企画プラン作成</p> <p>14 商品計画（ワーク） ブランドの商品仕入れ計画（商品投入表）の作成</p> <p>15 MD構成・商品計画プレゼンテーション（プレゼンテーション） 商品計画プレゼンテーションおよび評価と振り返り</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：ブランド経営に対して興味を持ちながら課題に取り組むことができる。 ◎E：自分の考えを人前で説明できる。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、インターネット、店舗調査から最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。 事後学習：情報収集した内容をもとに「売るための戦略」についてまとめる（25分）。
指導方法	パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。特に、個人ワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。ファッション企業の店舗調査を行い、店舗運営の手法やブランドマーケティングを学ぶ。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：課題の取り組みや授業の貢献度を評価する。 E：プレゼンテーションを評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	適宜プリント資料を配布する。

参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	映画、舞台芸術、美術館に行き感性を養い、図書館で「日経MJ新聞」や「WWD」等を読んでおくこと。
アクティブ・ラーニング	・プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
柏木理佳			
ナンバリング：F34C37	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	デジタルテクノロジーの急速な進化により、今や動画は、個人が気軽に発信し視聴できるものとなった。本授業は、インターネットを通じたコミュニケーション関連の情報や知識を概説し、仕事に役立つ動画制作スキルを磨くために「iMovie」「Adobe After Effects」「Adobe Premiere Pro」「You tube」などの基本操作を身につける。さらに、デジタルでの課題制作をとおして表現力や独創性を高める。 (授業目標) ◎E：Macintoshの操作方法を理解し、「iMovie」「Adobe After Effects」「Adobe Premiere Pro」「You Tube」などを使用した動画作成ができる。
授業計画	<p>1 Macintoshの使い方 本講座の概要、Macintosh (MacBook Pro) の基本的な操作の説明、最後に提出してもらった制作課題の説明をする。制作したい課題の内容について、アイデアを出し合う。</p> <p>2 iMovieやYou Tubeの基本操作と課題作成の準備 iMovieやYou tubeの基本操作を習得しながら、これらを使用した課題制作をどんな内容にするのか考える。</p> <p>3 iMovieやYou Tubeの基本操作と課題作成の準備 iMovieやYou tubeなどの基本的操作を習得しながら、これらを使用した課題制作をどんな内容にするか考える。</p> <p>4 iMovieの基本操作と課題制作 (実習) iMovieにより課題作品を実践的に習得する。自分で決めた内容に沿って、作成してみる。</p> <p>5 iMovieの基本操作と課題制作 (実習) iMovieにより課題作品を実践的に習得する。自分で決めた内容に沿って、作成してみる。</p> <p>6 プレゼンテーション 制作した内容を発表する。また、公開方法とアクセス件数、更新方法、コメントなどのルール、マナーについても学ぶ。</p> <p>7 プレゼンテーション 制作した内容を発表する。また、公開方法とアクセス件数、更新方法、コメントなどのルール、マナーについても学ぶ。</p> <p>8 ホームページの作成 アパレル業界やライフスタイル業界における興味のある企業を検索し、ホームページの見せ方を学ぶ。最終的には、興味のある商品を選び、そのPR戦略としてホームページを作成する。</p> <p>9 ホームページの作成 アパレル業界やライフスタイル業界における興味のある企業を検索し、ホームページの見せ方を学ぶ。最終的には、興味のある商品を選び、そのPR戦略としてホームページを作成する。</p> <p>10 作成したホームページを発表する 作成したホームページを発表する。また、ホームページの公開方法、更新方法を学ぶ。また、コメント書き方やアクセス件数など公開における注意点なども確認する。</p> <p>11 作成したホームページを発表する 作成したホームページを発表する。また、ホームページの公開方法、更新方法を学ぶ。また、コメント書き方やアクセス件数など公開における注意点なども確認する。</p> <p>12 Adobe After EffectsやAdobe Premiere Proの基本的な操作 Adobe After EffectsやAdobe Premiere Proを使用した動画編集をする。既存のイラストや動画を使用する場合の著作権のルールについて知る。</p> <p>13 Adobe After EffectsやAdobe Premiere Proの基本的な操作 Adobe After EffectsやAdobe Premiere Proを使用した動画編集をする。既存のイラストや動画を使用する場合の著作権のルールについて知る。</p> <p>14 プレゼンテーション Adobe After EffectsやAdobe Premiere Proによって作成した動画を発表する。本講義の総まとめとしてSNS公開や情報に関する注意点を学ぶ。</p> <p>15 プレゼンテーション Adobe After EffectsやAdobe Premiere Proによって作成した動画を発表する。本講義の総まとめとしてSNS公開や情報に関する注意点を学ぶ。</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：「iMovie」「Adobe After Effects」「Adobe Premiere Pro」「You Tube」などの基本的な操作ができ、HP作成ができるようになる。
事前・事後学習	事前学習：ファッション、インテリア誌やSNSに紹介されている商品のレイアウト方法や動画での紹介方法などの知識を深めておく (20分)。 事後学習：You Tubeやファッションやライフスタイル関連のHPやtwitter、instagramなどあらゆるメディアをビジュアルの視点から比較し購買力につながる効果などを調べておく (25分)。

指導方法	Macintosh (MacBook Pro) を操作する演習が中心で、Adobe Illustrator、Adobe Photoshop、iMovieなどのソフトを使いながら、使用法や活用法を指導する。パワーポイント、映像を使って講義しながら、課題制作を行う。最終的には個人で作品を制作し、プレゼンテーションを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：課題作品制作のオリジナリティとこだわりを評価する 課題作品 40%、作品の発表 40%、授業への貢献度 20%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関してもその都度指示。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	授業では、自身のPC、スマートフォンを活用する。 毎日、あらゆるメディアでデジタル関連の記事をチェックすること。
アクティブ・ラーニング	・実習 ・プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	PC, スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択必修
担当教員			
柏木理佳			
ナンバリング:F17B58	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	カフェや雑貨店などの身近な店の店員や経営者のビジネスのセンスや企業の戦略などを知る。 (授業目標) ◎C：思想力・判断力の向上とともに企業のビジネスモデルを事例研究として学び、商品、企画や収支の、アイデアなどを習得する。
授業計画	<p>1 雑貨業界の現状 本講義の概要を説明する。輸出入業界や雑貨業界などの現状について最近の話題になっている事例を紹介する。ライフスタイル関連の企業名を出し合い、各企業の顧客対象者や業界の動向について習得する。また、それぞれの企業の国内外の経営状況について習得する。</p> <p>2 輸入雑貨経営の仕組み ベトナムなどからの輸入雑貨店の現状を確認する。欧米ブランド力の魅力と比較、現状について学ぶ。アジアなど人件費の安い国において製造し、輸入するメリットなどを習得する。他方、為替、輸送費などのリスクも学ぶ。起業方法についても触れる。</p> <p>3 輸入雑貨経営の仕組み ベトナムなどからの輸入雑貨店の現状を確認する。海外欧米ブランド力の魅力と比較、現状について学ぶ。アジアなど人件費の安い国において製造し、輸入するメリットなどを習得する。他方、為替、輸送費などのリスクも学ぶ。起業方法についても触れる。</p> <p>4 輸入ワイン、小売店、アルコール飲料業界の現状 成城石井やワイン輸入店などの輸入品の選抜方法、店舗拡大などのマーケティング戦略などについて学ぶ。また、ライバル社との比較のため輸入企業にはどんな企業があるのかを出し合い、それらの企業についての現状を習得する。</p> <p>5 輸入ワイン、小売店、アルコール飲料業界の現状 成城石井やワイン輸入店などの輸入品の選抜方法、店舗拡大などのマーケティング戦略などについて学ぶ。また、ライバル社との比較のため輸入企業にはどんな企業があるのかを出し合い、それらの企業についての現状を習得する。</p> <p>6 カーテン業界の現状 東レ、サンゲツ、フジエキスタイルなどのカーテン業界の現状、種類別ランキングなどを知る。また、ホテル、戸建て、マンション別のカーテンの種類を学ぶ。主なカーテン企業のグローバルマーケティングなどについて習得する。</p> <p>7 カーテン業界の現状 東レ、サンゲツ、フジエキスタイルなどのカーテン業界の現状、種類別ランキングなどを知る。また、ホテル、戸建て、マンション別のカーテンの種類を学ぶ。主なカーテン企業の経営戦略やグローバルマーケティングなどについて習得する。</p> <p>8 トイレ（衛生陶器）業界の現状 ライフスタイルを充実させるバス、トイレのインテリア関連企業としてTOTO、LINAXなどの洗面台やトイレ（衛生陶器）業界の現状について学ぶ。欧米では、トイレは2部屋あり陶器のトイレ、洗面台などを使う習慣があるなど日本と比較した文化の違いによる人気商品の違いを学ぶ。</p> <p>9 トイレ（衛生陶器）業界の現状 ライフスタイルを充実させるバス、トイレのインテリア関連企業としてTOTO、LINAXなどの洗面台やトイレ（衛生陶器）業界の現状について学ぶ。欧米では、トイレは2部屋あり陶器のトイレ、洗面台などを使う習慣があるなど日本と比較した文化の違いによる人気商品の違いを学ぶ。</p> <p>10 日用品・雑貨・家具業界の現状 ニトリやロフト、無印良品などの価格の安い日用品、雑貨用品などの販売店の特徴、マーケティング戦略、経営戦略、販売戦略などを学ぶ。また西川リビング、大塚家具など価格が高めの家具や寝具メーカーと比較、現状と経営戦略も触れる。</p> <p>11 日用品・雑貨・家具業界の現状 ニトリやロフト、無印良品などの価格の安い日用品、雑貨用品などの販売店の特徴、マーケティング戦略、経営戦略、販売戦略などを学ぶ。また西川リビング、大塚家具など価格が高めの家具や寝具メーカーと比較、現状と経営戦略も触れる。</p> <p>12 雑貨・日用品通販カタログ業界 高齢者などを対象としたニッセンやバルーナ、千趣会など雑貨・日用品の通販カタログ業界について学ぶ。モバイルやPCを使う若者を対象にしたZOZOや楽天などのWEB販売戦略と比較する。</p> <p>13 雑貨・日用品のカタログ業界 高齢者などを対象としたニッセン、バルーナ、千趣会など雑貨・日用品の通販カタログ業界について学ぶ。モバイルやPCを使う若者を対象にしたZOZOや楽天などのWEB販売戦略と比較する。</p>

	14 個人セレクトショップの経営 自分が店をオープンすることを想定し、どこの場所にどんな人を対象に販売するのかなどセグメンテーションを考える。また、価格の決定、SWOT分析も学ぶ。また、自分の店をアピールするためのSNSマーケティング戦略などを習得し、店の名前やPR用のキャッチフレーズなどを考える。
	15 個人セレクトショップの経営 自分が店をオープンすることを想定し、どこの場所にどんな人を対象に販売するのかなどセグメンテーションを考える。また、価格の決定、SWOT分析も学ぶ。また、自分の店をアピールするためのSNSマーケティング戦略などを習得し、店の名前やPR用のキャッチフレーズを考える。
学習成果・到達目標・基準	◎C：もしも自分が店員だったら、経営者だったらどんな企画を出して、どんなものを販売するのか、いくらで販売するのかなどの思考力・判断力を習得する。
事前・事後学習	事前学習：テキストや新聞から自分の興味のある店や企業が、どんな新商品を販売しているのか、新店舗はどこに進出しているのか、などをインターネットで検索し調べておく（90分）。 事後学習：授業の復習として自分の興味のある店や企業の店舗運営の特徴や経営戦略、マーケティング戦略、SDGs戦略を調べておく（90分）。
指導方法	パワーポイントや資料配布、最近の新聞ニュースやテキストなどをベースに指導する。個人ワークなどにてプレゼンテーションなどを積極的に取り入れる。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：プレゼンテーション、課題を評価する。 定期試験40%、プレゼンテーション%30、課題15%、授業態度・貢献度15%
テキスト	文真堂『国際企業の経営行動』 柏木理佳 ISBN978-4-8309-5080-3
参考書	都度、授業内で指導する。
履修上の注意	積極的にアイデアを出し合って欲しい。
アクティブ・ラーニング	顧客と経営者を想定した個人ワークなどでの積極的な意見交換を取り入れる。
ICT・オープンエデュケーションの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
柏木理佳			
ナンバリング：F17C49	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ライフスタイルとはなにか、ファッションとライフスタイルの関係は、ということ「衣・食・住」＋「遊・知・健・美」＋「働」というアプローチで分析し、自身のライフスタイルを含めて考察する力を身につける。また、特にそのライフスタイルに関連する企業の現状や戦略についてケーススタディで学ぶ。 (授業目標) ◎D：ライフスタイルとは何かについて理解するとともに、自身の価値を高めるために、ライフスタイルに関する情報に触れ、それを考察する習慣を身につける。
授業計画	1 ライフスタイルとは 本講の概要について説明する。ライフスタイルに関連する企業にはどんな企業があるのか確認する。雑貨、日用品などの企業にはどんな企業があるのかなどについて学び、それらの業界の動向を習得する。またライフスタイルに係る余暇の時間としてのコーヒーショップなどの現状について学ぶ。 2 無印良品の戦略など シンプルなライフスタイルとして文房具や日用品、雑貨を販売している無印良品の販売方法を学ぶ。また、マーケティング戦略などについて習得する。特に具体的なプロフィールを考えてSNSでPRするペルソナ方法を学ぶ。自分が販売員・経営者だったら、どんなプロフィールの人を対象に販売するのか、具体的な顧客のプロフィールを明確化する練習をする。 3 無印良品の戦略など シンプルなライフスタイルとして文房具や日用品、雑貨を販売している無印良品の販売方法を学ぶ。また、マーケティング戦略などについて習得する。特に具体的なプロフィールを考えてSNSでPRするペルソナ方法を学ぶ。自分が販売員・経営者だったら、どんなプロフィールの人を対象に販売するのか、具体的な顧客のプロフィールを明確化する練習をする。 4 珈琲館、スターバックスの比較 ライフスタイルにおける余暇の時間、またはビジネスの打ち合わせで利用する喫茶店の現状と課題について学ぶ。特に住宅街におけるコーヒーショップと駅近くにあるコーヒーショップの違いについて考える。また、企業の経営戦略、販売方法についてスターバックスと比較する。 5 珈琲館、スターバックスの比較 ライフスタイルにおける余暇の時間、またはビジネスの打ち合わせで利用する喫茶店の現状と課題について学ぶ。特に住宅街におけるコーヒーショップと駅近くにあるコーヒーショップの違いについて考える。また、企業の経営戦略、販売方法についてスターバックスと比較する。 6 アフタヌーンティーの販売戦略など コーヒーショップと雑貨店と併用して展開しているアフタヌーンティーの会社概要をHPから調べる方法を学ぶ。また、店舗の拡大、出店する店舗の場所などを調べ、どんな戦略でどんな顧客を対象にしているのかを考える。また、コーヒーショップの店員と雑貨の店員の接客方法の違いについて学ぶ。 7 アフタヌーンティーの販売戦略など コーヒーショップと雑貨店と併用して展開しているアフタヌーンティーの会社概要をHPから調べる方法を学ぶ。また、店舗の拡大、出店する店舗の場所などを調べ、どんな戦略でどんな顧客を対象にしているのかを考える。また、コーヒーショップの店員と雑貨の店員の接客方法の違いについて学ぶ。 8 ウエッジウッドなどブランド力の価値観など ライフスタイルにおいて優雅な気分させるブランド力の魅力と市場について学び、特にお皿、コーヒーカップなどのウエッジウッド（英国）企業やノリタケ食器メーカーなどのブランド価値観の向上などについて習得する。 9 ウエッジウッドなどブランド力の価値観など ライフスタイルにおいて優雅な気分させるブランド力の魅力と市場について学び、特にお皿、コーヒーカップなどのウエッジウッド（英国）企業やノリタケ食器メーカーなどのブランド価値観の向上などについて習得する。 10 ロフト（LOFT）の魅力とリスク管理 日用品、雑貨、インテリア、文房具、ホーム&キッチンなど豊富な種類を販売している企業の魅力とリスクについて学ぶ。体験イベントを実施するなどの販売戦略や進出店舗のエリアや対象者などマーケティング戦略などを学ぶ。またキャラクターグッズとの提携や海外流の行を参考にした売れる商品の選択方法などを学ぶ。 11 ロフト（LOFT）の魅力とリスク管理 日用品、雑貨、インテリア、文房具、ホーム&キッチンなど豊富な種類を販売している企業の魅力とリスクについて学ぶ。体験イベントを実施するなどの販売戦略や進出店舗のエリアや対象者などマーケティング戦略などを学ぶ。またキャラクターグッズとの提携や海外の流行を参考にした売れる商品の選択方法などを学ぶ。 12 スタジオアリス（写真館）の現状

	<p>ライフスタイルにおいて大事な記念を残すための写真は大事であるが、スマホカメラの発展とともに写真店数は減少している。記念撮影としての写真館のケーススタディをセグメンテーション（どこの場所で誰を対象に売るか）などを学ぶ。豊富なドレスの提供やメイクやヘアアレンジなどの顧客満足度の高いサービスの提供、DMなどのPR戦略を学ぶ。</p> <p>13 スタジオアリス（写真館）の現状</p> <p>ライフスタイルにおいて大事な記念を残すための写真は大事にであるが、スマホカメラの発展とともに写真店数は減少している。記念撮影としての写真館のケーススタディをセグメンテーション（どこの場所で誰を対象に売るか）などを学ぶ。豊富なドレスの提供やメイクやヘアアレンジの顧客満足度の高いサービスの提供、DMなどのPR戦略を学ぶ。</p> <p>14 ライフスタイルの変化による新商品</p> <p>少子化が進み高齢者が増える中、ライフスタイルも多様化している。在宅ワークが進む中、今後のライフスタイルを想像し、どんな生活になりどんなものが売れるか考えてみる。アイデアを出し合い、自分ならどんな商品があったら便利なのかを考え、発表する。</p> <p>15 ライフスタイルの変化による新商品</p> <p>少子化が進み高齢者が増える中、ライフスタイルが変化している。在宅ワークが進む中、今後のライフスタイルを想像し、どんな生活になりどんなものが売れるか考えてみる。アイデアを出し合い、自分ならどんな商品があったら便利なのかを考え、発表する。</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：ライフスタイルとは何かについて説明ができる。
事前・事後学習	事前学習：ライフスタイル全般やライフスタイル企業に関する最新情報に触れておく。雑誌、新聞などから企業の情報収集、HPなどからも情報収集し、次回授業計画の内容を調べておく（90分）。 事後学習：最新情報を自らのライフスタイルにどう反映させ、それがどう消費につながっているか、PCで検索したり、友人たちから情報収集することで、体感につなげていく感覚を磨くためにショッピングやPC検索により新商品や広告について触れて発表できるようにまとめておく（90分）。
指導方法	パワーポイントや映像、雑誌、新聞などを用いて講義形式で行う。レポート提出がある。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：リアクションペーパー、定期試験を評価する。 定期試験50%、課題35%、授業態度・貢献度15%
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	授業内で指示する
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネットなどからライフスタイルに関する情報・記事をチェックし、それについてどう考えるかの意見を持つこと。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
柏木理佳			
ナンバリング：F27C50	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>経済の流れと流行に敏感なファッションや雑貨・日用品の雑誌、また通販カタログのビジネスモデルを学び、企画、立案、選択、付録、編集、構成、校了などの流れを理解し、雑誌の企画や付録に関する企画提案をする。</p> <p>(授業目標) ◎D：自分自身の価値を高めるために、企画、提案、文化などを考察する習慣を身につけることを目標とし、知識・理解を習得する。</p>
授業計画	<p>1 ライフスタイル関連の雑誌業界について 本講座の概要、Cancanなどのファッション雑誌やクロワッサンなどの雑貨の雑誌などの種類や読者対象者、広告戦略などを紹介する</p> <p>2 ライフスタイルやファッション雑誌やWEB雑誌の現状について 企画提案をすることを前提として、商品別ターゲットとなる読者対象者による雑誌の種類を学ぶ。年齢別の効果的なアプローチ方法や商品などを理解する</p> <p>3 ライフスタイルやファッション雑誌やWEB雑誌の現状について 企画提案をすることを前提として、商品別ターゲットとなる読者対象者による雑誌の種類を学ぶ。年齢別の効果的なアプローチ方法や商品などを理解する。</p> <p>4 ゲスト講師 Cancanなどの雑誌ができるまでを学び、需要と供給を知る。その上で企画提案方法を習得する。雑誌に携わる人の仕事の種類、内容を知る。企画提案の仕事、ライターの仕事、取材方法、広告営業などの仕事内容を知り、広告につなげる企画提案方法を学ぶ。</p> <p>5 ゲスト講師 Cancanなどの雑誌ができるまでを学び、需要と供給を知る。その上で企画提案方法を習得する。雑誌に携わる人の仕事の種類、内容を知る。企画提案の仕事、ライターの仕事、取材方法、広告営業などの仕事内容を知り、広告につなげる企画提案方法を学ぶ</p> <p>6 企画の提案 アイデアを出し合いながら、企画の提案や書き方を学ぶ。クロワッサン雑貨などの商品のセレクト方法、広告などの流れを知る</p> <p>7 企画の提案 アイデアを出し合いながら、企画の提案や書き方を学ぶ。クロワッサン雑貨などの商品のセレクト方法、広告などの流れを知る</p> <p>8 ゲスト講師 流行に敏感な雑誌のふろくの現状について知る。企画から製造、製品化までの流れを知る。ふろくが決定するまでの企画、提案方法を学ぶ。自分ならどんなふろくが欲しいか、いくらなら買うか。季節ごとのシーンで考えてみる。最終的には企画書を提出できるようにする。</p> <p>9 ゲスト講師 流行に敏感な雑誌のふろくの現状について知る。企画から製造、製品化までの流れを知る。ふろくが決定するまでの企画、提案方法を学ぶ。自分ならどんなふろくが欲しいか、いくらなら買うか。季節ごとのシーンで考えてみる。最終的には企画書を提出できるようにする。</p> <p>10 WEB雑誌の企画、プレゼント商品などの提案 WEB雑誌の企画、広告などの現状と流れを学ぶ。オンラインショッピングやユーチューブなどのアクセス件数による広告戦略について紙媒体と比較する。WEB雑誌における企画アイデア提案をPPTにまとめ、発表する。他の学生を顧客と想定して購入まで至るかなど意見交換をする。</p> <p>11 WEB雑誌の企画、プレゼント商品などの提案 WEB雑誌の企画、広告などの現状と流れを学び、オンラインショッピングやユーチューブなどのアクセス件数による広告戦略について紙媒体と比較する。WEB雑誌における企画アイデア提案をPPTにまとめ、発表する。他の学生を顧客と想定して購入まで至るかなど意見交換をする。</p> <p>12 雑誌・企業によるSDGs商品 SDGsとは何かを知る。大学生や企業が取り組むSDGsや雑誌、企業のSDGs商品やアイデア事業をPCなどで検索し探してみる。ライフスタイル、アパレル市場におけるSDGsの現状を学び、自分ならどんな取り組みができるか考えてみる。</p> <p>13 雑誌・企業によるSDGs企画の提案 SDGsとは何かを知る。大学生や企業が取り組むSDGsや雑誌、企業のSDGs商品やアイデア事業をPCなどで検索し探してみる。ライフスタイル、アパレル市場におけるSDGsの現状を学び、自分ならどんな取り組みができるか考えてみる。</p> <p>14 ファッション・雑貨雑誌、WEB雑誌のコンテンツの企画の提出 これまで学んだ企画の書き方に沿って、20代女子の読者としてコンテンツを充実させる。これまでの企画をブラッシュアップしたものをPPTや動画などを使って、企画のプレゼンテーション</p>

	15 をする。雑誌媒体社などに提出する。 ファッション・雑貨雑誌、WEB雑誌のコンテンツの企画の提出 これまで学んだ企画の書き方に沿って、20代女子の読者としてのコンテンツを充実させる。これまでの企画をブラッシュアップしたものをPPTや動画などを使って、企画のプレゼンテーションをする。雑誌媒体社などに提出する。
学習成果・到達目標・基準	◎D スタイルある商品や創造力を発揮し、企画の提案ができるようになる。
事前・事後学習	事前学習：過去から現在までの経済の状況とともに、ファッション雑誌・インテリア雑誌などライフスタイル雑誌全般について企画採用の流れと特徴を調べておく。提案したい興味のある雑誌（企画）の切り抜き（WEBの場合印刷可）をしておく（90分）。 事後学習：自身の価値観や創造性を高めるため、各授業の復習とともにファッション・インテリア雑誌の商品提案、企画、提案を考えておく（90分）。WEB雑誌からや雑誌から類似企画の切り抜きアイデアをまとめておく。
指導方法	パワーポイントや映像などによる企画、提案、流れなどの説明、アイデア・企画提案を出しあう。企画などをレポートで提出する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験40%、リアクションペーパー10%、課題25%、授業態度・貢献度25%
テキスト	特になし。
参考書	参考文献は、その都度、指示する。
履修上の注意	自分のアイデアを積極的に出すこと。
アクティブ・ラーニング	企画提案から結論をまとめる方法を学ぶ。
ICT・オープンエデュケーションの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
柏木理佳			
ナンバリング：F39C62	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ライフスタイル業界、雑貨、日用品、及び企業において企画・販売などにおいて就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、ライフスタイル業界を学ぶだけでなく企画、提案などを習得する。グループワーク、プレゼンテーション形式などを取り入れ、就職活動がスムーズにできるようにする。 (授業目標) 自身のキャリアビジョンを立てることができる。 ◎A：主体的に意見を交換したり、グループワークを通して、責任感を身につける。 ◎C：ビジネス経営や企画提案などの思考力や判断力を身につけることができる。
授業計画	<p>1 ライフスタイル業界の現状 本講座の概要の説明をする。またライフスタイル業界における現状と課題を学び、企業の採用状況を知る。アンケートを実施し興味のある企業名を3～5社ほど書いて提出してもらおう。</p> <p>2 ライフスタイル業界の採用状況 ライフスタイル業界の採用状況を各社のホームページから会社概要、採用情報を調べ、自身でアプローチする方法を知る。インターンシップの申込方法などを知る。</p> <p>3 ライフスタイル業界の多くの職種を知る ライフスタイル業界の企業名を出し合い、その職種の多さを知る。本や検索、OB訪問やインタビュー、現職で働いている人など3人の職業人にインタビューすることで1日の仕事内容を30項目に分け、具体的な仕事内容を知る。</p> <p>4 価値観から適職を分析する 幅広いライフスタイル業界において、自分の価値観をカードを使いながら楽しく分析し、具体的な適職を探す方法を知る。</p> <p>5 自己紹介文を3パターン作成する ペアで長所を出し合いながら自分の長所を改めて確認する。自分の長所を書き出し、それぞれに長所をエピソード体験を含めて書く方法を知る。</p> <p>6 自己紹介文を3パターン作成する 自分の長所を3つ書き出し、それぞれに長所をエピソード体験を含めて書く方法を知る。企業が採用した人材の需要を確認し、それらに対する自己紹介文の書き方を学ぶ。</p> <p>7 ライフスタイル業界の多様な分野の就職状況 カーテン、インテリア、コーヒーショップ、セレクトショップ、輸入ショップなどにおける現状と課題を知り、就職情報を確認する方法を知る。</p> <p>8 面接方法と質疑応答内容を知る 作成した自己紹介文を元に面接で質問されること、志望理由、職種の内容の把握など想定される面接用の質問と回答例をまとめる。</p> <p>9 面接の練習 想定される質問内容を提示し、それぞれにすぐに回答出来るように具体的な例をあげる。実際に合格した回答例をあげて、面接官に対する適切な回答例を具体的に練習する。面接の練習をすることで本番で緊張せずに、実力を発揮できるようにする。</p> <p>10 履歴書の書き方を学ぶ ライフスタイル業界に就職するための履歴書の書き方を学ぶ。参考例をともに限られたスペースにおいて短い文章で印象に残る履歴書の作成方法を知る。</p> <p>11 エントリーシートの書き方 WEBによるエントリーシートの書き方を学ぶ。さらに採用担当者宛の適切なメールの書き方などを学ぶ。</p> <p>12 就職活動の注意点 就職時期と就職活動における注意点を学ぶ。</p> <p>13 就職のためのマナー 就職活動中において、面接時の回答が良くても立ち居振る舞いが悪いと印象が悪くなる。立ち居振る舞いやビジネス用、面接スーツの着こなしや印象の良くなる事例を学ぶ。</p> <p>14 ZOOMなどでの面接のマナー ZOOMなどオンラインでの企業の説明会や面接の場合の注意点、回答例など印象を良く見せる方法を学ぶ。</p> <p>15 企業へのアピール方法 本講座の総まとめ。就職活動のまとめ。また個人経営やフリーとして活躍する場合の企業へのアピール方法などを学ぶ。</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：ライフスタイル業界の現状に対して、協調性を持って話し合いをすすめることができる。 ◎C：就職したい企業に企画、提案ができるようになる
事前・事後学習	事前学習：本学図書館などにて就職活動関連の本や雑誌、また興味のある企業のHPを検索して採用情報などを調べておくこと（20分）。

	事後学習：毎回到授業で学んだことを更に深める為、ビジネス雑誌、新聞、また関連企業の広告が出ているライフスタイル雑誌を読んでおくこと（25分）。
指導方法	映像を使用した講義とワークショップ形式で授業をすすめる。プレゼンテーションを取り入れる。様々な職種にもふれ、役割や仕事内容なども解説する。実践的に就職活動のサポートになるように指導していく。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：課題のオリジナリティを評価する。 C：プレゼンテーションを評価する。 課題60%、プレゼンテーション20%、授業への貢献度20%
テキスト	なし
参考書	PHP研究所『30分間で天職が見つかる本』 柏木理佳 ISBN978-4-569-63157-8
履修上の注意	課題、就職活動を積極的に行うこと
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーションなど
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択必修
担当教員			
安東徳子			
ナンバリング：F15B38	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	卒業後、現場スタッフとしてだけでなくマネージャーや店長など管理職に就いた際にも役立つ、ウエディングビジネスに必要な知識や考え方を学ぶ。ウエディングの現場で求められる『6つのコミュニケーション』をベースに、専門的かつ実践的なスキルを身につける事ができる。ウエディングホスピタリティの集大成として、共感力あふれるコミュニケーションを磨いていく。 (授業目標) ○C：ウエディングを経営的視点で理解し、より効果的な運営について考える事ができる ◎D：ウエディングをビジネス的視点で理解するために必要な知識を得る事ができる
授業計画	<p>1 ウエディングビジネスのキャリアプラン 結婚、出産というプライベートの人生を視野に入れながら、ウエディング業界の働き方にはどのような選択肢があるのかを探り、長期的なヴィジョンでウエディングビジネスを考える。</p> <p>2 ウエディング業界のニューノーマルビジネス 2020年のパンデミックで大きく変化したウエディングビジネスの世界とこれからの方向性を探る。フルデジタル化という視点で、カップルとの打ち合わせやオンラインウエディングについて詳しく知る。</p> <p>3 ビジネスの現場コミュニケーション B-to-All ビジネス現場のコミュニケーションを6つに分類したB-to-Allという視点で、現実の仕事の世界観を知る。またAIとの共存時代に求められる共感力とホスピタリティの視点も取り入れてビジネスコミュニケーションを理解する。</p> <p>4 B-to-Allコミュニケーション① to Boss インサイド(社内)における上司とのコミュニケーションの在り方と、具体的な話し方をスクリプトを参考にしながらケーススタディを通じて学ぶ。</p> <p>5 B-to-Allコミュニケーション② to Staff インサイド(社内)における同僚や部下とのコミュニケーションの在り方と、具体的な話し方をスクリプトを参考にしながらケーススタディを通じて学ぶ。</p> <p>6 B-to-Allコミュニケーション③ to Partner バックエンド(社外)におけるベンダーやパートナー企業とのコミュニケーションの在り方と、具体的な話し方をスクリプトを参考にしながらケーススタディを通じて学ぶ。</p> <p>7 B-to-Allコミュニケーション④ to Supporter バックエンド(社外)における、コラボレーション企業やコンサルテーション企業などのサポーターとのコミュニケーションの在り方と、具体的な話し方をスクリプトを参考にしながらケーススタディを通じて学ぶ。</p> <p>8 B-to-Allコミュニケーション⑤ to Business Client フロントエンド(顧客)における法人顧客とのコミュニケーションの在り方と、具体的な話し方をスクリプトを参考にしながらケーススタディを通じて学ぶ。</p> <p>9 B-to-Allコミュニケーション⑥ to Customer フロントエンド(顧客)におけるパーソナルユーザーとのコミュニケーションの在り方と、具体的な話し方をスクリプトを参考にしながらケーススタディを通じて学ぶ。</p> <p>10 ウエディングの集客ビジネス ウエディングビジネスで最も難しく、かつ経営に直結する集客ビジネスを特にSNSを中心に学ぶ。かつての紙面やHPの役割の変化や、新たなWEB集客の手法など、ニューノーマル時代の知識を学ぶ。</p> <p>11 ウエディングのセールスコミュニケーション ウエディングプランナーの中心的業務である『新規接客』の価値や手法を学び、プランニングが商品であることを理解する。</p> <p>12 アフター(プレ)ウエディングのコミュニケーション アニヴァーサリーをはじめとした、ウエディング以降の顧客との繋がりについて学ぶ。一方で、婚活ビジネスについても触れ、ウエディングビジネスのターゲットであるカップルを創出する考え方も理解する。</p> <p>13 ブライダルフェアと試食のプラン 会場への集客手法のひとつであるブライダルフェアの役割について学ぶ。告知から資料請求、さらに来館誘導などビジネス的視点でブライダルフェアの設計手法を知る。決定要因のひとつとされる試食会の運営事例を通じて、魅力あるブライダルフェアの作り方を理解する。</p> <p>14 ブライダルフェアと試着のプラン 料理に並ぶ決定要因のひとつとされる婚礼衣装を紹介するための試着会の運営の方法を学ぶ。ブライダルフェアならではの、衣装の選定、ヘアメイクの提供、コーディネートの事例、などの事例を通じて、魅力ある試着会の作り方を理解する。</p> <p>15 ウエディングのプロフェッショナルになるために</p>

	第一回から十四回までの総まとめ。ウエディングのプロフェッショナルとはどんな人物像なのか？就職後、さらに自己研鑽すべきことはどんな事なのか？ウエディングを主軸にしたキャリアデザインを描きながら、長期的に働く自分像を明確にする。
学習成果・到達目標・基準	○C：ウエディングの広告の特徴や役割、またその種類についての知識がある ◎D：ウエディングの1年間のビジネスの特徴についての知識がある
事前・事後学習	事前学習：受講した授業の最後に示される次回の授業で使う専門用語の意味を調べておく（30分） 事後学習：授業の最後に出る課題(秋のブライダルフェアのタイトルを考える、など)をまとめる（150分）
指導方法	毎回、ウエディングの現場から収集した具体的な事例から、その回のテーマにつなげる。学生は、ウエディング企業の社員の視点で授業に参加するように構成しているため、未体験の現場について身近な感覚で触れる事ができる。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：課題や発言が『社会人』の視点にたっているか？ D：課題や発言の中に授業で学んだウエディングの専門用語が正しく使われているか？ 定期試験50%、授業内のワークで作成した制作物30%、授業への貢献度20%
テキスト	テキスト：共感力の鍛え方
参考書	
履修上の注意	特になし
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ICT・オープンエデュケーションの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
安東徳子			
ナンバリング：F15C33	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>漠然としたウエディング業界について、深く理解することができるようになる、ウエディング業界のナビゲーター、案内役としての位置づけの授業。ウエディングの仕事に携わるために必要な仕事の哲学や、ウエディング独特のホスピタリティなどの基本的姿勢、仕事に欠かせない共感力コミュニケーション、および業界のしくみ、業種や職種など、最新の情報を学ぶことができる。リアルな現場で働くプロフェッショナルも講師として迎え、ウエディング業界を将来の就職の選択肢の一つとして捉えるための、客観的な判断ができるようになる。</p> <p>(授業目標) ○C：ウエディングの仕事と役割から適性を判断し、自己のキャリアデザインに結びつけられる。 ◎D：ウエディングビジネス業界についての幅広い知識を身に付け、共感力コミュニケーション、ウエディングホスピタリティの考え方を理解する。</p>
授業計画	<p>1 ウエディング業界に求められるホスピタリティ ウエディングビジネスに必要なホスピタリティの理論と姿勢をウエディングの視点から学ぶ</p> <p>2 ウエディングビジネスに必要な共感力コミュニケーション 人にしかできない仕事であるウエディングの仕事に欠かせない共感力コミュニケーションについて学ぶ</p> <p>3 ウエディング・マーケットの現状と未来 ウエディングビジネスが対象とする『結婚適齢層』について学ぶ また、今後のウエディングビジネスについてデータを元に予測する</p> <p>4 ウエディングビジネスの歴史 第二次世界大戦後からを中心にその歴史を学ぶ</p> <p>5 ウエディングビジネスの種別 会場編 ハードを中心とした会場ビジネスについて深く知る</p> <p>6 現場から見るウエディング会場の現状(ゲスト講師・衣川雅代氏) ゲストハウスを事例にした、会場ビジネスの現状を学ぶ 同時にウエディングビジネスの中心的な職業であるウエディングプランナーという仕事についてリアルな現状を知る</p> <p>7 ウエディングビジネスの種別 衣裳編 ウエディング業界で大きな役割を担う婚礼衣装業について詳しい知識を得る 同時にドレススタイリストという職業の魅力や特徴を知る</p> <p>8 現場から見る婚礼衣装業(ゲスト講師・榎丸三屋 頼金氏) 前回の講義で勉強した衣裳会社のビジネスを現場の視点でさらに深く理解する</p> <p>9 花嫁のためのホスピタリティを学ぶ(ゲスト講師・宝田ひろみ氏) 花嫁の美しさに責任を持って仕事をするとはどのような事かを、ドレスのアンダーウェアのコーディネーターの視点から学ぶ</p> <p>10 ウエディングビジネスの種別 集客業 ウエディングビジネスの要ともいえる集客ビジネスについて深く知る</p> <p>11 ウエディングビジネスの種類 宴会サービス編 ウエディングの現場オペレーションの花形職業であるの中心である宴会キャプテンの仕事について学ぶ</p> <p>12 ウエディングビジネスの種類 写真、映像編 女性に人気のフォトグラファー、ビデオグラファーについて仕事について深く知る</p> <p>13 ウエディングビジネスの種類 ヘアメイク編 花嫁ビューティの要、ヘアメイクやサロンワークについて深く知る</p> <p>14 ウエディングビジネスの種別 その他の業種 ジュエリー、フロリスト、S&Lプランナー、司会者など、周辺業務について深い知識を得る</p> <p>15 ウエディングビジネスのキャリアデザイン 自分がウエディング業界に進む場合のキャリアデザインを行う</p>
学習成果・到達目標・基準	○C：ウエディングの仕事と役割を理解し、自己のキャリアデザインの参考にすることができる ◎D：ウエディングビジネスの種別を説明することができる
事前・事後学習	事前学習：授業内で興味を持ったビジネス種別や企業についてWEBなどで調べてみること。(90分) 事後学習：授業内での未知のワードやウエディングビジネスの種別について、まとめのノートを作成する。(90分)
指導方法	基本は座学形式。最新の正しい情報を提供しつつ、可能な限り具体的な企業名、商品名、企画名などを紹介し正確な業界の姿を伝える。なお、ゲスト講師の授業回では、ゲスト講師の所属する企業を事前調査させ、授業内質問コーナーを設け、エキサイティングな時間とする予定である。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C:レポートや発言が授業で知り得た知見に基づいたものであるか評価する。 D:授業内の質問シート、お礼状、テキストのリーディングシート、3種別の提出物等の出来映えで評価する。 定期試験50%、授業への貢献度20%、質問シート10%、お礼状10%、リーディングシート10%
テキスト	究極のホスピタリティを実現する「共感力」の鍛え方 安東徳子著 コスモ21 プリント配布：テキスト『共感力の鍛え方』を精読するためのリーディングワークシート ウエディング業界基本用語クエスチョンシート 業種特性比較一覧表 3名のゲスト講師へのお礼状
参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、1年次の「ウエディングセレモニー」、「ウエディングビューティデザイン」の履修が望ましい。 単位確定の学生は、(一般社団法人)日本ホスピタリエ協会のホスピタリエ認定の受験資格が得られる。
アクティブ・ラー ニング	特になし
I C T・オープン エデュケーション の活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
河田淳鼓			
ナンバリング：F25C34	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	我が国における結婚式という儀式の意味を正しく理解し、それを通じて広く人生儀礼の重要性について気づきを得る。模擬結婚式の企画と実施を学生チームで行うことから、チーム内のコミュニケーション能力を磨き、結婚式に携わる仕事の楽しさと責任を経験し、ウエディングに求められる実践的な能力を修得する。 (授業目標) ◎A：模擬結婚式を主体性と協調性と責任感を持って最後までチームでやり遂げることができる。 ○E：自由な発想に富んだウエディングセレモニーをプランニングすることができる。
授業計画	<p>1 ウエディングセレモニーに求められるホスピタリティ ウエディングセレモニーに関わる上で必要とされるホスピタリティの理論と姿勢</p> <p>2 結婚式の意味と意義 何故結婚式が必要なのか？その大切さを人生儀礼の視点から学ぶ</p> <p>3 結婚式の歴史とハード 結婚式のスタイルの変遷と結婚式が行われる舞台の種類と特徴を学ぶ</p> <p>4 キリスト教式の結婚式 ウエディングビジネスに必要なキリスト教の知識とセレモニーの進行を学ぶ</p> <p>5 神前式の結婚式 ウエディングビジネスに必要な神道の知識とセレモニーの進行を学ぶ</p> <p>6 人前式の結婚式 ウエディングビジネスに必要な人前式の知識とセレモニーの進行を学ぶ</p> <p>7 人前式の企画手法 人前式を企画する企画理論を学び、事例を通じてより理解を深める 学んだ企画理論をもとにケーススタディとして人前式の進行を考える</p> <p>8 コンセプト立案 グループワーク 1 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：HPよりアイデア拾い出し) 具体的なカップル像をケーススタディとし、コンセプトを創る</p> <p>9 進行の決定 グループワーク 2 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：HPより拾い出し) コンセプトに基づいた進行を創る (音楽演出手法を学ぶ)</p> <p>10 進行の決定 グループワーク 3 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：HPよりアイデア拾い出し) コンセプトに基づいた進行を創る</p> <p>11 進行の決定/ドレスとその他ウエディングビューティ グループワーク 4 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン、HPよりアイデア拾い出し) コンセプトに基づいた進行を作る コンセプトに基づいた花嫁、花婿、その他全員のビューティを企画する</p> <p>12 進行の確認とリハーサル グループワーク 5 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証) 進行を再確認し、『場当たり』をする</p> <p>13 進行の確認とリハーサル グループワーク 6 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証) 最終進行表に基づいてリハーサルをする</p> <p>14 進行の確認とリハーサル グループワーク 7 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証) 最終進行表に基づいてリハーサルをする</p> <p>15 模擬結婚式 (夏期休暇中) ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習、プレゼンテーション) (スマートフォン：リハーサル・本番撮影、チーム内検証) 会場入り→準備→リハーサル→本番→引き上げまでを実施</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：模擬結婚式を責任感を持って実施することができる。 ○E：ウエディングセレモニーの進行に人前式の3つの柱を正しく組み込むことができる。
事前・事後学習	事前学習：授業毎にアイディアが必要になるため、メモを書き留めておくなどの準備をする。(30分) 事後学習：模擬結婚式の実施に必要な知識を正しく理解し、ノートに図示する。(60分)
指導方法	第1回目から第7回目までは知識の修得が中心で、パワーポイントを使った講義形式。

	<p>また、毎回穴埋め式のオリジナルプリントを用い、ノートがもう一つの教材になるような仕組みとする。画像、映像などビジュアルツールを豊富に使用し、また具体的な事例も挙げ、興味を持って授業に臨める環境をつくる。</p> <p>第8回目から第12回目までは、グループワークとなるため、毎回の授業のテーマや着地点などが明確になるように、オリジナルワークシートを活用する。</p> <p>フィードバックの方法：ワークシートにより担当教員と双方向コミュニケーションをとることが可能となり、実習に対する不安や悩みの解消につなげる。なお、これにより、授業の最後に目標とした作業が完了しているかどうかを確認可能となり、次回授業までの課題が明確になる。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>◎A：模擬結婚式を主体性と協調性と責任感を持って実施しているかの観点 ○E：自由な発想に富んだウエディングセレモニーをプランニングできているかの観点 A：第2回から第7回までの授業内で行う前回授業についてのミニテスト 模擬結婚式準備貢献度</p> <p>模擬結婚式の完成度20% 模擬結婚式準備貢献度20% 模擬結婚式実施貢献度20% 振り返りシート20% ミニテスト20%</p>
テキスト	<p>究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21 ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会</p>
参考書	
履修上の注意	<p>夏のオープンキャンパスにて模擬結婚式の実施を予定 ウエディングの知識をさらに高めるため、「ウエディング ナビゲーション」、「ウエディングビューティデザイン」の履修が望ましい。 ブライダルコーディネーター技能検定要件科目</p>
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習、プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
河田淳鼓			
ナンバリング：F35C38	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	これまで修得したウエディングの知識と技術を駆使し、模擬挙式、模擬披露宴を計画し、実施する。チームで行うことを通じて授業目標を達成する。 (授業目標) ◎A：ウエディングプランナー、ドレススタイリストなどのプロフェッショナルの視点で主体性をもって模擬披露宴を企画し実施することができる。 ◎E：プランニングの23-stepに基づき、コンセプトに沿ったウエディングアイテムの制作、台本の執筆ができる。
授業計画	<p>1 セレモニーとレセプション ウエディングの全体像を理解し、レセプションの役割を明確にする。</p> <p>2 パーティのスタイル 時間帯およびフォーマリティの違いによるパーティスタイルについて学ぶ。</p> <p>3 ウエディングメニュー ウエディングメニューの概念、条件、および種類について学ぶ。</p> <p>4 ウエディングビバレッジ ウエディングビバレッジの概念、条件、および種類について学ぶ。</p> <p>5 レセプションの進行 レセプションの進行とスクリプト作成の復習</p> <p>6 サービスコンセプトとオペレーション サービスコンセプトの考え方とオペレーションの種類について学ぶ。</p> <p>7 ヒアリングの手法 4つのヒアリングの手法を理解し、ロールプレイングを通じて体得する。</p> <p>8 23段階の理論（23-Step）に基づく、コンセプトメイク ウエディングプランニングで学んだ23段階の理論（23-Step）に基づきコンセプトメイクの実習をする。</p> <p>9 レセプション実習①（グループワーク、実習）（スマートフォン） カップルデータに基づき、コンセプトメイク</p> <p>10 レセプション実習②（グループワーク、実習）（スマートフォン） テーマカラー、テーマアイテムなどのコンセプトのアイテムへの落とし込み</p> <p>11 レセプション実習③（グループワーク、実習）（スマートフォン） ウエディングビューティプラン</p> <p>12 レセプション実習④（グループワーク、実習）（スマートフォン） 会場レイアウトとテーブルコーディネート、ウエディングメニューの確定</p> <p>13 レセプション実習⑤（グループワーク、実習）（スマートフォン） 進行表とスクリプトの作成およびオペレーションプラン</p> <p>14 レセプション実習⑥（グループワーク、実習）（スマートフォン） オペレーションプランに基づいたシュミレーション</p> <p>15 模擬披露宴（グループワーク、プレゼンテーション）（スマートフォン） 模擬披露宴の準備、本番、片付け</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：模擬披露宴における自分の役割を責任をもってやり遂げることができる。 ◎E：施行準備を通じて、プランニングの23-stepの必要性が理解できる。
事前・事後学習	事前学習：B I A検定のテキストを読んでおくこと。（30分） 事後学習：講義ごとにワークシートを完成させる。（60分）
指導方法	これまでに修得した知識に加え、この授業における第1回～第8回の座学で得た知識を総動員し、チーム内で模擬挙式にむけた計画を立案する。また、第9回～第14回までの講義にて、レセプションの準備をしつつ模擬披露宴を実際に運営することを通じて目標達成まで主体的に学ぶ力を身につける現場力を育成する なお、模擬披露宴は学内で行う計画である。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：主体性をもって参加できているか、また、グループメンバーとチームワークをとりながら自分の業務を責任をもって行うことができたかの観点 E：コンセプトに基づいた表現や行動になっているかの観点 模擬披露宴の完成度30%、模擬披露宴実施準備の貢献度30%、模擬披露宴の実施日の貢献度20%、実習ノートの提出20%

テキスト	①ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会（1年次に購入した方は不要） ②究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21（1年次に購入した方は不要） ③ウエディング演出の23段階（23-Step） ④セレモニー実習ノート ⑤世界ブライダルの基本 出版社 日本ホテル教育センター
参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、2年次の「ウエディングプランニング」、「ウエディングビジュアルプレゼンテーション」、「ウエディングナビゲーション」を履修することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習、プレゼンテーション
I C T・オープンエデュケーションの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
本田真理			
ナンバリング：F16C40	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>スキンケア、メイクアップ、顔分析、色彩、皮膚、化粧品の知識を修得し、日常に取り入れるようにする。メイクアップの各工程についての理解を深め、最終的にはメイクアップを総合的に捉えてメイクアップをデザインできるようにする。</p> <p>また、「日本メイクアップ知識検定試験ベーシック」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設ける。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎D：それぞれの人に合ったメイクアップの必要性を理解し、提案できる。</p>
授業計画	<p>1 スキンケア理論 授業内容ガイダンス スキンケアの目的とスキンケア化粧品の種類と特徴</p> <p>2 皮膚の基礎知識 顔の成り立ち スキントイプチェック方法</p> <p>3 ベースメイク理論 ベースメイクの目的とベースメイク化粧品の種類と特徴 肌色分析</p> <p>4 皮膚の専門知識 皮膚の構造と生理作用、紫外線の影響 肌トラブルのメイクアップ対応法</p> <p>5 チーク・ハイライト・ローライト理論 顔型分析とチーク・ハイライト・ローライト化粧品の種類と特徴</p> <p>6 メイクアップの効果 心理効果、視覚効果、錯覚効果</p> <p>7 アイブロウ・リップ理論 眉のバランス分析とアイブロウ化粧品の種類と特徴 唇のバランス分析と口紅の種類と特徴</p> <p>8 色彩とメイクアップ 色彩の基礎知識とカラーバランス・カラーデザイン</p> <p>9 アイメイク（アイシャドウ・アイライン・マスカラ）理論 目のバランス分析とアイメイク化粧品の種類と特徴</p> <p>10 顔分析と修整理論 顔型・顔バランスの修整 眉・目元・口元の修整</p> <p>11 オフィスメイク 好感が持たれるゴールデンバランスメイク</p> <p>12 イメージメイク 4つのイメージ分類とイメージポイント</p> <p>13 メイクアップの歴史とトレンド トレンドの作られ方と取り入れ方</p> <p>14 パーソナルカラーメイク パーソナルカラーの基礎知識とメイクアップへの応用方法</p> <p>15 メイクアップ分類 メイクアップデザイン分類と化粧品会社分類</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：メイクアップのそれぞれの工程を理解し、人に伝えることができる。
事前・事後学習	事前学習：メイク情報誌や化粧品売場でメイクアップに関する知識を深めておく。（90分） 事後学習：授業内で学んだことを自分の顔で実践しておく。（90分）
指導方法	テキストやパワーポイントを使用して、講義形式で行う。 定期的に小テストを実施する。 メイクアップ理論の課題を提出する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、課題を評価する。 定期試験 50%、課題 30%、授業への貢献度 20%

テキスト	日本メイクアップ技術検定試験 3級2級 公式テキスト (一般社団法人JMA)
参考書	
履修上の注意	メイクアップの理論を実践的に習得するために、自主的に自分の顔で実習する。 検定試験に合格するためには、授業外での自宅での復習が重要となる。 「メイクアップ演習B」は本講義の履修者に限り受講できる。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
本田真理			
ナンバリング：F26C52	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>メイクアップの必要性を理解し、人にメイクアップをする技術を身につける。相モデルの実習を繰り返し行うことで、モデルの特徴を捉えたメイクアップをできるようにする。前半は基本テクニックをマスターすることを重点的に行う。後半は接客を意識したタッチアップをするためのテクニックを行う。</p> <p>また、「日本メイクアップ技術検定試験2級」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎E：顔分析を行ったうえで、人にバランスメイクアップを施術できる。</p>
授業計画	<p>1 メイクアップの事前準備（実習：2～15回） 授業ガイダンス 技術者の身だしなみと心構え</p> <p>2 スキンケアテクニック 対面：セッティング、相手の肌を分析し修整理論に基づいた接客テクニック Classroom：セッティング、自分の肌を分析し修整理論に基づいた接客テクニック</p> <p>3 スキンケアテクニック 対面：セッティング、相手の肌を分析し修整理論に基づいた接客テクニック Classroom：セッティング、自分の肌を分析し修整理論に基づいた接客テクニック</p> <p>4 ベースメイクテクニック ブラシワーク 対面：相手の肌を分析し修整理論に基づいた接客テクニック Classroom：自分の肌を分析し修整理論に基づいた接客テクニック</p> <p>5 ベースメイクテクニック ブラシワーク 対面：相手の肌を分析し修整理論に基づいた接客テクニック Classroom：自分の肌を分析し修整理論に基づいた接客テクニック</p> <p>6 アイブロウテクニック・リップテクニック 対面：相手のパーツを分析し修整理論に基づいた接客テクニック Classroom：自分のパーツを分析し修整理論に基づいた接客テクニック</p> <p>7 アイブロウテクニック・リップテクニック 対面：相手のパーツを分析し修整理論に基づいた接客テクニック Classroom：自分のパーツを分析し修整理論に基づいた接客テクニック</p> <p>8 アイメイクテクニック 対面：相手のパーツを分析し修整理論に基づいた接客テクニック Classroom：自分のパーツを分析し修整理論に基づいた接客テクニック</p> <p>9 アイメイクテクニック 対面：相手のパーツを分析し修整理論に基づいた接客テクニック Classroom：自分のパーツを分析し修整理論に基づいた接客テクニック</p> <p>10 ポイントメイクタッチアップ 対面：相手のパーツを分析し修整理論に基づいた接客テクニック Classroom：自分のパーツを分析し修整理論に基づいた接客テクニック</p> <p>11 ポイントメイクタッチアップ 対面：相手のパーツを分析し修整理論に基づいた接客テクニック Classroom：自分のパーツを分析し修整理論に基づいた接客テクニック</p> <p>12 トータルメイクアップ（1） 対面：25分で相手の顔にスキンケア・ベース・チーク・ハイライト・ローライトテクニック チェック Classroom：自分の顔とレッスンシートでテクニックチェック</p> <p>13 トータルメイクアップ（1） 対面：25分で相手の顔にスキンケア・ベース・チーク・ハイライト・ローライトテクニック チェック Classroom：自分の顔とレッスンシートでテクニックチェック</p> <p>14 トータルメイクアップ（2） 対面：25分で相手の顔にアイブロウ・アイメイク・リップテクニックチェック Classroom：自分の顔とレッスンシートでテクニックチェック</p> <p>15 トータルメイクアップ（2） 対面：25分で相手の顔にアイブロウ・アイメイク・リップテクニックチェック Classroom：自分の顔とレッスンシートでテクニックチェック</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：顔分析を行ったうえで、人にバランスメイクアップを提案できる。
事前・事後学習	事前学習：技術を自己研鑽する。（30分）

	事後学習：授業内で実習したことを次の授業までに最低3人に実践することで、確実に技術が身につけられるようにする。(60分)
指導方法	技術解説とデモンストレーションを行い、実際に相モデルでメイクアップ実習を行う。 定期的に技術小テストを実施する。 メイクアップ技術理論の課題を提出する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E:トータルメイクの実技試験を評価する。 実技試験 50%、課題 30%、授業への貢献度 20%
テキスト	日本メイクアップ技術検定試験 3級2級 公式テキスト (一般社団法人JMA)
参考書	
履修上の注意	「メイクアップ演習1」「メイクアップ論」を履修済であることが必須となる。 実習は相モデルで行うので、ノーメイクになることが前提となる。 相モデルで行うので、肌状態を万全にし、授業に臨むこと。 メイクアップ実習に必要な道具類を必ず各自で用意すること。 検定試験に合格するためには、授業外での自宅での復習が重要となる。
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
関根教史			
ナンバリング：F16C46	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	美容に関する基礎知識、マナー、基礎動作、道具・器具の使い方、ヘアアレンジの基礎、応用、流行、モード、ブライダル、イメージヘア、カジュアルアレンジヘアを取り入れた実習を行い、メイク、衣服との関連性や調和を解説しながらバランス感覚を養う。 (授業目標) 相モデル(ペア)演習、グループ演習を通し、コミュニケーション能力、協調性を高めながら、自身をキレイにし相手もキレイにすることを身に付ける。 ○B：ペアワーク、グループワークを通し、コミュニケーション能力を高めることができる。 ◎E：ヘアメイク演習を通し、トータル(ヘア、メイク、洋服)バランス能力を高めることができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス、道具の使い方(実習：1～5.7.9.11.15回) ブラシ・コム・ピン類・ウィッグ・キーパー ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>2 ヘアアレンジ基礎 一束・お団子シニヨン・三つ編みシニヨン、ピニング ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>3 ヘアアレンジ基礎 シニヨン・すき毛の使い方 ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>4 ヘアアレンジ基礎 逆毛 ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>5 ヘアアレンジ基礎 三つ編み・編み込み ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>6 ヘアアレンジ基礎(ペアワーク、グループワーク) アイロン ・ヘアデモンストレーション</p> <p>7 流行ヘアアレンジ・メイク(1) ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>8 流行ヘアアレンジ・メイク(2)(ペアワーク) ・ヘアデモンストレーション</p> <p>9 カジュアルヘアとモードヘアの違い(1) ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>10 カジュアルヘアとモードヘアの違い(2)(ペアワーク) ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>11 ブライダルヘア(1) ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>12 ブライダルヘア(2)(ペアワーク) ・ヘアデモンストレーション</p> <p>13 トータルで考えるイメージヘア(1)(ペアワーク) ・ヘアデモンストレーション ※スマートフォン</p> <p>14 トータルで考えるイメージヘア(2)(ペアワーク) ・ヘアデモンストレーション ※スマートフォン</p> <p>15 スタイル作成 ・技術確認</p>
学習成果・到達目標・基準	○B：ペアワーク、グループワークを通し相手に提案することができる。 ◎E：ヘアアレンジの基礎(編み込み、カジュアルアレンジスタイル)ができる。

事前・事後学習	事前学習として、ファッション誌、ビューティ情報誌、ヘアカタログを読んで流行を捉えておくこと。(45分) 事後学習として、授業で学んだ技術を復習しておくこと。(45分)
指導方法	技術デモンストレーションを行い、実際に髪の毛に触れながら、イメージを形にして行く作業をすることでバランス感覚を養いながらヘアアレンジの楽しさを伝える。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：ペアワークにおいて積極的な姿勢（話しかけ）を評価する。 E：イメージを形にすることができる。 課題40%、レポート課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	相モデル（ペア）、グループ実習有り
アクティブ・ラーニング	実習、ペアワーク、グループワーク
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
関根教史			
ナンバリング：F26C47	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	美容に関するマナー、動作、道具の種類等の基礎技術の確認を行う。ヘアアレンジ応用、道具の応用、美容器具の扱い方、流行アレンジヘア、ブライダルヘア、和装・洋装ヘア、創作ヘア、アレンジポイントテクニック、アレンジイメージ力を取り入れ、ヘアカウンセリングを通しトータルバランスを解説しながら創造力を養う。 (授業目標) 相モデル(ペア)演習、グループ演習、ヘアカウンセリングディスカッション能力、ヘアメイクを通し、トータルバランスを考えながらイメージをしたことを形にする力を身につける。 ○B：ペアワーク、グループワークを通し、ヘアカウンセリングのコミュニケーション能力を身につける。 ◎E：ヘアメイク実習を通し、イメージしたことをバランスを考慮し解説しながら形にする技能を高める。
授業計画	1 ガイダンス、道具の使い方、基礎技術確認(実習：1～6.8.9.11.15回) ブラシ・コム・ピン類・ウィッグ・キーパー ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 2 ヘアアレンジ確認と応用(1) ポイントスタイルアレンジ ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 3 ヘアアレンジ確認と応用(2) すき毛を使った応用テクニック ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 4 ヘアアレンジ応用(1) ボリュームスタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 5 ヘアアレンジ応用(2) ルーズスタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 6 ヘアアレンジ応用(3) 飾りの付け方バランス ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 7 ヘアアレンジ応用(4)(ペアワーク、グループワーク) 浴衣スタイル ・ヘアデモンストレーション 8 ヘアアレンジ応用(5) パーティースタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 9 カジュアルヘアとショーヘアの違い(1) ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 10 カジュアルヘアとショーヘアの違い(2)(ペアワーク) ・ヘアデモンストレーション 11 ブライダルヘア ・ヘアデモンストレーション 実習 ※ウィッグ、キーパー使用 12 トータルで提案するヘアメイク(1)(ペアワーク) ・トータルプランニング説明 ※スマートフォン 13 トータルで提案するヘアメイク(2)(ペアワーク) ※スマートフォン 14 トータルで提案するヘアメイク(3)(ペアワーク) ※スマートフォン 15 スタイル作成 ・技術確認

学習成果・到達目標・基準	○B：ペアワーク、グループワークを通し、キレイさと身だしなみを意識したヘアアレンジを身につける。 ◎E：ヘアアレンジの応用（美容器具の扱い方、TPOアレンジスタイル）ができる。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌、ビューティー情報誌、ヘアカタログを読んで流行を捉えておくこと。（45分） 事後学習：授業で学んだ技術を復習しておくこと。（45分）
指導方法	技術デモンストレーションを行い、実際に髪の毛に触れながら、イメージを形にして行く作業をすることでバランス感覚を養いながらヘアアレンジの楽しさを伝える。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：ペアワークにおいて積極的な姿勢（話しかけ）を評価する。 E：イメージを形にすることができる。 課題40%、レポート課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	相モデル（ペア）、グループ実習有り
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
ニールマーツ			
ナンバリング：F37C53	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>概論として演劇・映画のメーキャップや衣裳デザインの歴史や理論としての色彩を学ぶ。その後、実際にプロフェッショナルが使用する材料、ツールを用いて特殊メイクに必要なとされるデザイン、彫塑、型どり等のベーシックな手法での実技を行う。後半部では、特殊メイクの実演を通して技術の修得を図る。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○D：色彩理論を学ぶことで得た知識を、日々の生活に応用できる</p> <p>◎E：特殊メイクの基礎知識を学修することで、多様な表現力を身に付ける</p>
授業計画	<p>1 特殊メイクアップ概論 1 服飾デザインの歴史</p> <p>2 特殊メイクアップ概論 2 (対面)、特殊メイクアップ概論 3 (Classroom) 対面：色彩について (1) Classroom：演劇映画等の特殊メイクについて</p> <p>3 特殊メイクアップ概論 2 (対面)、特殊メイクアップ概論 3 (Classroom) 対面：色彩について (1) Classroom：演劇映画等の特殊メイクについて</p> <p>4 ライフキャスト (実習) (対面)、特殊メイクアップ概論 4 (Classroom) 対面：人体の型どり 自身の顔型取りを行う Classroom：色彩について (2)</p> <p>5 ライフキャスト (実習) (対面)、特殊メイクアップ概論 4 (Classroom) 対面：人体の型どり 自身の顔型取りを行う Classroom：色彩について (2)</p> <p>6 SCULPTURE 塑造 1 (実習) (対面)、特殊メイク基礎スキル 1 (実習) (Classroom) 対面：粘土で自身の制作したい鼻のデザイン、造作を行う Classroom：肌の色について</p> <p>7 SCULPTURE 塑造 1 (実習) (対面)、特殊メイク基礎スキル 1 (実習) (Classroom) 対面：粘土で自身の制作したい鼻のデザイン、造作を行う Classroom：肌の色について</p> <p>8 SCULPTURE 塑造 2 (実習) (対面)、特殊メイク基礎スキル 2 (実習) (Classroom) 対面：鼻の造形物を原型とし石膏で型をおこす Classroom：PAX PAINT作成 (タトゥー カバー)</p> <p>9 SCULPTURE 塑造 2 (実習) (対面)、特殊メイク基礎スキル 2 (実習) (Classroom) 対面：鼻の造形物を原型とし石膏で型をおこす Classroom：PAX PAINT作成 (タトゥー カバー)</p> <p>10 型と形 (実習) (対面)、特殊メイク基礎スキル 3 (実習) (Classroom) 対面：型どりの手法を理解し作成する Classroom：特殊メイクデモンストレーション及び実習 (1)</p> <p>11 型と形 (実習) (対面)、特殊メイク基礎スキル 3 (実習) (Classroom) 対面：型どりの手法を理解し作成する Classroom：特殊メイクデモンストレーション及び実習 (1)</p> <p>12 ラテックスの取扱使用方法 (実習) (対面)、特殊メイク基礎スキル 4 (実習) (Classroom) 対面：液体ラテックスを型にコーティングする Classroom：特殊メイクデモンストレーション及び実習 (2)</p> <p>13 ラテックスの取扱使用方法 (実習) (対面)、特殊メイク基礎スキル 4 (実習) (Classroom) 対面：液体ラテックスを型にコーティングする Classroom：特殊メイクデモンストレーション及び実習 (2)</p> <p>14 実演 (実習) (対面)、特殊メイク基礎スキル 5 (Classroom) 対面：これまでに学んだ技術を基にペアにて特殊メイクを行う Classroom：ウィッグについて</p> <p>15 実演 (実習) (対面)、特殊メイク基礎スキル 5 (Classroom) 対面：これまでに学んだ技術を基にペアにて特殊メイクを行う Classroom：ウィッグについて</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>○D：色彩理論を学ぶことで、自身が思い描く色に関してを説明できる</p> <p>◎E：特殊メイクの基本実技を説明できる</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：映画や映像等、常に特殊メイクを意識することで、記憶し表現の引き出しを作っておくこと (90分)。</p> <p>事後学習：色彩理論に関しては、その種の参考文献をよみ理解を深めること (90分)。</p>

指導方法	メイクアップ概論については、講義を中心に理論を学び、特殊メイク基礎スキルについては、実習が中心となる。本科目は、90分授業を2コマ連続で行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：色彩環の完成度を評価する D：ペアで行う特殊メイクの実技のデザインを評価する E：ペアで行う特殊メイクの実技の完成度を評価する 授業時の態度・実技評価50%、技術査定50%
テキスト	なし
参考書	なし
履修上の注意	作業工程に遅れないよう、積極性を持って課題に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	実習
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	2	2	食専：栄必修
担当教員			
谷口裕信			
ナンバリング：N24C13	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>食品加工学は、食品の加工・製造の面および関連事項を通じて食品に付随する事実や特性を幅広く理解する。担当者の食品会社の実務経験より、現場での実例を紹介し多角的に食品を解説する。</p> <p>授業内容は2部構成とする。まず総論として食品全体について加工方法、劣化現象、保存方法、包装、食品の表示について解説する。次に、各食品について代表的な加工食品の原料及び製造原理、流通商品の製造ノウハウ、メーカー事情、その他関連事項について解説する。各食品については、食品学各論に該当する内容もフォローする。</p> <p>授業は、対面とオンラインを交互に行う。対面授業は、各回のテーマに基づき解説・説明を行い、さらに対面を利用し毎回テーマを選出して討議及び協議する。オンライン授業は、Classroomに掲載している資料に基づき解説し、さらに関連事項や関連メーカーについて各自がインターネット等を利用して調べる。</p> <p>(授業目標)</p> <p>食品加工学は、食品を加工する意義から安心・安全な食品について理解する。基本的な食品加工理論を修得しながら社会情勢の変化を理解し、衛生的で経済的かつ安心・安全な加工食品を選択及び利用する力を身に付ける。</p> <p>◎C:食品を多角的に理解することができる。市販品よりその食品の情報を収集できる。同系食品でもその違いや本質が理解できる。</p> <p>○D:代表的な加工食品の製造方法・製造原理が理解できる。また社会的な影響を理解できる。</p>
授業計画	<p>1 (1～5) クラス (0～6) クラス共にオンライン：食品について オンライン 食品について 食品についての概要を学ぶ 授業内容・授業の進め方 食品を加工する意義・必要性 食品について(時代背景、現状の問題、加工技術等)の解説を聞き、食品について関連事項を含めて学ぶ。 時代背景と現場の実例についても随時解説する。</p> <p>2 対面 (1～5) クラス：食品の加工方法 オンライン (0～6) クラス：食品の加工方法・穀類② 対面 食品の加工方法 食品の各種加工方法について学び最新技術についても解説する。 物理的方法(物理現象の利用) 化学的方法(化学反応の利用) 生物的方法(微生物の利用) 最新技術(逆浸透法・高圧処理・ゲル化他) 対面を利用して興味ある加工食品について討議する。</p> <p>オンライン 食品の加工方法 食品の各種加工方法について学び最新技術についても解説する。 物理的方法(物理現象の利用) 化学的方法(化学反応の利用) 生物的方法(微生物の利用) 最新技術(逆浸透法・高圧処理・ゲル化他) 興味ある加工方法についてインターネット等を利用して調べる。</p> <p>穀類② 小麦及び小麦粉の加工品について学ぶ。 小麦の特長 パンの製法(製パンの原理・各種製パン法) メーカーの技術紹介。インターネット等を利用してパンメーカーの技術を調べる。</p> <p>3 対面 (0～6) クラス：食品の加工方法 オンライン (1～5) クラス：食品の加工方法・穀類② 対面 食品の加工方法 食品の各種加工方法について学び最新技術についても解説する。 物理的方法(物理現象の利用) 化学的方法(化学反応の利用) 生物的方法(微生物の利用) 最新技術(逆浸透法・高圧処理・ゲル化他) 対面を利用して興味ある加工食品について討議する。</p> <p>オンライン 食品の加工方法 食品の各種加工方法について学び最新技術についても解説する。 物理的方法(物理現象の利用) 化学的方法(化学反応の利用)</p>

	<p>生物的方法（微生物の利用） 最新技術（逆浸透法・高圧処理・ゲル化他） 興味ある加工方法についてインターネット等を利用して調べる。</p> <p>穀類② 小麦及び小麦粉の加工品について学ぶ。 小麦の特長 パンの製法（製パンの原理・各種製パン法） メーカーの技術紹介。インターネット等を利用してパンメーカーの技術を調べる。</p> <p>4 対面（1～5）クラス：食品の劣化 オンライン（0～6）クラス：食品の劣化・魚介類 対面 食品の劣化 食品の劣化現象について学ぶ。食品を劣化させる犯人を特定する。 劣化の原因（微生物・食害・酸素・酵素・光） 劣化現象（腐敗・酸化・褐変） 対面を利用して、食品の腐敗の経験など討議する。</p> <p>オンライン 食品の劣化 食品の劣化現象について学ぶ。食品を劣化させる犯人を特定する。 劣化の原因（微生物・食害・酸素・酵素・光） 劣化現象（腐敗・酸化・褐変） 食品の劣化現象の事例をインターネット等を利用して調べる。</p> <p>魚介類 魚介類及び魚介類の加工品について学ぶ。 魚介類の種類（魚類・甲殻類・軟体類他） 魚介類加工品（カツオ節・すし・塩辛他） 関連諸問題 魚介類加工メーカー（水産会社含む）をインターネット等を利用して調べる。</p>
	<p>5 対面（0～6）クラス：食品の劣化 オンライン（1～5）クラス：食品の劣化・魚介類 対面 食品の劣化 食品の劣化現象について学ぶ。食品を劣化させる犯人を特定する。 劣化の原因（微生物・食害・酸素・酵素・光） 劣化現象（腐敗・酸化・褐変） 対面を利用して、食品の腐敗の経験など討議する。</p> <p>オンライン 食品の劣化 食品の劣化現象について学ぶ。食品を劣化させる犯人を特定する。 劣化の原因（微生物・食害・酸素・酵素・光） 劣化現象（腐敗・酸化・褐変） 食品の劣化現象の事例をインターネット等を利用して調べる。</p> <p>魚介類 魚介類及び魚介類の加工品について学ぶ。 魚介類の種類（魚類・甲殻類・軟体類他） 魚介類加工品（カツオ節・すし・塩辛他） 関連諸問題 魚介類加工メーカー（水産会社含む）をインターネット等を利用して調べる。</p>
	<p>6 対面（1～5）クラス：食品の保存 オンライン（0～6）クラス：食品の保存 対面 食品の保存 食品の保存方法について学ぶ。 低温貯蔵（温度帯の違い・氷温貯蔵他） 乾燥法（FD・SD・薬剤他） 燻煙法（塩蔵・煙の成分・燻煙の種類） 食品添加物（種類・表示方法他） 酸素対策（CA貯蔵・MA包装・脱酸素剤） 冷殺菌（薬剤・放射線） 対面を利用して食品添加物の意義について討議する。 保存技術の裏話解説</p> <p>オンライン 食品の保存 食品の保存方法について学ぶ。 低温貯蔵（温度帯の違い・氷温貯蔵他） 乾燥法（FD・SD・薬剤他） 燻煙法（塩蔵・煙の成分・燻煙の種類） 食品添加物（種類・表示方法他） 酸素対策（CA貯蔵・MA包装・脱酸素剤） 冷殺菌（薬剤・放射線） 興味ある保存方法についてメーカーのホームページをみて確認する。</p>
	<p>7 対面（0～6）クラス：食品の保存 オンライン（1～5）クラス：食品の保存 対面 食品の保存 食品の保存方法について学ぶ。 低温貯蔵（温度帯の違い・氷温貯蔵他） 乾燥法（FD・SD・薬剤他） 燻煙法（塩蔵・煙の成分・燻煙の種類）</p>

	<p>食品添加物（種類・表示方法他） 酸素対策（CA貯蔵・MA包装・脱酸素剤） 冷殺菌（薬剤・放射線） 対面を利用して食品添加物の意義について討議する。 保存技術の裏話解説</p> <p>オンライン 食品の保存 食品の保存方法について学ぶ。 低温貯蔵（温度帯の違い・氷温貯蔵他） 乾燥法（FD・SD・薬剤他） 燻煙法（塩蔵・煙の成分・燻煙の種類） 食品添加物（種類・表示方法他） 酸素対策（CA貯蔵・MA包装・脱酸素剤） 冷殺菌（薬剤・放射線） 興味ある保存方法についてメーカーのホームページをみて確認する。</p> <p>8 対面（1～5）クラス：食品の包装 オンライン（0～6）クラス：食品の包装・野菜果物類</p> <p>対面 食品の包装 食品の包装及び関連事項について学ぶ。 包装の意義（歴史事項・必要性他） 包装素材（紙・ガラス・金属・プラスチック） プラスチック素材（各種プラスチック・複合フィルム） 包材関係諸問題（環境問題・エネルギー問題・リサイクル他） 対面を利用して、リサイクル問題について討議する。</p> <p>オンライン 食品の包装 食品の包装及び関連事項について学ぶ。 包装の意義（歴史事項・必要性他） 包装素材（紙・ガラス・金属・プラスチック） プラスチック素材（各種プラスチック・複合フィルム） 包材関係諸問題（環境問題・エネルギー問題・リサイクル他） 食品の包材について資料等を取集する。</p> <p>野菜果物類 野菜類・果物類及び加工品について学ぶ。 野菜の種類（食部位） 果物の種類（食部位） 野菜・果物の加工品（漬物・ジャム他） 野菜及び果物加工メーカーのホームページを確認する。</p>
	<p>9 対面（0～6）クラス：食品の包装 オンライン（1～5）クラス：食品の包装・野菜果物類</p> <p>対面 食品の包装 食品の包装及び関連事項について学ぶ。 包装の意義（歴史事項・必要性他） 包装素材（紙・ガラス・金属・プラスチック） プラスチック素材（各種プラスチック・複合フィルム） 包材関係諸問題（環境問題・エネルギー問題・リサイクル他） 対面を利用して、リサイクル問題について討議する。</p> <p>オンライン 食品の包装 食品の包装及び関連事項について学ぶ。 包装の意義（歴史事項・必要性他） 包装素材（紙・ガラス・金属・プラスチック） プラスチック素材（各種プラスチック・複合フィルム） 包材関係諸問題（環境問題・エネルギー問題・リサイクル他） 食品の包材について資料等を取集する。</p> <p>野菜果物類 野菜類・果物類及び加工品について学ぶ。 野菜の種類（食部位） 果物の種類（食部位） 野菜・果物の加工品（漬物・ジャム他） 野菜及び果物加工メーカーのホームページを確認する。</p>
	<p>10 対面（1～5）クラス：食品の表示 オンライン（0～6）クラス：食品の表示・肉類</p> <p>対面 食品の表示・商品開発と表示 食品の表示について学ぶ。表示から食品の情報を取集する方法を学ぶ。 商品開発と表示 法規と表示（食品表示法・食品衛生法・JAS法・健康増進法・景表法・計量法） 表示から情報取集 対面を利用して食品で気になる表示について討議する。</p> <p>オンライン 食品の表示・商品開発と表示 食品の表示について学ぶ。表示から食品の情報を取集する方法を学ぶ。 商品開発と表示 法規と表示（食品表示法・食品衛生法・JAS法・健康増進法・景表法・計量法） 表示から情報取集 食品表示法について調べる。</p> <p>肉類</p>

	<p>肉類及び肉類の加工品について学ぶ。 肉類種類（家畜・家禽・家兎） 肉類加工品（ソーセージ・ハム類） 肉類関連事件（狂牛病・口蹄疫・鳥インフルエンザ） 食肉メーカーのホームページを確認して食肉加工品について調べる。</p> <p>11 対面（0～6）クラス：食品の表示 オンライン（1～5）クラス：食品の表示・肉類 対面 食品の表示・商品開発と表示 食品の表示について学ぶ。表示から食品の情報を収集する方法を学ぶ。 商品開発と表示 法規と表示（食品表示法・食品衛生法・JAS法・健康増進法・景表法・計量法） 表示から情報収集 対面を利用して食品で気になる表示について討議する。</p> <p>オンライン 食品の表示・商品開発と表示 食品の表示について学ぶ。表示から食品の情報を収集する方法を学ぶ。 商品開発と表示 法規と表示（食品表示法・食品衛生法・JAS法・健康増進法・景表法・計量法） 表示から情報収集 食品表示法について調べる。</p> <p>肉類 肉類及び肉類の加工品について学ぶ。 肉類種類（家畜・家禽・家兎） 肉類加工品（ソーセージ・ハム類） 肉類関連事件（狂牛病・口蹄疫・鳥インフルエンザ） 食肉メーカーのホームページを確認して食肉加工品について調べる。</p>
	<p>12 対面（1～5）クラス：穀類 オンライン（0～6）クラス：穀類・嗜好飲料類 対面 穀類 穀類及び米類・小麦類について学ぶ。 穀類の意義・必要性 米類（種類他） 米の処理（搗精法） 米類加工方法（無精米・備蓄米他） 米加工メーカー紹介 小麦の特長 パンの製法（製パンの原理・各種製パン法） メーカーの技術紹介。 対面を利用して、好きなパン及び製パン技術について討議する。</p> <p>オンライン 穀類① 穀類及び米類について学ぶ。 穀類の意義・必要性 米類（種類他） 米の処理（搗精法） 米類加工方法（無精米・備蓄米他） 米加工メーカー紹介 米類加工メーカーのホームページを確認する。</p> <p>嗜好飲料類 嗜好飲料及びその加工方法を学ぶ 嗜好飲料（炭酸飲料・缶コーヒー・スポーツ飲料・ミネラルウォーター） アルコール飲料（ワイン・ビール・日本酒・蒸留酒） 飲料メーカーのホームページを確認して好きな飲料を調べる。</p>
	<p>13 対面（0～6）クラス：穀類 オンライン（1～5）クラス：穀類・嗜好飲料類 対面 穀類 穀類及び米類・小麦類について学ぶ。 穀類の意義・必要性 米類（種類他） 米の処理（搗精法） 米類加工方法（無精米・備蓄米他） 米加工メーカー紹介 小麦の特長 パンの製法（製パンの原理・各種製パン法） メーカーの技術紹介。 対面を利用して、好きなパン及び製パン技術について討議する。</p> <p>オンライン 穀類① 穀類及び米類について学ぶ。 穀類の意義・必要性 米類（種類他） 米の処理（搗精法） 米類加工方法（無精米・備蓄米他） 米加工メーカー紹介 米類加工メーカーのホームページを確認を確認する。</p> <p>嗜好飲料類</p>

	<p>嗜好飲料及びその加工方法を学ぶ 嗜好飲料（炭酸飲料・缶コーヒー・スポーツ飲料・ミネラルウォーター） アルコール飲料（ワイン・ビール・日本酒・蒸留酒） 飲料メーカーのホームページを確認して好きな飲料を調べる。</p> <p>14 対面（1～5）クラス：油脂類 オンライン（0～6）クラス：油脂類・乳製品類 対面 油脂類 油脂類及び油脂類の加工品について学ぶ。 油脂原料（植物油・動物油脂） 採油法・製油法 油脂加工品（マーガリン・ショートニング他） メーカー事情 対面を利用して、油について討議する。</p> <p>オンライン 油脂類 油脂類及び油脂類の加工品について学ぶ。 油脂原料（植物油・動物油脂） 採油法・製油法 油脂加工品（マーガリン・ショートニング他） メーカー事情 製油メーカーについて調べる。</p> <p>乳類・乳製品類 乳類及び乳製品について学ぶ。 牛から牛乳が出来るまで。 牛乳分類・殺菌方法 乳製品種類 乳製品のメーカーのホームページを確認して乳製品を調べる。</p> <p>15 対面（0～6）クラス：油脂類 オンライン（1～5）クラス：油脂類・乳製品類 対面 油脂類 油脂類及び油脂類の加工品について学ぶ。 油脂原料（植物油・動物油脂） 採油法・製油法 油脂加工品（マーガリン・ショートニング他） メーカー事情 対面を利用して、油について討議する。</p> <p>オンライン 油脂類 油脂類及び油脂類の加工品について学ぶ。 油脂原料（植物油・動物油脂） 採油法・製油法 油脂加工品（マーガリン・ショートニング他） メーカー事情 製油メーカーについて調べる。</p> <p>乳類・乳製品類 乳類及び乳製品について学ぶ。 牛から牛乳が出来るまで。 牛乳分類・殺菌方法 乳製品種類 乳製品のメーカーのホームページを確認して乳製品を調べる。</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：食品を広く理解して、市販品よりその特徴や他社製品ごとの違いが言える。 ◎D：代表的な加工食品の製造がイメージでき、製造を通じて関係する諸問題も感覚的につかめる。
事前・事後学習	事前学習：シラバスに沿って食品を学んでいくので、各回ごとの教科書の内容を良く目を通し、キーワードや興味ある点・事項などノートに羅列すること。興味ある事項は、新聞・雑誌・参考書・インターネット等で調べてノートにまとめること（60分程度） 事後学習：授業を通じて習ったことを資料、書籍およびインターネット等で再度調べて、ノートにまとめるその食品の理解を深めること。市場（スーパー・CVS等）にて市販品をみて情報（表示他）を取集すること。またその食品の業界のホームページやメーカーのホームページを調べて内容を確認する。（120分程度）
指導方法	食品加工学は、食品学の基礎に基づく応用学なので、基礎的知識の向上を促す為随時、関連事項・事件等の話題やメーカー事情等の実例を示しながら講義を進める。 ・Classroomで法規資料や解説資料を提示する授業もある。 ・パワーポイントを使用して授業を進める（学生はノートを取ること）。 ・毎回、前回のポイントをパワーポイントに提示し、重要点を再確認する。 フィードバックの仕方：①授業内での質疑応答②次回の授業で前回の重要点確認
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：食品全般の基礎知識を質疑や定期試験で評価する。 D：代表的な加工食品の製造方法や原理の理解等を質疑や定期試験で評価する。 定期試験 80% 授業態度等（参加状況・授業マナー等） 20%
テキスト	新食品加工学 吉田勉編 医歯薬出版
参考書	応用食品学 金子憲太郎編 アイ・ケイコーポレーション
履修上の注意	1. 講義授業は、講義に参加（聞く・質疑に答える・ノートを取る等）することを原則とする。 2. 授業中は他の人に迷惑にならないよう授業態度（マナー）に注意すること。授業中は次にあげる行為は禁止する。（おしゃべり、居眠り、飲食、スマホ等の操作、化粧、他の教科の課題の作成、無断で教室外へ出ること・授業を受ける上で好ましくない行為等） 3. 授業に必要なでないもの（飲食物、スマホ等、授業に使用しない物）は持ち込まないこと。または、鞆等にし

	まうこと。
アクティブ・ラーニング	
I C T・オープンエデュケーションの活用	Classroom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1	1	食専：栄選択必修
担当教員			
谷口裕信			
ナンバリング：N24C14	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>食品について、製造（加工・原理）を通じて食品を幅広く理解する。実習では、「学び」、「体験」、「総括」をセットとして食品加工の理解を深める。担当者の食品会社（工場他現場経験等）の実務経験より現場の実例を示しながら多角的に食品加工及び加工食品を解説する。</p> <p>「学び」では、加工原理等及び操作方法・加工方法を理解する。</p> <p>「体験」では、実際に加工食品を製造して試食検査を実施する。また市販品と比較する。</p> <p>「総括」では、学び・体験したことで得たことや感じたことをレポートにまとめる。</p> <p>授業の形態は、対面（実習）とオンラインを交互に実施する。対面（実習）では、実際に食品を加工することで食品を多角的に学ぶ。オンラインでは、Classroomに提示する資料を利用して食品を加工する製法や原理を理解し、関連する食品メーカーについて技術を含めて各自ホームページを利用して確認する。</p> <p>（授業の目標） 食品の基礎知識、表示、市販食品との違い、加工方法を理解し、グループによる加工実習からチームワークと加工方法を身に付ける。</p> <p>A：班における自分の役割を理解し、加工実習を通じて良いチームワーク作りができる。 ○D：食品学等で習う食品に対する加工法を学び、食品加工の基礎を身に付ける。 ◎E：代表的な加工食品の製造原理を理解し、加工操作ができる。</p>
--	--

授業計画	<p>1 (1～5) クラス・ (0～6) クラス共にオンライン授業：食品加工の概要</p> <p>食品加工の概要 ①授業の目的・内容説明 食品加工上及び実習室（加工環境等）の注意事項 レポートの作成方法 食品加工の心構えを現場（工場）の実例をあげて説明する。 ※Classroomにてレポートの書き方提示</p> <p>②食品加工概要 ・物理的方法 ・化学的方法 ・生物的方法</p> <p>2 対面・実習（1～5）クラス：果物の加工① オンライン（0～6）クラス：果物の加工①・伝統食品の加工①</p> <p>対面・実習 果物の加工① イチゴジャムの製造 イチゴジャムを製造するに当たり、ジャムの基礎としてジャムの原理や種類及びゼリー化について学ぶ。 瓶詰について理解として、瓶詰の保存性の意義や加熱殺菌について学ぶ。製造を通じて食品を加工する意義を確認する。</p> <p>オンライン 果物の加工① イチゴジャムの製造 イチゴジャムを製造するに当たり、ジャムの基礎としてジャムの原理や種類及びゼリー化について学ぶ。 瓶詰について理解として、瓶詰の保存性の意義や加熱殺菌について学ぶ。 インターネット等を利用してジャムの製造メーカーを調べる。</p> <p>伝統食品の加工① こんにゃくの製造 こんにゃくの製造上の特長や加工の原理を学ぶ。 インターネット等を利用して製造メーカーのホームページから情報を収集する。</p> <p>3 対面・実習（0～6）クラス：果物の加工① オンライン（1～5）クラス：果物加工①・伝統食品の加工①</p> <p>対面・実習 果物の加工① イチゴジャムの製造 イチゴジャムを製造するに当たり、ジャムの基礎としてジャムの原理や種類及びゼリー化について学ぶ。 瓶詰について理解として、瓶詰の保存性の意義や加熱殺菌について学ぶ。製造を通じて食品を加工する意義を確認する。</p> <p>オンライン 果物の加工① イチゴジャムの製造 イチゴジャムを製造するに当たり、ジャムの基礎としてジャムの原理や種類及びゼリー化について学ぶ。 瓶詰について理解として、瓶詰の保存性の意義や加熱殺菌について学ぶ。 インターネット等を利用してジャムの製造メーカーを調べる。</p>
------	---

4	<p>伝統食品の加工① こんにゃくの製造 こんにゃくの製造上の特長や加工の原理を学ぶ。 インターネット等を利用して製造メーカーのホームページから情報を収集する。</p> <p>対面・実習（1～5）クラス：小麦粉の加工品① オンライン（0～6）クラス：小麦粉の加工①・果物の加工②</p> <p>対面・実習 小麦粉の加工① 手打ちうどんの製造 手打ちうどんを製造するに当たり、製麺の原理や製造上の注意点を学ぶ。 小麦粉の加工特長として、小麦粉の性質やグルテンの加工特性を学び、現場での事例も紹介する。 製造を通じ職人の技術も確認する。</p> <p>オンライン 小麦粉の加工① 手打ちうどんの製造 手打ちうどんを製造するに当たり、製麺の原理や製造上の注意点を学ぶ。 小麦粉の加工特長として、小麦粉の性質やグルテンの加工特性を学び、現場での事例も紹介する。 製麺メーカーの技術をメーカーのホームページ等で確認する。</p>
5	<p>果物の加工② アメリカンチェリーの瓶詰 瓶詰類の特長や保存性の原理を学ぶ。 果物類の加工特性の理解として、副産物（砂糖類等）や殺菌と pH の関係についても学ぶ。 瓶詰のメーカーのホームページを確認する。</p> <p>対面・実習（0～6）クラス：小麦粉の加工品① オンライン（1～5）クラス：小麦粉の加工①・果物の加工②</p> <p>対面・実習 小麦粉の加工① 手打ちうどんの製造 手打ちうどんを製造するに当たり、製麺の原理や製造上の注意点を学ぶ。 小麦粉の加工特長として、小麦粉の性質やグルテンの加工特性を学び、現場での事例も紹介する。 製造を通じ職人の技術も確認する。</p> <p>オンライン 小麦粉の加工① 手打ちうどんの製造 手打ちうどんを製造するに当たり、製麺の原理や製造上の注意点を学ぶ。 小麦粉の加工特長として、小麦粉の性質やグルテンの加工特性を学び、現場での事例も紹介する。 製麺メーカーの技術をメーカーのホームページ等で確認する。</p>
6	<p>果物の加工② アメリカンチェリーの瓶詰 瓶詰類の特長や保存性の原理を学ぶ。 果物類の加工特性の理解として、副産物（砂糖類等）や殺菌と pH の関係についても学ぶ。 瓶詰のメーカーのホームページを確認する。</p> <p>対面・実習（1～5）クラス：乳製品の加工① オンライン（0～6）クラス：乳製品の加工①・伝統食品の加工②</p> <p>対面・実習 乳製品の加工① バターの製造 バターの製造原理や乳化について学ぶ。バターの製造中に生じる副産物を利用して乳飲料も製造する。 乳類の加工特性の理解として、関連加工品について種類等を学ぶ。バターの製造を通じて、加工手法（遠心力）を体感する。</p> <p>オンライン 乳製品の加工① バターの製造 バターの製造原理や乳化について学ぶ。バターの製造中に生じる副産物を利用して乳飲料も製造する。 乳類の加工特性の理解として、関連加工品について種類等を学ぶ。 乳飲料メーカーのホームページを確認する。</p>
7	<p>伝統食品の加工② 豆腐の製造 木綿豆腐の製造を通じて、その原理種類について学ぶ。 豆腐製造における凝固剤と種類や原料大豆について学ぶ。 市販の豆腐を確認してみる。</p> <p>対面・実習（0～6）クラス：乳製品の加工① オンライン（1～5）クラス：乳製品の加工①・伝統食品の加工②</p> <p>対面・実習 乳製品の加工① バターの製造 バターの製造原理や乳化について学ぶ。 バターの製造中に生じる副産物を利用して乳飲料も製造する。 乳類の加工特性の理解として、関連加工品について種類等を学ぶ。 バターの製造を通じて、加工手法（遠心力）を体感する。</p>

	<p>オンライン 乳製品の加工① バターの製造 バターの製造原理や乳化について学ぶ。 バターの製造中に生じる副産物を利用して乳飲料も製造する。 乳類の加工特性の理解として、関連加工品について種類等を学ぶ。 乳飲料メーカーのホームページを確認する。</p> <p>伝統食品の加工② 豆腐の製造 木綿豆腐の製造を通じて、その原理種類について学ぶ。 豆腐製造における凝固剤と種類や原料大豆について学ぶ。 市販の豆腐を確認してみる。</p> <p>8 対面・実習 (1~5) クラス：野菜の加工 オンライン (0~6) クラス：野菜の加工・商品開発 対面・実習 野菜の加工 ピクルスの製造 野菜の保存方法について学ぶ。 漬物の製造原理と塩の役割について学ぶ。 酢の種類や特長も学ぶ。 市販品を比較して原料（食品添加物含む）や表示について学ぶ。 製造を通じて、浸透圧の現象や食酢の効果や品質を確認する。</p> <p>オンライン 野菜の加工 ピクルスの製造 野菜の保存方法について学ぶ。 漬物の製造原理と塩の役割について学ぶ。 酢の種類や特長も学ぶ。 市販品を比較して原料（食品添加物含む）や表示について学ぶ。</p> <p>商品開発 商品開発の考え方（保存技術・開発） 加工食品の保存技術について解説する。 （低温処理・乾燥）缶詰や瓶詰の保存の原理、脱気・密封・殺菌について解説する。 加工食品の商品開発について事例を踏まえて解説する。 興味ある食品メーカーのホームページを確認する。</p>
	<p>9 対面・実習 (0~6) クラス：野菜の加工 オンライン (1~5) クラス：野菜の加工・商品開発 対面・実習 野菜の加工 ピクルスの製造 野菜の保存方法について学ぶ。 漬物の製造原理と塩の役割について学ぶ。 酢の種類や特長も学ぶ。 市販品を比較して原料（食品添加物含む）や表示について学ぶ。 製造を通じて、浸透圧の現象や食酢の効果や品質を確認する。</p> <p>オンライン 野菜の加工 ピクルスの製造 野菜の保存方法について学ぶ。 漬物の製造原理と塩の役割について学ぶ。 酢の種類や特長も学ぶ。 市販品を比較して原料（食品添加物含む）や表示について学ぶ。</p> <p>商品開発 商品開発の考え方（保存技術・開発） 加工食品の保存技術について解説する。 （低温処理・乾燥）缶詰や瓶詰の保存の原理、脱気・密封・殺菌について解説する。 加工食品の商品開発について事例を踏まえて解説する。 興味ある食品メーカーのホームページを確認する。</p>
	<p>10 対面・実習 (1~5) クラス：乳製品の加工② オンライン (0~6) クラス：乳製品の加工②・ 穀類の加工 対面・実習 乳製品の加工② カッターチーズの製造 カッターチーズを基本としてチーズの種類や製造原理を学ぶ。 チーズ製造中に生じる副産物を使用して乳清飲料を製造する。 世界各地の代表的なチーズを試食して違いや風味等を確認する。 製造を通じて、乳類の品質や特性を確認する。</p> <p>オンライン 乳製品の加工② カッターチーズの製造 カッターチーズを基本としてチーズの種類や製造原理を学ぶ。 チーズ製造中に生じる副産物を使用して乳清飲料を製造する。 世界各地の代表的なチーズの特長を確認する。 チーズ製造メーカーのホームページを確認する。</p> <p>穀類の加工 そばの製造 そばの製造法やそばにまつわる事項について学ぶ。</p>

	<p>そばの種類やつなぎの役割について学ぶ。 そばの製法を通じて、そばとうどんの製法の違いを確認する。 そばに関する事項を資料等を収集して確認する。</p>
11	<p>対面・実習 (0~6) クラス：乳製品の加工② オンライン (1~5) クラス：乳製品の加工②・ 穀類の加工 対面・実習 乳製品の加工② カッテージチーズの製造 カッテージチーズを基本としてチーズの種類や製造原理を学ぶ。 チーズ製造中に生じる副産物を使用して乳清飲料を製造する。 世界各地の代表的なチーズを試食して違いや風味等を確認する。 製造を通じて、乳類の品質や特性を確認する。</p> <p>オンライン 乳製品の加工② カッテージチーズの製造 カッテージチーズを基本としてチーズの種類や製造原理を学ぶ。 チーズ製造中に生じる副産物を使用して乳清飲料を製造する。 世界各地の代表的なチーズの特長を確認する。 チーズ製造メーカーのホームページを確認する。</p> <p>穀類の加工 そばの製造 そばやの製造法やそばにまつわる事項について学ぶ。 そばの種類やつなぎの役割について学ぶ。 そばの製法を通じて、そばとうどんの製法の違いを確認する。 そばに関する事項を資料等を収集して確認する。</p>
12	<p>対面・実習 (1~5) クラス：パンの応用 オンライン (0~6) クラス：パンの応用・小麦粉の 加工② 対面・実習 パンの応用 ピザ・トマトソースの製造 パンの応用としてパンタイプのピザと合わせてトマトソースも製造する。 ピザの歴史を解説する。 製造を通じて、パンの製法を確認し、発酵について確認する。</p> <p>オンライン パンの応用 ピザ・トマトソースの製造 パンの応用としてパンタイプのピザと合わせてトマトソースも製造する。 ピザの歴史を解説する。 ピザのメーカーのホームページを確認し、ピザの流行及びヒット商品について調べる。</p> <p>小麦粉の加工② バターロールの製造 バターロールを通じて、パンの製造理論を学ぶ。 小麦粉の種類とその加工食品について学ぶ。 パンの発酵について、酵母とベーキングパウダーの違いを学ぶ。 製パンメーカーのホームページをみてメーカーの技術を確認する。</p>
13	<p>対面・実習 (0~6) クラス：パンの応用 オンライン (1~5) クラス：パンの応用・小麦粉の 加工② 対面・実習 パンの応用 ピザ・トマトソースの製造 パンの応用としてパンタイプのピザと合わせてトマトソースも製造する。 ピザの歴史を解説する。 製造を通じて、パンの製法を確認し、発酵について確認する。</p> <p>オンライン パンの応用 ピザ・トマトソースの製造 パンの応用としてパンタイプのピザと合わせてトマトソースも製造する。 ピザの歴史を解説する。 ピザのメーカーのホームページを確認し、ピザの流行及びヒット商品について調べる。</p> <p>小麦粉の加工② バターロールの製造 バターロールを通じて、パンの製造理論を学ぶ。 小麦粉の種類とその加工食品について学ぶ。 パンの発酵について、酵母とベーキングパウダーの違いを学ぶ。 製パンメーカーのホームページをみてメーカーの技術を確認する。</p>
14	<p>対面・実習 (1~5) クラス：加糖酸乳 オンライン (0~6) クラス：加糖酸乳・官能検査 対面・実習 加糖酸乳 乳製品の応用 加糖酸乳の製造 発酵法と簡易法について、加糖酸乳の製造原理を学ぶ。 市販品と比較して、発酵乳や乳飲料について学ぶ。 製造を通じて、酸乳について製法の意義を確認する。</p> <p>オンライン 加糖酸乳 乳製品の応用 加糖酸乳の製造</p>

15	<p>発酵法と簡易法について、加糖酸乳の製造原理を学ぶ。 市販品と比較して、発酵乳や乳飲料について学ぶ。 主な乳酸菌飲料や乳飲料を製造しているメーカーの技術をホームページ等で調べる。</p> <p>官能検査 官能検査について、検査の意義や条件等について学ぶ。 資料等を取集して官能検査について調べる。</p> <p>対面・実習 (0~6) クラス：加糖酸乳 オンライン (1~5) クラス：加糖酸乳・官能検査 対面・実習 加糖酸乳 乳製品の応用 加糖酸乳の製造 発酵法と簡易法について、加糖酸乳の製造原理を学ぶ。 市販品と比較して、発酵乳や乳飲料について学ぶ。 製造を通じて、酸乳について製法の意義を確認する。</p> <p>オンライン 加糖酸乳 乳製品の応用 加糖酸乳の製造 発酵法と簡易法について、加糖酸乳の製造原理を学ぶ。 市販品と比較して、発酵乳や乳飲料について学ぶ。 主な乳酸菌飲料や乳飲料を製造しているメーカーの技術をホームページ等で調べる。</p> <p>官能検査 官能検査について、検査の意義や条件等について学ぶ。 資料等を取集して官能検査について調べる。</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>A：班における自分の役割を理解し、チームワーク作りに貢献し、加工実習をやり遂げることができる。 ○D：代表的な食品の加工法の理解ができ、それに伴う食品の説明ができる。市販品との違いを説明できる。 ◎E：代表的な加工食品の製造原理が理解でき、それに伴う作業ができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：シラバスに沿って次回製造する食品について教科書や参考資料等で調べる。 事後学習：実習で習ったことをレポートにまとめて製造した食品の理解を深める。機会を見つけて市場の市販品（表示含む）を確認する。</p>
指導方法	<p>・5~6人を1グループに班別にし班単位で、瓶詰、袋詰等は1人1個の割合で製造できる規模で実習する。 ・最初に製造の原理や操作方を説明し、その後は各班ごとを巡回しながら指導する。 ・実習ごとにレポートを提出してもらい理解度を確認する。 フィードバックの仕方：①レポート提出 ②レポート評価、コメント ③授業内の質疑応答 ④前回作品の振り返りや追加事項</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>A：受講態度・グループ内での授業貢献度を評価する。 D：加工食品の基礎知識について、加工方法や特性の理解などをレポート提出・定期試験で評価する。 E：加工実習貢献度（食品製造の心構えや取り組み姿勢）を評価する。 実習を通して学んでいく教科なので実習態度、レポート及び試験で総合的に評価する。 定期試験50% レポート40% 実習参加状況（実習態度・ルール順守等）10%</p>
テキスト	食品加工実習・実験書 吉田企世子編 医歯薬出版
参考書	新食品加工学 吉田勉編 医歯薬出版
履修上の注意	<p>1. 班単位で製造するので班員で協力して実習に参加すること。 2. 食品を製造する意識を常にもって実習に参加すること。 3. 実習の時は食品製造に適する身支度をして衛生管理に留意し、怪我等しないように注意すること。 4. 食品製造の環境下で授業を行うので、飲食物、スマホ他、授業に関係ない物品は持ち込まないこと。</p>
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	Classroom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	2	1	食専：栄必修
担当教員			
井部奈生子			
ナンバリング：N25C20	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ライフステージ別に適切な栄養素の摂取、食生活のあり方、食形態を前提とした献立の実際を学び、実習を通して調理上の注意点、献立立案における配慮事項を学ぶ。 また、試食を通して調理法の選択、食感・味覚上の問題に関しても理解を深め、対象者が満足する食事作りを身に付ける。 (授業目標) ライフステージ別の生理的特徴や変化、食事摂取基準を理解し、栄養マネジメントを行うために必要な基礎的な知識と調理技能を習得する。 A：班での調理を通し、チームワークの重要性と個々の責任について学ぶ。 ○C：ライフステージ別生理学的特性を理解した上で、それに適した献立展開、調理法選択ができる。 ◎E：ライフステージ別の食事の実際を理解し、献立作成、調理作業を円滑に行うことができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス 実習概要、実習の基礎演習、栄養マネジメント、ライフステージごとの食事摂取基準など実習に必要な知識を概説する。</p> <p>2 栄養マネジメントの基礎知識（オンライン：Classroom） 食べる機能・消化吸収機能発達を踏まえたライフステージ別の生理的特性を理解する。</p> <p>3 成人期の栄養 献立計画（対面） 成人期の生理的特性、栄養管理を学ぶ。事例に基づいた食事計画のポイントを確認する。</p> <p>4 妊娠期・授乳期の栄養－献立作成－（オンライン：Classroom） 妊娠期・授乳期の生理的特性、栄養管理を学ぶ。各個人で、妊娠期・授乳期の献立を作成する。</p> <p>5 運動と栄養・環境と栄養（対面による実習：試食） 運動時の特性を学び、身体活動への積極的な取り組みを検討する。特殊環境における栄養の特性を学ぶ。市販されている関連食品の試食を行う。</p> <p>6 乳児期の栄養－離乳食－（オンライン：Classroom） 離乳食の進め方を学ぶ。離乳食の調理を学び、離乳の進め方を評価する。離乳の時期による食形態の差異を学ぶ。</p> <p>7 妊娠期・授乳期の栄養－献立評価－（対面） 献立評価を行い、作業計画を検討する。各班で優秀献立を選定し、優秀献立作成者が代表としてプレゼンテーションを行う。</p> <p>8 幼児期の栄養－食物アレルギー代替食－（オンライン：Classroom） 乳幼児期の三大アレルギーを学ぶ。食物アレルギー代替食の調理を学び、調理方法を評価する。</p> <p>9 乳児期の栄養－調乳－（対面による実習：調理・試食） 無菌操作法を用いた調乳方法について学ぶ。調製粉乳・フォローアップミルク・治療乳・液体ミルクを試飲する。</p> <p>10 思春期の栄養（オンライン：Classroom） 思春期の生理的特性、栄養管理を学ぶ。思春期に必要な栄養素を豊富に含む献立の調理を学び、栄養価を評価する。</p> <p>11 幼児期の栄養－間食－（対面による実習：調理・試食） 幼児期の生理的特性を学び、間食の重要性を理解する。間食の調理を行い、試食後、評価する。</p> <p>12 行事食（オンライン：Classroom） 児童福祉施設などにおける様々な行事食について学ぶ。行事食献立の調理を学び、行事食の調査をする。</p> <p>13 学童期の栄養（対面による実習：調理・試食） 学童期生理的特性、栄養管理を学ぶ。学校給食で好評な献立やカルシウム豊富な献立の調理を行い、試食後、評価をする。</p> <p>14 高齢期の栄養－食事介助の配慮－（オンライン：Classroom） 高齢者の栄養管理を学ぶ。食事介助の配慮をした献立の調理を学び、自立支援の方法を評価する。</p> <p>15 高齢期の栄養－咀嚼・嚥下機能の低下の配慮－（対面による実習：調理・試食） 高齢者の生理的特性を学ぶ。咀嚼・嚥下機能の低下がある場合の献立の調理を行い、試食後、評価をする。市販の高齢者向けソフト食、ムース食等の試食を行なう。</p>
学習成果・到達目標・基準	A：班における自分の役割を理解し、調理実習・献立評価を効率よくすすめることができる。 ○C：食における問題点をライフステージに合わせて評価し、説明することができる ◎E：調理法や味覚の配慮をした献立立案ができ、対象者に適した調理操作を選択し、調理ができる。
事前・事後学習	事前学習：次の授業内容に関する項目についてテキストの該当箇所を読み、まとめておく。 事後学習：配布プリントの確認を含め、授業内容をまとめたレポートに取り組む。特に、事後学習が大切である。授業の調理を振り返り自宅で作ってみると、理解も調理技術も上達する。
指導方法	・授業の順番は学籍番号のグループによって前後する。Classroomへのデモンストレーション動画配信によるオンライン授業と対面による実習を交互に行う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習はデモンストレーションをしながら説明を行い（手元カメラでデモ中の映像を拡大して見ることができる）、グループごとに実習する。 ・試食前に各グループの実習内容を評価する。 ・調理実習終了後に点検を受け、グループごとに終了となる。 ・内容に応じてパワーポイントを利用して要点を示しながら説明をする。 ・適宜DVD等の視聴覚資料を利用する。 <p>フィードバックの仕方：レポート①課題の提示、②課題を提出後評価し、コメント記載のうえ返却する、③授業後による採点についての質疑応答。 実習①料理の仕上がり、効率、終了時間を評価、②評価後に班別、個別にコメントする。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>A：実習で作った料理及び作業効率の良さ、グループワークの貢献度を評価する。 ○C：定期試験を評価する。 ◎E：レポートを評価する。 定期試験 40%、レポート提出40%、実習で作った料理および作業効率の良さ、グループワークの貢献度20% 成績評価は上記の配分で行い、それぞれのルーブリックに基づいて配点する。</p>
テキスト	「応用栄養学実習書」柳沢幸江編著 建帛社
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「新ビジュアル 食品成分表 [新訂第二版]」新しい食生活を考える会編著 大修館書店 ・「調理のためのベーシックデータ」松本仲子編著 女子栄養大学出版部
履修上の注意	<p>応用栄養学講義で終了した内容は、十分に理解していることが望ましい。 提出物の期日を厳守する。 実習中は安全・衛生に注意する。</p>
アクティブ・ラーニング	実習、グループワーク、プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	食専：栄選択必修
担当教員			
井部奈生子			
ナンバリング：N27C36	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	15回の授業を3分割し、ブロックごとに授業方法・内容を変え、実践的・具体的に理解を深める。初回はガイダンス、2～6回は全体会で、各特定給食施設の特徴やそこで求められる栄養士の役割などを学ぶ。7～11回は5つの履修モデルに分かれた授業で、各分野で活躍する方を招いての講演や、それぞれの分野で必要な知識や技術を演習や実習などで学ぶ。12～15回は給食管理実習（学外）につなげる授業を分野別に行う。 (授業目標) 栄養や食品についての専門知識を活かせる職場は、病院・福祉施設・事業所・学校・保育園・外食産業・フードビジネスなど多岐にわたり、その仕事内容も業種により異なる特徴がみられる。この科目では身につけた専門知識や技術を社会に還元する方策を見出すために、栄養士業務や食品業界などについて、多角的、実践的、具体的に学び、自己の将来像へとつなげる。 ◎D：履修モデルに即した基礎知識を学び、主体的に演習や課題に取り組むことで技術の向上を図り、実践に移すことができる。 ○E：それぞれの履修モデルや特定給食施設の特徴を学ぶことで、自己の将来像や果たすべき役割・目的などを見極め、社会に向けて発信、表現することができる。
授業計画	1 ガイダンス(西山・豊島・井部・高橋・北村)：全体会 本授業の目的、授業方法、授業を受ける際のルールなどを学ぶ。授業担当者全員より、それぞれの担当する分野や授業内容などについて説明を受ける。 2 特定給食施設の種類と特徴①：全体会 特定給食施設(事業所)の種類と特徴について学ぶ。(担当：高橋) 3 特定給食施設の種類と特徴②：全体会 特定給食施設(学校)の種類と特徴について学ぶ。(担当：北村) 4 特定給食施設の種類と特徴③：全体会 特定給食施設(病院)の種類と特徴について学ぶ。(担当：井部) 5 特定給食施設の種類と特徴④：全体会 特定給食施設(保育園)の種類と特徴について学ぶ。(担当：西山) 6 特定給食施設の種類と特徴⑤：全体会 特定給食施設(高齢者福祉施設)の種類と特徴について学ぶ。(担当：豊島) 7 履修モデル別講座①：分科会(フードビジネス・販売モデル)(ゲスト講師がオンラインで講演担当井部) フードビジネス・販売の現場で働いているゲスト講師の講演を聞き、フードビジネスで活躍するために必要なスキルを知る。 8 履修モデル別講座②：分科会(フードビジネス・販売モデル)(対面でのグループワーク) フードビジネス・販売の現場の現状と課題を理解する。 9 履修モデル別講座③：分科会(フードビジネス・販売モデル)(オンライン：Classroom) 現代の生活者と食市場を理解し、ゲスト講師から出された企画の情報収集を行う。 10 履修モデル別講座④：分科会(フードビジネス・販売モデル)(対面) 現代の生活者と食市場を理解し、ゲスト講師から出された企画を立案するためのプレゼンテーション準備を行う。 11 履修モデル別講座⑤：分科会(フードビジネス・販売モデル)(プレゼンテーション) 立案した企画のプレゼンテーションを行い、学生間で評価する。 12 学外実習分野別講座①：分科会(学外実習分野別：病院) 保育所、事業所、高齢者福祉施設、病院の4グループに分かれ、第12回から15回は授業を行う。概要は、分野ごとの給食計画や実務管理、栄養指導・教育など、演習を中心とした授業で学ぶ。実習に向けて研究課題の指導を実施する。 病院：病院実習の概要、実習のポイント、研究テーマについて。 13 学外実習分野別講座②：分科会(学外実習分野別：病院)(対面) 病院：病院の献立演習課題、身だしなみチェックを行う。 14 学外実習分野別講座③：分科会(学外実習分野別：病院)(オンライン：Classroom) 病院：病院における栄養食事療法と献立の展開を理解する。学外実習に関するアンケートを行う。 15 学外実習分野別講座④：分科会(学外実習分野別：病院)(グループワーク)(プレゼンテーション)(ICT:Classroom) 病院：病院実習における諸注意の最終確認、まとめを行う。研究テーマについてプレゼンテーションをする。
学習成果・到達目標・基準	◎D：それぞれに必要な基礎知識を学び、課題をまとめることができる。 ○E：それぞれの業種や分野において果たすべき業務を遂行でき、社会に貢献できる。
事前・事後学習	事前学習：事前に配布されたプリント、資料等を熟読し、専門基礎分野の予習を十分に行っておくこと。また日頃から栄養や食品に関わる情報についての興味、関心を持ち、積極的に調べ記録しておくこと。(30分程)

	度) 事後学習：各自、レポート課題の作成を行うことで理解を深め、それぞれの業種や特定給食施設等の特徴をまとめること。(60分程度)
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・1回目はオンライン授業、7.8.9.10.13.14回目は対面授業とオンライン授業を交互に行い、2.3.4.5.6.11.12.15回目は対面とオンライン授業を同時進行で行う。 ・全体会(6回)：分野別担当教員により、特定給食施設の特徴、栄養士の役割、基礎知識を学ぶ。 ・分科会(モデル別、5回)：外部講師の特別講演や、実際の社会現場に即した知識・技術を学べるよう演習や実習を中心に実施する。 ・分科会(実習分野別、4回)：給食管理実習(学外)に向けて、演習や課題を中心に学び、研究テーマ指導を行う。 ・パソコン、プロジェクターなどを利用した演習や、栄養教材・栄養指導媒体などを活用することにより、実践的かつ円滑な指導を行う。 フィードバックの仕方：①演習、②課題提出、③採点(評価)返却、④授業後の質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	D:全体のレポート課題、履修モデル別・実習分野別での課題、提出物を評価する。 E:履修モデル別・実習分野別の課題、提出物を評価する。 研究課題 40% 提出物 40% 授業貢献度 10% 授業態度 10% 成績評価は上記の配分で行い、それぞれのルーブリックに基づいて配点する。
テキスト	「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」 学建書院 「給食管理実習の手引き」「臨地実習ノート」(適宜、プリント資料配布)
参考書	「新ビジュアル食品成分表[7訂版]」大修館書店 「栄養士必携」「糖尿病食事療法のための食品交換表」 「日本人の食事摂取基準(2020年版)」「日本人の食事摂取基準(2020年版)の実践・運用」
履修上の注意	この授業は、学外から特別講師を招いて講義を行うため、学生としてそぐわない行動は避け、主体的で積極的な授業態度が必要である。また、給食管理実習(学外)につなげる授業でもあるため、遅刻や無断欠席は厳禁とし、授業中の不必要な退室、私語、携帯電話操作、居眠りなどは厳しく対処するので注意すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	Classroom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	食専：栄必修
担当教員			
井部奈生子			
ナンバリング：N17C40	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>食事計画を実施する上で欠かせないことは、献立作成能力である。</p> <p>栄養士は特定給食施設での給食管理業務の実践にあたることから、献立作成は対象者の特徴を正しく把握し、バランス・季節・嗜好・コストに配慮することが重要となる。そこで本科目では、業務の基盤となる献立作成に必要な基礎知識や考え方を講義する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>献立計画に際しては、多岐にわたる条件を考慮しなければならない。栄養士の専門的な履修に向け、献立作成のための基礎知識と技術を修得する。適切な重量を設定し、味や食材、食器の組み合わせを評価する方法を知り、さらに料理を数字で管理ができるようになる。</p> <p>◎C：献立から栄養評価を行い、献立の品質を高める方法を述べることができる。</p> <p>○D：食生活の状況に適した献立作成に必要な調味と食品選択の知識が身に付いている。</p>
授業計画	<p>1 食事計画の目的 日本における献立について理解する。 料理を失敗せず、おいしく仕上げるためのデータを知る。</p> <p>2 献立の要件(対面) 履修モデル中の4つのフィールド(病院・福祉、保育所・学校・社員食堂、フードビジネス・販売、カフェレストラン・メニュー開発)に関わる対象者の特徴を理解する。</p> <p>3 日本食品標準成分表(オンライン：Classroom) 日常の食生活に関係の深い食品を確認しながら、日本食品標準成分表2015年版(七訂)・追補について理解する。</p> <p>4 食事計画の基本①(対面) 対象者の把握をし、献立作成の実際を知る。 献立計画時の必要条件を知り、食品の旬や年間行事を理解する。</p> <p>5 食事計画の基本②(オンライン：Classroom) 自らの食事を知り、正しい食生活について考える。</p> <p>6 食事計画の基本③(対面) 料理の組み合わせ方、献立作成基準を理解する。</p> <p>7 給与栄養目標量について(オンライン：Classroom) 利用者に対応した給食の展開を理解する。</p> <p>8 栄養比率の求め方(対面) 献立評価の具体的方法の基礎を理解する。</p> <p>9 特定給食施設における栄養管理(オンライン：Classroom) 栄養価計算の方法を理解し、自らできるように修得する。</p> <p>10 食事計画の基本④(対面) 料理様式別の特徴を比較し、それぞれの特徴を確認する。</p> <p>11 食事計画の基本⑤(オンライン：Classroom) 調味と数値が一致するよう、今まで学修してきた各項目の関連問題を自分の力で解き、答え合わせをしながら確認をする。 調味と数値の一致について知識を定着させる。</p> <p>12 食事計画の実際①(対面) 献立作成手順について理解し、知識を定着させる。</p> <p>13 食事計画の実際②(オンライン：Classroom) 献立表の役割を学び、施設別献立の特徴を確認する。</p> <p>14 グループ討議(グループワーク・プレゼンテーション)(対面) レポート評価を学生間で行い、正しい情報提供の方法を修得する。 グループ討議によりグループ代表者を選定し、代表者がプレゼンテーションを行う。</p> <p>15 食事計画の実際③(オンライン：Classroom) 献立作成の評価方法について説明できるようになる。</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>◎C：栄養士の専門的な履修に向け、献立作成のために必要な適切な重量を設定し、味や食材、食器の組み合わせの正誤を判断できる。</p> <p>○D：食生活の状況に適した献立作成に必要な調味と食品選択の方法について説明できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：Classroomで必要資料を事前に閲覧し、授業に必要な資料の準備をする。次回の講義内容に関する用語を教科書で確認し、まとめておくこと。(60分程度)</p> <p>事後学習：配布プリントの確認を含め、講義内容をまとめたレポートに取り組む。特に、事後学習が大切である。(120分程度)</p>
指導方法	<p>・1回目はオンライン授業、2回目以降は対面とオンライン授業を交互に行う。</p> <p>・講義で内容を説明し内容に応じて、パワーポイント利用して要点を示しながら説明をする。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜DVD等の視聴覚資料を利用する。 ・一定期間の自分の食事記録を行い、教材とする。 ・レポート評価を行い、理解度を確認しながら授業を進めていく。 フィードバックの仕方：レポート①課題の提示、②課題を提出後評価し、コメント記載のうえ返却する、③授業後による採点についての質疑応答。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：レポートを評価する。 D：定期試験を評価する。 定期試験 60%、レポート提出 40% 成績評価は上記の配分で行い、それぞれのルーブリックに基づいて配点する。
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・「新ビジュアル 食品成分表 [新訂第二版]」新しい食生活を考える会編著 大修館書店 ・「調理のためのベーシックデータ」松本伸子編著 女子栄養大学出版部 ・「給食施設のための献立作成マニュアル」赤羽正之他 医歯薬出版株式会社
参考書	授業内で紹介をする。
履修上の注意	献立作成の基礎となる論理と技術を学ぶため、知識を得るためにも料理や食材についての本をたくさん読むこと。 レポートの期限は厳守すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
I C T・オープンエデュケーションの活用	Classroom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	食専：栄必修
担当教員			
北村暁子			
ナンバリング：N27C30	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	給食の運営（経営管理、栄養管理、衛生管理、大量調理、評価方法）全般の流れに沿って、計画書や帳票類、評価票を作成する。献立計画から調理までの給食サービス提供を適切に運営することによって、衛生的で栄養的な食事を喫食者の嗜好性を考慮しながら、経済的に提供するための方法を学ぶ。衛生管理では、大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた具体的な内容を学ぶ。 (授業目標) 大量調理施設の衛生管理について熟知し、安全な給食を提供するための方法と心構えを理解する。2年次の給食管理実習（学内）、学外実習に臨むにあたり、書類の作成方法、栄養管理の実際を演習し、栄養士業務の流れをつかむ。 ○C：大量調理の特性を理解し、安全な給食を提供するための方法を説明することができる。 ◎D：給食運営における献立計画の流れを理解し、使用する帳票とあわせて説明することができる。
授業計画	<p>1 給食管理実習について 授業の概要説明、給食管理実習（学内）用「衛生管理マニュアル」の説明を行う。大量調理における衛生管理の大切さを学ぶ。</p> <p>2 成分表を用いた栄養価計算演習（演習：栄養価計算） 献立の見方、調味パーセントの計算を学ぶ。また献立表をもとに栄養価計算を行う。</p> <p>3 荷重平均栄養成分表について（演習：荷重平均栄養成分表の作成） 荷重平均栄養成分表について学び、実際に作成をする</p> <p>4 施設・設備管理（演習：学内給食実習室見取り図の作成） 大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った身支度の整え方、手洗い方法を学ぶ。学内給食実習室内の衛生管理区域について見取り図を作成しながら学ぶ。</p> <p>5 給食の調理における衛生管理ポイント 大量調理における衛生管理について学ぶ。調理工程に沿って、食品ごとの取り扱いの違い、保存食の取り方、温度管理の方法をそれぞれの目的とあわせて学ぶ。</p> <p>6 給食の計画① 大量調理における献立作成の基本事項を学ぶ。</p> <p>7 給食の実施①（演習：献立作成） 給食の計画に基づいた献立作成を行う。各自がテーマに沿った給食の献立を作成する。</p> <p>8 給食の実施②（演習：献立作成） 給食の計画に基づいた献立作成を行う。衛生管理を意識した献立を作成する。</p> <p>9 給食の実施③（演習：作業計画書の作成） 献立に沿った作業計画書の作成方法を学び、大量調理への応用として衛生管理を意識した作業手順書を作成する。</p> <p>10 栄養教育について 給食業務における栄養教育の役割、またその種類について学ぶ。</p> <p>11 栄養教育①（演習：栄養指導媒体の作成） 給食の場での栄養教育について学び、実際に栄養指導媒体の作成をする。</p> <p>12 栄養教育②（演習：栄養指導媒体の作成） 栄養指導媒体の作成をし、完成させる。</p> <p>13 給食の評価①（演習：栄養出納表の作成） 給食の評価に用いる栄養出納表について学び、実際に作成をする。</p> <p>14 給食の評価②（演習：PFC比率、栄養充足率の計算） PFC比率、栄養充足率の計算から献立の評価をまとめ、改善案を作成する。</p> <p>15 給食運営における栄養士の役割について 授業で学んだ献立計画から提供までの流れを総合し、給食提供の場で必要となる技術や知識についてグループディスカッションを行う。</p>
学習成果・到達目標・基準	○C：大量調理の基礎的な衛生管理について知り、施設・設備に配慮した作業の方法を説明することができる。 ◎D：給食運営における献立計画作成の手順と使用する帳票を関連付けることができる。
事前・事後学習	事前学習：次の授業内容に関する項目についてテキストの該当箇所を読み、これまでに修得した専門基礎分野の復習とあわせてまとめておくこと。（30分程度） 事後学習：レポート等の課題を含め、各回の授業のまとめを作成しファイルに綴じておくこと。特に、事後学習が大切である。（60分程度）
指導方法	内容を説明した後、実際に献立を作成したり、帳票を作成したりする。内容に応じて、グループワークを行い、プロジェクト、配布資料等を利用して重要な点を示しながら説明をする。内容により、給食経営管理実習室、実習食堂で作業もおこなう。 オンラインはZOOMで授業の同時配信をする。

	フィードバックの仕方：①課題提出、②評価し採点后返却、③授業後に課題内容についての質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：レポート、課題等を評価する。 D：定期試験、小テストを評価する。 定期試験 50%、レポート課題（授業への貢献度、積極性を含む）35%、小テスト 15% 成績評価は上記の配分で行い、それぞれのルーブリックに基づいて配点する
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・「新ビジュアル 食品成分表 [新訂第二版]」新しい食生活を考える会編著 大修館書店 2016 ・「調理のためのベーシックデータ」松本伸子編著 女子栄養大学出版部 2018 ・「給食施設のための献立作成マニュアル」赤羽正之他 医歯薬出版株式会社 2016 ・衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省 株式会社学建書院 2013
参考書	授業内で紹介する。
履修上の注意	全ての書類は流れがあり、関連性があります。欠席をすると内容や帳票類の書き方がわからなくなり、それ以降の書類作成や実習の進行に影響します。体調管理をしっかりとして下さい。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション
I C T・オープンエデュケーションの活用	Classroom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	食専：選択
担当教員			
齋藤訓之			
ナンバリング：N17C39	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>食品は、必要なとき、必要な場所に、必要な物を、必要な量と状態でそろえ、適切な価格で提供されることで、初めてそのおいしさなり栄養なり喜びなりを生活者に手渡すことができる。食の専門家（フードスペシャリスト）、とくに食品メーカー、事業所給食を含む外食産業、小売業等で商品開発や購買の仕事に携わる人には、これを実現するためのトータルな知識・情報・手腕が求められる。本講座では、その実務に就く以前に学ぶことができる知識と考え方を身につける。</p> <p>(授業目標) ○C：現代の食品産業にどのような課題があるかを自分で見付け、改善案、解決策を独自に考えることができる。 ◎D：現代の食品の需要と供給の全体像を、生活者としてではなく供給者としての立場に立って理解し、食ビジネスの専門家として説明できる。</p>
授業計画	<p>1 フードシステムの全体像 授業で扱う事柄の全体像を理解し、学修の方法とゴールを確認する。</p> <p>2 現代の生活者と食市場 I 食の外部化 (ICT：Classroom) 食の外部化の進展、食情報の多様化、健康志向を中心に現代の生活者の食生活を理解する。</p> <p>3 現代の生活者と食市場 II 新しい家族たち (ICT：Classroom) 新しい家族のあり方、少子高齢社会への対応を中心に現代の生活者の食生活を理解する。</p> <p>4 食品産業の発達と役割 (ICT：Classroom) 食品産業の発達プロセスと今日の活動を概観し、その役割を理解する。</p> <p>5 食品流通の各段階 (ICT：Classroom) 食品流通を分類して理解する。また卸売業の役割を理解する。</p> <p>6 食品小売業の仕組みと役割 (ICT：Classroom) 食品小売業の業種・業態を押さえ、機能と役割を理解する。</p> <p>7 外食業・中食業の仕組みと役割 (ICT：Classroom) 外食業・中食業の業種・業態を押さえ、機能と役割を理解する。</p> <p>8 食品の分類と物流 (ICT：Classroom) 食品の各種の分類を理解する。また各種の物流の仕組みを理解する。</p> <p>9 主要食品の流通 I 穀物と野菜 (ICT：Classroom) 食品の流通について、主に穀物と野菜等の農産物の現状と課題を理解する。</p> <p>10 主要食品の流通 II 畜産と水産 (ICT：Classroom) 食品の流通について、主に畜産・酪農ならびに水産の現状と課題を理解する。</p> <p>11 主要食品の流通 III 調味料と飲料 (ICT：Classroom) 食品の流通について、主に調味料・飲料等の現状と課題を理解する。</p> <p>12 食のマーケティングの基礎I マーケットインへの転換 (ICT：Classroom) 食品で行われるマーケティングについて、古典的考え方から基礎理論までを理解する。</p> <p>13 食のマーケティングの基礎II チームマーチャライジングの時代 (ICT：Classroom) 食品で行われるマーケティングについて、今日行われている新しい方法を理解する。</p> <p>14 食品産業のCSR (ICT：Classroom) 食品産業に求められる安全確保、環境への対応、その他の社会的責任を理解する。</p> <p>15 食品の消費と流通の課題 (ICT：Classroom) 食品の生産、製造、物流、そして消費の現場に発生している諸問題を概観し、解決の道筋を考える。</p>
学習成果・到達目標・基準	○C：現代の食品産業が解決すべき課題を複数指摘することができる。 ◎D：教科書が扱う生産・流通・消費に関する主要な用語を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：教科書の次回講義予定範囲及びClassroomで示す資料を熟読・理解し、質問したい項目を整理する(70分程度)。 事後学習：教科書で扱う主要な用語とくに索引にリストアップされている用語とその意味を単語帳やノートを作るなどして覚える。Classroomで出題する課題に遅滞なく取り組む(90分程度)。 授業で学んだことを机上の話として理解するだけでなく、その事例を実際の生活や他の実習の中にも見出すようにすること。気づいた事柄はメモする(日常の行動の中で合計20分以上を目処に能動的に観察を行う)。
指導方法	授業は写真、図解、ビデオなどのビジュアルエイドも取り入れたレクチャーを主体とする。遠隔授業にはZOOMを利用する。 フィードバックの仕方：①毎回の授業後にClassroomを使って授業の感想、理解した事柄、要望等を書き込む。 ②要望や質疑応答に対応し、フィードバックする(「成績評価の方法・基準」の【授業ごとのClassroom活用と小課題】参照)。

アセスメント・成績評価の方法・基準	以下の各項によって評価を行う。アルファベットはディプロマポリシーの該当項目を指す。（）内のパーセンテージは配点を示す。 【授業ごとのClassroom活用と小課題】 C：授業ごとにその授業で学んだポイントを列挙し、自分にとっての重要点と所感を記述し、Classroomを使って提出する。授業ごとのClassroom活用実績（資料閲覧歴等）がある（30%）。 D：用語の理解のためのドリル課題の取り組み実績（45%）。 【レポート課題】 CD：授業で学んだ事柄と自分の生活や将来の仕事との関わりを説明するレポート課題（25%）
テキスト	日本フードスペシャリスト協会2000年『三訂 食品の消費と流通』建帛社
参考書	齋藤訓之 2010年『食品業界のしくみ』ナツメ社
履修上の注意	ZOOMの記録（動画、音声）を授業後にClassroomで配布するので復習に活用すること。
アクティブ・ラーニング	
I C T・オープンエデュケーションの活用	Classroom、ZOOM

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	食専：選択
担当教員			
齋藤訓之			
ナンバリング：N28C45	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	食は誰にとっても身近な物であり行動であるが、現代の食産業は巨大かつ複雑で、食業界の全体像はつかみにくい。食の専門家を目指す学生がこの大きくとらえどころのないものを理解する手がかりとして、食産業でこれまでに起こった革新を振り返りながら、最新の動向も併せて、現代の食業界を構成する各分野のプレイヤーの技術、戦略、課題を解説する。 (授業目標) ○C：食分野で現在および将来に求められる商品・サービスを、一時の流行に対応するのではなく、食業界全体の趨勢の中での長期的な戦略と必要な技術を踏まえて検討することができる。 ◎D：食業界を構成する企業等の組織のあらまし、食産業の基本的な技術とその意義、食市場の変遷を簡潔に説明できる。
授業計画	<p>1 食産業史の外観：商品・店舗の近代化に見るフードサービスの狙い（ICT：Classroom） 近現代のフードサービスの進歩・変化から、フードサービスを巡る環境と狙うものを明らかにする。</p> <p>2 創造・制御系・標準化（ICT：Classroom） 業務を機能別に分類し、それぞれの役割を明らかにする。</p> <p>3 原料の調達（1）（ICT：Classroom） 穀物、野菜、林産物の生産、流通、調達の動向について学ぶ。</p> <p>4 原料の調達（2）（ICT：Classroom） 乳、乳製品、食肉、水産の生産、流通、調達の動向について学ぶ。</p> <p>5 原料の調達（3）（ICT：Classroom） スパイス、ハーブ、茶、コーヒー、食用塩、鉱物類の生産、流通、調達の動向について学ぶ。</p> <p>6 業界動向（ICT：Classroom） 製造、流通業（卸売業、小売業）、外食の基本的な戦略と動向について学ぶ。</p> <p>7 商品動向（1）（ICT：Classroom） 飲料系商品のヒット商品分析と開発動向について学ぶ。</p> <p>8 商品動向（2）（ICT：Classroom） 菓子のヒット商品分析と開発動向について学ぶ。</p> <p>9 商品動向（3）（ICT：Classroom） 冷凍食品のヒット商品分析と開発動向について学ぶ。</p> <p>10 商品動向（4）（ICT：Classroom） 調味料、びん詰め・缶詰・レトルト食品のヒット商品分析と開発動向について学ぶ。</p> <p>11 健康・安全確保の取り組み（ICT：Classroom） 食関連企業の健康志向への対応と、食品安全の確保について学ぶ。</p> <p>12 食のダイバーシティとバリアフリー（ICT：Classroom） 食関連企業の多様な思想・宗教・信条、多様な身体的特徴にどのように対応するかについて学ぶ。</p> <p>13 CSRからSDGs実現へ（ICT：Classroom） 食関連企業の環境への対応、人権の尊重、コンプライアンス経営の動向について学ぶ。</p> <p>14 広報とブランディング（ICT：Classroom） 食関連企業の広報（public relations）およびブランド構築と管理について学ぶ。</p> <p>15 ICTとロボティクス（ICT：Classroom） 食関連企業のICT、ロボティクスの活用動向と将来について学ぶ。</p>
学習成果・到達目標・基準	○C：食分野の商品に接したとき、どのような生産・流通を経て販売・消費されるものかを、一般的な知識に照らして推測することができる。 ◎D：食関連産業で日常使われる用語（食関連の専門メディアの記事に頻出する語句等）を理解していて、専門外の人に正しく説明できる。
事前・事後学習	事前学習：Classroomで示す資料を熟読・理解し、質問したい項目を整理する。適宜参考書の関連事項にも当たることが望ましい（70分程度）。 事後学習：Classroomで出題する課題に遅滞なく取り組む。適宜参考書の関連事項にも当たることが望ましい（90分程度）。 授業で学んだことを机上の話として理解するだけでなく、その事例を実際の生活や他の実習の中にも見出すようにすること。気づいた事柄はメモする（日常の行動の中で合計20分以上を目処に能動的に観察を行う）。
指導方法	授業は写真、図解、ビデオなどのビジュアルエイドも取り入れたレクチャーを主体とする。遠隔授業にはZOOMを利用する。 フィードバックの仕方：①毎回の授業後にClassroomを使って授業の感想、理解した事柄、要望等を書き込む。

	②要望や質疑応答に対応し、フィードバックする（「成績評価の方法・基準」の【授業ごとのClassroom活用と小課題】参照）。
アセスメント・成績評価の方法・基準	以下の各項によって評価を行う。アルファベットはディプロマポリシーの該当項目を指す。（）内のパーセンテージは配点を示す。 【授業ごとのClassroom活用と小課題】 C：授業ごとにその授業で学んだポイントを列挙し、自分にとっての重要点、所感、質問を記述し、Classroomを使って提出する。授業ごとのClassroom活用実績（資料閲覧歴等）がある（60%） 【レポート課題】 CD：授業で学んだ事柄と自分の生活や将来の仕事との関わりを説明するレポート課題（40%）
テキスト	本授業専用資料をClassroomで提示・配布する。
参考書	日本フードコーディネーター協会『フードコーディネーター教本2019:3級資格認定試験対応テキスト』柴田書店 日本フードスペシャリスト協会2000年『三訂 食品の消費と流通』建帛社 齋藤訓之 2010年『食品業界のしくみ』ナツメ社
履修上の注意	ZOOMの記録（動画、音声）を授業後にClassroomで配布するので復習に活用すること。
アクティブ・ラーニング	
I C T・オープンエデュケーションの活用	Classroom、ZOOM

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	食専：栄必修
担当教員			
大野治美			
ナンバリング：N17C44	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>食材が調理によって変化する現象を理解する。実験を通して調理に伴う現象を的確につかみ、それを意識化・数量化し、調理のコツや再現性を確認する。また、調理学実習との関連性を考えつつ、実践に役立つ理論、考察を養うことができる。実験や調理の基礎的な技術が修得出来る様な授業内容である。</p> <p>(授業目標) 調理を行う際に必要となる調理操作、調理工程、衛生面や安全性を遵守することも栄養士にとって大切な技術である。毎回の実験を通して確認する。</p> <p>◎B：実験を通して、協調性・コミュニケーション力を養うことができる。 ○D：実験で学んだ知識を、その他の調理へ応用展開できる。 E：実験で得られた結果を分析し、調理の理論とコツを論理的にプレゼンテーションできる。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション（オンライン授業 ZOOM） 調理の意義・目的、実験の心得、レポートの書き方など</p> <p>2 計量・計測に関する実験（対面実験） 食品の目安量の把握、目ばかり・手ばかり</p> <p>3 調理の五感を鍛える実験（オンライン動画配信） 味覚の識別体験、官能評価について</p> <p>4 調理機器の特徴を理解するための実験（対面実験） 電子レンジの特徴・電子レンジの調理</p> <p>5 米の実験（オンライン動画配信） 米の種類（うるち米、もち米）・浸漬による吸水量、しん粉だんご生地へのこね回数と副材料の影響</p> <p>6 小麦粉の実験（対面実験） クッキーの性状に及ぼす材料配合の影響</p> <p>7 砂糖の実験（オンライン動画配信） 砂糖溶液の加熱変化と性状、砂糖衣、フォンダン</p> <p>8 野菜の実験（対面実験） 生野菜の吸水と放水、野菜の色とpH</p> <p>9 果物の実験（オンライン動画配信） ゲル化剤の調理特性、たんぱく質分解酵素による影響</p> <p>10 肉の実験（対面実験） ハンバーグステーキに加える副材料の影響</p> <p>11 魚の実験（オンライン動画配信） 煮魚の実験</p> <p>12 卵の実験（対面実験） 卵の熱凝固性、希釈卵液のゲル化とテクスチャー</p> <p>13 マヨネーズの実験（オンライン動画配信） 卵黄の乳化性とマヨネーズの調製</p> <p>14 課題まとめ・発表準備</p> <p>15 発表（グループワーク・プレゼンテーション） 実験を通して理解したことを各自でまとめ、発表する</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>◎B：班員と協力しながら、実験を的確に実行できる。 ○D：調理の様々な現象を科学的に捉え、原理・原則が理解できる。 E：調理のコツを理解し、自らの表現で、相手に分かりやすいプレゼンテーションができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：あらかじめ授業計画を確認し、調理学や食品学等の教科書に目を通しておくこと。 また、実験手順を確認しておくこと。 事後学習：実験レポート作成において、図書館などで資料を調べた上で、参考文献を明記すること。 インターネットなどの引用は認めない。</p>
指導方法	<p>◆Classroomによる動画配信遠隔授業と対面による実験を交互に行うため、授業の順番は前後する。 レポートは対面授業のときに、両方まとめて提出すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験手法をデモンストレーションに沿って解説する。 ・基本的な調理方法や実験器具の取り扱い方、濃度の求め方など、その都度確認しながら授業を進める。 ・授業の目的に沿ってグループごとに実験・実習を行う。 ・実験結果に基づいて、各自考察を加えた実験レポートを提出し、理解度を確認する。

	<p>・授業内で行う確認テストによりクラス全体の理解度を確認しながら指導をする。</p> <p>フィードバックの仕方：①レポート提出②レポート評価およびコメント③授業内および授業外での質疑応答</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>◎B：受講態度やグループ内での授業貢献度を評価する。</p> <p>○D：レポートや小テスト、発表内容から理解度を評価する。</p> <p>E：グループワーク・発表での発言等、積極性を評価する。</p> <p>*授業への貢献度・積極性 20%、実験レポート60%、確認テスト20%をルーブリックに沿って総合的に評価する</p>
テキスト	実験テキストを配布する。
参考書	食品成分表、調理のためのベーシックデータ、『調理学』全般
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・計算作業を行うので、電卓を用意すること。携帯電話は使用禁止。 ・授業中は、携帯電話の使用は禁止する。ただし、実験結果の写真を撮りたい場合は、教員に申し出ること。必要に応じて、携帯の使用を認める。 ・コロナ感染予防のマニュアルを遵守し、実験・試食をすること。原則マスクを着用し、手指消毒などの衛生管理を徹底する。 ・実験・実習中は指定された身なりを整え、爪は短く切り、マニキュアはしない。 ピアス、ネックレス、指輪、つけまつげ等はすべて外すこと。 ・包丁などの刃物や火の取り扱いには十分に気をつけ、担当者の指示に従い安全に留意すること。 ・包丁が必要な回には包丁を持参する。 ・食物アレルギーの有無については、授業前の調査に基づき対応する。アレルギーの程度によって調理担当変更、見学、試食を避けるなど、各自で判断する。欠席などの対応については、事前に教員に申し出ること。
アクティブ・ラーニング	実験、グループワーク、プレゼンテーション
I C T・オープンエデュケーションの活用	Classroom, ZOOM

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	食専：選択
担当教員			
大塚公子			
ナンバリング：N28C47	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>洋菓子を中心とした製菓の実習を通してそれぞれの菓子の由来や歴史、素材の知識、作り方、器具の扱い、デコレーション等を総合的に学ぶ。デモンストレーションの後、班で協力して作品を仕上げる。盛り付けはデモも参照しながら班独自の工夫をし、発想力、応用力を養う。</p> <p>(授業目標) 製菓の基礎的知識と技術を修得し、他の授業とも関連付けながら学びを深め、幅広い「食」と「職」への意識を高める。</p> <p>A：積極的に実習に関わり、班で協力しながら作品づくりに臨み、チームワークを築くことができる。 ◎D：製菓の基礎的知識を学び、素材の調理科学や道具の扱いを理解している。 作業工程で学んだ事、疑問に思った事を考察し、理論付けて表記することができる。 ○E：基本的な製菓の生地作り、相応しい盛り付け、応用力を身に付ける。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション・クレープ（2種）・フルーツ羹（オンライン動画） 授業の進め方と教室の説明 クレープの由来と製法のポイント、フライパンの扱いと焼き方、巻き方や具材のアレンジ 寒天・小麦粉の性質と扱い</p> <p>2 スコーン・ババロア（対面実習） スコーン・ババロアの由来と製法のポイント、めん棒と抜型の扱い方、卵の凝固温度、伝統的な頂き方 ゼラチン・生クリーム等の性質と扱い、泡立て方と適した泡立ちについて</p> <p>3 だら焼き・串団子2種（オンライン動画） だら焼き、団子の由来と製法のポイント、蒸し器の扱い方、デンプンの構造と違い 和菓子素材ーその① 小豆餡について</p> <p>4 ピッツア・かぼちゃのプリン（対面実習） 発酵生地の製法とポイントーその①、生地のおね方と発酵方法の色々、裏ごしのやり方 トマトソースの作り方、カラメル製法と温度による違い イーストの性質と扱い</p> <p>5 肉まん・月餅風クッキー（オンライン動画） 発酵生地の製法とポイントーその②、二次発酵について、中華セイロの扱い、生地の包み方 中華菓子について、油脂・ナッツ・ドライフルーツの種類</p> <p>6 シュークリームとその応用（対面実習） シュー生地の製法とポイント、絞り袋の扱いと絞り方、具材のアレンジ、卵の性質と扱い</p> <p>7 チョコレート菓子・マフィン（オンライン動画） チョコレートの性質と扱いーその① テンパリングの基本 マフィンの製法と具材のアレンジ</p> <p>8 フルーツケーキ・季節のコンポート（対面実習） バターケーキの製法とポイント フルーツケーキの由来について、バターケーキの種類、漬け込みフルーツの作り方、焼き型の種類 コンポートの製法と保存法、応用について バターの性質と扱い</p> <p>9 ロールケーキ・ビスコッティー（オンライン動画） 別立て法によるスポンジ生地の製法とポイント バタークリームの製法 メレンゲの種類について ビスコッティーの由来と保存法</p> <p>10 ショートケーキ・バニラキプフェル（対面実習） 共立て法によるスポンジ生地の製法とポイント、クリームの扱いと塗り方、各台で自由にデコレーション 生クリームの性質と扱い 機器使用による作業の簡便化について</p> <p>11 わらび餅・かりんとう・タルト生地の仕込み（オンライン動画） わらび餅、かりんとうの製法とポイント 和菓子素材についてーその② パートシュクレ・パートブリゼの製法と違いについて</p> <p>12 キッシュ・フォンダンショコラ（対面実習） キッシュの由来と製法のポイント、具材のアレンジ、生地伸ばし方と敷き方、重石の使い方 チョコレートの性質と扱いーその②</p> <p>13 キャラメルりんごタルト・レアチーズケーキ（オンライン動画） タルトの由来と製法のポイント アーモンドクリームの製法</p>

	<p>14 チーズの種類について 実技課題（スポンジケーキ）・簡単おやつ（ビスケットサンド・苺大福）（対面実習） これまで学んだ技術を生かし、デモンストレーションの後、1人ずつスポンジケーキを作製する 合間に市販品も利用した短時間でできるアレンジ菓子を作る</p> <p>15 日本のおやつ（おやき・桜餅・さつま芋の茶巾・ヒラヤーチー）（オンライン動画） 昔ながらの日本のおやつの製法とポイント、地域の風土や文化に根付いた郷土のおやつの色々 それぞれの由来と素材について、電子レンジの加熱について</p>
学習成果・ 到達目標・基準	<p>A：進んで実習に関わり、協力しながら作品を仕上げ、チームワークに貢献できる。</p> <p>◎D：基本的な生地作り方や素材・道具について、何を使ってどのように作られているかを理解している。 実習で学んだポイントや疑問を自分の言葉でまとめ、表記することができる。</p> <p>○E：製菓の基本動作（泡立てや混ぜ、加熱や冷却の加減等）を実践できる。また、盛り付けを工夫できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：シラバスに沿って実習していくので、その日の内容について調べ、質問事項があれば準備しておく。</p> <p>事後学習：授業で学んだ事柄やポイントを記憶が新しいうちにレシピやノートにまとめる。自分が関われなかった、あるいはうまくできなかった作品を再度作ってみることで、より理解が深められる。</p>
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の順番は学籍番号のグループによって前後する。Classroomへのデモンストレーション動画配信によるオンライン授業と対面による実習を交互に行う。 ・講義とデモンストレーションの後、班に分かれて実習を行う。 ・作業工程及び作品を総合的に評価・撮影した後、試食と片付けを行う。点検を受けてから班ごとに終了する。 ・実習ごとに評価表を提出（当日～次回授業前まで）、理解度を確認して採点する。 <p>フィードバックの方法：①授業中の質疑にはその都度対応し、アドバイスをを行う。②評価表提出→採点后コメントを付けて返却する。③授業後にその他の質疑応答を行う。</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>A：受講態度・班での貢献度を評価する。ルーブリックに沿って評価する</p> <p>D：講義と実習の理解度を提出課題により評価する。</p> <p>E：実技課題により評価する。</p> <p>評価表50% 実技課題20% 実習貢献度20% 受講態度10%</p>
テキスト	特に無し。毎回レシピを配布する。
参考書	
履修上の注意	<p>身なりの衛生に留意し、怪我のないようにすること。</p> <p>共同作業のため、思いやりの気持ちを持って臨むこと。</p> <p>作品の撮影は許可するが、それ以外の携帯電話の使用は禁止する。</p> <p>食品アレルギー等がある場合は事前に申告すること。</p>
アクティブ・ラー ニング	実習、プレゼンテーション
I C T・オープン エデュケーション の活用	Classroom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	食専：選択
担当教員			
渋谷一春、保阪修			
ナンバリング：N28C48	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>専門店のシェフの食材料に対する知識とこだわり、調理技術、盛り付けのテクニック、食材料や味の組み合わせなどをプロから学び、フランス料理、中国料理の様式別に毎回2～3品を調理する。 フランス料理：渋谷 一春 中国料理：保阪 修 (授業目標)</p> <p>家庭料理とは違うプロの技と味を体験し、応用的知識と感性に磨きをかけ、一段上の調理技術を修得する。 ◎A：班における自分の役割を理解し適切な調理作業で衛生的にかつ安全に実習をやり遂げることができる。 ◎D：フランス料理、中国料理の加熱や調味の手法、メニュー作成方法のポイントが説明できる。メニューの名称と意味を理解することができる。料理を自分の料理として表現し美しく盛り付けることができる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス（オンライン動画配信） 西洋料理、中華料理について、調理技術や方法を理解する。 授業の受け方やレポート提出方法、評価等について理解する。</p> <p>2 フランス料理1（実習）（担当：渋谷） メニュー：野菜スープ 若鶏のロースト クレープ 赤いベリー添え 内 容：フランス料理概要、食事様式説明、前菜、メインディッシュ、温製デザート実習</p> <p>3 フランス料理2（オンライン）（担当：渋谷） メニュー：トマトの Pasta 鮭のポワレ オリーブ添え エクレールコーヒー風味 内 容：魚の加熱と付合せ、シュー生地利用フィンガーフード実習</p> <p>4 フランス料理3（実習）（担当：渋谷） メニュー：鴨胸肉ローストきのこ添え グラタンフィノア パンド ショコラ 内 容：鴨肉ローストとポテトグラタン、チョコレートケーキの実習</p> <p>5 フランス料理4（オンライン）（担当：渋谷） メニュー：ホタテ貝網焼きとクリュディテ 鱈とポテトのサフラン煮 クスクス添え チョコレートのムース 内 容：魚の煮込み料理と付合せ実習 ムースとココナッツ焼き菓子実習</p> <p>6 フランス料理5（オンライン）（担当：渋谷） メニュー：鶏のカレー煮 グリーンサラダ ルレフランボワーズ 内 容：鶏肉の煮込み、温野菜実習、ラズベリーのロールケーキ</p> <p>7 フランス料理6（オンライン）（担当：渋谷） メニュー：グラタンリヨネーズ鶏むね肉湯煮とクリュディテ りんごのクランブル 内 容：温製りんごと木の実クッキー実習</p> <p>8 フランス料理7（実習）（担当：渋谷） メニュー：ポテトサラダとポーチドエッグ 豚フィレ肉のソテー フランボワーズのムース 実技確認 内 容：フランス料理含めウエスタンススタイル料理全般の食事様式について質疑応答、まとめ</p> <p>9 中国料理1（実習）（担当：保阪） メニュー：広東風かにたま マーボードーフ 内 容：中国料理の歴史について、料理名、食材の中国表記、メニューの作り方等の講義 基本的な卵料理と点心の基礎の実習、野菜の切り方と片栗粉のとめ方の実習</p> <p>10 中国料理2（オンライン）（担当：保阪） メニュー：エビシューマイ カニ爪のすり身揚げ マンゴープリン 内 容：点心の基礎の実習、野菜の切り方とデザートの実習</p> <p>11 中国料理2（実習）（担当：保阪） メニュー：広東風五目焼きそば 棒棒鶏 内 容：野菜の切り方</p> <p>12 中国料理3（オンライン）（担当：保阪） メニュー：水餃子 カキの煎り焼きからしソース タピオカココナッツ 内 容：中国点心の実践</p> <p>13 中国料理4（実習）（担当：保阪） メニュー：エビのマヨネーズ風味 春巻き 湯麺 内 容：エビの下処理の仕方と前菜の実習、中国点心の実践</p> <p>14 中国料理5（オンライン）（担当：保阪） メニュー：広東風鯛のお刺身 牛ロースの中国風ステーキ トウチソースかけ 内 容：魚の下ろし方とステーキの焼き方の実</p> <p>15 中国料理6（実習）（担当：保阪） メニュー：広東風かにたまとマーボードーフの技術の確認 内 容：まとめ、意見交換会、社会人になる為の心構え等</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>フランス料理、中国料理の基礎知識や様式を理解し、加熱や調味の手法を知る。グループによる調理実習からチームワークと調理技術を身に付ける。 ◎A：班単位の実習、自分の役割やメニューを理解し、調理実習を通じてチームワークを身につけ作品を作る</p>

	<p>ことができる。</p> <p>○D：専門的な加熱や調味の手法、料理を学び、フランス料理、中国料理の基礎を身につける。代表的なメニューを作成し調理、盛付けができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：事前にテキストでメニュー、作り方等を確認し、料理について調査する。</p> <p>事後学習：実習後はテキストを再確認し、担当しなかった料理を作ってみること。</p>
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の順番は学籍番号のグループによって前後する。Classroomへのデモンストレーション動画オンデマンド配信によるオンライン授業と対面による実習を交互に行う。 ・デモンストレーション⇒5～6人のグループ別に調理⇒盛りつけ⇒評価⇒試食⇒片付け ・調理の基本である安全面・衛生面の徹底 <p>フィードバックの仕方：①実習、②レポート提出、③評価およびコメントして返却、④授業中および授業後の質疑対応</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>A：筆記試験は行わず、授業態度、グループ内での授業貢献度を評価する。</p> <p>D：課題レポートなどで知識や理解度を評価する。実習時の調理作品、実技試験で評価する。</p> <p>受講態度50%、課題レポート25%、実技試験25%の配分でルーブリックに沿って評価する。</p>
テキスト	プリントを配布する。
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	<p>食関係の仕事に就職を希望する人は、履修することをお勧めします。定員25名とする。</p> <p>選択科目ですが、実習費を納めた後には履修取り消しすることができません。</p> <p>新型コロナ感染予防のマニュアルを遵守し、調理・試食すること。</p>
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	Classroom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	食専：選択
担当教員			
村上佐恵子			
ナンバリング：N28C52	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>学校や社会で学んだ知識や技術を活かして、社会で自立して生きる具体的な方法の一つである「飲食店経営の開店計画」をテーマに、個性を活かした集客力ある飲食店の空間デザインのコツを学びます。食空間をマイクロ（お皿の上）からマクロ（店舗全体の空間）まで引き伸ばし、共通した強いコンセプトを持ってデザインすることを学びます。</p> <p>フードコーディネーター資格取得の学修にも対応した内容の授業です。</p> <p>(授業目標)</p> <p>飲食店開店に向けた具体的な企画能力を、模型作成を通じ総合的に身につける。</p> <p>○C：授業を通して学んだ食の世界の知識や技術を、自らの言葉に置きかえてまとめることが出来る。また飲食店経営の実現に際し、飲食店のアドバイザーとして活躍するときに役立つ、繁盛する食空間づくりの基本的なセオリーを文章で伝えることが出来る。</p> <p>◎E：自分のアイデアを概要図面や模型という具体的な視覚的表現で構成して提案・検討出来る能力を身につける。</p>		
授業計画	1	自宅兼用飲食店・マイショップ経営の魅力 自立する生き方を実現できるマイショップの魅力について マイショップで成功した人々から学ぶ開業のコツ あなたの好きなこと、興味あることから発想する	
	2	成功する個性的な飲食店づくり（実習） イメージボードの作成 経営テーマの決定 テーマを具体化させる店舗コンセプトづくり イメージの収集	
	3	空間計画のコツ①（実習） 空間構成配置を考える	
	4	空間計画のコツ②（実習） 顧客導線と働き手の動線計画	
	5	立体で考える①（実習） 図面をトレースして床を作る	
	6	立体で考える②（実習） 壁面デザインを作る 窓を作る	
	7	立体で考える③（実習） 家具のデザイン 家具を作る	
	8	立体で考える④（実習） 機器類のデザイン 機器類を作る	
	9	立体で考える⑤（実習） 色彩計画 インテリアデコレーション計画の作成 全体の色彩を考える	
	10	立体で考える⑥（実習） 色彩計画 空間着彩	
	11	立体で考える⑦（実習） 色彩計画 家具・機器着彩	
	12	立体で考える⑧（実習） 外部と看板デザイン 店名を考え看板を作る	
	13	模型組立（実習） 壁や家具などを仕上げ、配置し、組み立てる	
	14	装飾物のデザイン（実習） 模型の仕上げ...壁面に装飾物を取り付ける 模型の手直し、ブラッシュアップ	
	15	発表、講評（プレゼンテーション） 最終授業日に課題成果物の最終調整と、発表・授業内展示および講評を行い、個性表現の無限の魅力と効果を確認します。	
学習成果・到達目標・基準	<p>○C：授業から学んだことを自分のコンセプトとしてまとめ、正確に伝えることが出来る。</p> <p>◎E：自分のアイデアを実現するために何を、どのように、どんな空間で提供していくのか、発想から開店までを、具体的に食空間模型づくりを通して表現することが出来る。</p>		

事前・事後学習	事前学習：授業計画や自分の学習進度を確認しながら授業内容に即した情報を、図書やインターネット等でチェックする。 事後学習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめておく。
指導方法	毎回の対面授業をzoomでライブ中継するので、オンライン授業の回はそちらで受ける事。 授業では、サンプル模型や映画や写真などの視覚教材を多用して、発想力を高めます。 各自の個性表現を大切に、一方的な知識や手法の伝達ではなく、意見や提案を検討し合いながら、発想力と説得力と具現化力を培う指導を行います。 フィードバックの仕方：①毎回授業の終わりで質疑応答の時間を設ける。②最終作品を各自に講評する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	学んだ知識や技術を活かして、実際に計画できることを目標にしていますので、試験は行いません。 C：受講態度を評価する。(20%) C：授業内容についてのレポートを評価する。(10%) E：最終提出物の模型、プレゼンテーションを評価する。(70%)
テキスト	無し
参考書	
履修上の注意	個人のセンスや技能を活かしたマイショップ経営の計画を体験しながら、自由に生きる力を身につけていきます。 既成概念にとらわれずに頭を柔らかくして、授業を楽しみながら自分の隠れた才能やセンスを発見して自立の自信をつけましょう。 資格取得へのチャレンジを積極的に応援します。
アクティブ・ラーニング	実習、プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	zoom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	食専：選択
担当教員			
村上佐恵子			
ナンバリング：N28C54	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	人を喜ばせる“おもてなし”。「飲食」のおもてなしを楽しく演出・構成するツールとして見直し、多角的にデザインします。 オリジナルの「パーティー」を作り上げることをテーマとし、創作料理と盛り付けデザイン、テーブルコーディネートとテーブル周りの演出、オリジナルのお菓子やデザート調理、招待状作成等、優れた参考事例を元に、総合エンターテインメント体験としてのフードデザインを身につけていきます。 フードコーディネーター資格取得のための学修にも対応した内容の授業です。 (授業目標) 人が集い、飲食を楽しむ「おもてなしのデザイン」について、その発想のコツと具体的で楽しい企画書のまとめ方を身につける。 ◎C：自らテーマを発想してコンセプトをまとめ、それを具現化するための計画を考えることができる。 ◎E：自分の考えを解り易く視覚的に表現する、訴求効果の高いビジュアルプレゼンテーション出来る能力を身につける。
授業計画	<p>1 楽しく美しいフードエンターテインメントの世界パーティーの実例から学ぶ「おもてなし」の表現。テーマと表現。</p> <p>2 パーティー計画①（課題解決型学習）イメージボード作りで計画立案。イメージおよび資料の収集。</p> <p>3 パーティー計画②（課題解決型学習）イメージボード、コンセプト作り。空間からの具体的なイメージ発想を文字で書く。</p> <p>4 パーティー計画③（課題解決型学習）招待状づくり。</p> <p>5 パーティー計画④（課題解決型学習）メニューづくり。</p> <p>6 パーティー計画⑤（課題解決型学習）具体的な料理のデザイン。</p> <p>7 パーティー計画⑥（課題解決型学習）料理の盛り付けデザイン。</p> <p>8 パーティー計画⑦（課題解決型学習）デザート現物づくり。現物の撮影。</p> <p>9 パーティー計画⑧（課題解決型学習）テーブルコーディネーション計画：アイデア。</p> <p>10 パーティー計画⑨（課題解決型学習）テーブルコーディネーション計画：配置。</p> <p>11 パーティー計画⑩（課題解決型学習）テーブルコーディネーション計画：描画。</p> <p>12 パーティー計画⑪（課題解決型学習）会場デザイン描画。</p> <p>13 ビジュアルプレゼンテーションシートづくり①（課題解決型学習）ビジュアルシートのレイアウト。</p> <p>14 ビジュアルプレゼンテーションシートづくり②（課題解決型学習）プレゼンテーションの文章づくり。</p> <p>15 発表、講評（課題解決型学習、プレゼンテーション）ビジュアルプレゼンテーションシートの最終調整と発表・授業内展示および講評。</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：自分のコンセプトをまとめ、正確に伝えることが出来る。 ◎E：就職活動や社会で働き出してから役に立つ、企画書表現としてのビジュアルプレゼンテーションをまとめ、発表することが出来る。
事前・事後学習	事前学習：他の授業で使用しているフードコーディネーター資格取得対応教科書の中から、この授業に役立つ項目を熟読しておくこと。また、事前に図書やインターネットで資料を良く見ておくこと。（30分） 事後学習：授業で説明した内容、事例を良く反復自習してください。（30分）
指導方法	毎回の対面授業をzoomでライブ中継するので、オンライン授業の回はそちらで受ける事。 授業では、映画や写真や現物による視覚教材を多用して、センスと発想力を高めるための基本的な知識を学ぶ講義と、各自が発想した計画を視覚表現する技術を修得する演習を複合して進めます。 一方的な知識や手法の伝達ではなく、意見や提案を検討し合いながら、発想力と説得力を培う指導を行います。

	す。 フィードバックの仕方：①毎回授業の終わりで質疑応答の時間を設ける。②「パーティーの企画書」の作品について講評を行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	学んだ知識や技術を活かして、実際に計画できることを目標にしていますので、試験は行いません。 C：受講態度を評価する。(20%) C：授業内容についてのレポートを評価する。(10%) E：最終提出物のプレゼンテーションを評価する。(70%)
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	資格とセンスを活かして、組織内でプロジェクトリーダーとして仕事を推進出来る、あるいは、独立して仕事をする女性が増えてきました。社会で自立して自由に生きる力を身につけるために、既成概念にとらわれずに、頭を柔らかくして授業を楽しんでください。 欠席せずに積極的に参加しましょう。
アクティブ・ラーニング	課題解決型学習、プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	zoom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	食専：選択
担当教員			
和崎恵子			
ナンバリング：N28C53	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>フードスタイリングをする上で必要なセッティングの基本（洋食・和食）、食文化、国内外の歳時記を学び、実習を通して食空間プロデュース、フードスタイリングを身に付ける。</p> <p>(授業目標) セッティングの基礎知識、マナー、食文化を理解し食空間プロデュースをする企画力、フードスタイリングの技術を知る B：グループワークでのプレゼンテーションで各々の役割を分担、協力する事でより良い発表ができる。 ◎D：食文化、国内外の歳時記を知り現代の食生活、食のイベントに対して理解を深めることができる。 ◎E：自分の考えをまとめ、課題に対して表現する技術を習得し、ビジュアル的にプレゼンテーションできる。フードビジネス（ホテル、レストラン）の商品開発、企画案作成ができる。</p>
授業計画	<p>1 ①、②フードスタイリング概論 ①、②フードスタイリングについての概要と必要性について学ぶ。</p> <p>2 ①食空間プロデュース概論（講義・実習対面） ②テーブルウェアについて（オンライン） ①食空間プロデュースとはどのような事をするのか、またその効果と必要性について学ぶ。 テーブルセッティングの基本の実習。 ②テーブルウェアとは何か。洋食器の基本知識。食卓装飾品について学び、その活用法を知る。</p> <p>3 ①テーブルウェアについて（オンライン） ②食空間プロデュース概論（講義・実習対面） ①テーブルウェアとは何か。洋食器の基本知識。食卓装飾品について学び、その活用法を知る。 ②食空間プロデュースとはどのような事をするのか、またその効果と必要性について学ぶ。 テーブルセッティングの基本の実習。</p> <p>4 ①センターピースについて（講義・実習対面） ②洋の歳時記を学ぶ（オンライン） 実習テーブルセッティング、プレゼンテーション） ①センターピースの役割とは。それぞれが生花を使用して、センターピースアレンジメントを作る。 各自作品をテーブルに配置して写真撮り。 ②洋の歳時記を知り、企画書を作成する。</p> <p>5 ①洋の歳時記を学ぶ（オンライン） ②センターピースについて（講義・実習対面） ①洋の歳時記を知り、企画書を作成する。 ②センターピースの役割とは。それぞれが生花を使用して、センターピースアレンジメントを作る。 各自作品をテーブルに配置して写真撮り。</p> <p>6 ①季節のイベントのテーブルを作成（実習対面） ②料理とサービス、プロトコール（オンライン） ①テーブルセッティングの実習。 ハロウィン、サンクスギビングなど、季節のイベントのテーブルの企画書作成、テーブル作成、発表、写真撮影。学生評価も加味したうえで学園祭出展作品を選定する。 ②料理メニューの書き方、サービスの仕方。プロトコールの基本を学ぶ。</p> <p>7 ①料理とサービス、プロトコール（オンライン） ②季節のイベントのテーブルを作成（実習対面） ①料理メニューの書き方、サービスの仕方。プロトコールの基本を学ぶ。 ②テーブルセッティングの実習。 ハロウィン、サンクスギビングなど、季節のイベントのテーブルの企画書作成、テーブル作成、発表、写真撮影。学生評価も加味したうえで学園祭出展作品を選定する。</p> <p>8 ①日本の食卓の基本（講義対面） ②和の歳時記と行事食（オンライン） ①和食の成り立ちと和食の形態を知る。本膳形式、懐石、会席料理の違いを知る。 ②五節句の行事食とコーディネート学ぶ。四季の折々の特徴的料理を調べる。</p> <p>9 ①クリスマスとパーティプロデュース（オンライン） ②日本の食卓の基本（講義対面） ①パーティの基本的考え方と企画の立て方。 クリスマス市場のリサーチ（今年のクリスマスケーキの特徴、売れ筋）レポート提出。 ②和食の成り立ちと和食の形態を知る。本膳形式、懐石、会席料理の違いを知る。</p> <p>10 ①クリスマステーブル作製（実習対面） ②クリスマスとパーティプロデュース（オンライン） ①クリスマステーブル作製、発表、写真撮り、企画書提出。パーティプラン発表。 テーブルセッティングの実習。学生評価も加味したうえでクリスマス展示テーブルの選定をする。 ②パーティの基本的考え方と企画の立て方。 クリスマス市場のリサーチ（今年のクリスマスケーキの特徴、売れ筋）レポート提出。</p> <p>11 ①正月祝い膳（オンライン） ②クリスマステーブル作製（実習対面）</p>

	<p>①日本人にとっての正月祝い膳の意味を考える。 全国のお雑煮のレポート、お正月、おせち料理のレポート。</p> <p>②クリスマステーブル作製、発表、写真撮り、企画書提出。パーティープラン発表。 テーブルセッティングの実習。学生評価も加味したうえでクリスマス展示テーブルの選定をする。</p> <p>12 ①ティーテーブルとおもてなしの仕方（講義・実習対面） ②正月祝い膳（オンライン） ①英国紅茶のセッティングとおもてなし方法を実習体験する。 セッティングされたテーブルの中より各自、スタイリング写真を撮る。</p> <p>13 ②日本人にとっての正月祝い膳の意味を考える。 全国のお雑煮のレポート、お正月、おせち料理のレポート。 ①バレンタインデーの意味を知る（オンライン） ②ティーテーブルとおもてなしの仕方（講義・実習対面） ①バレンタインデーの意味を理解したうえで、各自チョコレートフードスタイリングを発表する。</p> <p>14 ②英国紅茶のセッティングとおもてなし方法を実習体験する。 セッティングされたテーブルの中より各自、スタイリング写真を撮る。 ①バレンタインのテーブル作製（実習対面） ②バレンタインデーの意味を知る（オンライン） ①バレンタインのテーブル作製、発表、写真撮り、企画書提出。 グループワーク・プレゼンテーション、最優秀グループを選定する。</p> <p>15 ②バレンタインデーの意味を理解したうえで、各自チョコレートフードスタイリングを発表する。 ①和の歳時記と行事食（オンライン） ②バレンタインのテーブル作製（実習対面） ①五節句の行事食とコーディネート学ぶ。四季の折々の特徴的料理を調べる。 ②バレンタインのテーブル作製、発表、写真撮り、企画書提出。 グループワーク・プレゼンテーション、最優秀グループを選定する。</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>B：グループワークでの発表により各々が役割、分担を理解して協力、グループでの成果を上げる事ができる。</p> <p>◎D：食文化、国内外の歳時記を知ることが出来、現代の食生活を理解できる。</p> <p>○E：自分の考えを人前でプレゼンテーションできる。また、基本のテーブルセッティングができるようになる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：実習演習に向けてイメージを形に表す写真などをスクラップしてまとめ、企画書の課題に取り組む（30分）。</p> <p>事後学習：授業に関心を持った情報をインターネットや雑誌等で調べる、授業内容をまとめる、撮影した授業写真をレジюмеに添付するなど、実践で生かせるように復習する（30分）。指示された課題やレポートに取り組む（30分）。</p>
指導方法	<p>講義と実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Classroomへの動画配信によるオンライン授業と対面による講義・実習を交互に行うため、授業の順番は前後する。 ・テキスト、レジюме、パワーポイントを使用して講義。 ・講義で理論を理解した上で実習を行い、知識の定着を行う。 ・レポートの提出を行い、企画力、知識の理解度を確認する。 ・テーブル展示を行いプレゼンテーション能力を促す。 <p>フィードバックの仕方</p> <p>①レポートを確認 ②評価し返却 ③実習ではその場で指導コメントを行い、今後の授業への関心を深め知識の定着を促す。 ④授業後に質疑応答を行う。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>B：グループワークにおける、発表の役割、協力態度を評価する。</p> <p>D：提出レポート、企画書を評価する。（課題についてよく学び、調べ考察されているか。）</p> <p>E：実習作品発表での企画書、作品、プレゼンテーションを評価する。</p> <p>授業態度 20% 制作作品 80%（レポート、企画書 50% 作品 30%）</p>
テキスト	TALK食空間コーディネーター3級 NPO法人食空間コーディネート協会著 株式会社優しい食卓
参考書	料理を美味しく演出する「盛り付け&セッティング」 メイツ出版
履修上の注意	<p>講義と実習と交互に行いますので、欠席が多いと最終作品に大きく影響が出るので遅刻・欠席をしないこと。グループでの発表に対して、グループの一員としての責任感と協調性をもって臨んでください。</p> <p>企画書の提出、テーブル作成、リサーチレポート提出など各3～4回あります。</p>
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション、実習（テーブルセッティング）
ICT・オープンエデュケーションの活用	Classroom

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	食専：栄必修
担当教員			
篠原暁子			
ナンバリング：N25C19	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ヒトの一生はライフステージ別に、妊娠期・授乳期、離乳期、幼児期、学童期、思春期、成人期（青年期・壮年期・実年期）高齢期に分けられる。それぞれの時期における身体的特性や栄養学的問題点、適切な栄養素の摂取と食生活のあり方、栄養ケアとマネジメントについて学ぶ。また、特殊環境下、スポーツ活動時における栄養管理についても学ぶ。 （授業目標） 対象者のライフステージに合わせた栄養マネジメント力を身に付け、食のプロフェッショナルとして、食を通じた健康維持・増進に関わる力を身に付ける。 A：常に問題意識をもって授業を聞き、友人の質問にも耳を傾け、自分なりの回答を試みることができる。 ○C：知識の丸暗記ではなく、新たな事柄に関し判断したり、推測したりする力を身に付ける。 ◎D：ライフステージごとの身体特性と、それぞれのステージで食事摂取基準が定められている理由が理解できる。それを基礎に各ステージでの、食生活における問題点、適切な栄養素の摂取と食生活のあり方が理解できる。また、特殊環境下やスポーツ活動時の身体状況の変化について理解し、栄養学的対応方法についても理解できる。
--	--

授業計画	1 成長・発達・加齢(老化) (ICT：Classroom) 応用栄養学の基礎となるヒトにおける生命現象の流れ(ライフサイクル)を学ぶ。成長・発達・加齢さらに老化の定義を学び、ライフステージ別栄養学理解のための基礎を学ぶ。 2 栄養必要量の科学的根拠 (ICT：Classroom) 食事摂取基準策定の歴史、概要について学ぶ。2020年版における、各栄養素ごとの策定の根拠について学ぶ。 3 栄養マネジメント (ICT：Classroom) 栄養スクリーニング、栄養アセスメントの実際とその手順について学ぶ。栄養プログラムの目標設定、立案、実施と評価方法と、評価のフィードバックに関しても併せて学ぶ。 4 妊娠期の栄養 (ICT：Classroom) 妊娠期の母体と胎児の生理学的特徴を学び、妊娠に起こりやすい栄養学的問題とその評価法・解決法について学ぶ。 5 授乳期の栄養 (ICT：Classroom) 授乳期の女性の生理学的特徴、母乳分泌の機序、授乳婦に起こりやすい栄養学的問題に関して学ぶ。授乳期の栄養ケアについて併せて学ぶ。 6 乳児期の栄養 (ICT：Classroom) 乳児期の発育・発達、生理的特徴と、乳児に関する栄養アセスメント法について学ぶ。出生時・乳児期に起こりやすい栄養学的問題に関し学ぶ。母乳と人工栄養の特徴、調乳方法、乳児期の栄養補給法に関して学ぶ。乳児期の食事摂取基準を学び、離乳の目的、離乳の進め方について学ぶ。 7 幼児期の栄養 (ICT：Classroom) 幼児期の発育・発達とその評価法を学ぶ。幼児期に起こりやすい栄養学的問題として特に発育障害とアレルギーについて学ぶ。幼児期の食事摂取基準について学ぶ。 8 学童期の栄養 (ICT：Classroom) 学童期の成長・発達の特徴と、アセスメント法について学ぶ。小児期生活習慣病に関する理解を深める。 9 思春期の栄養 (ICT：Classroom) 思春期の成長・発達の特徴と、アセスメント法について学ぶ。スパートの時期の栄養に関して考える。 10 成人期の栄養 (ICT：Classroom) 成人期(青年期・壮年期・実年期)の身体的特性、食生活の特徴から生活習慣病のリスクに関して学ぶ。生活習慣病の現状について学び、その予防・対策に関して考える。 11 更年期の栄養 (ICT：Classroom) 更年期の生理学的特徴とそれに伴う栄養学的問題について学び、栄養ケアのあり方に関して考える。 12 高齢期の栄養 (ICT：Classroom) 高齢期の加齢・老化に伴う生理学的特徴を学び、アセスメント法、高齢期に多い栄養学的問題に関して学ぶ。さらに、食事摂取基準、栄養ケアに関して学ぶ。 13 障がい者と栄養 (ICT：Classroom) 障がい者の栄養学的特徴、必要な配慮について学び、さらに障がいを持つ人に食事を提供する際の栄養ケアのあり方を学ぶ。 14 運動・スポーツと栄養 (ICT：Classroom) 運動時の生体反応について学び、一般人・アスリートにおける運動と栄養との関係について学ぶ。 15 環境と栄養 (ICT：Classroom) 高温・低温、高圧・低圧等、特殊環境下におけるヒトの生理学的状態を学び、栄養学的対応を考える。
------	--

学習成果・到達目標・基準	A:主体的に授業に参加し、疑問が有るときは積極的に質問することができる。 ○C:生体反応と栄養ケアの必要性の関連を理解できる。 ◎D: ライフステージごとの適切な栄養素の摂取と食生活のあり方、特殊環境下やスポーツ活動時の身体変化を理解できる。
事前・事後学習	事前学習:各回の内容について、教科書を事前に読んでくる。(60分程度) 事後学習:授業で提示された課題に取り組み、理解を深める。(120分程度)
指導方法	・教科書を中心に、パワーポイント、および資料を配布して授業を行う。 ・対面授業を毎回ライブ配信しますので、オンライン受講の学生はzoomで参加する事。 ・小テストを行い、理解度を確認する。 ・演習、課題作成を通じて理解を深めることができるよう指導する。 フィードバックの仕方:①資料を配布②小テスト③課題作成④評価・コメント⑤授業内外での質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	A:受講態度・課題提出状況により評価する。 C:課題提出・小テスト、定期試験により評価する。 D:課題提出・小テスト、定期試験により評価する。 定期試験 70%、課題・小テスト 15%、受講態度 15%
テキスト	「Nブックス 応用栄養学概論」渡邊早苗・松田早苗・真野由紀子編 建帛社 日本人の食事摂取基準(2020年版) 菱田明・佐々木敏 監修 第一出版
参考書	日本人の食事摂取基準(2020年版)の実践・運用 食事摂取基準の実践・運用を考える会編 第一出版 栄養士実力認定試験過去問題集:全国栄養士養成施設協会編、建帛社
履修上の注意	・授業中は他の人の迷惑にならないよう授業態度に注意すること。 ・携帯電話を授業に関係のない目的で使用した場合、減点対象とする。 ・課題の提出期限を守らない場合、減点対象とする。
アクティブ・ラーニング	
ICT・オープンエデュケーションの活用	Zoom、Classroom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	食専：栄必修
担当教員			
篠原暁子			
ナンバリング：N16C28	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	公衆栄養学は、集団の健康の維持・増進、疾病の予防、そして栄養・食に関わるさまざまな問題を、地域・国レベルの広い視点から捉えなければならない。授業では、わが国の健康・栄養問題の現状と課題から、栄養・食料に関する問題点、栄養疫学評価、そしてわが国の公衆栄養活動に関する行政・地域の取り組みなど、健康増進・疾病予防に関わる栄養学を公衆栄養学的視点から修得できるよう講義する。 (授業目標) ◎C：日本および世界における健康問題・栄養問題を的確に捉え、人々の健康増進について公衆栄養学的なアプローチを考察できる。 ○D：公衆栄養活動の理念を理解する。公衆栄養活動に関する健康施策を担当する行政や法規について理解する。栄養疫学調査の必要性和意義を理解し、栄養疫学的评价ができる知識を身につける。
授業計画	<p>1 公衆栄養学の概念1 (ICT：Classroom) 公衆栄養の意義と目的について学ぶ。</p> <p>2 公衆栄養マネジメント1 (ICT：Classroom) 公衆栄養マネジメントの考え方・重要性、公衆栄養アセスメントの特徴について学ぶ。</p> <p>3 公衆栄養マネジメント2 (ICT：Classroom) 公衆栄養プログラムの計画の策定、目標の設定について学ぶ。</p> <p>4 公衆栄養マネジメント3 (ICT：Classroom) 公衆栄養プログラムの実施と評価について学ぶ。</p> <p>5 栄養疫学1 (ICT：Classroom) 栄養疫学の役割、公衆栄養活動への応用について学ぶ。</p> <p>6 栄養疫学2 (ICT：Classroom) 食事調査方法の種類と特徴、食事摂取量の測定方法・評価方法について学ぶ。</p> <p>7 健康・栄養問題の現状と課題1 (ICT：Classroom) わが国の少子高齢化社会と健康・栄養問題の現状および変化について学び、今後どのような公衆栄養活動を行う必要があるか考える。</p> <p>8 健康・栄養問題の現状と課題2 (ICT：Classroom) わが国の食生活の変化、食環境の現状および変化について学び、今後どのような公衆栄養活動を行う必要があるか考える。</p> <p>9 健康・栄養問題の現状と課題3 (ICT：Classroom) わが国の食料自給率、食品ロスにおける現状および課題について学ぶ。</p> <p>10 栄養政策1 (ICT：Classroom) 公衆栄養活動の歴史、公衆栄養関連法規、わが国の公衆栄養活動について学ぶ。</p> <p>11 栄養政策2 (ICT：Classroom) 国民健康・栄養調査、食生活および健康に関連する指針、ツールについて学ぶ。</p> <p>12 栄養政策3 (ICT：Classroom) 健康日本21(第二次)、健康増進計画、食育推進基本計画について学ぶ。</p> <p>13 地域集団の特性別プログラムの展開 (ICT：Classroom) 地域特性・ライフステージに対応したプログラムの展開について学ぶ。</p> <p>14 食環境整備のためのプログラムの展開 (ICT：Classroom) 健康・食生活の危機管理と食支援、特別用途食品・保健機能食品について学ぶ。</p> <p>15 諸外国の健康・栄養政策 (ICT：Classroom) 公衆栄養活動に関係する国際的な栄養行政組織、諸外国の栄養状況と施策について学ぶ。</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：日本および世界における健康問題・栄養問題を的確に捉え問題点を考えることができる。 ○D：公衆栄養活動が社会に果たす役割を説明できる。公衆栄養活動に関する健康施策を担当する行政と法規について関連づけることができる。栄養疫学調査の必要性を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：各回の内容について、教科書を事前に読んでくる。(60分程度) 事後学習：授業で提示された課題に取り組み、理解を深める。(120分程度)
指導方法	・教科書を中心に、パワーポイント、および資料を配布して授業を行う。 ・小テストを行い、理解度を確認する。 ・演習、課題作成を通じて理解を深めることができるよう指導する。 フィードバックの仕方：①資料を配布②小テスト③課題作成④評価・コメント⑤授業内外での質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：課題提出・小テスト、定期試験により評価する。 D：課題提出・小テスト、定期試験により評価する。 定期試験 70%、課題・小テスト 15%、受講態度 15%

テキスト	「サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 公衆栄養学」 井上浩一、草間かおる、村山信子 著 (第一出版)
参考書	国民健康・栄養の現状 (第一出版) 日本人の食事摂取基準 (2020年版) (第一出版)
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は他の人の迷惑にならないよう授業態度に注意すること。 ・携帯電話を授業に関係のない目的で使用した場合、減点対象とする。 ・課題の提出期限を守らない場合、減点対象とする。
アクティブ・ラーニング	
I C T・オープンエデュケーションの活用	Zoom、Classroom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	2	1	食専：栄必修
担当教員			
伏見孝子			
ナンバリング：N25C23	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	治療食の基本である一般常食から特別治療食へ展開する方法を理解する。治療食の代表として常食、三分粥食、糖尿食、腎臓食の献立作成方法を学び、班ごとに献立を1食に絞り、その献立をもとに実習する。また、腎臓食用の特殊食品を使用した実習も行う。介護食や嚥下障害食、濃厚流動食やその他の治療用特殊食品についての扱いについての実習も行う。 (授業目標) 治療食の基礎、献立作成、調理方法を理解し、グループによる調理実習からチームワークと調理技術を身に付ける。 ○D：臨床栄養学で習う各疾患に対する食事療法の実際を学び、治療食の基礎を身に付ける。 ◎E：代表的な疾患の治療食の献立作成、調理ができる。
授業計画	<p>1 食事療法の概要と一般常食の食品構成表（全員オンライン：Classroom） 病院治療食における一般治療食と特別治療食の種類とその基本を学び、一般常食の食品構成表と献立のポイントを学ぶ。 常食の献立を考える。</p> <p>2 献立作成と発注計算 常食の献立作成と班ごとに実習用の発注計算を行う。</p> <p>3 一般常食の調理実習（実習） 前回作成した一般常食の献立を調理実習し、食欲面からの評価を行い、試食する。</p> <p>4 コントロール食の展開と軟食の献立作成 コントロール食の展開方法を学び、軟食の展開と三分粥の献立作成を行う。</p> <p>5 軟食の献立作成 軟食の展開と三分粥の献立作成を行う。</p> <p>6 三分粥、その他の特別治療食 実習用の発注計算を行う。 その他の特別治療食（胃潰瘍、潰瘍性大腸炎、クローン病、食物アレルギーなど）の特徴を学ぶ。</p> <p>7 軟食の調理実習（実習） 前回作成した三分粥の献立を調理実習する。また、分粥を実際に作りその特徴を学ぶ。</p> <p>8 糖尿病食品交換表 糖尿食の基本を理解し、糖尿病食品交換表を使いこなせるようにする。</p> <p>9 糖尿食の献立作成、その他の特別治療食 糖尿病の献立作成と実習用の発注計算を行う。 その他の特別治療食（肥満症、脂質異常症、膵臓病、肝臓病など）の特徴を学ぶ。</p> <p>10 糖尿食の調理実習（実習） 前回作成した糖尿食の献立を調理実習する。また、糖尿食用特殊食品を試食する。</p> <p>11 腎臓病食品交換表 腎臓食の基本を理解し、腎臓病食品交換表を使いこなせるようにする。</p> <p>12 腎臓食の献立作成、その他の特別治療食 腎臓病の献立作成と実習用の発注計算を行う。 その他の特別治療食（高血圧症、貧血など）の特徴を学ぶ。</p> <p>13 腎臓食の調理実習1（実習） 前回作成した腎臓食の献立を調理実習する。</p> <p>14 腎臓食の調理実習2（実習） 腎臓病用の特殊食品を使用して調理実習し、試食する。</p> <p>15 介護食、嚥下障害食、周術期食、経管栄養、きっかけ食 介護食、嚥下障害食の調理実習、濃厚流動食、特殊食品の扱い方を学び、試食・試飲する。</p>
学習成果・到達目標・基準	○D：病院治療食における一般治療食と特別治療食の種類が言える。食品構成表と献立作成のポイントが説明できる。糖尿病・腎臓病の食品交換表を使い、献立作成ができる。 ◎E：病院治療食における一般治療食の調理ができる。糖尿食・腎臓食その他の特別治療食の調理ができる。
事前・事後学習	事前学習：シラバスに沿って疾患の食事療法を学んでいくので、教科書の該当するところを事前に読んでくること。 事後学習：授業の講義で習ったことはプリントやノートのまとめで覚えるようにする。調理実習した治療食については、早めに再度自宅で作ってみると理解も調理技術も上達する。
指導方法	対面授業をライブ中継しますので、オンラインの回にはzoomで受講すること。 実習を通して、代表的な疾患の食事療法の手段としての献立の立て方、調理方法を指導する。 フィードバックの仕方：①実習ごとにレポートを提出してもらい理解度を確認する。②献立提出。③評価・コ

	メント④授業内および授業外での質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：治療食の基礎知識、献立作成、調理法の理解度など、レポート提出・定期試験で評価する。 E：調理実習貢献度を評価する。 定期試験40%、レポート提出30%、調理実習態度20%、受講態度10%
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・「実践臨床栄養学実習」長浜幸子・西村一弘・宮本佳世子編著 第一出版株式会社2017 ・「糖尿病食事療法のための食品交換表」日本糖尿病学会編 文光堂2017 ・「腎臓病食品交換表」黒川清監修 医歯薬出版株式会社2017 ・「糖尿病治療ガイド2018-2019」日本糖尿病学会編著 文光堂2017
参考書	
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1：毎回の授業で計算作業を行うので、電卓を用意すること。携帯電話は使用禁止。 2：授業中は他の人に迷惑にならないよう授業態度に注意すること。 3：実習の時は衛生に注意して、怪我をしないように注意すること。
アクティブ・ラーニング	実習
I C T・オープンエデュケーションの活用	Classroom zoom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	食専：選択
担当教員			
小川聖子			
ナンバリング：N12C03	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>日本の食文化の特色を、地理、歴史、気候、社会的・文化的な側面から解説する。さらに、中国、韓国などの日本の隣国、フランスやイタリアなどに代表される欧米の食文化の歴史とを検討し、これらが日本の食文化へ与えている影響を学ぶ。</p> <p>また、近年注目を集めているユネスコの無形文化遺産である「和食」について、その内容の詳細な解説と問題点を提起する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>食文化の理解を通じて、食という身近なことへの学術的なアプローチの方法を身につける。さらに将来の日本の食について思考を深める力を身につける。</p> <p>A：食に関する情報を日々の暮らしの中で積極的に考えることができ、活用することができる。</p> <p>◎C：現代の食と、歴史上の食とを比較し、食の変遷の様子を述べることができる。</p> <p>◎D：文献などをはじめとする資料や、具体的な食事の様子から、食文化について知識を深めることができる。</p>
授業計画	<p>1 食文化とは何か。その成り立ちと特性について 食事は、人間が生物として生命を維持するために必至の物である。そのため長らく、食が文化であるという考え方はなされてこなかった。食文化が学術として確立されたのは、今から50年ほど前に過ぎない。これらのことをふまえて、人間にとっての食文化とは何か、他の動物との違いについて、比較しながら考える。</p> <p>2 日本人と米 日本の食文化において、もっとも大きな影響を与えている食品は米である。米が重要視されるようになるまでの歴史的な背景について学び考える。また、食文化の記録や伝承は、ケの日である普段の食よりも、行事などのハレの日においてみられることが多い。米に関しても同様で、ハレの日の代表的な食品として餅がある。餅を用いた料理について日本各地の差を考え、その歴史的な背景を学ぶ。</p> <p>3 日本の行事食①—正月・桃の節句（プレゼンテーション） 江戸時代に確立された五節句は、現在の日本においても「行事食」として根付いている。行事食の第一回目として、行事食の成り立ちと、正月料理と春の七草、桃の節句などについて学ぶ。正月に誰もが経験している「雑煮」について、自己の経験をまとめてレポートにする。</p> <p>4 日本の行事食②—端午の節句・七夕・菊の節句— 同様に、端午の節句・七夕・菊の節句について学ぶ。</p> <p>5 和食の特徴とその成り立ちと歴史① 現在「和食」というカテゴリーに含まれる食事の特徴について、整理して考え学ぶ。</p> <p>6 和食の特徴とその成り立ちと歴史② 和食の元となった「本膳料理」「精進料理」「懷石」について、その特徴を一つずつ順を追って学ぶ。特に「本膳料理」は、現在の日本料理のご飯とおかずの組み合わせ、一汁三菜の始まりがみえる。日本料理ならではの形の始まりを学ぶことで、現在の自分たちの食のルーツを知る。</p> <p>7 江戸の食文化 江戸時代の江戸は、世界一の人口密集地であり、知的レベルの高い都市であった。食に関して独特の世界感があり、江戸の食文化が東日本全体へ伝播していった。「すし」「そば」「うなぎ」「天ぷら」のように現在の「和食」の代表的な料理が確立されたのもこのころである。江戸っ子の食とその特徴を学ぶ。 また、江戸時代に確立された庶民の食文化「会席」と「料亭」について学ぶ。</p> <p>8 日本料理のマナーと食文化 会席料理には、食事のマナーとして着席時の上座下座、器の扱いと箸使い、懐紙の使い方、などがある。それを踏まえて、楽しくおいしく食事をするための心遣いなどを学ぶ。</p> <p>9 嗜好品の発達—和菓子を代表として— 嗜好品は、菓子、酒、茶など、生命の維持のためには不必要なものである。しかしながら、世界の国々の中でこの嗜好品が存在しない国はないといってもよい。それはすなわち、人間が食に楽しみを求め、食が人と人とを繋げるコミュニケーションツールであることに他ならない。おもに、和菓子の発達を中心に学んでゆく。</p> <p>10 沖縄の食文化 沖縄は歴史的に見ても、独特の経緯を持って日本の食文化に取り入れられていった。栄養学的にも興味深い一面を持つと同時に、近年では食の周辺の様々な問題を抱えている。琉球時代からの沖縄の食を学ぶことで、食文化が外的な要因で変遷する経過をたどる。</p> <p>11 韓国の食文化 日本の隣国である韓国の料理について、その特徴と成り立ちを学ぶ。日本は、有史からあらゆる側面において中国文化の影響を大きく受けてきた。それらの大半は、隣国である韓国を通じてわが国にもたらされた。現在、韓国と日本の食文化には共通点も相違点もみられる。韓国の食文化を通じて、隣国の庶民文化の内容と特徴を学ぶ。</p> <p>12 中国の食文化 中国の食文化は、世界の食文化の中で最も古いものの一つで、その影響を受けた国はアジア全般にわたると言える。我が国も例外ではない。中国の現在の食の事情を知り、我が国との共通点、</p>

	<p>13 相違点などを学ぶ。 フランス料理とその食材 フランス料理は、ユネスコの無形文化遺産に食の分野では最初に登録された。その「美食文化」は、他国の文化を巧みに取り入れ、自国の食材と歴史的な背景の中で、文化として花開いたものである。それらはアジアの食文化と大きく異なる点が多い。とくに食材については、フランス国内での地域性が高く「地域の伝承料理」へのこだわりが見られる。これらについて学び、日本の食との相違を考える。</p> <p>14 フランス料理のマナー 現在フランス料理は、世界的に見ても正式・公式の食事の際に用いられることが最も多い。フランス料理のマナーについて、具体的に学び、社会人としてすぐに役立てるスキルとして身につける。</p> <p>15 ユネスコ無形文化遺産としての「和食」について 「和食」は、2013年12月、ユネスコの世界無形文化遺産に登録された。この内容を検討し、和食の伝統とは何かを示し、現実にはどのような問題点があるのかを学ぶ。また、将来に向けて自分たちが今後どのような意識を持ちつつ、食に接してゆく必要があるのか、考えてゆく。</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>A：食に関する情報を日々の暮らしの中で考えることができる。 ○C：食事が、文化としてどのように変遷してきたかについて述べるができる。 ◎D：文献や資料を自ら検索し、食文化について知識を深めることができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：新聞、書物、テレビ、インターネット、地域の広報物などに記載されている食の情報をチェックする。また、次回の講義内容に関する予習課題に取り組む。(90分程度) 事後学習：興味のある食に関する情報に関して、資料をファイリングし、要約する。(90分程度)</p>
指導方法	<p>パワーポイント、DVDなど、毎回の授業内容に適した視覚資料を用いる。 フィードバックの仕方：①教員が立案した資料をプリントし、配布を行う②レポート提出(学生)③評価およびコメント④授業後の質疑応答 毎回の対面授業をzoomでライブ中継するので、オンライン授業の回ではそちらで受講すること。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>A：毎回の授業における授業態度を評価する(30%) C：授業内において発表を行い、レポートを提出する(20%) D：定期試験を行う(50%) 配布資料をファイリングし、授業に積極的に参加すること。定期試験・レポートの内容との総合評価により判定する。</p>
テキスト	<p>授業時に、教員が作成したプリントを配布する。これを保存しファイリングしてテキストとし、予習復習する。</p>
参考書	<p>『三訂フードコーディネーター論』(公社)日本フードスペシャリスト協会編 (建帛社) 2013 『日本料理の歴史』熊倉功 吉川弘文館 『和食とは何か』江原絢子 熊倉功 思文閣出版</p>
履修上の注意	<p>普段から、自分自身の食べている食品や料理について、興味や関心を持つように心がける。 本学図書館にある、単行本・雑誌・辞書などで、食文化の授業中に習得したこと、疑問点などを調べ、自分なりに考察できるようにしておく。 遅刻・途中退出・私語・過度の居眠りなどは、授業の妨げになるので慎むこと。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>プレゼンテーション</p>
ICT・オープンエデュケーションの活用	<p>zoom</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択必修
担当教員			
別宮玲、福田博志			
ナンバリング：E26C37	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	現代の情報社会の基盤となっているネットワーク技術とセキュリティ技術を学ぶ授業である。ネットワーク技術については、室内レベルのネットワークからインターネットまで幅広く仕組みと問題点を学ぶ。セキュリティについては様々な問題、事例を学んだ後、主な対処法を身に着ける。また、ここで得た知識を活かした資格取得の方法も授業内で扱う。 (授業目標) ◎D：ITパスポート試験テクノロジー分野に相当するレベルでネットワーク、セキュリティの用語等の解説と計算ができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス／システム構成（1）(Google Classroom：事前・事後学習資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業概要 ・ システムの構成 <p>2 システム構成（2）(Google Classroom：事前・事後学習資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クライアントサーバシステム ・ 性能評価 <p>3 システム構成（3）(Google Classroom：事前・事後学習資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ システムの信頼性 <p>4 ネットワーク（1）(Google Classroom：事前・事後学習資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ネットワーク方式 <p>5 ネットワーク（2）(Google Classroom：事前・事後学習資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通信プロトコル ・ インターネットの仕組み <p>6 ネットワーク（3）(Google Classroom：事前・事後学習資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通信サービス ・ 電子メール① <p>7 ネットワーク（4）(Google Classroom：事前・事後学習資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電子メール② ・ WWW <p>8 ネットワーク（5）(Google Form:ITパスポート過去問と解説)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ネットワークに関するITパスポート過去問解説 <p>9 セキュリティ（1）(Google Classroom：事前・事後学習資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報セキュリティ <p>10 セキュリティ（2）(Google Classroom：事前・事後学習資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ユーザ認証とアクセス管理 <p>11 セキュリティ（3）(Google Classroom：事前・事後学習資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ウイルス対策 ・ ネットワークセキュリティ <p>12 セキュリティ（4）(Google Classroom：事前・事後学習資料)</p> <p>暗号化技術 デジタル署名</p> <p>13 セキュリティ（5）(Google Form:ITパスポート過去問と解説)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ セキュリティに関するITパスポート過去問解説 <p>14 アルゴリズムとプログラミング(Google Classroom：事前・事後学習資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プログラミングとデータ構造 ・ プログラミング言語 <p>15 ユーザインターフェース(Google Classroom：事前・事後学習資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ユーザインターフェース
学習成果・到達目標・基準	◎D：業務に必要なITの基礎知識を身につけ、ネットワーク、セキュリティに関する主要な用語の説明ができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の範囲の用語について、各自学習して授業に参加する。(60分) 事後学習：毎週授業開始時に、一問一答式の口頭テストを行う。前回の授業内容がテスト範囲になる為、毎週自分の言葉で用語等の説明ができるように事後学習を行う。(120分)
指導方法	講義とPCによる演習を併用する授業形式である。演習のテーマ区切りごとに総合演習による評価を行う。併せて毎週、口頭での一問一答テストも行なう。過去問演習にはGoogle Formを使用する。 フィードバック方法：一問一答式テストは、その場で正解・不正解を発表。説明を加える。過去問演習もその場で正解・不正解が表示され、解説が行われる

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D:ITパスポートのテクノロジー分野の試験問題に準拠した定期試験で評価する。併せて毎週実施する小テストの回答数及び正答数で評価する。 評価の比率は受講態度15%、小テスト 35%、総合演習 50%とする。
テキスト	令和03年 イメージ&クレバー方式でよくわかる 栢木先生のITパスポート教室(技術評論社) ※情報処理演習と同じテキストを使用する
参考書	令和03年 栢木先生のIT パスポート教室準拠 書き込み式ドリル (技術評論社)
履修上の注意	ITパスポートの試験範囲に則った授業範囲となっている。 ITパスポート試験の合格を目指す学生には是非受講していただきたい。 前回の学習内容が翌週にはすぐに小テストで確認されるため、毎週の予習・復習が重要である。 また、資格取得を希望する/しないに関わらず、「情報処理論」と併せて履修することを強く推奨する。
アクティブ・ラーニング	一問一答テスト
ICT・オープンエデュケーションの活用	Zoom, Google Classroom, Google Form

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
別宮玲			
ナンバリング：E26C41	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	世の中のアプリケーションは、それぞれ適切なプログラミング言語で作成されている。例えば、Java言語によるスマホアプリやPC用のソフトウェア開発がその一例である。本授業ではロボットPepperの制御をテーマにプログラミングを学ぶ。ここではJavaなどの命令をキーボード入力していくタイプのプログラミング言語ではなく、グラフィカルなプログラミング言語Scratchをベースとしたロボット用プログラミング言語RoboBlocksを用いる。 (授業目標) ◎E：RoboBlocksを用いて、Pepperとの受け答えをスムーズに行うプログラミングを行うことができる。		
授業計画	1	ガイダンス ・授業の方針、概要、レポート提出方法、成績評価方法を確認する。 ・環境確認 ・人間とロボットについて考える	
	2	プログラミング導入（1）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・Pepperにしゃべらせる ・Pepperを動かす ・しゃべらせると同時に動かす	
	3	プログラミング導入（2）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・タッチセンサーを使う ・音センサーで会話を行う	
	4	プログラミング導入（3）（グループワーク：自由にプログラムを作成する） （Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・絵を表示させる ・グループ発表の準備	
	5	発表（1）（グループワーク：自由にプログラムを作成する）（プレゼンテーション：Pepperを使った発表） ・グループでPepperを用いた発表を行う	
	6	プログラミング実践（1）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・音を再生させる ・音の方向と人間の顔を追跡させる	
	7	プログラミング実践（2）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・目のLEDを制御する ・同じ動作を繰り返す	
	8	プログラミング実践（3）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・ランダムで動きを変える ・変数を使う	
	9	プログラミング実践（4）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・プログラムの効率化を行う	
	10	プログラミング実践（5）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・自然な会話を作る	
	11	発表（2）（プレゼンテーション：Pepperを使った発表） ・人間とロボット共同での発表を行う	
	12	プログラミング実践（6）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・ディスプレイのタッチ機能を使う ・センサーを用いてデータを収集する	
	13	プログラミング実践（7）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・アンケートを作り調査する	
	14	プログラミング実践（8）（グループワーク：自由にプログラムを作成する） （Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・グループ発表の準備	
	15	発表（3）（グループワーク：自由にプログラムを作成する）（プレゼンテーション：Pepperを使った発表） ・グループでPepperを用いた発表を行う	
学習成果・到達目標・基準	◎E：サンプルプログラムを参照しながら簡単な繰り返し処理や分岐処理をPepperに実行させることができる。		
事前・事後学習	プログラミングに先立って、日々現れるAI関連のニュースについて扱うため、日ごろからニュースをよく見て、ノートにまとめておくこと。(30分)		

	授業で作成したプログラムは、翌週以降にも流用可能なように作られている。また、自宅からでもプログラミングは可能なため、授業後にプログラム上の不備があれば、修正しておくこと。(30分)
指導方法	サンプルプログラムを使用した講義の後、類似問題および応用問題のプログラミング演習を行う。 質問は随時受け付ける。 フィードバックの方法：通常回では、各学生PC上のエミュレータでプログラムが正常に動作しているかを評価し、結果をその場で学生に伝える。発表の回では、全学生が聞いている中での評価とアドバイスを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎E：Pepperの動作を各学生機のエミュレータ上で評価する。また個人あるいはグループの発表内容で評価する。 授業態度20パーセント、課題20パーセント、最終課題(発表)60パーセントの割合で成績評価を行う。
テキスト	独自の資料を配布する。
参考書	
履修上の注意	自宅のPCでRobo Blocksが動作することが履修上の必須条件となるため、履修登録前に必ず自宅環境での動作を確認すること。 また毎週連続した演習が続く。たとえば第3週で作成したプログラムを基に第4週のプログラムを作成する等の演習形態である。欠席した場合には、その回でどのような演習が行われたか、必ず確認し、自習して出席すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	Zoom, Google Classroom, 人型ロボットPepper及びRobo Blocks

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
別宮玲			
ナンバリング：E36C41	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	PCやスマートフォンで使用されるアプリケーションはプログラミング言語によって作成されている。この授業は最も普及しているプログラミング言語の一つであるJavaを用いてプログラミングを学ぶ演習である。基本的なプログラミング環境の確認から始まり、分岐や繰り返しといった制御方法を、サンプルプログラムを作成することで身につける。基礎を身につけた後に、簡単なゲームを作成する。 (授業目標) ◎E：既存のプログラムを参考に、分岐や繰り返し処理を行う新規プログラムを作成し実行できる。
授業計画	<p>1 ガイダンス(doko.java:プログラミング) ・授業の方針、概要、レポート提出方法、成績評価方法を確認する。 ・環境確認</p> <p>2 コンパイルと実行(doko.java:プログラミング) ・学生毎の開発環境の構築 ・コンパイル ・四則演算</p> <p>3 制御構造と変数(1)(doko.java:プログラミング) ・if文の基礎</p> <p>4 制御構造と変数(2)(doko.java:プログラミング) ・コマンド入力 ・乱数の発生</p> <p>5 制御構造と変数(3)(doko.java:プログラミング) ・if文とコマンド入力による総合的なプログラミング</p> <p>6 制御構造と変数(4)(doko.java:プログラミング) ・おみくじゲームの作成</p> <p>7 繰り返し処理(1)(doko.java:プログラミング) ・for文の基礎</p> <p>8 繰り返し処理(2)(doko.java:プログラミング) ・for文とwhile文</p> <p>9 総合演習(1)(doko.java:プログラミング) ・数当てゲームの製作</p> <p>10 配列(1)(doko.java:プログラミング) ・一次配列の演習</p> <p>11 配列(2)(doko.java:プログラミング) ・サイコロマシンの制作</p> <p>12 配列(3)(doko.java:プログラミング) ・二次配列の演習</p> <p>13 メソッド(1)(doko.java:プログラミング) ・基本的なメソッドの理解</p> <p>14 メソッド(2)(doko.java:プログラミング) ・メソッドの作成と利用</p> <p>15 総合演習(2)(doko.java:プログラミング) ・過去に作成したプログラムを複数メソッドに分けて実行するなど、ここまで学んだ技術を用いて数本のプログラムを作成</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：サンプルプログラムを参照しながら簡単な繰り返し処理や分岐処理を記述できる。
事前・事後学習	教科書の内容を授業内で解説する時間はないため、教科書は事前に通読する必要がある。特にシラバスの授業計画にある用語は事前に確認すること。(30分) 授業で作成したプログラムは、翌週以降にも流用可能なように作られている。授業後にプログラムコードへの適切なコメント入力しておくこと。(30分)
指導方法	サンプルプログラムを使用した講義の後、類似問題および応用問題のプログラミング演習を行う。プログラミングには教室での対面、在宅共にクラウド上のプログラミングサービス「doko.java」を使用する。質問は随時受け付け、授業中に回答する。 原則、提出された課題(プログラム)へのコメントなどのフィードバックは次回授業内で回答例の公開と共に行う。

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎E : dokojavaで作成されたプログラムをGoogle Classroomで提出する。提出されたプログラムのコードを評価する。また正しく操作ができているかを、教員が情報教室の教育支援システム (Netウィッチ) およびZoomで確認し評価する。 授業態度20パーセント、課題20パーセント、最終課題60パーセント の割合で成績評価を行う。
テキスト	スッキリわかるJava入門 第3版 (インプレス)
参考書	
履修上の注意	自宅のPCでJava開発環境の dokojava が動作することが履修上の必須条件となるため、履修登録前に必ず自宅環境での動作を確認すること。 また毎週連続した演習が続く。たとえば第3週で作成したプログラムを基に第4週のプログラムを作成する等の演習形態である。欠席した場合には、その回でどのような演習が行われたか、必ず確認し、自習して出席すること。
アクティブ・ラーニング	授業内で発生する学生個々のプログラミング上の問題点や提案を教室内の学生に随時共有しながら進行する演習
ICT・オープンエデュケーションの活用	Zoom, Google Classroom, Netウィッチ, dokojava

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
別宮玲、押切孝雄			
ナンバリング：E26B47	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>社会人として必要な主体性、責任感、計画性を涵養する授業である。</p> <p>本授業では、自ら15週の達成目標を設定し、それを実現するために活動することを求められる。テーマはこれまでに学んだ授業の延長線上にある応用や発展テーマでも良いし、自分の関心の高い別分野を選んで良い。</p> <p>またテーマを複数用意し、授業の前半と後半で別テーマに取り組んでも構わない。</p> <p>授業の流れは企画→制作→発表となる。授業計画に例を示すので参考にすること。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎A：高い目標をテーマに掲げ、現実的な計画を立てることができる。</p> <p>○E：これまでに習得した技術を生かした成果をあげ、その成果をプレゼンテーションすることで聴衆の共感を得ることができる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス (別宮, 押切)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の進め方の説明とグループ分けを行う。 <p>2 グループテーマの設定 (別宮)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループごとに何を作成するか検討する。 ・ 役割分担と大まかなスケジュールを作成する。また必要な機材や費用を見積もる。 <p>※以下、「芝公園周辺を海外の人たちにアピールする動画の作成」をテーマとした場合の計画を示す</p> <p>3 コンテンツの検討 (別宮)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 芝公園の何をアピールするのか、どこに取材に行くのかを検討する。 ・ 前回より詳細なスケジュールを作成する。 <p>4 コンテの作成と取材の計画 (別宮) (グループワーク:グループでテーマに沿って活動) (Zoom, Google Classroom:進捗報告) (各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。 ・ インタビューや撮影に許可の必要な場所へのアポイントメントもここで行う。 <p>5 コンテの作成と翻訳 (1) (別宮) (グループワーク:グループでテーマに沿って活動) (Zoom, Google Classroom:進捗報告) (各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。 ・ 海外向けにキャプションなどの英訳を行う。 <p>6 コンテの作成と翻訳 (2) (別宮) (グループワーク:グループでテーマに沿って活動) (Zoom, Google Classroom:進捗報告) (各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。 ・ 海外向けにキャプションなどの英訳を行う。 <p>7 内部レビュー (別宮) (グループワーク:グループでテーマに沿って活動) (Zoom, Google Classroom:進捗報告) (各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ここまでの計画と成果物 (ここではコンテ)をグループメンバーで確認し、修正が必要であれば行う。 <p>8 取材 (1) (押切) (グループワーク:グループでテーマに沿って活動) (Zoom, Google Classroom:進捗報告) (各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インタビューや撮影を行う。初日。 <p>9 取材 (2) (押切) (グループワーク:グループでテーマに沿って活動) (Zoom, Google Classroom:進捗報告) (各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インタビューや撮影を行う。二日目。 <p>10 動画作成の準備 (1) (押切) (グループワーク:グループでテーマに沿って活動) (Zoom, Google Classroom:進捗報告) (各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 取材結果をまとめ、動画に必要な文章 (台本やキャプション) にする。 ・ 海外向けにキャプションなどの英訳を行う。 <p>11 動画作成の準備 (2) (押切) (グループワーク:グループでテーマに沿って活動) (Zoom, Google Classroom:進捗報告) (各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 取材結果をまとめ、動画に必要な文章 (台本やキャプション) にする。 ・ 有識者の英訳のチェックが必要であれば、このタイミングで完了させると良い。 <p>12 動画作成 (1) (押切) (グループワーク:グループでテーマに沿って活動) (Zoom, Google Classroom:進捗報告) (各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動画を作成する。 ・ 動画への素材の取り込み、全体の流れの確認を行う。 <p>13 動画作成 (2) (押切) (グループワーク:グループでテーマに沿って活動) (Zoom, Google Classroom:進捗報告) (各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動画を作成する。 ・ フラッシュアップ。細かなタイミングの修正などを行う。 <p>14 動画と発表台本の作成 (押切) (グループワーク:グループでテーマに沿って活動) (Zoom, Google Classroom:進捗報告) (各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・動画を完成させる。 ・最終成果発表用の台本を作成する。 15 最終成果発表（別宮，押切）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（Zoom，Google Classroom：進捗報告）（各グループのテーマによって各種ICTを活用） <ul style="list-style-type: none"> ・完成した動画を制作過程などを交えて発表する。
学習成果・到達目標・基準	◎A：実現可能な計画を立てることができる。 ○E：自らの取り組みの成果をプレゼンテーションできる。
事前・事後学習	事前学習：次回およびそれ以降の活動計画を作成する。（20分） 事後学習：授業の最初に進捗報告を行うため、授業後発表準備を行うこと。（30分） また、制作計画を達成するため、必要に応じて時間外でも積極的な活動を行うことを推奨する。授業時間外の設備の利用などは担当教員に相談すること。
指導方法	学生それぞれが決めたテーマに沿ってガイドする。全体に向けての解説は短時間で、多くの時間は制作のために使用する。作業の進み具合で、個人個人へ技術やアイデアについてサポートする。 成果物の種類はPCを使用した制作、レポートの執筆など、テーマに併せて決めて良い。 フィードバックの方法：授業冒頭に毎回行う進捗報告にコメントする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A：計画書と達成状況を評価する。 ○E：最終成果の報告（最終日に実施する成果報告）を評価する。 学習態度および進捗報告30%、作品と成果発表70% 作品は、最終成果の発表と品質に対し、評価ポイントをもとに評価する。評価ポイントはガイダンス時に発表する。
テキスト	特定の教科書は使用しない。 授業の要点については、デジタル教材で説明する。
参考書	
履修上の注意	テーマ設定に自由度を考慮した科目である。制作内容は学生毎あるいはグループ毎に異なる事となる。受け身の授業ではなく、自主的に研究する科目と考え、積極的に作業し、成果をあげて欲しい。 ここでのテーマは、他のワークショップにも引き継ぐ事ができ、短大生としてのまとまった学習成果として就職活動など今後役に立てられるものである。
アクティブ・ラーニング	プロジェクト型学習、プレゼンテーション（成果発表）
ICT・オープンエデュケーションの活用	Zoom, Google Classroom, Google Form, Adobe CC 等

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
別宮玲			
ナンバリング：E36C48	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>社会人として必要な主体性、責任感、計画性を涵養する授業である。</p> <p>本授業では、自ら15週の達成目標を設定し、それを実現するために活動することを求められる。テーマはこれまでに学んだ授業の延長線上にある応用や発展テーマでも良いし、自分の関心の高い別分野を選んでも良い。1年次にプロジェクト演習Aを履修していた学生は、当時のテーマの発展テーマを扱うことを推奨する。またテーマを複数用意し、授業の前半と後半で別テーマに取り組んでも構わない。</p> <p>授業の流れは企画→制作→発表となる。授業計画に例を示すので参考にすること。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎A：高い目標をテーマに掲げ、現実的な計画を立てることができる。グループ内での役割分担を行い、相互の情報共有に基づいた適切な進捗管理を行うことができる。進捗管理を行うことで問題の発生を事前に気づき、担当教員に相談することができる。</p> <p>○E：これまでに習得した技術を生かした成果をあげ、その成果をプレゼンテーションすることで聴衆の共感を得ることができる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方の説明とグループ分けを行う。 <p>2 グループテーマの設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループごとに何を作成するか検討する。 ・役割分担と大まかなスケジュールを作成する。また必要な機材や費用を見積もる。 <p>※以下、「3Dホログラムによる実在人物の立体動画の作成」をテーマとした場合の計画を示す</p> <p>3 コンテンツの検討とスケジュールリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なにを3Dホログラムで表現するのか、そのためには何が必要なのかを検討する。 ・前回より詳細なスケジュールを作成する。全15回のスケジュールを完成させる。 <p>4 3Dホログラム用の静止画撮影(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロトタイプとして静止画でのホログラムを作成。 ・スマートフォンで静止画撮影。 ・スマートフォンによる試験投影。 <p>5 動画撮影(1)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・撮影ブースで人物の動画を撮影する。 <p>6 動画撮影(2)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の動画の問題点を解決する。画質の悪さ、明るさ、人物の着用する衣服の色などを変更する。 <p>7 動画撮影(3) /グラフィックのテスト作成(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回までの試作を参考に、より大きな動きでの動画を撮影する。 ・GIFによるグラフィックによるアニメーションを試作する。 <p>8 動画撮影(4)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、動画の撮影。 ・撮影された動画の背景処理を行う方法を学習する。 <p>9 動画編集(1)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・撮影された動画の背景処理を行う。 <p>10 動画撮影(5) /動画編集(2)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の背景処理の結果を踏まえ、より処理のしやすい動画の撮影方法を考察し実施する。 ・撮影された動画の背景処理を行う。 <p>11 動画編集(3)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・撮影された動画の背景処理を行う。 ・背景処理を行った動画をスマートフォン用書き出す。 <p>12 動画編集(3)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Windows、Mac、Android、iPhone、それぞれの環境に適したファイル形式を研究する。 ・より高度な編集のため、アプリケーションの学習を行う。 <p>13 動画編集(4)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終版の動画編集を行う。 <p>14 動画編集(5)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗</p>

	<p>報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・引き続き最終版の動画編集を行う。 最終成果発表(プレゼンテーション:最終成果物を発表する) ・完成した動画を制作過程などを交えて発表する。</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>◎A：実現可能な計画を立てることができる。グループ内で適切な分担を行い、助けあいながら目標を達成することができる。 ○E：自らの取り組みの成果をプレゼンテーションできる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：次回およびそれ以降の活動計画を作成する。(20分) 事後学習：授業の最初に進捗報告を行うため、授業後発表準備を行うこと。進捗報告では前回の成果も明確にする必要がある。(30分) また、制作計画を達成するため、必要に応じて時間外でも積極的な活動をしていただきたい。授業時間外の設備の利用などは担当教員に相談すること。</p>
指導方法	<p>学生それぞれが決めたテーマに沿ってガイドする。全体に向けての解説は短時間で、多くの時間は制作のために使用する。作業の進み具合で、個人個人へ技術やアイデアについてサポートする。 成果物の種類はPCを使用した制作、レポートの執筆など、テーマに併せて決めて良い。 フィードバックの方法：毎回授業の最初に学生はグループごとに進捗をプレゼンテーションする。その場でクラス全員が聞いている中でアドバイスをを行うことで教員からのフィードバックを行う。また授業時間中も随時質問への対応を行う。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>◎A：計画書と達成状況を評価する。 ○E：最終成果の報告(最終日に実施する成果報告)を評価する。 学習態度および進捗報告30%、作品と成果発表70% 作品は、最終成果の発表と品質に対し、評価ポイントをもとに評価する。評価ポイントはガイダンス時に発表する。</p>
テキスト	<p>特定の教科書は使用しない。 授業の要点については、デジタル教材で説明する。</p>
参考書	
履修上の注意	<p>テーマ設定に自由度を考慮した科目である。制作内容は学生毎あるいはグループ毎に異なる事となる。受け身の授業ではなく、自主的に研究する科目と考え、積極的に作業し、成果をあげて欲しい。 ここでのテーマは、他のワークショップにも引き継ぐ事ができ、短大生としてのまとまった学習成果として就職活動など今後に役立てられるものである。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>プロジェクト型学習、プレゼンテーション(成果発表)</p>
ICT・オープンエデュケーションの活用	<p>Zoom, Google Classroom, Google Form, Adobe CC 等</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	国専：選択
担当教員			
別宮玲			
ナンバリング：E37C54	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	Webコンテンツ、映像コンテンツ、書籍といったコンテンツ・情報を制作し流通させるビジネスをコンテンツビジネスという。 コンテンツビジネスは日本が世界と競争できる分野であるとされるが、競争に勝つためには現在の強みと弱み、グローバル化のために何が必要かを知る必要がある。 本授業では政府資料と最新のニュース、その他様々なメディアを流れる情報や思想を読み取ることで、国内外のコンテンツビジネスの現在と今後を考える。これまでに身に付けてきた異文化理解力とICT知識の総合的な力を必要とする授業である。 (授業目標) ◎D：日本文化が世界に与えている影響を市場別に説明することができる。ICTの進歩による今後のビジネスの構造の変化を考察できる。
授業計画	<p>1 ガイダンス ・ 授業の目標と進め方 ・ 最終課題のテーマ発表</p> <p>2 コンテンツ産業 (Google Classroom:ノート作成) ・ コンテンツとは何か ・ コンテンツ業界の市場構造 ・ コンテンツ業界の市場規模 ・ デジタルコンテンツの市場規模</p> <p>3 日本コンテンツの海外進出 (Google Classroom:ノート作成) ・ クールジャパン政策 ・ ローカライズ ・ ジャパンブランドとコラボレーション</p> <p>4 音楽業界 (Google Classroom:ノート作成) (Google Form:アンケートと集計・分析のフィードバック) ・ 音楽業界の市場構造 ・ パッケージ型と配信型 ・ 環境変化の中におけるレコード会社の戦略 ・ 音楽出版社とは ・ 音楽コンサート市場</p> <p>5 放送業界 (Google Classroom:ノート作成) (Google Form:アンケートと集計・分析のフィードバック) ・ 放送業界の市場構造 ・ 民間放送局のビジネスモデル ・ 国営放送局のビジネスモデル ・ テレビ視聴者の変化 ・ 動画配信サービス</p> <p>6 映画業界 (Google Classroom:ノート作成) (Google Form:アンケートと集計・分析のフィードバック) ・ 映画業界の市場構造 ・ 映画の興行収入 ・ マルチウインドウ戦略 ・ 映画製作委員会的一般化 ・ ビデオソフト業界の変化</p> <p>7 キャラクタービジネス (Google Classroom:ノート作成) ・ キャラクタービジネスと他のコンテンツビジネスの関係 ・ コンテンツと地域振興 (ゆるキャラ)</p> <p>8 ゲーム業界 (1) (Google Classroom:ノート作成) (Google Form:アンケートと集計・分析のフィードバック) ・ ゲーム業界の市場構造 ・ 拡大するオンラインゲーム市場 ・ スマホゲームと家庭用ゲーム ・ ゲーム内課金とコンプガチャ問題</p> <p>9 ゲーム業界 (2) (Google Classroom:ノート作成) ・ ゲームの歴史と文化 ・ 大手ゲームメーカーの現状 ・ Eスポーツ</p> <p>10 アニメーション業界 (1) (Google Classroom:ノート作成) (Google Form:アンケートと集計・分析のフィードバック) ・ アニメーション業界の市場規模 ・ 拡大する日本アニメの海外市場</p> <p>11 アニメーション業界 (2) (Google Classroom:ノート作成) ・ アニメーションの歴史 ・ 初期のビジネスモデルと現在のビジネスモデル</p>

	<p>12</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クールジャパンと地域貢献 アニメーション業界（3）／コミック（漫画）業界（Google Classroom:ノート作成） ・紙の漫画市場 ・いまだ人気作品を生み続ける漫画雑誌 ・漫画アプリ ・アニメ配信ビジネス <p>13</p> <ul style="list-style-type: none"> ウェブ・コンテンツ業界（Google Classroom:ノート作成） ・ウェブ・コンテンツ業界の市場構造 ・ウェブ・コンテンツ業界の代表的なビジネスモデル ・電子書籍サービスの動き ・インターネット広告 <p>14</p> <ul style="list-style-type: none"> モバイル・コンテンツ業界（Google Classroom:ノート作成） ・モバイルコンテンツ市場の現状 ・SNS毎に異なる利用者のタイプ ・ビッグデータと行動ターゲティング広告 <p>15</p> <ul style="list-style-type: none"> コンテンツと著作権（Google Classroom:ノート作成） ・コンテンツ産業と著作権ビジネス ・財産権としての著作権
学習成果・到達目標・基準	◎D：様々なビジネスの構造を理解することで、社会人として必要な基本的なビジネス知識を身につけ、それらについて説明できる。
事前・事後学習	事前学習：コンテンツビジネスに関するニュースを日々調べる。(60分) 事後学習：毎週の講義を振り返り、口頭での質問にも対応できるように自分の言葉で整理し、まとめる。(120分)
指導方法	講義形式の授業である。 講義形式の授業だが、授業内で受講者対象のアンケートをGoogle Formで実施し、市場一般の統計情報と比較するなど、PCを使用する機会が多いため情報教室で授業を行う。またPCによるキーボードタイピングでのノート作成を推奨する。 フィードバックの方法：課題へのコメントの他、アンケートの集計結果の公開などもGoogle Classroomで行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	筆記試験とレポートで評価する。レポートは単元ごとに提出する。 ◎D：提出されたレポートと筆記試験でコンテンツビジネスの理解度を評価する。 授業態度20%、課題30%、定期試験50%
テキスト	最新コンテンツ業界の動向とカラクリがよくわかる本[第3版]（秀和システム）
参考書	コンテンツ産業の現状と今後の発展の方向性（経済産業省） 最新アニメ業界の動向とカラクリがよくわかる本[第2版]（秀和システム）
履修上の注意	日常的な情報収集が必要な授業である。 特に自分が好きなコンテンツについては自信を持って説明ができるよう常に準備をし、積極的に授業に参加することを期待する。
アクティブ・ラーニング	Google Formによるアンケートと、集計結果を用いた講義
ICT・オープンエデュケーションの活用	Zoom, Google Classroom, Google Form

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
別宮玲			
ナンバリング：E210C68	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ICTを活用した一般企業でのオフィスワークを志望進路とする学生のためのゼミである。一年後期に引き続き、志望進路に向けた準備を行う。1年次に行った自己分析結果を基にした書類の作成、業界研究、企業研究、自己分析結果と企業研究結果のマッチング、進路面談などのカウンセリングを実施する。 (授業目標) ◎A：希望進路に向けての就活を実施し、終了することができる。
授業計画	<p>1 キックオフ ・ゼミの進め方と特徴の確認。</p> <p>2 進路面談、就職活動カウンセリング（1）(Google Classroom：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー) ・個別で進路面談を行う。 ・事前に学生各自がクラウドサービス上に登録したエントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は情報教室でPCによる企業研究を進める。</p> <p>3 進路面談、就職活動カウンセリング（2）(Google Classroom：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー) ・個別で進路面談を行う。 ・事前に学生各自がクラウドサービス上に登録したエントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は情報教室でPCによる企業研究を進める。</p> <p>4 提出書類対策（1）(Google Classroom：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー) ・エントリーシートや履歴書を実際の希望業界や企業に併せて作成する。企業研究と併せてクラウド上に情報をまとめ、随時レビューを行う。</p> <p>5 提出書類対策（2）(Google Classroom：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー) ・エントリーシートや履歴書を実際の希望業界や企業に併せて作成する。企業研究と併せてクラウド上に情報をまとめ、随時レビューを行う。</p> <p>6 提出書類対策（3）(Google Classroom：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー) ・エントリーシートや履歴書を実際の希望業界や企業に併せて作成する。企業研究と併せてクラウド上に情報をまとめ、随時レビューを行う。</p> <p>7 提出書類対策（4）(Google Classroom：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー) ・エントリーシートや履歴書を実際の希望業界や企業に併せて作成する。企業研究と併せてクラウド上に情報をまとめ、随時レビューを行う。</p> <p>8 進路面談、就職活動カウンセリング（3）(Google Classroom：エントリーシート、履歴書のレビュー) ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。</p> <p>9 進路面談、就職活動カウンセリング（4）(Google Classroom：エントリーシート、履歴書のレビュー) ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。</p> <p>10 グループディスカッション（1）(Zoom：グループディスカッション) ・就活で良く扱われるテーマを用いてグループディスカッションを行う。</p> <p>11 グループディスカッション（2）(Zoom：グループディスカッション) ・就活で良く扱われるテーマを用いてグループディスカッションを行う。</p> <p>12 進路面談、就職活動カウンセリング（5）(Google Classroom：エントリーシート、履歴書のレビュー) ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。</p> <p>13 進路面談、就職活動カウンセリング（6）(Google Classroom：エントリーシート、履歴書のレビュー) ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。</p> <p>14 進路面談、就職活動カウンセリング（7）(Google Classroom：エントリーシート、履歴書のレ</p>

	<p>ビュー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。 <p>15 進路面談、就職活動カウンセリング(8)(Google Classroom:エントリーシート、履歴書のレビュー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。
学習成果・到達目標・基準	◎A:希望進路に向けて、いつまでになにを準備すべきか計画し実行できる。
事前・事後学習	事前学習:自分が希望する企業や職種、関連するニュースについて調べ、質問などあればまとめておく。まとめた内容はクラウド上に保存し、いつでもスマートフォンやPCで参照できるようにする。(25分) 事後学習:就職活動に役立つ業界ニュースや自分の経験などを集めた就活ノートを毎授業後に更新する。(25分)
指導方法	企業研究の方法について指導し、自分が希望する就職先について理解できるよう指導する。 自己分析や業界研究についてはGoogle Classroom上に就活ノートとして保存し、教員も共有することで随時添削を行える環境を構築する。 また、グループディスカッションを通して、コミュニケーション力を高められるよう、指導する。 フィードバック方法:面談の際に個別に指導を行う。メールによる個別のフィードバックも併用する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A:個別面談、就活ノート、グループディスカッションで評価する 平常点(授業への貢献度・積極性)30% 課題(就活ノート、グループディスカッション)30% 最終課題(面談。教員が就活ノートを参照しつつ実施)40%
テキスト	授業内で指示する。購入の必要はない。
参考書	
履修上の注意	ITビジネスはパソコンだけを相手にすれば良い業種ではなく、人とのコミュニケーションも非常に重視される。本ゼミにおいても積極的な発言を期待する。 重要な伝達や情報があるので、学校からのメール、ActivePortal、Google Classroomの情報を毎日確認すること。来校時には学内の掲示板を確認すること。 また本授業は7,8時限開講だが、9,10時限まで延長して行うこともあることを留意する。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ICT・オープンエデュケーションの活用	Zoom, Google Classroom, Netウィッチ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
別宮玲			
ナンバリング：E110A65	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ICTを活用したオフィスワークを希望する学生のためのゼミである。目標とする進路としては金融業界やIT業界など様々な業界、企業が挙げられる。進路目標を設定するための業界研究と併行して、エントリーシートや面接に必要な自分自身のエピソードを分析・整理する。またSPI対策も行う。 (授業目標) ◎D：希望業界に関する知識や理解を深め、エントリーシート上に表現できる。 ○E：自己分析によって掘り下げた自分の価値を他者にアピールできる。		
授業計画	1	キックオフ ・ゼミの進め方と特徴の確認。	
	2	目標設定 ・現時点での自分の進路目標を整理する。	
	3	自己PR：エントリーシートとは ・エントリーシートとは何かを理解し、必要な自己PRについて学ぶ。	
	4	進路面談：就活ノート作成(Google Classroom：自己分析ノートを記述) ・個別面談による進路相談を行う。また就活ノートを作成する。	
	5	自己分析と業界研究(Google Classroom：自己分析ノートを記述) ・自分の特性と希望業界の確認と研究をする。	
	6	SPI対策(1) ・SPIおよびCAB対策の学習方法を学ぶ。	
	7	キャリア講座(キャリアセンター) ・金融・広告・IT業界の概要を学ぶ。	
	8	SPI対策(2) ・過去の傾向などを踏まえSPI試験対策として問題演習を行う。	
	9	進路面談：就活ノートレビュー(Google Classroom：自己分析ノートへのフィードバック) ・就活ノートを参考に面談を受ける。	
	10	グループディスカッション(1)(Zoom：グループディスカッション) ・就職活動で良く扱われるテーマを用いてグループディスカッションを行う。	
	11	内定者交流会(キャリアセンター) ・VTRや経験談から集団面接の実態を学ぶ。 ・内定者の体験談から個別面接での対応や、就活全体の心構えを学ぶ。	
	12	英語資格試験講座 ・過去の傾向などを踏まえTOEIC対策として全パートの問題演習を行う。	
	13	グループディスカッション(2)(Zoom：グループディスカッション) ・就活で良く扱われるテーマを用いてグループディスカッションを行う。	
	14	進路面談(1)(Google Classroom：自己分析ノートへのフィードバック) ・個別で進路面談を行う。 ・この回で面談を行わない学生はエントリーシート対策と業界研究を行う。	
	15	進路面談(2)(Google Classroom：自己分析ノートへのフィードバック) ・個別で進路面談を行う。 ・この回で面談を行わない学生はエントリーシート対策と業界研究を行う。	
学習成果・到達目標・基準	◎D：希望業界の特徴を説明することができる。 ○E：自己分析を行い、文章化できる。		
事前・事後学習	事前学習：自分が希望する企業や職種、関連するニュースについて調べ、質問などあればまとめておく。(25分) 事後学習：就職活動に役立つ業界ニュースや自分の経験などを集めた就活ノートを毎授業後に更新する。(25分)		
指導方法	企業研究の方法について指導し、自分が希望する就職先について理解できるよう指導する。自己分析や業界研究についてはクラウド上の就活ノートとして保存し、教員も共有することで随時添削を行える環境を構築する。 また、グループディスカッションを通して、コミュニケーション力を高められるよう指導する。 フィードバック方法：就活ノートはクラウド上でコメントする。グループディスカッションは授業内で全員にわかるようにアドバイスを行う。		

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D：課題で評価する。 ○E：課題で評価する。 平常点（授業への貢献度・積極性）30% 課題（グループディスカッション、自己分析シート、業界研究）30% 最終課題（教員が提出された課題を参照しつつ面談を実施）40%
テキスト	授業内で指示する。購入の必要はない。
参考書	
履修上の注意	毎回必ず出席することが大切である。教室も変わる場合があるため注意すること。 重要な伝達や情報があるので、学校からのメール、ActivePortal、Google Classroomの情報を毎日確認すること。来校時には学内の掲示板を確認すること。 また本授業は7,8時限開講だが、9, 10時限まで延長して行うこともあることを留意する。
アクティブ・ラー ニング	グループワーク
I C T・オープン エデュケーション の活用	Zoom, Google Classroom, Netウィッチ

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
ナンバリング：E14C28	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>空港では多くの旅行者の安全で快適な旅を実現するため、航空会社をはじめ航空産業を支える多くの企業が携わり業務も多岐にわたる。エアポートビジネスにはどのような業務があるのかについて空港業務の概要を学び、空港ビジネスで活躍できる人材となるための知識とスキルを身につける。</p> <p>(授業目標) ◎B：自己分析を深め、自信を持って好印象を与える自己PRをすることができる。 ○D：エアポートビジネスの多種多様な業務内容を理解する。</p>
授業計画	<p>1 エアポートビジネスとは (木内) エアポートビジネスとは何か、空港で営まれている企業と業務を学ぶ</p> <p>2 エアポートビジネス (ゲスト講師) 多種多様な空港業務があり、それぞれの業務内容を理解する</p> <p>3 エアポートビジネスに求められる人材とは (ゲスト講師) エアポートビジネス産業の求める人材と採用状況について</p> <p>4 エアポートビジネス産業の企業研究 (グループワーク：国内航空会社の特徴をまとめる) 国内航空会社の種類と業務について (ゲスト講師)</p> <p>5 外資系エアポートビジネスの企業研究 (ゲスト講師) (グループワーク：外資系航空会社の特徴をまとめる) 外資系航空会社の種類と業務について</p> <p>6 空港業務に携わる人材の表現力 (ゲスト講師) 空港業務に必要なコミュニケーション力とビジネスマナー</p> <p>7 空港業務に携わる人材の身だしなみ (ゲスト講師) 旅行者に好印象を与えるための明るく健康的なメイク、ヘアスタイル、スーツ等の着こなし</p> <p>8 エアポートビジネスのエントリーシート作成、自己PR・志望動機 (ゲスト講師) エントリーシートの企業側のチェックポイントと好印象を与える自己PR・志望動機</p> <p>9 エアポートビジネスの採用試験 (ゲスト講師) ビデオエントリーなどの採用試験の種類と面接会場での立ち振る舞い、注意すべきポイント</p> <p>10 グループディスカッションと面接のポイント (ゲスト講師) (木内) (グループワーク：個人面接・英語面接練習) (グループワーク：エアライン業界に関するディスカッションをおこなう) グループディスカッションの進め方、企業の着眼ポイント、オンライン面接のポイント</p> <p>11 グループディスカッションの役割分担等の心得 (ゲスト講師) (木内) (グループワーク：エアポートビジネスに関するディスカッションをおこなう) グループディスカッションで司会進行役等のグループ面接の役割分担を学ぶ</p> <p>12 グループ模擬面接 (ゲスト講師) (木内) (グループワーク：グループ面接練習) エアポートビジネス産業のグループ面接</p> <p>13 個人模擬面接 (ゲスト講師) (木内) (グループワーク：個人面接練習) エアポートビジネス産業の個人面接</p> <p>14 模擬英語面接 (ゲスト講師) (木内) (グループワーク：個人面接・英語面接練習) エアポートビジネス産業の個人面接・英語面接</p> <p>15 就職活動に向けての心得 (木内) エアポートビジネス産業への就職活動の準備と心得</p>
学習成果・到達目標・基準	◎B：自己理解を深め、自己PRを1分間ですることができる。 ○D：エアポートビジネス産業の業務内容を5つ説明できる。
事前・事後学習	事前学習：エアポートビジネス産業の企業研究をおこなう (30分) 自己自身を見つめエントリーシートの文章を作成する (90分) 事後学習：グループワークの面接のタイプに合わせ、きちんと発言できるように練習する (60分)
指導方法	適宜資料 (プリント) を配布するので、資料内容を確認し授業内容を理解する。パワーポイントや適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。エアポートビジネスの採用試験に精通しているゲスト講師を交えて授業をおこなう。 フィードバックの仕方：グループワーク終了後に、質疑応答、教員からのグループワーク内容の評価とアドバイスをおこなう。エントリーシート作成、自己PR・志望動機については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎B：授業内での自己PRの発言内容を評価する。 ○D：エアポートビジネス産業の企業研究レポートを評価する 定期試験（30%）、グループワーク参加貢献度（50%）、企業研究レポート課題（20%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を適宜配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	
履修上の注意	多くのグループワークをおこなうので、積極的に参加しお互いを高めあう意識を持つこと。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション
I C T・オープンエデュケーションの活用	ZOOM、Google classroom、授業内で学生の解答、アンケートなど双方向でのやりとりをおこなうためGoogle フォームを活用する。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
ナンバリング：E24C29	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>空港業務の中で特にエアライン業界の顔ともいえるキャビンアテンダント、グランドスタッフの業務を理解し、その業務に必要な知識を身に着ける。またホスピタリティ産業の一員として、業務を遂行する上での立ち振る舞い、身だしなみ、言葉遣いなど航空業界、空港業務で活躍できる人材となるために必要な接遇を学ぶ。</p> <p>(授業目標) ◎C：企業理念に合わせた自分の強みをまとめる力を身につける。 ○D：空港業務はどのような職種があるかを理解する。</p>
授業計画	<p>1 エアラインビジネスのCA・GSとは エアラインビジネスのカスタマーサービス部門の仕事について</p> <p>2 空港旅客サービスの基礎知識 グランドスタッフの業務を理解する</p> <p>3 客室業務基礎知識 客室乗務員の業務を理解する</p> <p>4 企業理念研究（グループワーク：企業理念と業務についてディスカッション） エアラインの企業理念を学び、その理念がCA・GS業務にどう影響しているかを理解する</p> <p>5 企業理念と自己理解（プレゼンテーション：企業理念に合わせた自分の強み） 企業理念と自分の強み、志望動機をプレゼンテーションする</p> <p>6 表現力を鍛える（グループワーク：どのような表情や声掛けができるか） CA・GSの業務から表現力を学ぶ</p> <p>7 航空旅客業務：搭乗手続 旅券・査証・その他出入国書類の確認、航空券記載内容確認、座席指定と搭乗券発行など</p> <p>8 航空旅客業務：搭乗手続きに関連して必要な業務知識 出国手続き、予約・発券業務、団体の搭乗手続き</p> <p>9 航空旅客業務：空港旅客サービス顧客サポート ラウンジサービス、搭乗案内業務など顧客をサポートし快適さを提供する業務</p> <p>10 航空旅客業務：到着時の業務とトラブル対応 到着案内業務、受託手荷物サービス業務、出発時・到着時のトラブル対応</p> <p>11 旅客送迎サービス業務の概要 旅客送迎サービス業務についてと旅客送迎サービスの基本的な心構え</p> <p>12 旅客送迎サービスの業務内容 出発時の旅客送迎サービス業務の事前準備、空港オフィス出発から業務終了まで</p> <p>13 空港における旅客業務のポイント：ホスピタリティ産業の一員としての基本的な心構え（グループワーク：ロールプレイ形式） 空港における旅行業務のポイント、ホスピタリティー産業の一員としての基本的な心</p> <p>14 空港における旅客業務のポイント：身だしなみ、基本動作（グループワーク：ロールプレイ形式） ホスピタリティー産業のプロとしての身だしなみと基本動作</p> <p>15 空港における旅客業務のポイント：接客の言葉遣い（グループワーク：ロールプレイ形式） 挨拶、基本接客用語、敬語、言葉遣い</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：企業理念に合わせた自分の強みをまとめて1分のプレゼンテーションができる。 ○D：空港業務はどのような職種があるかを具体的に説明できる。
事前・事後学習	事前学習：航空会社の企業研究をおこなう（60分） 自分自身を見つめ、自分の強み、航空会社などへの志望動機をまとめる（60分） 事後学習：キャビンアテンダント、グランドスタッフ、空港の業務について復習する。（60分）
指導方法	適宜資料（プリント）を配布するので、資料内容を確認し授業内容を理解する。パワーポイントや適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。エアラインの講師、空港業務に従事する方をゲストスピーカーとして招き、指導してもらう予定。 フィードバックの仕方：グループワーク終了後に、質疑応答、教員からのグループワーク内容の評価とアドバイスをおこなう。自分の強み、志望動機については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎C：企業理念に合わせた自分の強みをまとめた1分のプレゼンテーションを評価する。 ○D：空港業務の職種と業務を具体的に説明する定期試験の記述解答を評価する。 定期テスト（30%）、グループワーク参加貢献度（50%）、習熟度課題（20%）
テキスト	授業資料（プリント等）を適宜配布する。（テキストは特に指定しない）
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・当科目の履修生同士、お互いに切磋琢磨する姿勢を持つこと。 ・自ら学ぶ意欲と、自己を高めていく意識をもつこと。
アクティブ・ラー ニング	グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション、ロールプレイ
I C T・オープン エデュケーション の活用	ZOOM、Google classroom、授業内で学生の解答、アンケートなど双方向でのやりとりをおこなうためGoogle フォームを活用する。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
ナンバリング：E15C31	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業概要) ホテル、観光に関連する様々な観光産業を取り上げ、それぞれのホテル・ツーリズム産業がどのように形成され、どのようなビジネスモデルで発展してきたかについて具体的にみていくことにより、ホテル・ツーリズム産業の成り立ちを学ぶ。合わせてホテル・ツーリズム産業がおこなっている取り組みを知ることにより、それぞれの業界・産業業務内容を理解する。また世界遺産にも焦点を当て、その基本情報、地理、歴史的背景などの特徴を理解し、認定された経緯、理由などを考察する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>ホテル・ツーリズム産業の様々な業種の特徴を理解する。 ○C：ホテル・ツーリズム産業施設見学を実施し、施設の特徴について考察できる。 ◎D：ホテル業界とツーリズム業界の基礎知識を身に付ける。 ◎D：それぞれのホテル・ツーリズム産業の特徴を理解する。 ◎D：世界遺産の基礎知識と、日本の世界遺産についてまとめ、理解する。</p>
授業計画	<p>1 ホテルツーリズムスタディーズ (課題解決型：身近な地域のホテル、観光名所の魅力と問題点) 授業全体の概要と、各自の育った地域の魅力、その地域にあるホテル、観光名所について考える</p> <p>2 ホテルとは ホテルについての基礎知識とホテル業界について</p> <p>3 ツーリズム業界 ツーリズム産業の基礎知識とツーリズム・ビジネス分類</p> <p>4 日本におけるツーリズムの変遷 日本のツーリズムの変遷を時代別に区分する。</p> <p>5 世界遺産 (ゲスト講師) 世界遺産の基礎知識、日本国内の世界遺産</p> <p>6 ホテル・ツーリズム産業： 「ホテル業界」 ホテルの商品としての特性、運営オペレーションの特性</p> <p>7 ホテル客室のカテゴリーと種類 ホテルのルーム・タイプとルーム・カテゴリー</p> <p>8 日本料理、世界代表的な料理など ホテルの食事付き料金制度、日本料理、西洋のコース・メニューとその調理法、中国料理</p> <p>9 英国流ホテルのおもてなし (ゲスト講師) イギリスのホテルを例としたおもてなし術</p> <p>10 日本の世界遺産 世界遺産の基礎知識と日本の世界遺産について</p> <p>11 日本国内の世界遺産プレゼンテーション① (個人発表) (ICTの活用：スマートフォン あるいはタブレットPC) 学生がそれぞれ調べた世界遺産についてのプレゼンテーション</p> <p>12 日本国内の世界遺産プレゼンテーション② (個人発表) (ICTの活用：スマートフォン あるいはタブレットPC) 学生がそれぞれ調べた世界遺産についてのプレゼンテーション</p> <p>13 ホテルの組織 ホテルの組織とその特徴について</p> <p>14 ホテルの部門別業務内容 ホテルの各部門音役割と業務内容</p> <p>15 ホテル・ツーリズム産業：「旅行者」 旅行者の営業形態と販売形態、カウンター業務の仕事</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>○C：ホテル・ツーリズム産業施設見学を実施し、施設の特徴について説明できる。 ◎D：ホテル業界とツーリズム業界の基礎知識を説明できる。 ◎D：それぞれのホテル・ツーリズム産業の特徴を区分できる。 ◎D：世界文化遺産、自然遺産、複合遺産に区分できる。また日本の世界遺産についてまとめ、人前でプレゼンテーションできる</p>
事前・事後学習	<p>事前学習： 世界遺産の基礎知識と日本の世界遺産それぞれの特徴を調べ、プレゼンテーションできるように準備する (60分) ホテル・ツーリズム産業について、どのような産業なのか、どのような業務があるか調べる (60分)</p> <p>事後学習 授業で配布したレジメを参照し、授業内で取り上げたホテル・ツーリズム産業の業務についてまとめる (60分)</p>

指導方法	授業資料(プリント)を配布し、パワーポイントを使用しながら適宜関係するDVD等、視聴覚資料を利用し授業を行う。また毎回数名に1つの日本国内の世界遺産についてプレゼンテーションをしてもらう。ホテル・ツーリズム産業の現場で働く方を、ゲスト講師として授業に参加してもらうことがある。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○C：ホテル・ツーリズム産業施設見学を実施し、施設の特徴についての考察レポートを評価する。 ◎D：ホテル業界とツーリズム業界の基礎知識の理解度など小レポート提出・定期試験を評価する。 ◎D：それぞれのホテル・ツーリズム産業の特徴を区分できる。 ◎D：世界文化遺産、自然遺産、複合遺産の区分など定期試験を評価する。また日本の世界遺産についてまとめたプレゼンテーションを評価する。 定期試験（50%）、受講態度（20%）、講義中の小テストや課題レポート（30%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	JTB総合研究所（2018）『観光学基礎』 世界遺産検定事務局（2016）『はじめて学ぶ世界遺産100』 一般財団法人日本ホテル教育センター（2015）『新ホテル総論』プラザ出版
履修上の注意	「ホテルツーリズムスタディーズ」の受講生は、後期に「ホテルスタディーズA」、「ツーリズムスタディーズA」を受講することが望ましい
アクティブ・ラーニング	課題解決型、プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
ナンバリング：E15C32	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業概要) ホテルの基本的な性格、ホテルの構成要素、日本、欧米の歴史的変遷など様々な角度から、ホテルビジネスの概論にアプローチし、ホテルビジネスの特色や特徴とホテルビジネスのベースとなる専門用語ならびに知識を学ぶ。合わせて事業部門ごとにホテル業務概要を把握し、ホテル業務を経営と運営の両面からアプローチし、理解力と実践力を身につける。またホテル運営側と顧客の視点から、ホテル業務に対し理解を深める。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎C：ホテルビジネスを基礎知識を理解し、ホテルのコンセプト、特徴を考察する。</p> <p>◎D：立地・機能、資本系列、経営形態などの観点からホテルビジネスの経営理論を理解する。</p>
授業計画	<p>1 宿泊施設の区分とホテルの定義 ホテルとは何か、その語源、基本的な性格、法律上の位置づけなど</p> <p>2 ホテルの構成要素 ホテルが提供する商品の構成要素</p> <p>3 ホテルの分類 (グループワーク：資本系列、経営形態などにホテルを分類) 立地・機能、資本系列、経営形態など観点からホテルを分類</p> <p>4 日本における宿泊業の歴史 時代ごとの日本の宿泊業の歴史を概観</p> <p>5 欧米における宿泊業の歴史 現代のホテル業は、どのように形成されてきたのか</p> <p>6 ホテル客室のカテゴリーと種類 客室の種類、設備やホテルの料金制度の基礎知識</p> <p>7 ホテルのアメニティグッズ (グループワーク：ホテルアメニティについてグループごとにまとめる) ホテルで提供されるアメニティグッズの必要性和、どのようなアメニティであれば顧客に喜ばれるかについて、グループで話し合いまとめる</p> <p>8 ホテル実務の基礎 (実習：挨拶、言葉遣いなど) ホテル実務に必要な業務知識</p> <p>9 宿泊部門の業務：フロント・オフィス課 ・ホテルにおける宿泊部門の位置づけ、役割 ・客室予約、レセプション、電話オペレーター業務</p> <p>10 宿泊部門の業務：フロント・サービス課 ・フロント・サービス課の業務 ・ドアマン、ベルマン、クローク、コンシェルジュ、ゲストリレーションズの業務</p> <p>11 宿泊部門の業務：客室課 ・客室科の業務 ・客室サービス、ハウス・マン、リネン、ルーム・アテンダントの業務</p> <p>12 テーブルセッティング① (実習：テーブルセッティング、サービス方法を実践練習) ・テーブルセッティング (イギリス式とフランス式) ・食器・リネン・備品の知識</p> <p>13 テーブルセッティング② (実習：テーブルセッティング、サービス方法を実践練習) ・サービスの基本 ・レストランサービス</p> <p>14 東京都のホテル調査発表 (プレゼンテーション：ホテルの評価、課題について) 都内の外資系ホテルをSWOT分析の観点から調べ、SWOT分析の結果からホテルの評価と課題について発表する</p> <p>15 東京都の外資系ホテル調査発表 (プレゼンテーション：ホテルの評価、課題について) 都内の外資系ホテルをSWOT分析の観点から調べ、SWOT分析の結果からホテルの評価と課題について発表する</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：都内にあるホテルのコンセプト、特徴を具体的に説明できる。 ◎D：立地・機能、資本系列、経営形態などの観点からホテルの分類ができる。
事前・事後学習	事前学習 都内のホテルのホームページにアクセスし、ホテルのイベントについて調べる (60分) 世界の料理について、特に日本のレストランで提供されている料理について調べる (30分) 事後学習 ホテル実務に必要な業務知識についてまとめる (30分) 授業で配布したレジメを参照し、ホテルビジネスを経営について理解する (60分)

指導方法	講義資料（プリント）を配布するので、講義資料内容を確認しながら授業内容を把握していく。パワーポイントを使用し、適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。ホテルビジネスの取り組みを理解し易いように、ホテルの現場で働く方を、ゲスト講師として授業に参加してもらうことがある。 フィードバックの仕方：プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員からのプレゼンテーション内容の評価とアドバイスをおこなう。グループワーク、実習課題については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：ホテルのコンセプト、特徴とそのホテル評価と課題についての発表とレポートを評価する。 ○D：ホテル分類、ホテルビジネスの理論などを説明する定期試験の記述回答を評価する。 定期試験（50%）、受講態度（20%）、講義中の小テストや課題レポート（30%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を毎回配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	JTB総合研究所（2016）『ホテル概論』JTB総合研究所 日本ホテル教育センター（2015）『新ホテル総論』プラザ出版
履修上の注意	1. 授業中は他の人の迷惑にならないように授業態度に注意すること。 2. ホテル実務でどのようなおもてなしが提供できるか、ホスピタリティ・マインドを常に考えて授業に臨むこと。 3. 「ホテルスタディーズA」の受講生は、前期に「ホテルツーリズムスタディーズA」を受講することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	実習、グループワーク、プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	ZOOM、Google classroom、授業内で学生の解答、アンケートなど双方向でのやりとりをおこなうためGoogle フォームを活用する。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
ナンバリング：E25C33	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業概要) 宿泊産業のいくつかの経営態を通して、ホテルビジネスの経営環境を理解する。合わせてホテルビジネスを対象として、マーケティングおよびオペレーションの視点からホテルを分析し事象把握をおこなう。</p> <p>ホテルの特徴を活かした宿泊商品プラン作成を通して、そのホテルの特徴を理解し評価、課題、それに対する対応策を検討提案できる能力を身につける。またホテルビジネスで活躍されている方々をゲスト講師として招き、その企業の取り組みについて知識を深める。</p> <p>(授業目標) ◎A：宿泊産業の取り組みを理解し、評価、検討、提案する力をつける。 ○D：ホテルビジネスを理論並びに実務の両面から理解する。</p>
授業計画	<p>1 ホテルビジネス ホテルビジネスの全体像を捉え、特色や特徴を理解する</p> <p>2 ビジネスホテル市場 ビジネスホテルの位置づけと、ビジネスホテルの取り組み</p> <p>3 ホテル業の全体像 ・ホテルの分類(立地、クラス、機能別) ・経営形態による分類 ・資本形態による分類など</p> <p>4 宿泊旅行統計調査 日本の観光の現在の傾向や特徴</p> <p>5 日本旅館 日本旅館の位置づけと、日本文化を象徴する日本旅館のおもてなし</p> <p>6 欧米におけるホテルの系譜 欧米の宿泊業の歴史的系譜</p> <p>7 国際儀礼(プロトコール) 国際儀礼の基本とホテル実務者の基礎知識</p> <p>8 日本の宿泊産業と独自の宿泊形態 日本の宿泊業の系譜と様々な宿泊形態</p> <p>9 ホテルリエールとっておきのおもてなし術(ゲスト講師) ・テーブルコーディネートの基本 ・テーマ、キーオブジェ、コンセプトを決定し、おもてなしテーブルセッティングを実践</p> <p>10 ホテル・マーケティング ・ホテル・マーケティングの基本概念 ・マーケティングを構成する4本の柱 ・ホテルに求められるトータル・マーケティング・プラン</p> <p>11 宿泊商品プラン作成(グループワーク：宿泊プランの作成とプレゼンテーションの準備) マーケティングの視点からホテルの特徴を活かした宿泊プラン作成</p> <p>12 企業研究：リッツ・カールトン リッツ・カールトンの取組みとホスピタリティ</p> <p>13 宿泊商品プラン発表①(プレゼンテーション：ホテルの評価、課題について) ホテルの特徴を活かした宿泊プランをグループごとに発表</p> <p>14 宿泊商品プラン発表②(プレゼンテーション：ホテルの評価、課題について) ホテルの特徴を活かした宿泊プランをグループごとに発表</p> <p>15 企業研究：星野リゾート 星野リゾートの概要と取組みについて</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：宿泊商品プランの作成を通し、マーケティングの視点からホテルの特徴を活かした宿泊商品プランの提案できる。 ○D：ホテルビジネスを経営と実務の両面から、その取り組みについて、例を挙げて説明できる。
事前・事後学習	事前学習：都内のホテルのホームページにアクセスし、それぞれのホテルの特徴について調べる(60分) ホテルの職種の仕事内容(フロント・サービス、客室係など)について調べる(60分) 事後学習：授業で配布したレジメを参照し、宿泊施設の取り組みについて理解する(60分)
指導方法	講義資料(プリント)を配布するので、講義資料内容を確認しながら授業内容を把握していく。パワーポイントを使用し、適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。ホテルビジネスの現場で働く方々を、企業研究としてゲスト講師に授業に参加してもらう予定。 フィードバックの仕方：プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員からのプレゼンテーション内容の評価

	とアドバイスをおこなう。グループワークについては、授業内、授業後に個別に対応、指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A：宿泊商品プランの内容と、プレゼンテーションを評価する。 ○D：ホテルビジネスを経営と実務の両面から、その取り組みについて、例を挙げて説明する定期試験の記述回答を評価する。 定期試験（50%）、受講態度（20%）、講義中の小テストや課題レポート（30%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を毎回配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	JTB総合研究所（2016）『ホテル概論』JTB総合研究所 日本ホテル教育センター（2015）『新ホテル総論』プラザ出版
履修上の注意	1. 授業には積極的に参加し、他の人の迷惑にならないように授業態度に注意すること。 2. ホテル実務でどのようなおもてなしが提供できるか、ホスピタリティ・マインドを常に考えて授業に臨むこと。 3. 「ホテルスタディーズB」の受講生は、「ホテルスタディーズA」を受講することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション
I C T・オープンエデュケーションの活用	ZOOM、Google classroom、授業内で学生の解答、アンケートなど双方向でのやりとりをおこなうためGoogle フォームを活用する。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
ナンバリング：E15C34	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業概要) 観光を幅広く学んでいくために、観光学に関する観光関連用語や観光の研究分野などの基礎知識、観光の歴史の変遷と現代社会における観光の意義について理解を深める。またエコツーリズムやグリーンツーリズムはじめ、ニューツーリズムの特徴や取り組みを理解する。さらに観光プランのコース作成を、ディステイネーション・マーケティング等の視点から、コンセプト作りから観光プランを作成し、フィールドワークをおこない観光プランの正誤性の検証をおこなう。</p> <p>(授業目標) ◎C：観光の基礎知識、国内観光資源を理解し、観光プランの作成方法を身につける。 ◎D：観光産業で使用されている観光関連用語や英語の通話用語を身につける。</p>
授業計画	<p>1 観光と旅行 観光の語源や関連用語、観光研究の分野について</p> <p>2 観光の現代的意義 現代社会における観光の意義と、観光が経済などに及ぼす影響</p> <p>3 観光の変遷 日本と欧米の観光の潮流を時代別に区分する。</p> <p>4 観光産業の英語 (実習：通話用語を使用して、自分の名前のスペルを伝える) パスポートの英語記載、空港コード、エアラインコードと通話英語など</p> <p>5 観光地の類型 観光対象、観光資源および観光施設</p> <p>6 国内観光資源 国内観光資源をカテゴリー別に考察</p> <p>7 観光政策と観光行政 観光政策の基本、その目標と内容と、地方の観光行政の特性</p> <p>8 世界遺産 世界遺産の基礎知識、日本の世界遺産について</p> <p>9 ニューツーリズム ニューツーリズムの共通の特徴と取り組み</p> <p>10 エコツーリズムとグリーンツーリズム ・エコツーリズムの概念と定義、環境と観光をつなげるエコツアーについて ・グリーンツーリズムの概念、定義と日本国内の取り組みと成果</p> <p>11 旅行会社の業務 (ゲスト講師) 旅行会社のカウンター業務など</p> <p>12 国際観光 国際観光の現況と訪日外国人旅行者</p> <p>13 インバウンド観光客の特性 様々な国・地域からの外国人旅行者が期待する日本観光とおもてなしの違い</p> <p>14 東京都港区芝エリア「街歩き」の観光プランニング (グループワーク：観光プランのコース作成) 東京都港区の観光資源をめぐり、観光プランのコース作成</p> <p>15 東京都港区芝エリア「街歩き」観光プランのコース発表 (プレゼンテーション：全員が必ず発表する) それぞれが作成した観光プランの発表と評価</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>◎C：特定の地域の観光資源を理解し、観光プラン作成をおこない、プラン内容をプレゼンテーションすることができる。</p> <p>◎D：観光産業で使用されている用語の違いを説明でき、ロールプレイング会話演習で、通話用語を使用して、自分の名前を表現できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：ニューツーリズムに分類される観光の特徴について調べる (60分)</p> <p>国内の観光資源を知る上で、観光パンフレットなどの観光資料、情報資料を収集しチェックする (60分)</p> <p>事後学習：授業で配布したレジメを参照し、観光関連用語を理解する (60分)</p>
指導方法	<p>指導方法 講義資料 (プリント) を配布するので、講義資料内容を確認しながら授業内容を把握していく。パワーポイントを使用し、適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。観光産業の取り組みを理解し易いように、観光の現場で働く方を、ゲスト講師として授業に参加してもらう。 フィードバックの仕方：プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員からのプレゼンテーション内容の評価</p>

	とアドバイスをおこなう。グループワーク、実習課題については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：観光プランのコース作成とプレゼンテーションを評価する。 ○D：観光産業で使用されている観光関連用語について定期試験の記述回答を評価し、ロールプレイングでの会話演習を評価する。 定期試験（50%）、受講態度（20%）、講義中の小テストや課題レポート（30%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を毎回配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	JTB総合研究所（2014）『観光学基礎』 世界遺産検定事務局（2016）『はじめて学ぶ世界遺産100』 十代田 朗(2014)「観光まちづくりのマーケティング」学芸出版社
履修上の注意	1. 授業中は他の人の迷惑にならないように授業態度に注意すること。 2. 自分が観光産業でどのようなおもてなしが提供できるか、ホスピタリティ・マインドを常に考えて授業に臨むこと。
アクティブ・ラーニング	実習、グループワーク、プレゼンテーション
I C T・オープンエデュケーションの活用	ZOOM、Google classroom、授業内で学生の解答、アンケートなど双方向でのやりとりをおこなうためGoogle フォームを活用する。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
ナンバリング：E25C35	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業概要) 日本における観光の現状を把握した上で、観光関連産業、観光地形成やサービスなど幅広く知識をつける。</p> <p>旅行商品が生み出されていく手順を、特定の国内観光地を取り扱いながら、コンセプトづくり、ディステーション・マーケティング等の視点からレディメイド型旅行商品の作成される行程と成り立ちを学ぶ。さらに旅行プランを作成して、旅行商品を自分で作成する事で、観光地の観光資源や地方自治体の取り組みを理解する。また近年著しく増加している訪日外国人旅行者に焦点を合わせ、外国人旅行者の観光属性と日本がおこなっている取り組みについて、詳しく学ぶ。</p> <p>(授業目標) ◎C：国際航空運賃、海外観光資源の知識を修得し、観光プランのコース作成を身に付ける。 ○D：インバウンド旅行者の特徴を理解する。</p>		
授業計画	1	国内観光の状況 最新の国内観光の状況を観光統計などのデータ分析	
	2	日本における観光 国内・海外観光旅行の市場規模、推移と現状	
	3	日本遺産 文化庁が認定した、日本遺産の歴史的魅力や特色	
	4	旅行商品開発のプランニング 旅行商品を作成するための計画とコンセプトづくり	
	5	募集型企画旅行（実習：旅行商品の提案と料金計算） パッケージツアーなどのレディメイド型商品の分析	
	6	観光地域づくり法人（DMO）を中心とした観光地域づくり 観光地域づくり法人（DMO）の形成・確立と日本版DMO	
	7	観光地の観光プランニング（グループワーク：国内旅行プランのコース作成） ダイナミックパッケージを使用した、国内旅行プランの作成	
	8	観光プランのコース発表（プレゼンテーション：全員が必ず発表する） それぞれが作成した国内旅行プランの発表と評価	
	9	インバウンド観光（グループワーク：訪日外国人旅行者へのおもてなしについてのディスカッション） 訪日外国人旅行者の習慣、食事などの基礎知識	
	10	インバウンド旅行者増加への取り組みとオーバーツーリズム 訪日外国人旅行者の受け入れ状況と観光地の取り組み、オーバーツーリズムの問題	
	11	海外の観光資源（グループワーク：海外の観光資源を分類する） 旅行パンフレット、ガイドブックなどのメディア媒体に紹介されている観光資源	
	12	海外旅行と外国通貨（実習：外国通貨レートの違いによる計算） 旅行パンフレット、ガイドブックなどのメディア媒体に紹介されている海外の観光資源と外国通貨の種類などについて	
	13	観光地の観光プランニング（グループワーク：海外旅行プランのコース作成） 海外の観光資源をめぐり、観光プランのコース作成	
	14	出入国手続き（実習：国内外の入国書類、日本の税関書類の記入や税金の料金計算） 日本から出国し、帰国する際の空港での諸手続	
	15	国際航空運賃の基礎知識と日付変更線、時差の計算など 国際航空運賃（実習：2ヶ国間の時差の計算、飛行機で移動した際の到着時間の計算など）	
学習成果・到達目標・基準	◎C：海外旅行プランのコース作成をおこない、人前でプレゼンテーションできる。 ○D：ムスリム観光客への知識と必要な配慮を説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：国内、海外の観光資源を知り、具体的な観光プランニングができるように、観光ガイドブック・観光パンフレットなどを収集する（60分） 増加するインバウンド旅行者について調べる（30分） 事後学習：授業内容を復習すること。授業で学んだ観光資源や観光現象などを国や地域などを地図などでまとめる（60分） 観光関連産業それぞれの特徴や取り組みについてまとめる（30分）		
指導方法	講義資料（プリント）を配布するので、講義資料内容を確認しながら授業内容を把握していく。パワーポイントを使用し、適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。観光産業の取り組みを理解し易いように、観光の現場で働く方を、ゲスト講師として授業に参加してもらう。 フィードバックの仕方：プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員からのプレゼンテーション内容の評価とアドバイスをこなう。グループワーク、ディベート、実習課題については、授業内、授業後に個別に対		

	応、指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：国際航空運賃、海外観光資源の知識を定期試験の記述解答を評価する。合せて観光プランのコース作成とプレゼンテーションを評価する。 ○D：インバウンド旅行者への取り組みに関する小レポートを評価する。 定期試験（50%）、受講態度（20%）、講義中の実習、プレゼンテーションや課題レポート（30%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を毎回配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	JTB総合研究所（2013）『観光概論』 十代田 朗（2014）『観光まちづくりのマーケティング』 溝尾 良隆（2009）『観光学の基礎（観光学全集 第1巻）』
履修上の注意	1. 授業中は他の人の迷惑にならないように、授業態度に注意すること。 2. 時差、旅行代金の計算、旅行プランニング作成など、じっくりと授業に取り組む必要がある。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション
I C T・オープンエデュケーションの活用	ZOOM、Google classroom、授業内で学生の解答、アンケートなど双方向でのやりとりをおこなうためGoogle フォームを活用する。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
ナンバリング：E210C66	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>一年後期に引き続き、エアライン業界についての知識を深めると同時に、自己PR力を養うため、専任教員またはゲスト講師が、毎回の計画に則り、ゼミ形式あるいは講義形式で授業を進める。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎C：グループディスカッションや自己分析、自己PRの積み重ねを経て、思考力や判断力を養う。 ◎D：就職活動に必要な書類の記入方法を学び、エアライン業界に関する知識や理解をさらに深める。 ◎E：エアライン業界に求められる資格等を取得する。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション・現状報告（木内）（プレゼンテーション） 2グループに分かれて、就活状況の報告をする。</p> <p>2 グループワーク演習、エアライン業界研究と応募書類の作成（木内） グループディスカッション エアライン業界研究を行い、応募書類の作成方法を学ぶ。</p> <p>3 エントリー用紙指導、エアライン業界へのエントリー用紙作成指導（木内） 履歴書、ES、自己PRの書き方 エアライン業界就職のためのエントリーシートの作成方法を学ぶ。</p> <p>4 エントリー用紙指導、エアライン業界志望者のグループ面接・グループディスカッション対策（木内）（グループワーク） 履歴書、ES、自己PRの書き方 エアライン業界就職のためのグループ面接・グループディスカッションの方法を学ぶ。</p> <p>5 エントリー用紙指導、ホテル業界志望者のグループ面接・グループディスカッション対策（木内）（グループワーク） エアライン業界分析、履歴書、ES、自己PRの書き方 エアライン業界就職のためのグループ面接・グループディスカッションの方法を学ぶ。</p> <p>6 面接指導、エントリー指導、エアライン業界志望者のための自己分析・自己PR指導（木内） CA・GSによる個別指導 エアライン業界就職のための自己分析と自己PRの書き方を学ぶ。</p> <p>7 面接指導、エアライン業界研究と応募書類の作成（木内、ゲストスピーカー） グループディスカッション エアライン業界研究と応募書類の作成方法を学ぶ。</p> <p>8 ES指導、エアライン業界研究・就職カウンセリング（木内） 志望動機の書き方指導 エアライン業界研究と就職のための個別指導を行う。</p> <p>9 エアライン業界スタディ、就職活動カウンセリング、エアライン業界志望者のための面接指導（木内） 業界研究・個別指導 エアライン業界就職に向けてグループ面接・グループディスカッション・個別面接対策を行う。</p> <p>10 面接指導、エアライン業界研究・就職カウンセリング（木内） エアライン業界就職のためのグループ面接を行う。 エアライン業界研究と就職のための個別指導を行う。</p> <p>11 エントリーシート・業界研究（木内） CA・GSグループに分かれて、エントリーシート・エアライン業界研究、個別指導を行う。</p> <p>12 ES・面接・GD（木内）、エアライン業界スタディ・就職カウンセリング 各学生の状況に応じて、エントリーシート、面接対策、GDに分かれて授業を行う。 ホテル・ツーリズム業界研究と就職のための個別指導を行う。</p> <p>13 エントリーシート・業界研究（木内） CA・GSのグループに分かれて、エントリーシート・業界研究、個別指導を行う。</p> <p>14 プレゼンテーション準備（木内） グループに分かれて、情報収集を行う。</p> <p>15 プレゼンテーション（木内）（プレゼンテーション） グループごとに一人5分程度のプレゼンを行う。</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>◎C：グループディスカッションでの全体像を把握しつつ、自分の役割を意識して参加することができる。 ◎D：エアライン業界の企業ごとの会社理念やポリシーを説明できる。 ◎E：エアライン業界に必要な資格の対策を講じることができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習として業界研究やエントリーシートの準備をする。（40分） 事後学習として、宿題として出された調査やプレゼンテーションの準備をする。（45分）</p>

指導方法	企業研究の方法について指導し、自分が希望する就職先について理解できるよう指導する。 また、グループディスカッションを通して、コミュニケーション力を高められるよう指導する。 フィードバックの方法: ①エントリーシート・履歴書にコメントをつけて返却、②コメントに関する質疑対応
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C:グループディスカッションでの役割を理解し、その場に応じて行動しているかどうかを評価する。 ◎D:業界研究ノートで評価する。 ○E:資格試験の結果や授業内の提出物で評価する。 授業への貢献度: 30% 課題・資格取得: 40% プレゼンテーション: 30%
テキスト	なし
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎回必ず出席することが大切である。教室が変わることがあるので注意すること。 重要な伝達や情報があるので、学校からのメール、ActivePortal、Google Classroomの情報を毎日確認すること。来校時には学内の掲示板を確認すること。 また本授業は7,8時限開講だが、9, 10時限まで延長して行うこともあることを留意する。
アクティブ・ラー ニング	グループワーク、プレゼンテーション
I C T・オープン エデュケーション の活用	双方型授業に活用。 授業内で学生の解答、アンケートなど双方向でのやりとりをおこなうためGoogleフォームを活用する。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	国専：選択必修
担当教員			
押切孝雄			
ナンバリング：1年生E16B40	ナンバリング：2年生E16B39	A ZOOM中継型	実務家教員による授業
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>コンピュータは絶え間ない技術革新によって変化しながら、私たちの生活のいたるところに深く浸透している。このようなコンピュータを快適で安全に使いこなすために、コンピュータの仕組みを理解し、この仕組みを有効に活用するための論理的な考え方や、複雑で大量なデータを扱う標準的な方法について学習する。また、トピックスとして最新のICTの動向と、この動向をいち早く取り入れる社会の状況を概観する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎D：コンピュータに共通な仕組みや構造について理解を深め、基本的なコンピュータ用語を使うコミュニケーションを円滑に行うことができる。</p> <p>○E：データ処理を含むコンピュータの情報処理などの論理的な手順を表現することができる。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション (GoogleClassroomの運用方法、反転授業の方法などICT環境の導入) ・自己紹介と今後の進め方、注意事項、グループ (Gr) 分けなど</p> <p>2 社会に浸透するコンピュータ (GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) ・コンピュータが社会や日常生活にどのように浸透しているか確認</p> <p>3 コンピュータ共通の仕組1 (GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) ・すべてのコンピュータに共通な、情報処理の基本的な構造と仕組みを理解</p> <p>4 コンピュータ共通の仕組2 (GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) ・データ活用と必要なスキル</p> <p>5 コンピュータ共通の仕組3 (GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) ・基本的な仕組みから実用的な機能を引き出すための工夫 (OSなど) について ・データの準備とデータのタイプ</p> <p>6 論理的な処理の表現方法1 (GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) ・基本的な仕組みから複雑な機能を実現するために必要な手順 (アルゴリズム) を直感的に表現する方法の理解 ・アンケートデータを要約</p> <p>7 論理的な処理の表現方法2 (GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) ・質的変数の分析</p> <p>8 論理的な処理の表現方法3 (GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) ・量的変数を代表値で要約</p> <p>9 論理的な処理の表現方法4 (GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) ・量的変数をばらつきで要約</p> <p>10 論理的な処理の表現方法5 (GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) ・平均と標準偏差を活用</p> <p>11 コンピュータのデータ処理1 (GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) ・量的データを比較</p> <p>12 コンピュータのデータ処理2 (GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) ・平均値の比較をアイデア評価に応用</p> <p>13 コンピュータのデータ処理3 (GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) ・時系列データを分析</p> <p>14 コンピュータのデータ処理4 (GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) ・データ分析を活用するために知っておきたいポイント</p> <p>15 基本的なコンピュータ用語の補足 (GoogleClassroomによる反転授業、クイズ型アクティブラーニング) ・アルゴリズムとデータベースの周辺でさらに知っておく必要のあるコンピュータ用語の理解</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>◎D：コンピュータに共通な仕組みや構造について概要を理解し、簡単なコンピュータ用語を理解できる。</p> <p>○E：データ処理を含むコンピュータの情報処理などの論理的な手順を表現する方法を理解できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：事前に提示する資料をよく理解し、理解を確認するための穴埋め問題と調査・検討を要する問題を宿題として解く (60分程度)。 上記視聴覚資料にあるテーマについて、グループで積極的に討議できるよう準備する (45分程度)。</p> <p>事後学習：用語や考え方の整理、用語間の関連性などの理解・確認を行い、演習などの課題のある場合は回答</p>

	を作成して、指定の期限までに提出する（75分程度）。
指導方法	事前学習資料による事前学習、配布資料（PowerPointなど）による講義、グループ討議、討議結果のグループ別発表、小テスト、論理的な手順の作成などを適宜行う。また、考察を要する問題についてグループの意見をまとめる練習を行う。 フィードバックの方法：グループ討議にはその場でコメントし、小テストには正誤と正解を即座に提示する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：小テスト、論理的な手順を表現する課題回答などを評価。 ○E：質疑応答など、アクティブラーニングへの参加状況を評価。 事前学習への取り組みや授業での発言などの受講態度 30%、小テスト、課題提出など 30%、期末テスト 40%
テキスト	事前に提示する資料、小テスト、講義資料などをデジタル教材として提供する。
参考書	『学生のためのデータリテラシー～データの読み方から分析結果の伝え方まで～』FOM出版、『決定版 コンピュータサイエンス図鑑』（創元社）他、必要に応じて授業中に指示する。
履修上の注意	好奇心を持って、演習やグループ討議に積極的に参加してください。現在の情報社会に生きるための基本的知識を身につけるとともに、日常生活の物事を論理的に考える姿勢を養成する科目でもあり、基本的な知識は相互に関連しているので、毎回必ず出席してください。重要な連絡は、5Fの掲示板や教員からのメールで知らせるので、掲示板やメールは毎日一度は見るようにしてください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ICT・オープンエデュケーションの活用	Zoom, Google Classroom, Google Form 等

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	国専：選択
担当教員			
押切孝雄			
ナンバリング：E36C49	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>社会人として必要な主体性、責任感、計画性を涵養する授業である。</p> <p>本授業では、自ら15週の達成目標を設定し、それを実現するために活動することを求められる。テーマはこれまでに学んだ授業の延長線上にある応用や発展テーマでも良いし、自分の関心の高い別分野を選んでも良い。</p> <p>またテーマを複数用意し、授業の前半と後半で別テーマに取り組んでも構わない。</p> <p>授業の流れは企画→制作→発表となる。授業計画に例を示すので参考にすること。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎A：高い目標をテーマに掲げ、現実的な計画を立てることができる。</p> <p>○E：これまでに習得した技術を生かした成果をあげ、その成果をプレゼンテーションすることで聴衆の共感を得ることができる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の進め方の説明とグループ分けを行う。 <p>2 グループテーマの設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループごとに何を作成するか検討する。 ・ 役割分担と大まかなスケジュールを作成する。また必要な機材や費用を見積もる。 <p>※以下、「短大進学を検討している高校生へ戸板女子短期大学をアピールする動画制作」をテーマとした場合の計画を示す</p> <p>3 コンテンツの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 戸板女子短期大学の何をアピールするのか、どこに、誰に取材に行くのかを検討する。 ・ 前回より詳細なスケジュールを作成する。 <p>4 コンテの作成と取材の計画(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。 ・ インタビューや撮影に許可の必要な場所へのアポイントメントもここで行う。 <p>5 コンテの作成と翻訳(1)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。 ・ ナレーションやキャプションについても文字に起こして検討する。 <p>6 コンテの作成と翻訳(2)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。 <p>7 内部レビュー(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ここまでの計画と成果物(ここではコンテ)をグループメンバーで確認し、修正が必要であれば行う。 <p>8 取材(1)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インタビューや撮影を行う。初日。 <p>9 取材(2)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インタビューや撮影を行う。二日目。 <p>10 動画作成の準備(1)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 取材結果をまとめ、動画に必要な文章(台本やキャプション)にする。 <p>11 動画作成の準備(2)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 取材結果をまとめ、動画に必要な文章(台本やキャプション)にする。 <p>12 動画作成(1)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動画を作成する。 ・ 動画への素材の取り込み、全体の流れの確認を行う。 <p>13 動画作成(2)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動画を作成する。 ・ ブラッシュアップ。細かなタイミングの修正などを行う。 <p>14 動画と発表台本の作成(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動画を完成させる。

	15 <ul style="list-style-type: none"> ・最終成果発表用の台本を作成する。 最終成果発表(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) <ul style="list-style-type: none"> ・完成した動画を制作過程などを交えて発表する。
学習成果・到達目標・基準	◎A:実現可能な計画を立てることができる。 ◎E:自らの取り組みの成果をプレゼンテーションできる。
事前・事後学習	事前学習:次回およびそれ以降の活動計画を作成する。(20分) 事後学習:授業の最初に進捗報告を行うため、授業後発表準備を行うこと。(30分) また、制作計画を達成するため、必要に応じて時間外でも積極的な活動を行うことを推奨する。授業時間外の設備の利用などは担当教員に相談すること。
指導方法	学生それぞれが決めたテーマに沿ってガイドする。全体に向けての解説は短時間で、多くの時間は制作のために使用する。作業の進み具合で、個人個人へ技術やアイデアについてサポートする。 成果物の種類はPCを使用した制作、レポートの執筆など、テーマに併せて決めて良い。 フィードバックの方法:授業冒頭に毎回行う進捗報告にコメントする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A:計画書と達成状況を評価する。 ◎E:最終成果の報告(最終日に実施する成果報告)を評価する。 学習態度および進捗報告30%、作品と成果発表70% 作品は、最終成果の発表と品質に対し、評価ポイントをもとに評価する。評価ポイントはガイダンス時に発表する。
テキスト	特定の教科書は使用しない。 授業の要点については、デジタル教材で説明する。
参考書	
履修上の注意	好奇心を持って、演習やグループ討議に積極的に参加してください。現在の情報社会に生きるための基本的知識を身につけるとともに、日常生活の物事を論理的に考える姿勢を養成する科目でもあり、基本的な知識は相互に関連しているので、毎回必ず出席してください。重要な連絡は、5Fの掲示板や教員からのメールで知らせるので、掲示板やメールは毎日一度は見るようにしてください。
アクティブ・ラーニング	プロジェクト型学習、プレゼンテーション(成果発表)
ICT・オープンエデュケーションの活用	Zoom, Google Classroom, Google Form 等

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択必修
担当教員			
押切孝雄			
ナンバリング：E17B51	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>ビジネスとは何か、人々はビジネスとどう関わっているのか、ビジネスを実践する企業は何を求め、どのように活動しているのか、そうした企業を社会はどう評価するのか、ICTの社会への浸透によりビジネスはどう変わるのかなど、また、企業研究の方法や、社会生活や就職活動に必要な知識を学習する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○C：収入と生活の関係やビジネスの仕組みの理解などをとおして、社会人として論理的に考えて判断することができる。</p> <p>◎D：社会とビジネスの基本的な仕組みについて理解を深め、基本的なビジネス用語などを使ってコミュニケーションを円滑に行うことができる。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション (GoogleClassroomの運用方法、反転授業の方法などICT環境の導入) ビジネスの定義、および、自己紹介と今後の進め方、グループ (Gr) 分け</p> <p>2 ビジネス活動の概要1 (GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 産業の種類と働き方について</p> <p>3 ビジネス活動の概要2 (GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 企業活動の概要と関係する人々の役割</p> <p>4 ビジネス活動の概要3 (GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 企業の売れる仕組みづくりとマーケティング</p> <p>5 ビジネス活動の概要4 (GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) デジタル技術を活用したマーケティング (デジタルマーケティング)</p> <p>6 ビジネス活動の概要5 (GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 企業の経営と組織、グループ別プレゼンテーションの準備</p> <p>7 ビジネスとICT1 (GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) グループごとに着目したビジネス (企業) に関するグループ別プレゼンテーション</p> <p>8 ビジネスとICT2 (GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 企業の収益を支えるビジネスモデル1</p> <p>9 ビジネスとICT3 (GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 企業の収益を支えるビジネスモデル2</p> <p>10 就職に向けた基礎知識1 (GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 職種と労働条件について、および、最近の就職活動の状況とビジネスシミュレーション1 (起業)</p> <p>11 就職に向けた基礎知識2 (GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 企業から見た新卒への期待と人事評価、および、ビジネスシミュレーション2</p> <p>12 就職に向けた基礎知識3 (GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 社会から見た企業に対する客観的評価</p> <p>13 就職に向けた基礎知識4 (GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 企業研究の目的と方法、および、企業研究の実践</p> <p>14 就職に向けた基礎知識5 (Gr討議と発表) 企業研究の実践と研究成果のグループ別プレゼンテーション</p> <p>15 女性の労働環境 (GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 国内の女性の労働環境の現状と改善の方向</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>○C：収入と生活の関係やビジネスの仕組みとおして社会人として論理的に考え、判断する方法を理解できる。</p> <p>◎D：社会の基本的な仕組みについて理解を深め、基本的なビジネス用語などを理解できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：事前に提示する資料をよく理解する (60分程度)。 上記資料にあるテーマについて、グループで積極的に討議できるよう準備する (45分程度)。 事後学習：用語や考え方の整理、用語間の関連性などの理解・確認を行い、演習などの課題のある場合は回答を作成して、指定の期限までに提出する (75分程度)。</p>
指導方法	<p>事前学習、配布資料 (PowerPointなど) に基づく講義、グループ討議、討議結果のプレゼンテーション、小テストなどを適宜行う。また、調査・分析の必要な宿題や課題の実行をとおして、意見をまとめる練習を行う。フィードバックの方法：プレゼンテーションとグループ討議にはその場でコメントし、小テストには正誤と正解を即座に提示する。</p>

アセスメント・成績評価の方法・基準	○C：企業研究などの調査結果や適宜行うプレゼンテーションの内容を評価。 ◎D：課題回答や小テストの結果を評価。 事前学習への取り組みや授業での発言などの受講態度 30%、プレゼンテーション、小テスト、課題提出 30%、期末テスト 40%
テキスト	事前に提示する資料、小テスト、講義資料をデジタル教材として提供する。
参考書	『ITエンジニアのための【業務知識】がわかる本 第5版』（翔泳社）、『就職四季報 女子版 2022』（東洋経済）、『デジタルマーケティング集中講義』（マイナビ出版）、その他、必要に応じて授業中に指示する。
履修上の注意	1年生の後期以降は就職活動が始まるが、この科目には進路に関わる内容が多く含まれる。自分の将来を考えながら演習やグループ討議に積極的に参加し、キャリアプランに活かしてください。 また、基本的な知識は相互に関連しているので、毎回必ず出席してください。重要な連絡は、5Fの掲示板や教員からのメールで知らせるので、掲示板やメールは毎日一度は見るようにしてください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	Zoom, Google Classroom, Google Form 等

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
松井恵美子、押切孝雄			
ナンバリング：E210C69	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	一般企業の受付・営業支援・事務・秘書・販売などをめざす就職活動に必須の、履歴書・エントリーシートの作成法、自分のアピールポイントの掘り起し方、面接の対処法、業界・企業の調査法、などを学習する。また、それらの方法を実践した結果をグループで討議し、コミュニケーション能力など就職活動に必要な能力を養成する。 (授業目標) ○C：自分のアピールポイントの発見や企業研究などをとおして、自分の将来の展望について納得のゆく結論を出すことができる。 ◎E：就職活動に必要な書類などをわかりやすく整理して作成することができ、面接にも冷静に対処できる。
授業計画	<p>1 オリエンテーション（松井、キャリアセンター）（アンケート調査） 授業の進め方に関するオリエンテーションと今後の就職活動の注意点など、および、就活状況アンケート</p> <p>2 就活スキルアップ1（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） エントリーシートの書き方1：自分のアピールポイントの見つけ方と表現方法</p> <p>3 就活スキルアップ2（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） エントリーシートの書き方2：効果的なエントリーシートの書き方</p> <p>4 就活スキルアップ3（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） 面接練習1：面接の注意点と練習</p> <p>5 就活スキルアップ4（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） 面接練習2：本番に向けた面接練習</p> <p>6 就活スキルアップ5（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） SPIテスト対策</p> <p>7 企業研究と個別面談1（松井） 企業研究の方法説明と実践、並行して、適宜担当教員による個別面談、インターンシップ面談を実施</p> <p>8 企業研究と個別面談2（松井） 企業研究の実践、並行して、適宜担当教員による個別面談、インターンシップ面談を実施</p> <p>9 企業説明会（参加企業人事担当者、キャリアセンター、キャリア教育専門講師、松井） 企業の人事担当者を招いて教室で企業説明会を体験、その前後にキャリア教育専門講師により企業説明聴講と聴講後の心構えを説明</p> <p>10 仕事に就いて1（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） 自分の就きたい仕事を見つける方法について</p> <p>11 仕事に就いて2（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） 女性のキャリアプラン</p> <p>12 仕事に就いて3（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） 仕事の優先順位の決め方について</p> <p>13 仕事に就いて4（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） 調査・分析の方法（KJ法）</p> <p>14 仕事に就いて5（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） 会社に入ってから役に立つ社会人の心構え</p> <p>15 夏休み以降の就職活動について（キャリアセンター、松井）（アンケート調査） 夏休み中の就職活動の注意事項と対策について、および、振り返りアンケート</p>
学習成果・到達目標・基準	○C：自分のアピールポイントの発見や企業研究などを実践することができる。 ◎E：就職活動に必要な書類などを作成する方法を理解でき、面接の要領も理解できる。
事前・事後学習	事前学習：次の授業で取り上げる、就職活動の取り組み方について何を知っているか、何を知る必要があるか整理し、授業中の質疑応答やグループワークに積極的に参加できるよう準備（30分程度）。 事後学習：授業で提示された外部のリクルート関連会社の支援を積極的に活用して、就職活動に取り組む（30分程度）。
指導方法	キャリアセンターやキャリア教育専門講師による授業などを状況に応じて実施する。また、就職に関する個別面談、質疑応答、グループ討議の機会を設けるので、積極的に参加してください。 フィードバックの方法：個別面談により、就活への理解を深める。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○C：企業研究や自己分析などによる、各自の将来展望への取り組みを評価。 ◎E：履歴書・エントリーシートなどの課題への取り組み、および、学習内容の就職活動への反映を評価。 平常点（授業への貢献度・積極性）：30% プレゼンテーション：30% 課題：40%

テキスト	授業の要点を資料として配布する。
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	すべての連絡はGoogleClassroomで行うので必ず確認をするようにしてください。 本授業は7,8時限開講だが、9, 10時限まで延長して行うこともあることを留意してください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
I C T・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称： キャリアゼミ：ビジネス・レセプション・販売 授業コード：
ゼミ

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
松井恵美子、押切孝雄			
ナンバリング：E110A65	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>一般企業の受付・営業支援・事務・秘書・販売などを目指して社会に出るために必要となる基本的な知識を学習する。この知識には、社会や企業の仕組み、働き方のヒントが含まれる。また、企業研究、エントリーシートの書き方、面接の方法など、実践的な就職活動対策を行う。ショールームの案内や販売・接客などの業務を行い、戸板の学生を採用の対象とする企業の講演や会社訪問も適宜行うので、各自の就職活動の具体的な糸口を作ることができる。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎D：希望業界に関する知識や、エントリーシートの記入方法などのスキルを活用した就職活動を行うことができる。</p> <p>○E：各業界に沿った資格等の取得に必要な知識を身に付け、活用することができる。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション（松井、キャリアセンター） キャリアセンターによる講義を含め就職活動についての方法と今後の進め方を考える。</p> <p>2 自己分析（別宮、松井）、TOITA Fesへの取り組みの検討（学生部） 前半は、自己分析の導入。後半は、学年全体でTOITA Fesに関する説明を聞き、どのように参加するか検討する。</p> <p>3 企業研究の方法（キャリア教育専門講師）（グループワーク） どのような業界があり、どのような働き方があるかを把握する。</p> <p>4 業界説明会（キャリアセンター） 接客・事務系企業による説明会</p> <p>5 面談・企業訪問（1）（松井） 個別面談・大手企業のショールームなど接客関連の企業訪問</p> <p>6 SPI対策（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） SPI受験の心構えと問題演習。</p> <p>7 キャリア講座（キャリアセンター） SPI取り組みの予行演習。</p> <p>8 面談・企業訪問（2）（松井） 個別面談・接客関連の企業訪問。</p> <p>9 企業研究（松井） 企業研究の方法と実践。</p> <p>10 内定者交流会（キャリアセンター） 内定者の面接経験発表を中心に模擬面接を実施。</p> <p>11 英語資格試験（松井） TOEIC IP取り組みの予行演習。</p> <p>12 就職活動実践講座（1）（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） エントリーシートの書き方の演習。 個別面談</p> <p>13 就職活動実践講座（2）（キャリア教育専門講師）（グループワーク） グループ面談練習。</p> <p>14 就職活動実践講座（3）（キャリア教育専門講師）（グループワーク） 面接練習。</p> <p>15 企業研究と今後の就活について（キャリアセンター、松井）（グループワーク） 就活の具体的方法の説明と今後の方針アンケート。</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>◎D：希望業界に関する知識や、エントリーシートの記入方法などのスキルを理解することができる。</p> <p>○E：各業界に沿った資格等の取得に必要な知識を理解することができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：次回の授業で取り上げる、就職活動の取り組み方について何を知っているか、何を必要があるか整理し、授業中の質疑応答やグループワークに積極的に参加できるよう準備する（30分程度）。</p> <p>事後学習：授業で提示された外部のリクルート関連会社の支援を積極的に活用して、就職活動に取り組む（15分程度）。</p>
指導方法	<p>キャリアセンターと連携した、キャリア教育専門講師による授業のほか、接客に関わる一般企業への訪問などを状況に応じて実施する。また、学生の積極的な参加を必要とする授業中の質疑応答や、対話・討議・課題発表の機会を多く設ける。</p> <p>フィードバックの方法：アンケート結果などに基づき、個別面談により就活への理解を深める。</p>

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D：課題で評価する。 ○E：資格試験の結果や授業内の提出物で評価する。 平常点（授業への貢献度・積極性）：30% プレゼンテーション:30% 課題：40%
テキスト	授業の要点を資料として配布する。
参考書	授業中に適宜指示する。
履修上の注意	すべての連絡はGoogle Classroom で行うので必ず確認をしてください。（実習などはコロナ禍変更の可能性あり） また本授業は7,8時限開講だが、9, 10時限まで延長して行うこともあることを留意する。
アクティブ・ラー ニング	グループワーク、実習、企業訪問
I C T・オープン エデュケーション の活用	Google Classroom

講義科目名称： インターンシップ1（国際コミュニケーション 授業コード： 2691
学科）

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	国専：選択
担当教員			
押切孝雄			
ナンバリング：E29C63	実務家教員による授業		
添付ファイル			

<p>授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現</p>	<p>インターンシップ1は、事前、事後研修を含み、原則として実習期間が5日間以上(40時間相当)の実習・研修などの就業体験をするプログラムである。インターンシップ研修を通じ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。プログラム参加希望者全員は必ず事前研修へ参加をし、研修先決定後に各企業でのインターンシップ研修を実施、研修終了後に事後研修を受講すること。研修先は、履修モデルとリンクした業界から選ぶことができる。また、自ら研修先を探すこともできる。 (授業目標) インターンシップ1は、自己の職業適性や将来設計について思考し、主体的な職業選択や高い職業意識を育成することを目的とするが、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付けなければいけないという自覚を持ち、行動していく自主性を持つことを目標とする。 ◎A：実社会で主体性・チームワーク・責任感ををもって行動することができる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係のある従業員、他部署と連携することができる。</p>
<p>授業計画</p>	<p>1 説明会（課外時間にて実施予定） インターンシップの意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、研修先案内等の説明</p> <p>2 事前研修（課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） 個人情報保護、守秘義務、マナー、研修の受け方等を行うほか、研修先企業の探し方、案内を行う。</p> <p>3 業界別事前研修 業界により内容が異なるため①・②・③のいずれかにも出席する。（ゲスト講師） ① ウエディング業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ② ホテル業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ③ 事務、サーブ系（アパレルその他を含む）インターンシップ（課外時間にて実施予定）</p> <p>4 インターンシップ選考 インターンシップにあたっては、あくまでも企業スケジュールに準じて実施されるものである。希望により研修先を選ぶことができるが、各企業の参加学生枠に制限がある。希望者多数の場合は、学内選考または企業内選考を実施し、選考から外れた場合は希望企業での研修が受けられない可能性がある。また、研修日程や実習内容は企業の意向に準ずるため、決定に時間を要する場合があります。</p> <p>5 インターンシップ研修（実習：受け入れ先企業内研修） 事前に企業ごとに各自、面接、日程調整を行い、実習を行う。 実習日は必ず日報を作成し、担当者より捺印またはサインをもらうこと。 最終日には、研修担当者より修了証明書を交付いただくこと。 勤務体系は実習先の規定に準ずる。基本的に夏期休暇中、原則として実習期間が5日間以上(40時間相当、事前学習、事後学習時間を含む)とする。 ・場所：研修先による。 ・報酬：基本的にはないが、研修先による。研修終了後アルバイト契約で継続することを推奨する。 実施を予定する夏期・春期休暇中は、企業スケジュールに準じて研修が実施されるものであり、私的な予定等による欠勤は原則認めない。 実習中は戸板生の代表として実習へ参加していることを忘れず、実習先に迷惑にならないように配慮すること。</p> <p>6 事後研修 課外時間にて実施予定（ゲスト講師） インターンシップ研修修了後、実施報告書の提出と振り返りを行い、その結果を学科ゼミナール、戸板ゼミナールで発表する。</p> <p>7 担当教員との研修後面談 インターンシップ研修修了後、提出した実施報告書をもとに担当教員と実習の振り返り等を含めた面談を実施し、総合的な評価のもと単位認定の決定がなされる。</p>
<p>学習成果・到達目標・基準</p>	<p>自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。 ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を理解できる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。</p>
<p>事前・事後学習</p>	<p>事前学習：希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解をしておくこと。また、インターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を得たいか等の目標を設定することが望ましい（60分）。</p> <p>事後学習：自身の経験をポートフォリオ作成しまとめることで、就職活動で活かせるよう準備する。また、事後研修で振り返り・発表を行う中で、その他の学生の経験談から幅広い業界・職種の知見等の情報共有を図る（60分）。</p>
<p>指導方法</p>	<p>担当教員の他、業界に精通する専門家、キャリアセンターの協力により実施する。 フィードバックの方法：インターンシップ1の事後学習における振り返り、企業からの評価などに基づく教員との面談を行って、今後の就活についての理解を深める。</p>

<p>アセスメント・成績評価の方法・基準</p>	<p>事前、事後研修、実習を5日間以上(40時間相当)実施し、研修先の評価表(出勤状況、勤務態度含む)、日報、発表内容をもとに、実習後の担当教員との面談により総合的に評価する。 なお、実施しても資料の不備(研修先の印がない等)、期限後の提出者には単位不可となる場合がある。 また、以下項目を基準に評価する。 ◎A: 実社会での主体性・チームワーク・責任感の必要性をどれだけ認識できたかを評価。 ○B: スタッフ間、お客様、上下関係のある従業員、他部署との連携の必要性をどれだけ認識できたかを評価。 具体的には、インターンシップ1の事前・事後研修の評価 25%、企業からの評価 50%、教員との面談 25%。</p>
<p>テキスト</p>	<p>なし</p>
<p>参考書</p>	<p>インターンシップ説明会にて配布</p>
<p>履修上の注意</p>	<p>インターンシップ1は、授業時間外に説明会、事前学習、実習、事後学習、発表を行う。夏期休暇中と春期休暇中に実施するが、春期については、一部の業界のみ実施する予定である。履修登録はインターンシップ研修終了後に登録する。 従って夏期インターンシップは、1年後期、春期インターンシップは2年前期に単位取得となる。 自ら探したインターンシップ先は、学校との覚書を締結した企業のみ、インターンシップの履修を認める。 インターンシップ1、2の説明会、事前・事後研修は、合同で開催する。1と2との違いは総研修日数(時間)の違いである。1は5日間以上(40時間相当)、2は6日間以上(45時間相当)、1、2ともインターンシップ終了後は、引き続きアルバイト契約にて実務経験を継続することを前提とする。 事前学習を欠席した場合、単位は認定不可。また、事前学習の補講は原則行わないものとする。 *新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、授業時間以外に行う説明会等はZOOMやオンデマンドになることもある。また、インターンシップ先の受け入れも感染状況に応じた対応に変更または中止される場合がある。</p>
<p>アクティブ・ラーニング</p>	
<p>ICT・オープンエデュケーションの活用</p>	

講義科目名称： インターンシップ2（国際コミュニケーション 授業コード：2692 学科）

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	国専：選択
担当教員			
押切孝雄			
ナンバリング：E29C64	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>インターンシップ2は、事前、事後研修を含み、原則として実習期間が6日間以上(45時間相当)の実習・研修などの就業体験をするプログラムである。インターンシップ研修を通じ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。プログラム参加希望者全員は必ず事前研修へ参加をし、研修先決定後に各企業でのインターンシップ研修を実施、研修終了後に事後研修を受講すること。研修先は、履修モデルとリンクした業界から選ぶことができる。また、自ら研修先を探すこともできる。</p> <p>(授業目標)</p> <p>インターンシップ2は、自己の職業適性や将来設計について思考し、主体的な職業選択や高い職業意識を育成することを目的とするが、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付けなければいけないという自覚を持ち、行動していく自主性を持つことを目標とする。</p> <p>◎A：実社会で主体性・チームワーク・責任感をもって行動することができる。</p> <p>○B：スタッフ間、お客様、上下関係のある従業員、他部署と連携することができる。</p>
授業計画	<p>1 説明会（課外時間にて実施予定） インターンシップの意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、研修先案内等の説明</p> <p>2 事前研修（課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） 個人情報保護、守秘義務、マナー、研修の受け方等を行うほか、研修先企業の探し方、案内を行う。</p> <p>3 業界別事前研修 業界により内容が異なるため①・②・③のいずれかに出席する。（ゲスト講師） ① ウエディング業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ② ホテル業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ③ 事務、サーブ系（アパレルその他を含む）インターンシップ（課外時間にて実施予定）</p> <p>4 インターンシップ選考 インターンシップにあたっては、あくまでも企業スケジュールに準じて実施されるものである。希望により研修先を選ぶことができるが、各企業の参加学生枠に制限がある。希望者多数の場合は、学内選考または企業内選考を実施し、選考から外れた場合は希望企業での研修が受けられない可能性がある。また、研修日程や実習内容は企業の意向に準ずるため、決定に時間を要する場合があります。</p> <p>5 インターンシップ研修（実習：受け入れ先企業内研修） 事前に企業ごとに各自、面接、日程調整を行い、実習を行う。 実習日は必ず日報を作成し、担当者より捺印またはサインをもらうこと。 最終日には、研修担当者より修了証明書を交付いただくこと。 勤務体系は実習先の規定に準ずる。基本的に夏期休暇中、原則として実習期間が6日間以上(45時間相当、事前研修、事後研修時間を含む)とする。 ・場所：研修先による。 ・報酬：基本的にはないが、研修先による。研修終了後アルバイト契約で継続することを推奨する。 実施を予定する夏期・春期休暇中は、企業スケジュールに準じて研修が実施されるものであり、私的な予定等による欠勤は原則認めない。 実習中は戸板生の代表として実習へ参加していることを忘れず、実習先に迷惑にならないように配慮すること。</p> <p>6 事後学習（課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） インターンシップ研修修了後、実施報告書の提出と振り返りを行い、その結果を学科ゼミナール、戸板ゼミナールで発表する。</p> <p>7 担当教員との研修後面談 インターンシップ研修修了後、提出した実施報告書をもとに担当教員と実習の振り返り等を含めた面談を実施し、総合的な評価のもと単位認定の決定がなされる。</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。</p> <p>◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を理解できる。</p> <p>○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解をしておくこと。またインターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を得たいか等の目標を設定することが望ましい（60分）。</p> <p>事後学習：自身の経験をポートフォリオ作成しまとめることで、就職活動で活かせるよう準備する。また、事後研修で振り返り・発表を行う中で、その他の学生の経験談から幅広い業界・職種の知見等の情報共有を図る（60分）。</p>
指導方法	<p>担当教員の他、業界に精通する専門家、キャリアセンターの協力により実施する。</p> <p>フィードバックの方法：インターンシップ2の事後学習における振り返り、企業からの評価などに基づく教員との面談を行って、今後の就活についての理解を深める。</p>

<p>アセスメント・成績評価の方法・基準</p>	<p>事前、事後研修、実習期間が6日間以上(45時間相当)実施し、研修先の評価表(出勤状況、勤務態度含む)、日報、発表内容をもとに、実習後の担当教員との面談により総合的に評価する。 なお、実施しても資料の不備(研修先の印がない等)、期限後の提出者には単位不可となる場合がある。 また、以下項目を基準に評価する。 ◎A:実社会での主体性・チームワーク・責任感の必要性をどれだけ認識できたかを評価。 ◎B:スタッフ間、お客様、上下関係のある従業員、他部署との連携の必要性をどれだけ認識できたかを評価。 具体的には、インターンシップ2の事前・事後学習の評価 25%、企業からの評価 50%、教員との面談 25%。</p>
<p>テキスト</p>	<p>なし</p>
<p>参考書</p>	<p>インターンシップ説明会にて配布</p>
<p>履修上の注意</p>	<p>インターンシップ2は、授業時間外に説明会、事前研修、実習、事後研修、発表を行う。夏期休暇中と春期休暇中に実施するが、春期については、一部の業界のみ実施する予定である。履修登録はインターンシップ研修終了後に登録する。 従って夏期は、1年後期、春期は2年前期に単位取得となる。 自ら探したインターンシップ先は、学校との覚書を締結した企業のみ、インターンシップの履修を認める。 インターンシップ1、2の説明会、事前・事後研修は、合同で開催する。1と2との違いは総研修日数(時間)の違いである。1は5日間以上(40時間相当)、2は6日間以上(45時間相当)、1、2ともインターンシップ終了後は、引き続きアルバイト契約にて実務経験を継続することを前提とする。 事前学習を欠席した場合、単位は認定不可。また、事前学習の補講は原則行わないものとする。 *新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、授業時間以外に行う説明会等はZOOMやオンデマンドになることもある。また、インターンシップ先の受け入れも感染状況に応じた対応に変更または中止される場合がある。</p>
<p>アクティブ・ラーニング</p>	
<p>ICT・オープンエデュケーションの活用</p>	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
有田りな			
ナンバリング：E14C25	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>多種多様な業種によって成り立っている航空会社。それらの業種を紹介し、業務内容を説明する。具体的なサービス事例や各社の取り組みを紹介し、エアライン業界におけるホスピタリティマインドを理解する。</p> <p>キャビンアテンダント・グランドスタッフに求められる素養を紹介するとともに、基礎的な自己分析を実施する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○A:授業内の課題・事前学習を主体的に取り組み、紹介する事例を自らの問題として取り組む責任感を養う。 ○D:航空業界の職種を知り、安全運航と顧客満足への取り組みを理解する。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明を行う</p> <p>2 接客業に従事する者に求められる素養と自己分析 自己分析を行う方法を説明し、学生時代に取り組むべき事柄を考える</p> <p>3 キャビンアテンダントの業務と求められる素養 キャビンアテンダントの業務内容を分析し、求められる素養を理解する</p> <p>4 グランドスタッフの業務と求められる素養 グランドスタッフの業務内容を分析し、求められる素養を理解する</p> <p>5 航空産業の概要① 日本の航空業界の変遷・世界の航空業界の動向とアライアンスを理解する</p> <p>6 航空産業の概要② 一機を飛ばすために様々な職種が協力し合っている、航空業界の仕組みと各業種を知る</p> <p>7 フルサービスキャリア (FSC)とローコストキャリア (LCC)① 大手航空会社 (FSC)と格安航空会社 (LCC)の収益構造を比較する</p> <p>8 フルサービスキャリア (FSC)とローコストキャリア (LCC)② (プレゼンテーション) 大手航空会社 (FSC)と格安航空会社 (LCC)のサービス内容を、具体的事例を用いて比較する (プレゼンテーション：全員が発表する)</p> <p>9 航空業界における顧客満足への施策 事例研究を通して、顧客満足への施策を比較する</p> <p>10 キャビンアテンダントの仕事 長距離国際線を例として、保安要員とサービス要員としての役割を知る</p> <p>11 グランドスタッフの仕事① グランドスタッフの多岐にわたる業務と魅力を知る</p> <p>12 グランドスタッフの仕事② グランドハンドリング業務と求められる素養を知り、考察する</p> <p>13 飛行機の運航を支える仕事① 運航などに関わる業務を紹介する</p> <p>14 飛行機の運航を支える仕事② 予約などに関わる業務を紹介する</p> <p>15 エアラインホスピタリティ エアラインホスピタリティの事例研究を行う</p>
学習成果・到達目標・基準	○A:グループワークにて、相手の意見を尊重し協働できる。また、自身の意見を自分の言葉で発信することができる。与えられた課題に主体的に取り組むことができる。 ○D:航空業界で働くスタッフに求められる人材像のポイントについて説明することができる。
事前・事後学習	【事前学習】 事前に告知したテーマにかかわるニュース報道などの情報収集 (100分) 【事後学習】 テーマごとに配布するプリントの読み返しと航空業界用語・キーワードの確認 (80分)
指導方法	パワーポイント・資料配布 (クラスルーム) を使って講義形式で行う。 理解を深めるために適宜グループワークを実施し、インプットされた知識の整理とアウトプットを行う。 毎週自身が選んだ記事の発表を行い、業界への理解を深める。 授業の最後に毎回小レポートを記入・提出。 レポートなどの提出物は、Google Classroomを通じ個別コメントでフィードバックをし、授業内での全体講評を行う

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	定期試験・毎回の小レポート・提出物・平常点（授業態度）を総合的に判断する。 ○A:授業での取り組み姿勢と発言を評価する ◎D:試験と知識確認テストを評価する 授業態度35% 小レポート・課題（プレゼンテーション）、提出物35% 定期試験30%
テキスト	晃洋書房『エアライン・ビジネス入門』稲本恵子編著 適宜資料を配布する。 航空に関する新聞記事なども使用する。
参考書	アートヴィレッジ『後悔しないJAL ANA 外資系CA就職対策決定版』アイザックエアラインスクール編著
履修上の注意	この時期に業界・企業の情報収集能力を身につけることが将来大いに役立ちます。 地道な事前学習ですが積極的に取り組み、習慣化していきましょう。 授業内で紹介する業種にて、自分がどのようなおもてなしが提供できるのか、また、どのような点にやりがいを見いだせるかを考え、自主的に授業に取り組んでください。 JAL ANA のアニュアルレポート(無料)を各自取り寄せてください。
アクティブ・ラー ニング	グループワーク、ディベート、プレゼンテーション
I C T・オープン エデュケーション の活用	Google classroom , Google form

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
有田りな			
ナンバリング：E14C26	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>多種多様な職種によって成り立っている航空会社の中で、顧客満足度を左右する大きな役割を担うキャビンアテンダントの事例を取り上げ、様々な客層に高品質なもてなしを提供するために必要な知識（国際理解・マナー）を学ぶ。</p> <p>キャビンアテンダントの接遇の基本を社会生活におけるコミュニケーションのツールとして利用し、豊かな人間関係の創造と自分への自信に繋げていくことをテーマとする。 (授業目標)</p> <p>○B：マナー5原則（表情・挨拶・身だしなみ・話し方・態度）を身につけ、学校生活など日常のコミュニケーションで役立てることができる</p> <p>◎D：航空業界の概要を知り、仕事の仕組みや構成のあり方を理解する</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業の内容説明とそれぞれの自己紹介（プレゼンテーション）を行う</p> <p>2 キャビンアテンダントの業務① キャビンアテンダントの役割と業務の流れを大筋で捉える</p> <p>3 キャビンアテンダントの業務② キャビンアテンダントの業務とサービス向上の取り組みについて知る</p> <p>4 キャビンアテンダントの業務③ 保安要員としての役割を考える</p> <p>5 接遇の基本① キャビンアテンダントの接遇スキルの基礎を学ぶ</p> <p>6 接遇の基本② サービスに適した言葉遣いや言葉の選び方を学ぶ。発声・機内アナウンス</p> <p>7 接遇の基本③ 演習（ロールプレイング） ドリンクサービスなどのロールプレイングを実施</p> <p>8 経営理念とサービス方針 各航空会社の経営理念やサービス方針・実際行われている取り組みを学ぶ</p> <p>9 各航空会社の社会貢献活動 プレスリリースなどを調べ、各航空会社の社会貢献活動を学ぶ</p> <p>10 特色あるエアラインサービスを調べる（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 機材・路線に合わせた特色あるエアラインサービスについて調査・討議・発表する</p> <p>11 特色あるエアラインサービスを調べる（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 機材・路線に合わせた特色あるエアラインサービスについて調査・討議・発表する</p> <p>12 キャリアビジョンと実現したいサービス キャビンアテンダントのキャリアを知り、実現したいサービスを考える</p> <p>13 訪日外国人への「おもてなし」① おもてなしとホスピタリティ</p> <p>14 訪日外国人への「おもてなし」② 外国人のお客様に機内で日本らしさを感じていただくための「おもてなし」実例を学ぶ</p> <p>15 エアラインスタディ（ロールプレイング） 機内で想定される事例のロールプレイング</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>○B：相手の意見を尊重しながら、他者に合わせるべきところと主張すべきところを押さえて、多様な人と関わることができる</p> <p>◎D：エアライン・サービスを提供する上で必要な構成要素と業務に携わる人々、必要とされる人材・そのホスピタリティについて説明できる</p>
事前・事後学習	<p>【事前学習】事前に告知したテーマに関わるニュース報道などの情報収集・課題レポート（100分）</p> <p>【事後学習】テーマごとに配布するプリントの読み返しと課題レポート 毎回の演習内容のリプレイ（80分）</p>
指導方法	<p>配布資料・パワーポイントを使って講義形式で行う。必要に応じ、映像も使いながら進めていく。ゲストスピーカーを招くことも検討。</p> <p>授業の最後必要に応じ、サービスやマナーに関する映像も使用する。</p> <p>事例研究やマナーは実践を取り入れ、体感することで理解を深めるよう進めていく。</p> <p>毎回Google Classroomでの小レポートを記入、提出。個別フィードバックを加え返却。</p>

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○B：成果物作成やプレゼングループでのチームへの関わり方を評価する ◎D：学期末テストと授業内での質疑応答の内容を評価する 定期試験、レポート・課題物提出状況、平常点（授業貢献度など）を総合的に判断する。 平常点（授業貢献度など）30% 小レポート・課題提出物30% 定期試験40% レポートなどの提出物は、授業内での全体講評と個別コメントでフィードバックする
テキスト	晃洋書房 『エアライン・ビジネス入門』 稲本恵子編著 適宜資料を配布する 航空に関する記事なども使用する
参考書	アートヴィレッジ『後悔しない JAL ANA 外資系CA就職対策決定版』アイザックエアラインスクール編著
履修上の注意	演習を多く取り入れた授業であり、積極的に動く姿勢を強く希望する。サービスをテーマにすることから、常に他者のことを考えた行動を心がけることが必要。
アクティブ・ラー ニング	グループワーク、ディベート、ロールプレイング
I C T・オープン エデュケーション の活用	Google classroom, Google form

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
八田圭子			
ナンバリング：E14C27	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・個別発表、グループディスカッション、模擬面接（グループ）、レポートの書き方を通して、コミュニケーション能力、コーディネーション能力、プレゼン能力、共感力、傾聴力、課題展開力を高める ・企業理念、経営戦略、マーケティング戦略、財務会計を通して経営学基礎を習得するとともに、エアラインと他の業界を比較してエアライン経営の特徴を学ぶ ・空港業務、航空制度、約款、アライアンス、運賃、ダイヤ等、エアラインビジネス特有の基礎知識を習得する ・知識を学んだ上で様々なケーススタディを行い、問題の発見、視点から解決方法まで、自ら考え、表現する力を養う (授業目標) ◎B：参加型の授業やケースを通して、自分の頭で考え、意見交換を通して、コミュニケーション能力を高める ○C：エアラインビジネスの知識を踏まえた上で、問題感知・解決、判断に必要な視点を養う
授業計画	<p>1 オリエンテーション 授業概要説明と自己紹介（プレゼンテーション） SPI① 宿題：航空会社ホームページの指定箇所を読んでおくこと</p> <p>2 航空会社の仕事（全般及び国内線）（グループディスカッション） ひとつの飛行機を飛ばすために活躍する様々な職種の紹介 安全性、定時性、快適性の解説 空港サービス業務のビデオ放映 ケーススタディとグループディスカッション SPI①の解説</p> <p>3 空港業務（国際線）の仕事の流れ チェックイン（パスポート、ビザ、手荷物、乗り継ぎ）、C I Q（税関、出入国、検疫）、発着 枠、ダイヤの組み方、時差の計算の仕方 SPI②</p> <p>4 約款とクレーム処理（グループディスカッション） 約款とクレーム処理 クレーム処理のケーススタディとグループディスカッション SPI②の解説</p> <p>5 GSゲスト講演 GSゲストを招き、空港業務の仕事、教育、育成について学ぶ 質疑応答 講演後、感想を提出</p> <p>6 エアラインビジネス（財務会計1） 財務諸表（B/S、P/L）とは 財務諸表の仕組みと読み取り方を学ぶ SPI③</p> <p>7 エアラインビジネス（財務会計2） 財務諸表（B/S、P/L）の応用 JAL/ANA比較 エアラインと他の業種の財務諸表比較 JALの経営破綻に至った経緯、財務諸表の推移よりエアラインのリスクを知る SPI③の解説</p> <p>8 企業理念（ミッション、ビジョン、バリュー） 企業理念、ミッション、ビジョン、バリューの考え方を学ぶ ケースにつき、グループディスカッション JALの経営破綻と新たな企業理念や行動規範策定までの経緯を学ぶ JALフィロソフィについて知り、どの言葉に一番共感するかを考える（宿題→発表）</p> <p>9 経営戦略 ビジョンを実現するための経営戦略の基本について学ぶ ケーススタディについてグループディスカッション グループディスカッションを通して学んだことを基本にしてエアラインの戦略について考える</p> <p>10 マーケティング戦略 戦略の中でもマーケティング戦略について学ぶ プロダクトアウトとマーケットインの違いを学び、ケーススタディにつきグループディスカッション グループディスカッションを通して学んだことを基本にしてエアラインのマーケティング戦略について考える 社会志向のマーケティングについて学びSDGsについて考える</p> <p>11 CAゲスト講演 CAゲストを招き、仕事内容や、教育、育成について学ぶ 実際話を聞いての新たな疑問、気づき、学びにつき話し合う これまでの授業で話した内容との関連性を確認する</p>

	12	JALフィロソフィの研究とエントリーシートの書き方 JALフィロソフィから自分の好きな言葉を一つ選び、自分の経験に結び付けて発表する（プレゼンテーション） エントリーシートの書き方を学ぶ 話したことがエントリーシートに書きこめるかどうかを考察し、書く練習をする（宿題） SPI④
	13	グループディスカッション演習 5～6人のグループに分かれ、過去問でグループディスカッション お互いに採点し、録画する SPI④の解説
	14	グループディスカッション演習の振り返りとエントリーシートの講評、個人面接 エントリーシートの書き方、注意点等、提出された例や実際の例を出しての解説 グループディスカッションの講評と質疑応答 良い例、悪い例のケーススタディ エントリーシートの提出 個人面接の注意点と解説
	15	ラップアップと各自感想、決意表明 15回の講義を通しての感想と決意表明（1人2分のプレゼンテーション） アンケート コロナの状況で期末試験をしない場合はレポート課題を発表
学習成果・到達目標・基準	◎B：意見交換を通して他者の考えを傾聴し、自分の考えをより深めてアウトプットすることが出来る ◎C：ケースを通して知識や視点を学び、エアラインビジネスを実態的に理解することが出来る	
事前・事後学習	事前学習： ・SPIの準備をすること（15分） ・航空会社のホームページで指定した箇所を読んでくること（15分） ・航空会社に関するニュースを取り上げ、疑問や考えを纏める（20分） ・課題レポートやプレゼンの準備（120分） 事後学習 ・授業時に出された指示、レポートへのコメントや解説を聞いて改善し、完成度を上げること（30分） ・SPIの見直し（20分）	
指導方法	・基本的な理論や知識を習得した後、参加型のディスカッションや相互チェックコメントを通して、複眼的なものの見方を養い、表現できるようにする。 ・フィードバックとして課題レポートは全員にコメントを付けて返却する。授業で課題の捉え方、物の見方、考え方を解説するとともに、学生の中から模範解答を披露する。小テストは回答が自動で返却され、授業で解説する ・ゲスト講師を招き、現業の実際を肌で感じられるようにする	
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎B：積極的な授業参加、課題取り組み意欲、コメントに対して改善努力が出来たかで評価する ◎C：知識を学ぶ意欲と、グループディスカッションや解説を通して問題に複眼的に取り組めたかどうかを定期試験またはレポートで評価する 課題提出40%、積極的な授業参加・貢献度30%、定期試験またはレポート30%	
テキスト	毎回、講師作成のプリントを配布する	
参考書	・エアラインビジネス入門（晃洋書房）を一読することが望ましい ・SPI関連の問題集を購入し、1冊仕上げておくことが望ましい	
履修上の注意	・エアライン関係への就職を念頭に置いていること ・ゲスト講演時にはリクルートスーツを着用すること ・参加型の授業で、課題を克服する努力とその過程を評価対象とするため、積極的な姿勢で臨むこと ・授業の進捗や変化するニーズに対応するため、授業計画の変更を行う場合もある ・希望者には講義後、面談を行う	
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、プレゼンテーション	
ICT・オープンエデュケーションの活用	スマホ、タブレット、PC等 小テスト、課題はクラスルームまたはメールを利用する	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
中野実			
ナンバリング：E23C21	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業内容) 国際関係論は国家間を取り巻く様々な事象を多角的に分析する学問です。そこには国家の存在が前提としてあります。近代国家がどのようにして生まれ、どのような歴史を辿ってきたのかを理論を交えて考え、いま起きている国家間の問題を考察していきます。また国家の枠を超える多様な問題に対して世界がどのように取り組んでいるのかに注目します。そして最後に、これらの理解をベースに私たち日本の取り巻く環境を考えることを目的としています。</p> <p>(授業目標) 各自が関心を持つ国際問題の一つ取り上げて、その問題の背景(なぜ起こったか)と現状(どうして解決できないのか)を説明し、自らの見解も含めて発表できること。また授業で取り扱ったいくつかの国際的な事象を複数の視点を交えて説明でき、取り組むべき課題を提示できるようになること。 ◎C：国際的な事象を断片的に見るのではなく、多角的な視点で見られるようになり、理論も取り入れながら自身の見方や考え方を提示できるようになる。 ○D：現在メディアなどで取り上げられている国際問題を歴史的背景や現状を含めて説明できるようになる。</p>
授業計画	<p>1 イントロダクション：国際関係論とは 授業計画や評価基準を明確にし、国際関係論とはどういう学問なのかを説明する。</p> <p>2 国民国家と主権：近代国家システムの構築と国家の意味を理解する。 いま当たり前のように存在している国家はどのようにしてできたのか？そして世界中にある国家はどのような関係で成り立っているのかを考える。</p> <p>3 国家と戦争：戦争の歴史を考察する。 近代国家成立後、世界は国家間戦争を繰り返してきた。それらの戦争は国家間関係にどのような変化をもたらせたのかについて考える。(関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション)</p> <p>4 冷戦：冷戦について理解する。 第2次世界大戦後、大国は直接戦うことなく対立してきた。それはなぜ始まって、どういう仕組みで、なぜ終結したのかについて理解する。(関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション)</p> <p>5 国際関係理論：リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズム 国際関係理論の三大潮流と言われる三つの理論を考察し、国家の行動を理解する。(関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション)</p> <p>6 EU I：欧州統合の歴史 なぜヨーロッパが統合を目指したのか？その統合の歴史を理解する。(関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション)</p> <p>7 EU II：機構と統合理論 EUはどのような機構で構成されているのかを理解したのち、EUは何を目指しているのかを考察する。(関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション)</p> <p>8 国際連合：国際連合の役割を理解する 国際連合の創設から仕組み、そして現在の役割に至るまでを理解する。(関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション)</p> <p>9 地域主義と多国間協定：いま日本を含めどう関係が構築されているのか ヨーロッパ以外の地域や二国間・多国間の取り決めについて理解する。(関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション)</p> <p>10 最新国際問題：授業を行っている時期の最新の話題を取り上げる 国際関係は常に動いているので最新の話題を取り上げ、その背景や問題点について考察する。例えば過去にはアメリカ大統領選、米中問題、北朝鮮問題、イギリスのEU離脱などを取り上げた。(関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション)</p> <p>11 グローバル・ガバナンス：移民・難民、環境、そして疾病問題を考える 国家間では解決できない諸問題について、どのような取り組みが行われているか考える。(関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション)</p> <p>12 国家とテロリズム：21世紀に入って増え続けるテロについて考える テロはなぜ起こるのか、そして国家とはどのような関係があるのかという視点でテロについて考える。(関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション)</p> <p>13 日米関係と安全保障条約：なぜ日本はアメリカと同盟を結び日本国内にアメリカの基地があるのか 黒船来航からの日米関係と戦後安全保障について理解する。(関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション)</p> <p>14 日本の戦争：明治以降、日本はなぜ何度も戦争してなぜ最後は負けたのかを考える 鎖国から第2次世界大戦まで日本のその当時の見方や意識を理解して、なぜ戦争してなぜ最終的に無条件降伏したのかについて考える。(関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション)</p> <p>15 日本と周辺国の国際関係：日中、日韓、日露など日本を取り巻く国際関係を考える 戦後の領土問題や感情の問題について背景も含めて考察し問題点を理解する。(関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション)</p>

学習成果・到達目標・基準	◎C：主要な国際関係理論や様々なアプローチを理解し、今暮らしている世界をそれらの理解に基づいて見られるようになる。 ○D：これまでの国際関係史を理解し、過去の事象を一つ以上の視点で説明できるようになる。
事前・事後学習	事前学習としては、最新の国際問題をメディアなどから収集し、それらがなぜ起きているのかを調べること。(60分) 発表の準備として、国際問題を一つ取り上げ、その背景と問題点を整理し、自らの視点を提示できるようにすること。(60分) 発表者以外は、その日に発表で取り上げられた国際問題を授業後に自らも調べて違う視点で見るよう努めてみる。(60分) 全員の事後学習は、授業内容をまとめて自らの言葉で要約すること。(60分)
指導方法	授業資料(プリント)を配布し、パワーポイントを使用して動画や写真を適宜利用しながら授業を行う。毎回数名に国際問題を題材にした発表をしてもらい、その発表内容についてのディスカッションを行う。 また中間に課題を出題し、Googleクラスルームで提出してもらう。 フィードバックの仕方：発表時の直接評価やアドバイス。課題の評価返却。
アセスメント・成績評価の方法・基準	受講態度(10%)、発表(20%)、課題(20%)、定期試験(50%) ◎C：国際問題に対する見方や考え方を発表、課題、定期試験で判断する。 ○D：国際問題を理解する上で必要な知識を課題、定期試験で判断する。
テキスト	教科書指定なし。授業資料(プリント)を毎回配布予定。
参考書	三船恵美(2012)基礎から学ぶ国際関係論、泉文堂 他
履修上の注意	各自が関心を持つ国際問題を一つ取り上げて、その問題の背景(なぜ起こったか)と現状(どうして解決できないのか)を説明し、自らの見解も交えて発表してもらう。 これからの時代、国際関係と無縁な社会生活はあり得ません。関心を持って授業に臨むこと。なお最新の国際問題も取り扱うためその時の国際情勢によっては授業計画が一部変更する場合があります。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション(発表)、ディスカッション
ICT・オープンエデュケーションの活用	Googleクラスルームでコミュニケーションを図るとともに、課題や事前準備用プリントなどをGoogleフォームやドキュメントを利用して掲載。またZoomを利用した授業ではチャット機能や投票機能も活用。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択必修
担当教員			
別宮玲、福田博志			
ナンバリング：E26C37	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	現代の情報社会の基盤となっているネットワーク技術とセキュリティ技術を学ぶ授業である。ネットワーク技術については、室内レベルのネットワークからインターネットまで幅広く仕組みと問題点を学ぶ。セキュリティについては様々な問題、事例を学んだ後、主な対処法を身に着ける。また、ここで得た知識を活かした資格取得の方法も授業内で扱う。 (授業目標) ◎D：ITパスポート試験テクノロジー分野に相当するレベルでネットワーク、セキュリティの用語等の解説と計算ができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス／システム構成（1）(Google Classroom：事前・事後学習資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業概要 ・ システムの構成 <p>2 システム構成（2）(Google Classroom：事前・事後学習資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クライアントサーバシステム ・ 性能評価 <p>3 システム構成（3）(Google Classroom：事前・事後学習資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ システムの信頼性 <p>4 ネットワーク（1）(Google Classroom：事前・事後学習資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ネットワーク方式 <p>5 ネットワーク（2）(Google Classroom：事前・事後学習資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通信プロトコル ・ インターネットの仕組み <p>6 ネットワーク（3）(Google Classroom：事前・事後学習資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通信サービス ・ 電子メール① <p>7 ネットワーク（4）(Google Classroom：事前・事後学習資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電子メール② ・ WWW <p>8 ネットワーク（5）(Google Form:ITパスポート過去問と解説)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ネットワークに関するITパスポート過去問解説 <p>9 セキュリティ（1）(Google Classroom：事前・事後学習資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報セキュリティ <p>10 セキュリティ（2）(Google Classroom：事前・事後学習資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ユーザ認証とアクセス管理 <p>11 セキュリティ（3）(Google Classroom：事前・事後学習資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ウイルス対策 ・ ネットワークセキュリティ <p>12 セキュリティ（4）(Google Classroom：事前・事後学習資料)</p> <p>暗号化技術 デジタル署名</p> <p>13 セキュリティ（5）(Google Form:ITパスポート過去問と解説)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ セキュリティに関するITパスポート過去問解説 <p>14 アルゴリズムとプログラミング(Google Classroom：事前・事後学習資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プログラミングとデータ構造 ・ プログラミング言語 <p>15 ユーザインターフェース(Google Classroom：事前・事後学習資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ユーザインターフェース
学習成果・到達目標・基準	◎D：業務に必要なITの基礎知識を身につけ、ネットワーク、セキュリティに関する主要な用語の説明ができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の範囲の用語について、各自学習して授業に参加する。(60分) 事後学習：毎週授業開始時に、一問一答式の口頭テストを行う。前回の授業内容がテスト範囲になる為、毎週自分の言葉で用語等の説明ができるように事後学習を行う。(120分)
指導方法	講義とPCによる演習を併用する授業形式である。演習のテーマ区切りごとに総合演習による評価を行う。併せて毎週、口頭での一問一答テストも行なう。過去問演習にはGoogle Formを使用する。 フィードバック方法：一問一答式テストは、その場で正解・不正解を発表。説明を加える。過去問演習もその場で正解・不正解が表示され、解説が行われる

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D:ITパスポートのテクノロジー分野の試験問題に準拠した定期試験で評価する。併せて毎週実施する小テストの回答数及び正答数で評価する。 評価の比率は受講態度15%、小テスト 35%、総合演習 50%とする。
テキスト	令和03年 イメージ&クレバー方式でよくわかる 栢木先生のITパスポート教室(技術評論社) ※情報処理演習と同じテキストを使用する
参考書	令和03年 栢木先生のIT パスポート教室準拠 書き込み式ドリル (技術評論社)
履修上の注意	ITパスポートの試験範囲に則った授業範囲となっている。 ITパスポート試験の合格を目指す学生には是非受講していただきたい。 前回の学習内容が翌週にはすぐに小テストで確認されるため、毎週の予習・復習が重要である。 また、資格取得を希望する/しないに関わらず、「情報処理論」と併せて履修することを強く推奨する。
アクティブ・ラーニング	一問一答テスト
ICT・オープンエデュケーションの活用	Zoom, Google Classroom, Google Form

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択必修
担当教員			
別宮玲、福田博志			
ナンバリング：E26C39	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ICT分野における基礎知識と基本操作を学習する授業である。知識として5大装置を中心としたコンピュータの仕組み、多様な周辺機器などハードウェアの種類や構造、様々なソフトウェアの種類やライセンスなどを学び、日常的に使用しているICT機器を理解する。操作としては、表計算ソフト、データベースソフトの基本を身に着けることを目的としている。またここで得た知識を活かした資格取得の方法も授業内で学習する。 (授業目標) ◎D：ITパスポート試験テクノロジー分野における用語等の解説と計算ができる。 ◎E：ITパスポート試験テクノロジー分野に求められるデータベースおよび表計算の操作ができる。		
授業計画	1	ガイダンス／ハードウェア（1）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・ 授業概要 ・ 情報の表現	
	2	ハードウェア（2）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・ 5大装置とCPU ・ メモリとキャッシュメモリ	
	3	ハードウェア（3）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・ 補助記憶装置	
	4	ハードウェア（4）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・ 入力装置と出力装置 ・ 入出力インタフェース	
	5	ハードウェア（5）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・ 基数変換と補数①	
	6	ハードウェア（6）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・ 基数変換と補数②	
	7	ソフトウェアとマルチメディア（1）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・ ソフトウェア ・ ファイル管理	
	8	ソフトウェアとマルチメディア（2）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・ バックアップ ・ データ形式とマルチメディア	
	9	表計算（1）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・ 相対参照と絶対参照	
	10	表計算（2）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・ 関数 ・ IF関数とネスト	
	11	データベース（1）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・ 関係データベース ・ 主キーと外部キー	
	12	データベース（2）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・ データの正規化	
	13	データベース（3）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・ データ抽出と論理演算 ・ 整列と集計	
	14	データベース（4）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・ 排他制御と障害回復	
	15	テクノロジー分野まとめ(Google Form:ITパスポート過去問と解説) ・ テクノロジー分野のITパスポート過去問演習	
学習成果・到達目標・基準	◎D：業務に必要なITの基礎知識を身につけ、ハードウェア、ソフトウェアに関する主要な用語の説明ができる。 ◎E：データベースおよび表計算アプリケーションの基本操作ができる。		
事前・事後学習	事前学習：次回の範囲の用語について、各自学習して授業に参加する。Google Classroomに次の範囲の授業ノートが公開されるので、これを用いた準備を行うと良い(30分) 事後学習：毎週授業開始時に、一問一答式の口頭テストを行う。前回の授業内容がテスト範囲になる為、毎週自分の言葉で用語等の説明ができるように事後学習を行う。(30分)		
指導方法	講義とPCによる演習を併用する授業形式である。演習のテーマ区切りごとに総合演習による評価を行う。併せて毎週、口頭での一問一答テストも行なう。過去問演習にはGoogle Formを使用する。		

	フィードバック方法：一問一答式テストは、その場で正解・不正解を発表。説明を加える。過去問演習もその場で正解・不正解が表示され、解説が行われる
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D:ITパスポートのテクノロジー分野の試験問題に準拠した定期試験で評価する。併せて毎週実施する小テストの回答数及び正答数で評価する。 ○E:作成した表計算及びデータベースのファイルを評価する。 評価の比率は受講態度15%、小テスト 35%、総合演習 50%とする。
テキスト	令和03年 イメージ&クレバー方式でよくわかる 栢木先生のITパスポート教室(技術評論社) ※情報処理論Aと同じテキストを使用する
参考書	令和03年 栢木先生のIT パスポート教室準拠 書き込み式ドリル (技術評論社)
履修上の注意	ITパスポートの試験範囲に則った授業範囲となっている。 ITパスポート試験の合格を目指す学生には是非受講していただきたい。 前回の学習内容が翌週にはすぐに小テストで確認されるため、毎週の予習・復習が重要である。 また、資格取得を希望する/しないに関わらず、「情報処理論A」および2年次開講の「情報処理論B」と併せて履修することを強く推奨する。
アクティブ・ラーニング	一問一答テスト
ICT・オープンエデュケーションの活用	Zoom, Google Classroom, Google Form

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
小山洋行			
ナンバリング：E16C43	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	デザイン分野で必須のソフトウェア「Adobe Illustrator」や「Adobe Photoshop」を用いて、総合的なデザインを学ぶ演習である。 基本的な技術から応用技術まで幅広い範囲を段階的に学習することで、状況に合わせたソフトウェアの活用方法を修得する。 なお、メディアコンテンツ演習Aでは「Adobe Illustrator」を主とした演習を行い、「Adobe Photoshop」は補助的に使用する。 (授業目標) ○D：多くの人々が利用しやすいようにデザイン（ユニバーサルデザイン）をすることができる。 ○E：IllustratorとPhotoshopでデザインができる。
授業計画	<p>1 Illustrator 基本 (1) (演習 イラストレータ修得) 文字入力、図形作成、配置、色についてを実践します。</p> <p>2 Illustrator 基本 (2) (演習 イラストレータ修得) 文字の行間、文字詰め、フォントの種類によるイメージ効果を学びます。</p> <p>3 Illustrator 基本 (3) (演習 イラストレータ修得) 写真画像の配置、袋文字の活用方法を実践します。</p> <p>4 文字を活用したデザイン (1) 就職活動等にも活用可能な名刺のデザインを行います。</p> <p>5 文字を活用したデザイン (2) 名刺デザインを画像と文字を使い構成します。</p> <p>6 パスツール実戦 Illustrator のパスを扱えるよう実践します。</p> <p>7 キャラクターデザイン (1) LINEスタンプに活用できるような「感情に訴える」キャラクターを考えます。</p> <p>8 キャラクターデザイン (2) 考えたキャラクターをイラストレータでデザインします。</p> <p>9 制作課題 キャラクターのデザインをイラストレータのパスの機能を活用し細かなところまで丁寧に作成します。</p> <p>10 制作課題 キャラクターデザインを完成させ、提出し、キャラクターの表情や動きなどの魅力が出ているか講評を行います。</p> <p>11 WEBデザインでのIllustratorの活用方法 イラストレータの特徴をふまえて、効率よくデザインする為のノウハウを学びます。</p> <p>12 インターフェイスデザイン (1) WEBページ等にあるボタン等を考察し、傾向を見いだします。</p> <p>13 インターフェイスデザイン (2) ボタン等をロールオーバー時も含めたデザインをします。</p> <p>14 Photoshop 基本 (1) (演習 フォトショップ修得) 文字、図形、レイヤーの扱い方を実践します。</p> <p>15 Photoshop 基本 (2) (演習 フォトショップ修得) 写真画像の加工の仕方を実践します。</p>
学習成果・到達目標・基準	多様なウェブデザインスキルを求められる近年の状況に応える為の演習です。多くの人々が利用しやすいようにデザイン（ユニバーサルデザイン）するといった「思いやりのあるデザイン」を出来るようにする。情報設計をしながら、より魅力的なものをデザイン出来るようにする。色彩感覚、構図・構成、文字の扱い方等の基礎力を身につける。 LINEスタンプのような感情に訴えるキャラクターデザインが出来るよう学ぶ。 ○D：見やすいデザインができる。 ○E：IllustratorとPhotoshopの操作ができる。
事前・事後学習	事前学習：普段の生活の中にあるデザインされたものをより意識して見て、本質を見抜き自分の表現の引き出し作りをする。(30分) 事後学習：自分のデザインしたものを客観的にとらえ、マーケット的にどの立ち位置にあるかを意識し、更なるクオリティアップのための考察を行う。(30分)
指導方法	演習形式の授業です。幾つかの制作課題を与えながら指導する。 課題作品の講評や質疑応答によるフィードバックを行う。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	授業態度、演習結果、および提出課題で評価する。 授業態度 30%、演習結果・提出課題 70% ○D:課題で作成したデザインが見やすい、わかりやすいか評価する。 ◎E:IllustratorとPhotoshopの適切な操作をしてデザインがされているか評価する。
テキスト	資料を配布します。
参考書	
履修上の注意	「地味な事でもコツコツ積み上げて行くのが好き」「色の組み合わせを考えるのが好き」「人のためになるデザインが好き」「絵を描くのが好き」といった方に向いている実習である。
アクティブ・ラー ニング	演習
I C T・オープン エデュケーション の活用	ソフトウェア Adobe photoshop、 Adobe Illustrator、 ウェブブラウザ、 インターネットを活用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
小山洋行			
ナンバリング：E26C44	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	デザイン分野で必須のソフトウェア「Adobe Illustrator」や「Adobe Photoshop」を用いて、総合的なデザインを学ぶ演習である。 基本的な技術から応用技術まで幅広い範囲を段階的に学習することで、状況に合わせたソフトウェアの活用方法を修得する。 メディアコンテンツ演習Bでは「Adobe Photoshop」を主とした演習を行い、「Adobe Illustrator」は補助的に使用する。 (授業目標) ◎D：マーケティングを考慮し、消費者の行動や価値観を分析したのちターゲットを決めて、それに合わせたデザインができる。 ◎E：IllustratorとPhotoshopを連携させてデザインができる。
授業計画	<p>1 ECサイトデザイン研究、リサーチ（演習 イラストレータ、フォトショップ修得） ECサイトデザインにおいて必要不可欠な物をリサーチレポートにまとめます。</p> <p>2 ECサイトブランド構築 ECサイト研究に基づき、オリジナルセレクトショップの構想をたてます。</p> <p>3 Photoshop応用（1） 文字の扱い方や図形の作成、グループ化、整列方法など実践します。</p> <p>4 Photoshop応用（2） ショートカット操作を覚え作業効率を良くして行きます。</p> <p>5 色彩 色の活用の仕方を、デザインを行いながら研究します。</p> <p>6 構図構成 枠の中にどのように配置すれば、意図した事を伝えられるか学びます。</p> <p>7 ECサイトデザイン制作（1） リサーチした結果をふまえ、オリジナルセレクトショップのデザインを行います。</p> <p>8 ECサイトデザイン制作（2） オリジナルセレクトショップのブランドイメージを意識してデザインします。</p> <p>9 ロゴデザイン（1） Illustrator でオリジナルセレクトショップのWEBサイトに載せるロゴデザインをします。</p> <p>10 ロゴデザイン（2） ロゴデザインを5種類デザインしその中から一番適切な物を採用し、WEBデザインの中に組み込みます。</p> <p>11 Photoshop と Illustrator の連携 Photoshop と Illustrator の特徴を理解し、状況にあわせて使い分ける事を学びます。</p> <p>12 ECサイトデザイン制作課題（3） ロゴデザインと調和するように調整して行きます。キャンペーンバナー等も加えてリアリティのあるデザインにします。</p> <p>13 制作課題 ECサイトのクオリティを上げるための試行錯誤を行います。</p> <p>14 ECサイトデザイン制作課題（発表、講評） 完成したデザインを発表し、講評も行います。</p> <p>15 スマートフォンサイトデザイン（演習 スマートフォン応用） PC用にデザインしたECサイトをスマートフォン向けに調整し、レスポンシブデザインについて学びます。</p>
学習成果・到達目標・基準	多様なウェブデザインスキルを求められる近年の状況に応える為の演習です。消費者の行動や価値観の多様化に伴い、しっかりとマーケティングを考慮しターゲットを明確にして論理的なデザインが出来るようになる。情報設計をしながら、より分かりやすく見やすいデザインが出来るようになる。色の構成や文字の扱いの基礎力を身につける。 セレクトショップのWEBデザインが出来るように学ぶ。 ◎D：ターゲットの立場を考えた「思いやりのあるデザイン」ができる。 ◎E：IllustratorとPhotoshop双方のデータのやりとりができる。
事前・事後学習	事前学習：普段の生活の中にあるデザインされたものをより意識して見て、本質を見抜き自分の表現の引き出し作りをする。（30分） 事後学習：自分のデザインしたものを客観的にとらえ、マーケット的にどの立ち位置にあるかを意識し、更なるクオリティーアップのための考察を行う。（30分）
指導方法	演習形式の授業です。幾つかの制作課題を与えながら指導する。

	課題作品の講評や質疑応答によるフィードバックを行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	授業態度、演習結果、および提出課題で評価する。 授業態度 30%、演習結果・提出課題 70% ◎D:「思いやりのあるデザイン」「マーケティングを意識したデザイン」になっているかを評価する。 ○E:デザインする要素に応じてIllustratorとPhotoshopを効率よく活用できているかを評価する。
テキスト	資料を配布する。
参考書	
履修上の注意	「地味な事でもコツコツ積み上げて行くのが好き」「色の組み合わせを考えるのが好き」「人のためになるデザインが好き」「絵を描くのが好き」といった方に向いている実習である。
アクティブ・ラー ニング	演習
I C T・オープン エデュケーション の活用	ソフトウェア Adobe photoshop、 Adobe Illustrator、 ウェブブラウザ、 インターネットを活用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
伊波祥代			
ナンバリング：E16C45	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	効果的で説得力のあるウェブページデザインを実現するために、色彩の基本知識、グラフィック画像の扱い方法について学びます。色彩によるコミュニケーション、色彩心理、色彩計画について学んだ後、ネットショップのバナーのデザインを実際に行っていきます。グラフィック系アプリケーションのIllustratorやPhotoshopを使い、具体的なグラフィック制作の手法も習得することができます。 ○D：色彩理論を理解し、WEB制作における適切な画像処理技術を習得する。 ◎E：webサイトの目的と消費者の心理を理解し、効果的なデザイン・表現ができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス 講師紹介/過去の学生の作品紹介</p> <p>2 色彩の基礎知識 印刷用媒体（CMYK）とWEB媒体（RGB）の色の違いの学習/明度・彩度・色相の理解</p> <p>3 色彩の効果 テーマカラー別に、実際のサイトをみながらその効果を検証する。</p> <p>4 学生プレゼンテーション 各自がテーマとして与えられたカラーのサイトを探し、分析した内容を発表する。</p> <p>5 色相・明度・彩度 グラフィックソフトを使って色相・明度・彩度の概念、およびRGBの数値に基づき、実際に色を作成する。</p> <p>6 カラーデザイン 各自がテーマとした世界、雰囲気、配色を考えながら表現する</p> <p>7 HTMLの16進数カラーの理解 前回の授業で作成した色をhtmlで記述し、webページに表示する方法を学ぶ</p> <p>8 解像度とトリミング 解像度の概念の理解、および数値を入力してのトリミング方法を習得。対面グループはPhotoshop画像を用います。</p> <p>9 画像の圧縮 GIF、JPG、PNGの圧縮方法の違いの理解/圧縮方法ごとの書き出し結果の違いを検証。対面グループはPhotoshop画像を用いる。</p> <p>10 ネットショップの企画1 各自が好きなショップ・ブランドを選び、そのターゲットとなる消費者の気持ちに響く色、雰囲気、コピー（言葉）を考える。</p> <p>11 ネットショップの企画2 ・キャッチコピー・写真・企画書の作成準備する。</p> <p>12 バナーデザイン1 ショップを運営する会社のトップページバナー制作する。</p> <p>13 バナーデザイン2 Yahoo!など外部サイトに掲載するバナー広告を制作する。</p> <p>14 バナーデザイン3 Instagram、TwitterなどSNSに掲載するバナー画像を作成する</p> <p>15 発表/講評（プレゼンテーション） 各自が制作したデザインを企画書にまとめプレゼンテーションを行う。</p>
学習成果・到達目標・基準	○D：色の3原則、画像の圧縮方法について説明できる。 ◎E：グラフィックソフトを使って色の調整をしながらデザインができる。
事前・事後学習	事前学習:次の授業で行う工程に合わせ、必要な素材を用意する。(60分) 事後学習:授業内で出た課題を完了させる。(60分)
指導方法	課題に沿って講義を行い、その後一人1台ずつパソコンを使用して演習を行う。 対面グループはAdobe Photoshop、Illustratorのグラフィックソフトを使い、オンライングループはPowerPointを使ってデザインを行う。 毎回の授業で与えられた課題を制作し、完成させたグラフィックデータを提出する。 学生が考察した内容を発表し、自分の作品のプレゼンテーションも行う。 フィードバック方法：授業後、質疑に対して個別対応する。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○D：色彩理論と画像処理の基本知識を理解できているかを評価する。 ◎E：習得した技術を応用し、見やすく質の高い表現が実現できているかで評価する 授業毎の課題提出物：30%、レポート：20%、最終自由作品：50%
テキスト	授業に必要な資料は配布するので、テキストの購入の必要はありません。
参考書	
履修上の注意	画像の編集技術など、授業内で説明した内容を聞き逃すと、自由作品制作時など後から支障がでできます。授業中の私語は慎み、できるだけ欠席も控えるよう心がけてください。
アクティブ・ラー ニング	プレゼンテーション, ディスカッション
I C T・オープン エデュケーション の活用	Googleクラスルーム, Adobe Photoshop, Adobe Illustrator

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
伊波祥代			
ナンバリング：E26C46	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>学生自らが作成したシナリオに基づき、撮影、編集、書き出しまでを行い、1本の動画作品として完成させます。ビデオ編集はAdobe Premiere Proを使用して制作を行い、最後には各自の作品の上映会を行います。これまで閲覧する側だった動画も、自分で意図した通りに自由に編集、表現できるようになり、制作の醍醐味を楽しんでもらえる時間となるはずです。</p> <p>◎D：デジタルデータの特性を理解し、動画編集ソフトのエフェクト効果の適応、合成機能など高度な編集ができる。 ○E：技術を駆使し、見る側の感情に訴えかけるような表現ができる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業紹介、講師紹介、昨年の学生の作品紹介</p> <p>2 デジタルビデオの基本知識 作業の流れの把握 解像度、圧縮形式などの学習+チュートリアル（体験）</p> <p>3 プレミアの基本操作（1） チュートリアルレッスン（クリップの編集/各種ツールの使い方）</p> <p>4 プレミアの基本操作（2） チュートリアルレッスン（タイトルの挿入/図形の描画/トランジション/マーカー）</p> <p>5 プレミアの基本操作（3） チュートリアルレッスン（透明度/キーフレームアニメーション）</p> <p>6 プレミアの基本操作（4） チュートリアルレッスン（エフェクト/合成）</p> <p>7 動画ファイルの取り込み 自分のスマホの動画ファイルをパソコンに取り込み、Premiereで編集をする</p> <p>8 作品計画の立案（プレゼンテーション） シナリオに基づき、撮影方法、出演者、サウンドの用意など、具体的な方法を発表</p> <p>9 ビデオ編集（1） ビデオ撮影/編集</p> <p>10 ビデオ編集（2） タイトル、キャプションの挿入</p> <p>11 ビデオ編集（3） 写真やサウンドの挿入</p> <p>12 ビデオ編集（4） 各自編集作業を続ける</p> <p>13 ビデオ編集（5） 各自編集作業を続ける</p> <p>14 ビデオ編集（6） 書き出し 完成した作品を、書き出す</p> <p>15 作品発表会（プレゼンテーション：最終プレゼンテーション） 各自の作品を上映、プレゼンテーションを行う</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：一動画編集作業の一連の流れを理解する。 ○E：動画編集ソフトの基本機能を使い、自分で撮影したビデオとBGMを素材に1本のビデオ作品を完成できる。
事前・事後学習	事前学習：次の授業で行う工程に合わせ、必要な素材を用意する（60分） 事後学習：授業内で出た課題を完了させる。（60分）
指導方法	課題に沿って講義を行い、その後一人1台ずつパソコンを使用して演習を行う。 毎回の授業で与えられた課題を制作し、完成させビデオデータを提出。後半の6回の授業では、自由作品として自分の立てたシナリオに沿って映像作品を完成させ、最後に鑑賞会・講評会を行う。 フィードバック方法：課題については、授業後個別対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：チュートリアル課題において、基本知識、技法が身についているかで評価する。 ○E：後半6回の授業を通じて制作する自身の作品において、習得した技術を応用し、質の高い表現が実現できているかで評価する 授業毎の課題提出物:30%、レポート:20%、最終自由作品:50%

テキスト	授業に必要な資料は配布するので、テキストの購入の必要はありません。
参考書	
履修上の注意	編集技術など、授業内で説明した内容を聞き逃すと、自由作品制作時など後から支障がでてきます。授業中の私語は慎み、できるだけ欠席も控えるよう心がけてください。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
I C T・オープンエデュケーションの活用	goolgeクラスルーム, Adobe Premiere Pro

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択必修
担当教員			
中村敏			
ナンバリング：E27B52	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>本授業は、様々なビジネスシーンで必要となるプレゼンテーションスキルを自律的に学習できるように、対話形式の講義を行うとともに、ワークショップ形式で授業を進める。また、身近な題材を取り上げることにより、受講者が楽しみながら学べる授業を目指している。授業の成果発表として、全員が複数回のプレゼンテーション実習を行う。</p> <p>以下に示した授業目標は、発表者と聞き手の関係の中で設定している。 (授業目標) ◎B：聞き手の立場とメリットを十分に理解し、聞き手に分かりやすく自分の考えを正確に伝え、行動させることができる。 ○C：聞き手の現状と目指すべきゴールとのギャップを的確に把握し、ゴールに導くアイデアを論理的に整理することができる。また、聞き手の理解度に合わせて説明する内容を替えることができる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス、プレゼンテーションとは何か（ICT：スマホ、タブレット、PCを活用し自ら学習を行う全15回） キーマッセージ「資格では差がつかないが、伝え方では差がつく」 授業の進め方のオリエンテーションを行い、授業の全体像、心構え、内容、進め方について理解する。受講者の考えるプレゼンテーションとは何か、本授業を通して何を身に付けたいのかを自己紹介とともに話してもらう。受講者全員のプレゼンテーションに対する認識の整理と本授業のゴールを明確にする。（全員が必ず発表する）</p> <p>2 プレゼンテーションの本質、聞き手志向とは キーマッセージ「何故、プレゼンテーションをするのか？」 前回の授業で整理したプレゼンテーションに対する認識から、プレゼンテーションの成功とは何なのか？ 聞き手の立場から考える。この時、非常に重要な聞き手の特性として、抵抗の6階層について学ぶ。</p> <p>3 創造的な作業、ブレインストーミング演習①（グループワーク、プレゼンテーション：ブレインストーミングからグループのまとめを発表） キーマッセージ「プレゼンテーションの最初の一步はアイデアの創造」 本演習は、グループワークで行う。 テーマ：コンビニエンスストアの店長になった時、今よりも儲けるためにはどうすれば良いのか？ ブレインストーミングによる、アイデア出し、アイデアの誘発・拡散を行い、その結果から採用するアイデアの整理、絞り込みを行う。アイデアを実現するために、誰に、どのようなプレゼンテーションをすれば良いのかを整理する。（グループワークを通じて代表者が発表する）</p> <p>4 創造的な作業、ブレインストーミング演習②（グループワーク、プレゼンテーション：ブレインストーミングからグループのまとめを発表） キーマッセージ「ブレインはアイデアの相互作用、誘発を狙う場所」 本演習は、グループワークで行う。 テーマ：コンビニエンスストアの店長になった時、今よりも儲けるためにはどうすれば良いのか？ ブレインストーミングによる、アイデア出し、アイデアの誘発・拡散を行い、その結果から採用するアイデアの整理、絞り込みを行う。アイデアを実現するために、誰に、どのようなプレゼンテーションをすれば良いのかを整理する。（グループワークを通じて代表者が発表する）</p> <p>5 プレゼンテーションの効果的な構成（グループワーク、プレゼンテーション：ブレインストーミングからグループのまとめを発表） キーマッセージ「発表者は聞き手のナビゲーター（論理的な流れ）」 プレゼンテーションを行う時、最もやってはいけないことは、聞き手に漂流させてしまうことである。話があちこちに行ってしまうたり、聞き手を置いてきぼりにしたりすると、聞き手は何も聞かなくなる。これを防ぐためには、プレゼンテーションのシナリオ、世界地図が必要になる。ここでは、シナリオの作り方を学ぶ。</p> <p>6 課題 プレゼンテーション実習①（グループワーク、プレゼンテーション：ブレインストーミングからグループのまとめを発表） キーマッセージ「聞き手に向けて地図を書く（聞き手を見ながら）」 ブレインストーミング演習の結果から、各自がプレゼンテーションの資料を作成する。グループ毎に各自がプレゼンテーションを行い、最もよかった発表者を選出する。各グループの代表者がプレゼンテーションを行い、受講者が評価し、コメントする。（全員が発表する）</p> <p>7 課題 プレゼンテーション実習②（グループワーク、プレゼンテーション：ブレインストーミングからグループのまとめを発表） キーマッセージ「聞き手に向けて地図を書く（聞き手を見ながら）」 ブレインストーミング演習の結果から、各自がプレゼンテーションの資料を作成する。グループ毎に各自がプレゼンテーションを行い、最もよかった発表者を選出する。各グループの代表者がプレゼンテーションを行い、受講者が評価し、コメントする。（全員が発表する） ここまでが、プレゼンテーションの本質であり、基礎にあたる。（聞き手志向、アイデア創出、シナリオ作成）</p> <p>8 プレゼンテーションの効果的なスタート方法（グループワーク、プレゼンテーション：ブレインストーミングからグループのまとめを発表） キーマッセージ「導入の言葉は自然に聞き手を引き込むような短い表現」</p>

9	<p>ここからは、プレゼンテーションスキルを高める応用について学習する。聞き手は、ほとんどの場合、プレゼンテーションを聞く準備ができていない。これを発表者に注意を向けさせ、短時間でプレゼンテーションの内容に興味を持たせることがスムーズにプレゼンテーションを行う上で重要になる。ここでは効果的なスタート方法について学習する。（理解度を測定するワークを行い代表者が発表する）</p> <p>スライドの役割とは</p> <p>キーメッセージ「主役は「発表者」スライドは「脇役」（名脇役=Less is More）」</p> <p>プレゼンテーションの主役は、聞き手と発表者である。本来、スライドはプレゼンテーションを効果的に補助するためのものであるが、多くのプレゼンテーションではスライドが主役になっている。具体的には、発表者の話を聞かずに、スライドを読んでいる状態をさす。本来のスライドの役割を理解し、効果的なスライドの作成について学ぶ。（理解度を測定するワークを行い代表者が発表する）</p>
10	<p>プレゼンテーションデザイン① 文字に語らせる</p> <p>キーメッセージ「文字に語らせる」</p> <p>効果的に聞き手の記憶にメッセージを残すためには、「聞くこと」と「見ること」を同時に行う必要がある。この時、「見ること」であって「読むこと」ではない。（読み始めると、発表者の話を聞かない）自然と文字が語るスライドの作成について学ぶ。（理解度を測定するワークを行い代表者が発表する）</p>
11	<p>プレゼンテーションデザイン② 数字に語らせる</p> <p>キーメッセージ「数字に語らせる」</p> <p>数字は大きな力を秘めている。「多い」よりも「90%以上」の方が、より明確にメッセージが伝わる。逆に数字の羅列は真実を隠す場合もある。文字と同様に、自然と数字が語るスライドの作成について学ぶ。（理解度を測定するワークを行い代表者が発表する）</p>
12	<p>画像の優位性効果</p> <p>キーメッセージ「百聞は一見に如かず」</p> <p>「見ること」によって効果的にメッセージを伝えるものとして、写真がある。（動画もあるが、プレゼンテーションが中断されるので注意が必要）1枚の写真で多くのメッセージを伝えることができるが、選定が難しい。有効な写真の使い方について学ぶ。（理解度を測定するワークを行い代表者が発表する）</p>
13	<p>聴衆と心を通い合わせる</p> <p>キーメッセージ「聞き手と心を通わせる」</p> <p>最後に話し方である。流暢に話すことが良いとは限らない。朴訥でも聞き手の琴線に触れ、心を通い合わせる事が重要である。その為には聞き手の立場に立って話す必要がある。聞き手と心を通い合わせる話し方について学ぶ。（理解度を測定するワークを行い代表者が発表する）</p>
14	<p>最終課題 プレゼンテーション実習①</p> <p>今まで学習してきたことをもとに、最終課題としてのプレゼンテーション実習を行う。自分の好きなこと、興味のあることを1つ選び、受講者の前でプレゼンテーションを行う。成功基準は、受講者が、「（なぜ好きなのか、なぜ興味があるのか）なるほど分かった」「よし、私もやってみよう」と思うかどうか。（全員が発表する）各自、発表者その他のプレゼンテーションの審査員を担当する。</p>
15	<p>最終課題 プレゼンテーション実習②</p> <p>今まで学習してきたことをもとに、最終課題としてのプレゼンテーション実習を行う。自分の好きなこと、興味のあることを1つ選び、受講者の前でプレゼンテーションを行う。成功基準は、受講者が、「（なぜ好きなのか、なぜ興味があるのか）なるほど分かった」「よし、私もやってみよう」と思うかどうか。（全員が発表する）各自、発表者その他のプレゼンテーションの審査員を担当する。</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>以下に示した到達目標は、発表者と聞き手の関係の中で設定している。</p> <p>◎B：聞き手の立場に立って、自分の考えを伝えることができる。</p> <p>◎C：聞き手を導くゴールに向けてアイデアを論理的に整理して説明することができる。</p>
事前・事後学習	<p>【事前学習】PowerPointでの資料作成は事前に学習しておくこと（テンプレートの使い方、図の作成方法、画像やグラフの挿入方法）。（30分～1時間程度）</p> <p>事前に、GoogleClassroomに登録された講義資料（PDF）をダウンロードし、必要に応じプリントアウトの上、スライドに説明されている内容を確認しておくこと。</p> <p>【事後学習】講義内容は十分に復習すること。具体的には、GoogleClassroomに登録された復習用資料（PDF）をダウンロードし、ノートに書かれた説明を熟読すること。（30分～1時間程度）</p> <p>指示された課題に関しては、GoogleClassroomの課題に提出すること。（30分～1時間程度）</p> <p>プレゼンテーション実習で使用するスライド作成は、授業時間外で十分に時間を確保して行うこと。（数時間程度）</p>
指導方法	<p>授業形態は、Zoom中継型で実施する。対面、オンラインともに、対話形式の講義を行うことにより、疑問点の早期収束と人前で話すことに対する不安の解消を行う。ワークショップにおいては自主的に取り組むようにファシリテートする。プレゼンテーション実習では、講師だけでなく受講生もコメントを発表することにより、話し手、聞き手の両方からプレゼンテーションの本質を理解するように指導する。</p> <p>後半のカリキュラムからは、より実践的に学習するために、優れたプレゼンテーション事例を取り上げケーススタディを行う。</p> <p>フィードバックの方法：①ワークの実施 ②スライド作成については個々にメールによる指導 ③授業後の質疑応答</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>◎B：ワークショップにおけるチーム活動の取り組み状況と、聞き手を意識したプレゼンテーションの到達度で評価する。</p> <p>◎C：各講義の課題に対する取り組み状況と、プレゼンテーションのシナリオの論理性で評価する。</p> <p>評価は、授業への参加態度20%、課題の取組み状況30%、プレゼンテーション実習50%の比率で行う。</p>
テキスト	<p>購入テキストなし。講義資料を毎回配布する。</p>
参考書	<p>パワー・プレゼンテーション ジェリー・ワイズマン 著（ダイヤモンド社）</p> <p>シンプルプレゼン ガー・レイノルズ 著（日経BP社）</p> <p>マッキンゼー流プレゼンテーションの技術 ジーン・ゼラズニー 著（東洋経済新報社）</p>
履修上の注意	<p>プレゼンテーション実習は必ず出席すること（対面、オンラインで実施）。また、ワークショップの構成上、遅刻は避けること。各自設定したテーマのプレゼンテーションの作成は授業内容を踏まえ授業時間外での自習時間を当てること。グループワークは集団行動の基本を順守し、グループの和を乱すような態度や言動を慎むこと。</p>

アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	スマホ、タブレット/PC TED (Technology Entertainment Design) でのプレゼンテーションを教材として活用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
藤井直子			
ナンバリング：E17C55	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>【授業内容】 秘書検定3級合格を目指す。 秘書の役割と資質、一般知識と基本的な技能について理解し、実社会で必要な知識や能力について主体的に取り組みながら習得していく。 自己能力を高め、それらを発揮出来る職業選択の幅と可能性を広げていく。</p> <p>【授業目標】 秘書の役割、資質、一般知識、接遇技能について知識を習得し、実社会で生かせる実践力を養う。 ◎D：秘書の資質、技能を理解するとともに、社会人として必要な資質と能力を習得していくことが出来る。 ○E：学習した秘書に必要な知識・能力を、社会での諸活動で臨機応変に発揮出来る。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション/社会人としての自覚と心構え 授業概要説明（到達目標の確認、授業での心構え、評価方法） 秘書検定3級試験に関する説明（秘書検定審査基準、受験の際の注意点） 社会人・秘書の心構えを習得する。</p> <p>2 秘書の資質・役割/秘書の職務知識 秘書に求められる役割・必要な資質について理解する。 秘書に求められる基本能力について理解する。 定型業務と非定型業務における秘書の仕事・効率的な仕事の進め方を学ぶ。</p> <p>3 企業の基礎知識 企業の組織と社会での役割について理解する。 経営管理についての基礎知識を学ぶ。 経営管理に関する初歩的な用語を学ぶ。</p> <p>4 社会常識について 社会常識、経済に関する基本用語を学ぶ。</p> <p>5 マナー・接遇 1 社会での円滑な人間関係についての重要性について理解する。 秘書として接遇の心構え、マナー、敬語、接遇用語を理解し身に付ける。</p> <p>6 マナー・接遇 2 話し方の応用（対面；ロールプレイングで実践） 指示の受け方、報告・説明をする際の心がけとポイントを理解する。 コミュニケーションを円滑する聴き方を理解する。</p> <p>7 電話応対 電話のマナーと応対の仕方を学ぶ。（全員がグループワークを通して、実践力を身に付ける）</p> <p>8 マナー・接遇 3 来客応対 来客応対の基本マナーを学ぶ。（対面；グループワークを通して、実践力を身に付ける） ICT活用：理解力・実践力を深めるため、6月実施の秘書技能検定試験対策として、授業終了後にGoogle Classroomで公開する秘書検定試験用練習問題を各自で実践する。</p> <p>9 交際の業務について 慶事・弔事のマナーについて学ぶ。 慶事・弔事での秘書の対応について学ぶ。 贈答のしきたりとマナーを習得する。</p> <p>10 会議と秘書の役割について 会議の目的と予備知識を理解する。 秘書が行う会議の主な準備、会議中の主な仕事、事後処理について学ぶ。</p> <p>11 ビジネス文書の作成 社内文書、社外文書の種類と形式を理解する。 ビジネス文書の慣用表現と敬語を習得する。 メモの種類と効果的な取り方を学ぶ。 折れ線グラフ、棒グラフの書き方を学ぶ。</p> <p>12 文書管理 ビジネス文書の受信・発信方法を理解する。 「秘」扱い文書の取り扱いについて学ぶ。 郵便の基礎知識を知る。</p> <p>13 資料管理・スケジュール管理 資料の整理、保管、簡単な社内外の情報収集、整理、保管方法を学ぶ。 上司のスケジュール管理について学ぶ。 快適な職場環境をつくるための基礎知識を習得する。</p> <p>14 問題演習と解説 1 これまでに学習した内容についての確認と理解を深める。 実技チェック（対面授業）・秘書検定3級問題演習と解答・解説</p>

	15 問題演習と解説2 秘書検定3級問題演習と解答・解説
学習成果・到達目標・基準	秘書検定3級に合格出来る実力を身に付ける。 ◎D：秘書の役割を果たすために必要なことを学び、秘書としての基本的な知識・資質を習得する。 ○E：学習した秘書の資質、知識、技能を日常生活から実践することが出来る。
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容に関するテキストの該当章と事前配布資料を読んでおくこと。(約60分) 事後学習：毎回の授業で学習した内容、理解度チェックを必ず復習すること。(約60分) Google classroomで提示した課題に取り組み、必要事項に解答し、期限内に提出すること。(約60分)
指導方法	講義は基本的にテキスト・配布資料・パワーポイントを使用し進める。 一方的な講義ではなく、思考力を有する演習問題、理解度チェック、グループワーク、ロールプレイング等を積極的に取り入れる。 フィードバックの仕方：理解度チェックテスト、実問題演習に関しては、実践後、質疑応答を行い解説する。 課題提出にGoogle classroomを活用する。：①課題を提示、②課題提出(学生)、③採点し返却する。必要に応じ適宜要点をフィードバックし公開する。 学生の学習状況把握のため、Google classroomを活用し課題の取り組み・提出状況をチェックする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験・課題テスト・授業態度を評価する。 E：授業態度・授業中の発言力・課題テスト・定期試験を評価する。 事前学習10%、事後課題テスト30%、定期試験40%、授業態度・貢献度20%
テキスト	『秘書検定3級クイックマスター』改訂新版 実務技能検定協会 早稲田教育出版 (2020年1月10日 第10刷発行)
参考書	『秘書検定集中講義3級』実務技能検定協会 早稲田教育出版 『秘書検定3級実問題集』実務技能検定協会
履修上の注意	知識を習得するだけではなく、それらを実際に活かせる力にすることが大切である。その為には、自己管理・身だしなみ・言葉遣い・マナー・知識を深めるなどを日頃から実践し日々の生活や授業で習慣化することが、自己能力と社会人としての自覚を高め、就職内定と将来の可能性の向上にも大きく繋がることを自覚してほしい。 学習したことを自分の日常生活や今後のインターンシップなどでの体験で落とし込み自主的に考え行動するなど、学習内容を深く習得していく能動的な態度が必要となる。 毎回の授業の積み重ねが大切であるため、欠席、遅刻をしないこと。 課題提出は必ず提出期限を厳守すること。 尚、受講者の理解度、参加意識などに応じて、授業内容を一部変更する場合がある。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ロールプレイング
ICT・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom 授業内外での理解力・実践力を深めるため6月実施予定の秘書検定試験対策として、classroomで8回目授業日に公開する秘書検定試験用練習問題に取り組む。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
松岡友子			
ナンバリング：E27C56	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	授業内容とそのねらい ・秘書技能検定2級合格に必要な知識と技能を習得する。 ・問題演習を行いながら、テキストを用いて確認し、知識を深める。 授業目標 ◎D：秘書検定2級に合格する。さらにはビジネス文書検定・サービス接客検定や上位級にも対応する幅広い知識を理解する。 ○E：単なる検定対策として知識を理解するだけでなく、社会人に必要とされる技能として身につけ、実践することができる。
授業計画	1 オリエンテーション／秘書検定とは／秘書の心構え（グループワーク） 自己紹介・講義の到達目標の確認・授業の共通ルールの徹底 秘書検定の受け方・審査基準説明 秘書に必要とされる資質・心構えを理解する （グループワーク：グループでまとめ、全員が必ず発表する） 2 企業と経営・企業の活動 資本と経営について理解する 企業の組織形態について理解する 経営管理について理解する 生産管理、マーケティングについて理解する 会社をめぐる法律について理解する 各種用語について理解を深め、覚える 3 秘書に必要な条件／秘書の役割と機能／秘書の職務 秘書に求められる6つの能力について理解する 職務知識として秘書の役割と機能を理解する 定型業務・非定型業務・効率的な仕事の進め方を理解する 4 グラフの書き方／会議と秘書 グラフの書き方を理解する 会議の知識・会議中の秘書の仕事を理解する 5 交際の業務について パーティー・会食の知識を理解する 慶事の対応を理解する 弔事への対応・心得とマナーを理解する 贈答のしきたりとマナーを理解する 6 問題演習（1） 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。 7 問題演習（2） 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。 8 問題演習（3） 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。 9 問題演習（4） 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。 10 問題演習（5） 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。 11 問題演習（6） 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。 12 問題演習（7） 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。

	<p>1 3 問題演習（8） 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。</p> <p>1 4 問題演習（9） 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。</p> <p>1 5 問題演習（10） 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>◎D：2021年度後半に予定されている秘書検定2級の試験内容を理解する。 ◎E：社会人として求められる、ビジネスマナー・電話応対・来客応対・ビジネス文書作成などの基礎を理解し、身につける。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：課題が与えられている場合には取り組む。（80分） 次回講義内容に該当するテキストを読み込む。（60分） 事後学習：テキストの問題に取り組むなどして、知識の定着をはかる。（60分）</p>
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的にはテキストと配布プリントを用いて講義を進める。 ・検定対策として、問題演習を行う。 ・課題として答案を提出する場合は、教員からのアドバイスとともに自身の検定への取り組みに役立てる。 ・課題によっては、Google Classroomを活用して提出や発表を行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>◎D：秘書検定・ビジネス文書検定・サービス接客検定など、各種ビジネス系検定の合格を目指して努力する姿勢を評価する。 ◎E：学んだ知識や技能を理解しようとしているか、内容を身につけようとしているか、身につけて実践しようとしているかを評価する。</p> <p>授業態度・貢献度30% 課題提出20% 課題発表10% 定期試験40%</p>
テキスト	秘書検定2級クイックマスター 実務技能検定協会編 早稲田教育出版
参考書	<p>『秘書検定実問題集2級』 実務技能検定協会編 早稲田教育出版 『秘書検定集中講義2級』 実務技能検定協会編 早稲田教育出版 『誰とでも仲良くなれる敬語の使い方』松岡 友子 明日香出版社</p>
履修上の注意	<p>秘書検定の出題範囲は、社会人として必要な基礎知識をほぼすべて網羅している。また検定の社会的認知度も高く、2級取得者は、社会人としての基礎知識の習得ができていると評価される。 勉強内容は多岐にわたり、決してやさしい検定ではないが、2級受検者の多くを学生が占めている。丁寧に学習を積み重ねれば学生でも合格は十分可能である。 ぜひ、秘書検定以外にも、サービス接客検定やビジネス文書検定等の取得も目指してほしい。</p> <p>なお、検定実施日や資格取得状況、受講者の参加意識などにより、授業計画が一部変更される場合がある。</p>
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ICT・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom, Google Forms

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
山崎美和			
ナンバリング：E18C58	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	医療事務の仕事の中でも医療費計算業務は、医療機関の経営に係わる重要な業務です。演習問題やカルテ例題で医療費算定のルールを学び、正しい診療報酬明細書（レセプト）を作成する技術を身に付け、「医療秘書技能検定3級」取得を目指します。 (授業目標) 被保険者証及び診療録の見方、医療費算定の知識を理解し、医療事務に必要な基礎知識及び技術を身に付ける。 ○D：被保険者証及び診療録の見方、算定のルールを学び、基本的な診察料・医学管理料・投薬料・注射料・処置料の正確な医療費を計算する知識を身に付ける。 ◎E：医療費計算方法と共にレセプト記載方法を学び、基本的な診察料・医学管理料・投薬料・注射料・処置料の正確な診療報酬明細書記載に関する知識を身に付ける。
授業計画	<p>1 ガイダンス（医療事務とは） 授業内容、授業の進め方、資格試験について、評価方法に関する説明 医療事務の仕事の内容について学ぶ</p> <p>2 投薬①（薬剤料） 薬価表に記載されている金額（円）を点数に換算する方法及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>3 投薬②（調剤料、処方料、調剤技術基本料） 薬剤を処方する際の技術料やレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>4 投薬③（処方せん料） 医師が交付する処方箋にかかる技術料やレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>5 注射①（皮内・皮下及び筋肉内注射、静脈内注射） 注射薬の容器の種類と薬剤料の算定方法、注入方法の種類及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>6 注射②（点滴注射、その他） 薬剤料の算定方法及び注入方法の種類及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>7 初診料 初診料の算定方法（年齢、緊急受付時間等の加算等）及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>8 再診料 再診料の算定方法（年齢、緊急受付時間等の加算等）及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>9 医学管理等①（特定疾患療養管理料、治療管理料） 病気に対する医師の指導管理等及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>10 医学管理等②（その他医学管理等） 紹介状等の文書に係る費用及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>11 在宅医療①（在宅患者診療・指導料） 医師が患者の自宅等に赴いて診療を行った場合の費用及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>12 在宅医療②（在宅療養指導管理料） 自宅等で患者（家族）が行う注射や酸素療法等の費用及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>13 処置①（通則・一般処置） 処置料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>14 処置②（その他の処置） 処置料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>15 外来カルテ演習 レセプトを作成する</p>
学習成果・到達目標・基準	○D：初・再診、医学管理、投薬、注射、処置の各項目の基本的な計算や加算ができる。 ◎E：基本的な外来診療例（初・再診、医学管理等、投薬、注射、処置）のカルテから、診療報酬明細書を作成することができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業内容に関する項目についてテキストの該当箇所を読んでおく。（30分程度） 事後学習：授業内容を復習し、カルテ例題の課題に取り組む。Google Classroomの小テスト付き課題は期日までに行い理解を深める。（150分程度）
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを中心に、プロジェクター、PowerPoint及び配布資料を用いた授業形式で進める。 ・医療費計算を行うため、電卓の使い方も指導する。 ・授業では、主に医療費算定のルールと計算方法を解説するため、事後学習としてレセプト及び算定についての学科問題は課題提出とする。 <p>*課題のフィードバック方法：Google Classroomでの採点、返却。授業内外で質疑応答。</p>

アセスメント・成績評価の方法・基準	○D：定期試験・課題を評価する。 ◎E：定期試験・課題を評価する。 定期試験50%、課題40%、授業態度・貢献度10%
テキスト	『診療点数早見表』（医学通信社・2021年出版）、『テキスト2 算定とレセプト（上）』『テキスト3 算定とレセプト（下）』『テキスト4 トレーニングブック』『テキスト5 サポートブック』『薬価表』『レセプト用紙（診療報酬明細書）』（ソラスト・2021年出版） 検定対策として『2021年度版 医療秘書技能検定実問題集3級②（つちや書店）』（2021年出版）
参考書	
履修上の注意	「医療秘書技能検定3級」取得を目標に行われるため、「メディカルクラークB（前期）」、「メディカルクラークC、D（後期）」も履修すること。 診療点数早見表、テキスト2～5、薬価表、レセプト用紙、電卓（携帯電話、スマートフォンの使用は禁止）、配布資料は必ず持参すること。 課題は期日までに必ず提出すること。やむを得ず期日までに提出できない場合は提出できる日を報告すること。 毎回の授業が大切なため、遅刻や欠席をせず医療機関に従事することを意識し、資格取得を目標に履修して欲しい。
アクティブ・ラーニング	
I C T・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
山崎美和			
ナンバリング：E18C59	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	医療秘書に必要な基礎的知識及び技能として、医療機関の受付業務や電話応対などの実務、医療に関する各制度・法規の内容を理解し、医療機関の事業目的及び組織・運営について学ぶ。「医療秘書技能検定3級」取得を目指します。 (授業目標) 医療秘書、医療事務の業務や実務、医療機関の役割、医療に関する法規を理解する。 ◎D：医療保険制度、各種健康保険法、守秘義務、医療関連用語、医療機関の事業目的を理解する。 ○E：医療機関の受付や電話応対、患者や医療機関で働く人々との接し方、話し方を習得する。
授業計画	<p>1 ガイダンス（医療事務と法規） 医療秘書技能検定、授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 医療事務に必要な法律の種類について</p> <p>2 医療秘書の仕事① 医療秘書の役割、医療秘書の実務（基本編）</p> <p>3 病院・診療所・調剤薬局での事務の仕事、医療秘書の仕事② 医療秘書の実務（実務編）</p> <p>4 医療機関の組織・運営① 日本の病院の特徴と機能、保健・医療・福祉の施設</p> <p>5 医療機関の組織・運営② 管理の原則、病院の組織、病院事務部門の業務、病院の管理者、関連用語</p> <p>6 医療機関の概要・医療保険のしくみ① 医療機関と薬局、医療機関の施設基準（医療法）</p> <p>7 医療機関の概要・医療保険のしくみ② 医療機関の施設基準（医療法）、医療保障制度</p> <p>8 医療機関の概要・医療保険のしくみ③ 医療保険の種類、給付の範囲と種類（健康保険法）</p> <p>9 医療機関の概要・医療保険のしくみ④ 高額療養費、保険外併用療養費（健康保険法）</p> <p>10 診療報酬に関する法規①（診療報酬請求） 請求事務、診療報酬請求のしくみについて</p> <p>11 その他の関連制度①（公費負担医療） 国や自治体が公費で診療費を負担する制度について</p> <p>12 その他の関連制度②（労災保険、介護保険） 仕事上のけがや、介護保険法について</p> <p>13 その他の関連制度③（療養担当規則） 保険医療機関や保険医が守らなければならない規則について</p> <p>14 その他の関連制度④（医療従事者に関する法律） 医師、薬剤師、看護師等の資格や業務に関する法律について</p> <p>15 その他の関連制度⑤（医療従事者に関する法律） 検査技師、放射線技師等の資格や業務に関する法律について</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：医療保険のしくみ、各種健康保険の種類、保険給付の範囲と種類、医療関連用語を説明できる。 ○E：医療機関の受付業務、電話応対ができる。
事前・事後学習	事前学習：次の授業内容に関する項目についてテキストの該当箇所を読んでおく。（60分程度） 事後学習：授業内容を復習し、Google Classroomの小テスト付き課題は期日までに理解を深める。（120分程度）
指導方法	テキスト、配布資料を中心に講義を進めながら、医療秘書技能検定の過去の学科問題を解いていく。 接遇、各種保険制度についての課題（テスト付き）を実施し理解度を確認する。 *課題のフィードバック方法：Google Classroomでの採点、返却。授業内外で質疑応答。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：定期試験、課題テストにより評価する。 ○E：定期試験、課題テストにより評価する。 定期試験50%、課題テスト40%、授業態度10%
テキスト	『テキスト1 医療保障制度』『テキスト2 算定とレセプト（上）』『テキスト3 算定とレセプト（下）』（ソラスト・2021年出版）

参考書	
履修上の注意	「医療秘書技能検定3級」取得を目標に行われるため、「メディカルクラスA（前期）」、「メディカルクラスC、D（後期）」も履修すること。 テキスト、配布資料は必ず持参すること。 課題は期日までに必ず提出すること。やむを得ず期日までに提出できない場合は提出できる日を報告すること。 毎回の授業が大切なため、遅刻や欠席をせず医療機関に従事することを意識して、資格取得を目標に履修して欲しい。
アクティブ・ラーニング	
ICT・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
山崎美和			
ナンバリング：E18C61	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>前期「メディカルクラークA」の授業に引き続き、演習問題やカルテ例題で医療費算定のルールを学び、正しい診療報酬明細書（レセプト）を作成する技術を身に付け、「医療秘書技能検定3級」取得を目指します。（授業目標）</p> <p>被保険者証及び診療録の見方、医療費算定の知識を理解し、医療事務に必要な基礎知識及び技術を身に付ける。</p> <p>○D：被保険者証及び診療録の見方、算定のルールを学び、メディカルクラークAで学んだ内容を基に、基本的な手術料・麻酔料・検査料・画像診断の正確な医療費を計算する知識を身に付ける。</p> <p>◎E：医療費計算方法と共にレセプト記載方法を学び、メディカルクラークAで学んだ内容を基に、基本的な手術料・麻酔料・検査料・画像診断の正確な診療報酬明細書記載に関する知識を身に付ける。</p>
授業計画	<p>1 手術① 手術料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>2 手術・輸血② 手術料、輸血料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>3 麻酔 麻酔料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>4 検査①（検体検査：尿・糞便等、血液学的） 検体検査の種類と実施料、判断料、採取料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>5 検査②（検体検査：生化学的（Ⅰ）、（Ⅱ）） 検体検査の種類と実施料、判断料、採取料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>6 検査③（検体検査：免疫学的、微生物学的） 検体検査の種類と実施料、判断料、採取料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>7 検査④（生体検査：呼吸循環機能～耳鼻咽喉科） 生体検査の種類と実施料、判断料、低減検査の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>8 検査⑤（生体検査：眼科～内視鏡） 生体検査の種類と実施料、判断料、低減検査の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>9 病理診断 病理診断の種類と実施料、判断料、採取料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>10 画像診断①（エックス線診断料） エックス線撮影料と診断料、フィルム料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>11 画像診断②（エックス線診断料） エックス線撮影料と診断料、フィルム料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>12 画像診断③（コンピューター断層撮影診断料） コンピューター断層撮影料と診断料、フィルム料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>13 リハビリテーション・精神科専門療法・放射線治療 リハビリテーション、精神科専門療法、放射線治療の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>14 入院料（入院基本料・食事療養） 入院基本料と施設基準加算の種類、食事代の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>15 外来カルテ演習 レセプトを作成する</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>○D：手術、麻酔、検査、画像診断の各項目の基本的な計算や加算ができる。</p> <p>◎E：基本的な外来診療例（初・再診、医学管理等、投薬、注射、処置、手術、麻酔、検査、画像診断）のカルテから、診療報酬明細書を作成することができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：次回の授業内容に関する項目についてテキストの該当箇所を読んでおく。（30分程度）</p> <p>事後学習：授業内容を復習し、カルテ例題の課題に取り組む。Google Classroomの小テスト付き課題は期日までに行い理解を深める。（150分程度）</p>
指導方法	<p>・テキストを中心に、プロジェクター、パワーポイント及び配布資料を用いた授業形式で進める。</p> <p>・授業では、主に医療費算定のルールと計算方法を解説するため、事後学習としてレセプト及び算定についての学科問題は課題提出とする。</p> <p>*課題のフィードバック方法：Google Classroomでの採点、返却。授業内外で質疑応答。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>○D：定期試験・課題を評価する。</p> <p>◎E：定期試験・課題を評価する。</p> <p>定期試験50%、課題40%、授業態度・貢献度10%</p>

テキスト	『診療点数早見表』（医学通信社・2021年出版）、『テキスト2 算定とレセプト（上）』『テキスト3 算定とレセプト（下）』『テキスト4 トレーニングブック』『テキスト5 サポートブック』『薬価表』『レセプト用紙（診療報酬明細書）』（ソラスト・2021年出版） 検定対策として『2021年度版 医療秘書技能検定実問題集3級②（つちや書店）』（2021年出版）
参考書	
履修上の注意	「医療秘書技能検定3級」取得を目標に行われるため、「メディカルクラークB（前期）」、「メディカルクラークC、D（後期）」も履修すること。 診療点数早見表、テキスト2～5、薬価表、レセプト用紙、電卓（携帯電話、スマートフォンの使用は禁止）、配布資料は必ず持参すること。 課題は期日までに必ず提出すること。やむを得ず期日までに提出できない場合は提出できる日を報告すること。 毎回の授業が大切なため、遅刻や欠席をせず医療機関に従事することを意識し、資格取得を目標に履修して欲しい。
アクティブ・ラーニング	
I C T・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom